

中京大学基礎データ

- ・大学組織
- ・設置する学部等
- ・2017年度学部学生数一覧表（含む：出身地域別学部学生数）
- ・2017年度大学院学生数一覧表
- ・大学設置基準上必要となる教員数と実人数
- ・専任教員の職階別、年齢別及び男女別構成
- ・2017年度行政組織図
- ・中京大学の建学の精神・理念
- ・教育研究上の目的
- ・3つの方針

学位授与の方針《ディプロマ・ポリシー》

教育課程編成・実施の方針《カリキュラム・ポリシー》（含む：カリキュラムマップ）

入学者受け入れの方針《アドミッション・ポリシー》

2017年8月

目 次

■ 大学組織	P.1
■ 設置する学部等	P.2
■ 2017 年度学部学生数一覧表（含む：出身地域別学部学生数）	P.3
■ 2017 年度大学院学生数一覧表	P.5
■ 大学設置基準上必要となる教員数と実人数	P.6
■ 専任教員の職階別、年齢別及び男女別構成	P.7
■ 2017 年度行政組織図	P.9
■ 中京大学の建学の精神・理念、教育研究上の目的、3 つの方針等（概念図）	P.10
■ 建学の精神、中京大学の理念	P.12
■ 学部・学科の教育研究上の目的	P.13
■ 大学院の教育研究上の目的	P.16
■ 専門職大学院の教育研究上の目的	P.19
■ 学士課程教育における 3 つの方針	P.20
■ 全学共通科目 学修成果及び学修環境	P.21
■ 各学部の 3 つの方針	

学部	学科	学位授与の方針 学生が修得すべき 知識・能力 (Diploma Policy)	教育課程の 編成・実施方針 (Curriculum Policy)	カリキュラム マップ	入学者受け入れ の方針 (Admission Policy)
文学部	日本文学科	P.25	P.26	P.28	P.42
	言語表現学科	P.30	P.31	P.33	
	歴史文化学科	P.36	P.37	P.40	
国際英語学部	国際英語学科 英語圏文化専攻	P.45	P.47	P.51	P.65
	国際英語学科 国際学専攻		P.53	P.57	
	国際英語学科 国際英語キャリア専攻		P.59	P.63	
国際教養学部	国際教養学科	P.69	P.70	P.73	P.76
心理学部	心理学科	P.78	P.79	P.81	P.83
現代社会学部	現代社会学科 社会学専攻	P.85	P.87	P.95	P.99
	現代社会学科 コミュニティ学専攻			P.96	
	現代社会学科 社会福祉学専攻			P.97	
	現代社会学科 国際文化専攻			P.98	

法学部	法律学科	P.101	P.102	P.106	P.108
総合政策学部	総合政策学科	P.110	P.111	P.112	P.114
経済学部	経済学科	P.116	P.117	P.120	P.123
経営学部	経営学科	P.125	P.126	P.129	P.133
工学部	機械システム工学科	P.135	P.136	P.138	P.155
	電気電子工学科	P.140	P.141	P.143	
	情報工学科	P.145	P.146	P.148	
	メディア工学科	P.150	P.151	P.153	
スポーツ科学部	スポーツ教育学科	P.157	P.158	P.159	P.169
	競技スポーツ科学科	P.161	P.162	P.163	
	スポーツ健康科学科	P.165	P.166	P.167	

■各研究科の3つの方針

研究科	学位授与の方針 学生が修得すべき 知識・能力 (Diploma Policy)	教育課程の 編成・実施方針 (Curriculum Policy)	入学者受け入れ の方針 (Admission Policy)
文学研究科	P.171	P.173	P.174
国際英語学研究科	P.175	P.177	P.180
心理学研究科	P.181	P.184	P.187
社会学研究科	P.188	P.190	P.192
法学研究科	P.193	P.194	P.195
経済学研究科	P.196	P.199	P.202
経営学研究科	P.203	P.206	P.207
工学研究科	P.208	P.211	P.213
体育学研究科	P.214	P.216	P.218
ビジネス・イノベーション研究科	P.219	P.220	—
法務研究科	P.221	P.222	—

大学組織

	中京大学
学長	安村 仁志
副学長	種田 行男
学長補佐	中村 雅章 (教育担当)
	桑村 哲生 (研究担当)
	大森 達也 (学生担当)
	佐道 明広 (内外連携担当)

大学院	文学研究科	研究科長	福井 佳夫
	国際英語学研究科	研究科長	クリストファー アームストロング
	心理学研究科	研究科長	向井 希宏
	社会学研究科	研究科長	野口 典子
	法学研究科	研究科長	愛知 正博
	経済学研究科	研究科長	中山 恵子
	経営学研究科	研究科長	佐藤 祐司
	工学研究科 情報科学研究科	研究科長	長谷川 純一
	体育学研究科	研究科長	渡邊 文真
	ビジネス・イノベーション研究科	研究科長	中村 雅章
	法務研究科 (法科大学院)	研究科長	池野 千白
学部	文学部	学部長	村岡 幹生
	国際英語学部	学部長	細川 眞
	国際教養学部	学部長	明木 茂夫
	心理学部	学部長	神谷 栄治
	現代社会学部	学部長	村上 隆
	法学部	学部長	新里 慶一
	総合政策学部	学部長	大森 達也
	経済学部	学部長	阿部 英樹
	経営学部	学部長	銭 佑錫
	工学部 情報理工学部	学部長	橋本 学
	スポーツ科学部 体育学部	学部長	高橋 繁浩
研究機関	先端共同研究機構	機構長	檜山 幸夫
	社会科学研究所	所 長	檜山 幸夫
	文化科学研究所	所 長	明木 茂夫
	企業研究所	所 長	中西 眞知子
	体育研究所	所 長	桜井 伸二
	経済学部附属 経済研究所	所 長	小林 毅
	工学部・情報理工学部附属 人工知能高等研究所	所 長	輿水 大和
法科大学院 法曹養成研究所	所 長	福本 博之	
図書館	館 長	檜山 幸夫	
国際センター	センター長	梅村 義久	
情報センター	センター長	目加田 慶人	
教育推進センター	センター長	井口 弘和	
教職センター	センター長	酒井 敏	
エクステンションセンター	センター長	中山 恵子	
保健センター	センター長	清水 卓也	
臨床心理相談室	室 長	馬場 史津	
学生相談センター	センター長	神谷 栄治	

設置する学部等

2017年5月1日現在

学部等		所在地		
学部	文学部	日本文学科	愛知県 名古屋市	
		言語表現学科		
		歴史文化学科		
	国際英語学部	国際英語学科		
		英米文化学科 ※2		
	国際教養学部	国際教養学科		
	心理学部	心理学科		
	法学部	法律学科		
	総合政策学部	総合政策学科		
	経済学部	経済学科		
	経営学部	経営学科		
	工学部	機械システム工学科		愛知県 豊田市
		電気電子工学科		
		情報工学科		
		メディア工学科		
	情報理工学部	情報システム工学科 ※2		
情報メディア工学科 ※2				
機械情報工学科 ※2				
現代社会学部	現代社会学科			
スポーツ科学部	スポーツ教育学科			
	競技スポーツ科学科			
	スポーツ健康科学科			
体育学部	体育科学科 ※2			
大学院	文学研究科	日本文学・日本語文化専攻(博士前期課程／博士後期課程)	愛知県 名古屋市	
	国際英語学研究科	国際英語学専攻 (修士課程)		
		英米文化学専攻 (修士課程)		
	心理学研究科	実験・応用心理学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)		
		臨床・発達心理学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)		
	法学研究科	法律学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)		
	経済学研究科	経済学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)		
		総合政策学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)		
	経営学研究科	経営学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)		
	ビジネス・イノベーション研究科	ビジネス・イノベーション専攻 (修士課程) ※1		
	法務研究科	法務専攻 (専門職学位課程) ※1		
	工学研究科	機械システム工学専攻 (修士課程)		愛知県 豊田市
		電気電子工学専攻 (修士課程)		
		情報工学専攻 (修士課程)		
情報科学研究科	情報科学専攻 (博士前期課程) ※2			
	情報認知科学専攻 (博士後期課程)			
	メディア科学専攻 (博士前期課程 ※2／博士後期課程)			
社会学研究科	社会学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)			
体育学研究科	体育学専攻 (博士前期課程／博士後期課程)			

※1は、2017年4月1日現在、学生募集を停止している研究科

※2は、2017年4月1日現在、改組により学生募集を停止している学部・学科および研究科

2017年度 学部学生数一覽表

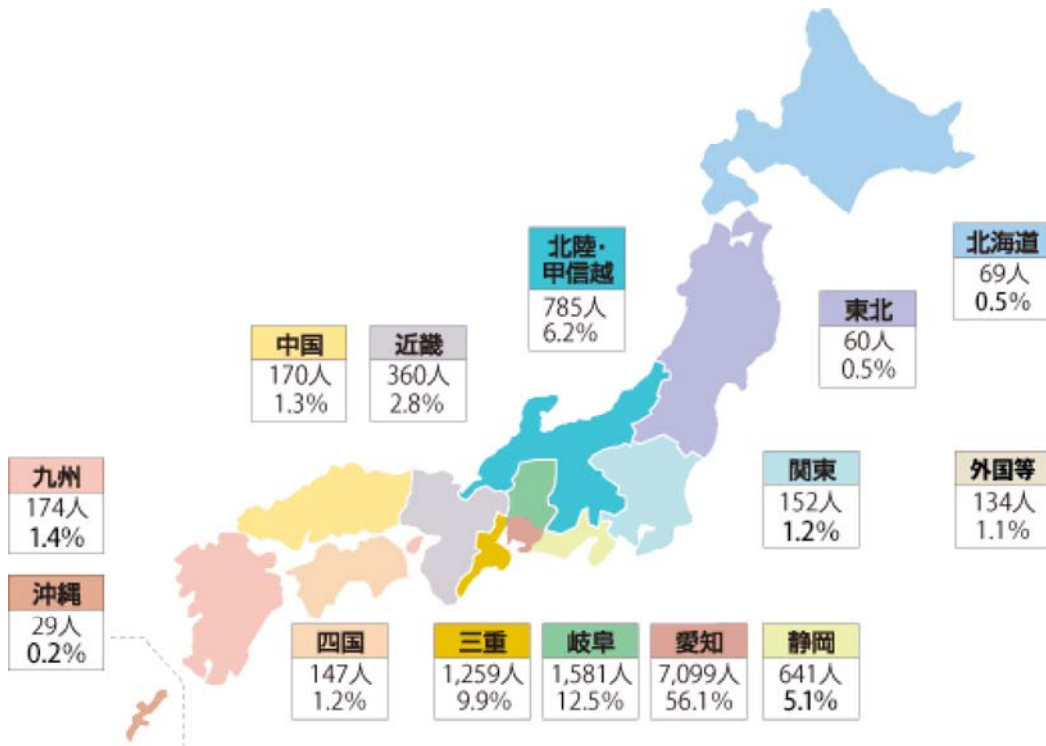
大学学部

2017年5月1日現在

学部	学科	設立年月	入学者数			1年次			2年次			3年次			4年次			計			入学定員 超過率	収容定員 超過率	男子比 (%)	女子比 (%)
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
文	日本文学科	2003.4	22	57	79	22	57	[68] 79	34	42	[68] 76	26	46	[65] 72	25	53	[65] 78	107	198	[266] 305	1.16	1.14	35.1	64.9
	言語表現学科	2003.4	17	67	84	18	67	[72] 85	25	56	[72] 81	23	57	[65] 80	20	73	[65] 93	86	253	[274] 339	1.16	1.23	25.4	74.6
	歴史文化学科	2014.4	33	40	73	34	40	[65] 74	47	29	[65] 76	43	34	[65] 77	40	32	[65] 72	164	135	[260] 299	1.12	1.15	54.8	45.2
	小計		72	164	236	74	164	[205] 238	106	127	[205] 233	92	137	[195] 229	85	158	[195] 243	357	586	[800] 943	1.15	1.17	37.9	62.1
国際英語	国際英語学科	2002.4			0			[] 0			[] 0	2	0	[] 2	1	6	[] 7	3	6	[] 9			33.3	66.7
	英米文化学科	2002.4			0			[] 0			[] 0	1	0	[] 1	4	7	[] 11	5	7	[] 12			41.7	58.3
	国際英語学科 国際英語キャリア専攻	2014.4	7	52	59	7	52	[60] 59	22	47	[60] 69	17	46	[57] 63	13	42	[57] 55	59	187	[234] 246	0.98	1.05	24.0	76.0
	国際英語学科 英語圏文化専攻	2014.4	22	37	59	23	37	[60] 60	18	49	[60] 67	17	49	[57] 66	11	43	[57] 54	69	178	[234] 247	0.98	1.05	27.9	72.1
	国際英語学科 国際学専攻	2014.4	21	40	61	21	40	[60] 61	16	48	[60] 64	17	42	[57] 59	22	47	[57] 69	76	177	[234] 253	1.01	1.08	30.0	70.0
	小計		50	129	179	51	129	[180] 180	56	144	[180] 200	54	137	[171] 191	51	145	[171] 196	212	555	[702] 767	0.99	1.09	27.6	72.4
	国際教養	国際教養学科	2008.4	34	78	112	35	78	[110] 113	44	84	[110] 128	27	75	[103] 102	35	94	[103] 129	141	331	[426] 472	1.01	1.10	29.9
心理	心理学科	2000.4	48	126	174	48	127	[175] 175	60	131	[175] 191	38	145	[165] 183	50	137	[165] 187	196	540	[680] 736	0.99	1.08	26.6	73.4
現代社会	現代社会学科	2007.4			0	0	1	[] 1	0	0	[] 0	1	0	[] 1	201	121	[257] 322	202	122	[257] 324		1.26	62.3	37.7
	現代社会学科 社会学専攻	2015.4	69	17	86	70	17	[88] 87	76	33	[88] 109	69	33	[85] 102	0	0	[0] 0	215	83	[261] 298	0.97	1.14	72.1	27.9
	現代社会学科 コミュニティ学専攻	2015.4	47	43	90	47	43	[88] 90	54	51	[88] 105	61	45	[85] 106	0	0	[0] 0	162	139	[261] 301	1.02	1.15	53.8	46.2
	現代社会学科 社会福祉学専攻	2015.4	19	19	38	19	19	[45] 38	14	24	[45] 38	20	22	[44] 42	0	0	[0] 0	53	65	[134] 118	0.84	0.88	44.9	55.1
	現代社会学科 国際文化専攻	2015.4	24	29	53	24	29	[44] 53	24	20	[44] 44	16	23	[43] 39	0	0	[0] 0	64	72	[131] 136	1.20	1.03	47.1	52.9
	小計		159	108	267	160	109	[265] 269	168	128	[265] 296	167	123	[257] 290	201	121	[257] 322	696	481	[1,044] 1,177	1.00	1.12	59.1	40.9
法	法律学科	1966.4	210	107	317	213	108	[320] 321	272	90	[320] 362	247	102	[309] 349	279	102	[309] 381	1,011	402	[1,258] 1,413	0.99	1.12	71.5	28.5
総合政策	総合政策学科	2005.4	110	113	223	110	113	[220] 223	132	123	[220] 255	124	109	[207] 233	164	106	[207] 270	530	451	[854] 981	1.01	1.14	54.0	46.0
経済	経済学科	1987.4	238	80	318	238	80	[320] 318	298	69	[320] 367	267	65	[309] 332	323	64	[309] 387	1,126	278	[1,258] 1,404	0.99	1.11	80.2	19.8
経営	経営学科	1991.4	183	143	326	184	143	[325] 327	194	157	[325] 351	223	130	[309] 353	262	145	[309] 407	863	575	[1,268] 1,438	1.00	1.13	60.0	40.0
情報理工	情報システム 工学科	2006.4			0			[] 0			[] 0			[] 0	4	1	[0] 5	4	1	[0] 5			80.0	20.0
	情報メディア工 学科	2006.4			0			[] 0			[] 0			[] 0	3	0	[0] 3	3	0	[0] 3			100.0	0.0
	機械情報工学 科	2008.4			0			[] 0			[] 0			[] 0	8	0	[0] 8	8	0	[0] 8			100.0	0.0
	小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	[0] 16	15	1	[0] 16			93.8	6.2
工	機械システム 工学科	2013.4	73	4	77	78	4	[80] 82	90	3	[80] 93	75	0	[80] 75	94	4	[80] 98	337	11	[320] 348	0.96	1.08	96.8	3.2
	電気電子工学 科	2013.4	75	2	77	85	2	[80] 87	80	8	[80] 88	73	5	[80] 78	68	3	[80] 71	306	18	[320] 324	0.96	1.01	94.4	5.6
	情報工学科	2013.4	76	6	82	80	6	[80] 86	85	6	[80] 91	85	7	[80] 92	80	9	[80] 89	330	28	[320] 358	1.02	1.11	92.2	7.8
	メディア工学科	2013.4	49	11	60	49	11	[60] 60	43	16	[60] 59	52	14	[60] 66	63	9	[60] 72	207	50	[240] 257	1.00	1.07	80.5	19.5
	小計		273	23	296	292	23	[300] 315	298	33	[300] 331	285	26	[300] 311	305	25	[300] 330	1,180	107	[1,200] 1,287	0.98	1.07	91.7	8.3
スポーツ科	スポーツ教育 学科	2011.4	77	49	126	77	49	[137] 126	81	54	[137] 135	96	50	[130] 146	99	57	[130] 156	353	210	[534] 563	0.91	1.05	62.7	37.3
	競技スポーツ 科学科	2011.4	205	73	278	205	73	[269] 278	207	65	[269] 272	192	68	[255] 260	219	69	[255] 288	823	275	[1,048] 1,098	1.03	1.04	75.0	25.0
	スポーツ健康 科学科	2011.4	54	31	85	54	31	[84] 85	62	31	[84] 93	49	40	[80] 89	62	35	[80] 97	227	137	[328] 364	1.01	1.10	62.4	37.6
	小計		336	153	489	336	153	[490] 489	350	150	[490] 500	337	158	[465] 495	380	161	[465] 541	1,403	622	[1,910] 2,025	0.99	1.06	69.3	30.7
体育	体育科学科	2000.4					[] 0			[] 0			[] 0	1	0	[] 1	1	0	[] 1			100.0	0.0	
計			1,713	1,224	2,937	1,741	1,227	[2,910] 2,968	1,978	1,236	[2,910] 3,214	1,861	1,207	[2,790] 3,068	2,151	1,259	[2,790] 3,410	7,731	4,929	[11,400] 12,660	1.00	1.11	61.1	38.9

[]内は入学定員数

出身地域別学部学生数(2017年5月1日現在)



© CHUKYO UNIVERSITY All Rights Reserved.

2017年度 大学院学生数一覧表

大学院 博士前期(修士)課程

2017年5月1日現在

研究科	専攻	設立年月	入学者数			1年次			2年次			計			収容定員 超過率	男子比 (%)	女子比 (%)
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
文学	日本文学・日本語文化	2003.4	1	0	1	1	0	[5] 1	1	2	[5] 3	2	2	[10] 4	0.40	50.0	50.0
国際英語学	国際英語学	2006.4			0			[5] 0			[5] 0			[10] 0	0.00		
	英米文化学	2006.4			0			[3] 0			[3] 0			[6] 0	0.00		
	小計				0			[8] 0			[8] 0			[16] 0	0.00		
心理学	実験・応用心理学	2002.4	2	1	3	2	1	[7] 3	1	1	[7] 2	3	2	[14] 5	0.35	60.0	40.0
	臨床・発達心理学	2002.4	1	5	6	1	5	[23] 6	3	7	[23] 10	4	12	[46] 16	0.34	25.0	75.0
	小計		3	6	9	3	6	[30] 9	4	8	[30] 12	7	14	[60] 21	0.35	33.3	66.7
社会学	社会学	1990.4			0			[5] 0			[5] 0			[10] 0	0.00		
法学	法律学	1976.4	1	1	2	1	1	[10] 2	1	3	[10] 4	2	4	[20] 6	0.30	33.3	66.7
経済学	経済学	1991.4	1	1	2	1	1	[5] 2	5	2	[5] 7	6	3	[10] 9	0.90	66.7	33.3
	総合政策学	2009.4			0			[5] 0	3	1	[5] 4	3	1	[10] 4	0.40	75.0	25.0
	小計		1	1	2	1	1	[10] 2	8	3	[10] 11	9	4	[20] 13	0.65	69.2	30.8
経営学	経営学	1995.4	4	0	4	4	0	[10] 4	2	1	[10] 3	6	1	[20] 7	0.35	85.7	14.3
情報科学	情報科学	1994.4	1	0	1	1	0	[1] 1	14	0	[12] 14	15	0	[12] 15	1.25	100.0	0.0
	メディア科学	2004.4			0			[0] 0	0	1	[10] 1	0	1	[10] 1	0.1	0.0	100.0
	小計		1	0	1	1	0	[1] 1	14	1	[22] 15	15	1	[22] 16	0.72	93.8	6.2
工学研究科	機械システム工学	2017.4	9	1	10	9	1	[7] 10			[0] 0	9	1	[7] 10	1.42	90.0	10.0
	電気電子工学	2017.4	8	0	8	8	0	[7] 8			[0] 0	8	0	[7] 8	1.14	100.0	0.0
	情報工学	2017.4	4	1	5	4	1	[8] 5			[0] 0	4	1	[8] 5	0.62	80.0	20.0
	小計		21	2	23	21	2	[22] 23			[0] 0	21	2	[22] 23	1.04	91.3	8.7
体育学	体育学	1974.4	24	4	28	24	4	[12] 28	12	3	[12] 15	36	7	[24] 43	1.79	83.7	16.3
ビジネス・イノベーション	ビジネス・イノベーション	2003.4			0			[0] 0	23	3	[30] 26	23	3	[30] 26	0.86	88.5	11.5
計			56	14	70	56	14	[112] 70	65	24	[142] 89	121	38	[254] 159	0.62	76.1	23.9

[]内は入学定員数

大学院 博士後期課程

2017年5月1日現在

研究科	専攻	設立年月	入学者数			1年次			2年次			3年次			計			収容定員 超過率	男子比 (%)	女子比 (%)
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
文学	日本文学・日本語文化	2003.4			0			[2] 0			[2] 0			[2] 0			[6] 0			
心理学	実験・応用心理学	2002.4			0			[3] 0			[3] 0	1	0	[3] 1	1	0	[9] 1	0.11	100.0	0.0
	臨床・発達心理学	2002.4	1	0	1	1	0	[3] 1			[3] 0	1	0	[3] 1		2	[9] 2	0.22	100.0	0.0
	小計		1	0	1	1	0	[6] 1			[6] 0	2	0	[6] 2	3	0	[18] 3	0.16	100.0	0.0
社会学	社会学	1992.4			0			[2] 0			[2] 0			[2] 0			[6] 0			
法学	法律学	1978.4			0			[3] 0			[3] 0	2	0	[3] 2	2	0	[9] 2	0.22	100.0	0.0
経済学	経済学	1993.4	1	0	1	1	0	[2] 1			[2] 0			[2] 0	1	0	[6] 1	0.16	100.0	0.0
	総合政策学	2009.4			0			[2] 0			[2] 0			[2] 0			[6] 0			
	小計		1	0	1	1	0	[4] 1			[4] 0			[4] 0	1	0	[12] 1	0.08	100.0	0.0
経営学	経営学	1997.4			0			[3] 0			[3] 0			[3] 0			[9] 0			
情報科学	情報認知科学	1996.4			0			[4] 0			[4] 0	2	0	[4] 2	2	0	[12] 2	0.16	100.0	0.0
	メディア科学	2006.4			0			[2] 0			[2] 0			[2] 0			[6] 0			
	小計				0			[6] 0			[6] 0	2	0	[6] 2	2	0	[18] 2	0.11	100.0	0.0
体育学	体育学	1987.4	3	1	4	3	1	[4] 4	1	2	[4] 3	8	2	[4] 10	12	5	[12] 17	1.41	70.6	29.4
計			5	1	6	5	1	[30] 6	1	2	[30] 3	14	2	[30] 16	20	5	[90] 25	0.27	80.0	20.0

[]内は入学定員数

大学院 専門職課程

2017年5月1日現在

研究科	専攻	設立年月	入学者数			1年次			2年次			3年次			計			収容定員 超過率	男子比 (%)	女子比 (%)
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
法務	法務	2004.4									[]			[20]			[20]	0.30	100.0	0.0
計											0			6	0	6	6	0	6	

博士前期(修士)課程+博士後期課程+専門職課程合計

男	女	計	男子比 (%)	女子比 (%)
147	43	190	77.4	22.6

大学設置基準上必要となる教員数と実人数

2017年5月1日現在

学部・学科・研究科		専任教員						計	設置基準上必要となる専任教員数		備考
		教授	専門教授	准教授	講師	助教	任期制助手		うち教授数		
文	日本文学	5		1				6	6	3	
	言語表現	4		3				7	6	3	
	歴史文化	3		3				6	6	3	
	(小計)	12		7				19	18	9	
国際英語		8		3	2			13	11	6	
国際教養		37		28	4			69	10	5	
心理		10		4		4		18	11	6	
現代社会		12		5	1			18	16	8	
法		11		9				20	18	9	
総合政策		12		3	1			16	15	8	
経済		12		8				20	18	9	
経営		18		2	1			21	18	9	
工	機械システム工	10		2		1		13	8	4	
	電気電子工	6		5		1	1	13	8	4	
	情報工	8		1	2	1		12	8	4	
	メディア工	6		2	1	1		10	8	4	
	(小計)	30		10	3	4	1	48	32	16	
スポーツ科	スポーツ教育	7			2	1		10	10	5	
	競技スポーツ科	7		3	4	2		16	14	7	
	スポーツ健康科	8		2		2		12	9	5	
	(小計)	22		5	6	5		38	33	17	
法務研究科		8	3					11	12	6	
合計		192	3	84	18	13	1	311			

専任教員の職階別、年齢別及び男女別構成

上段：男性、下段：女性

2017年5月1日現在

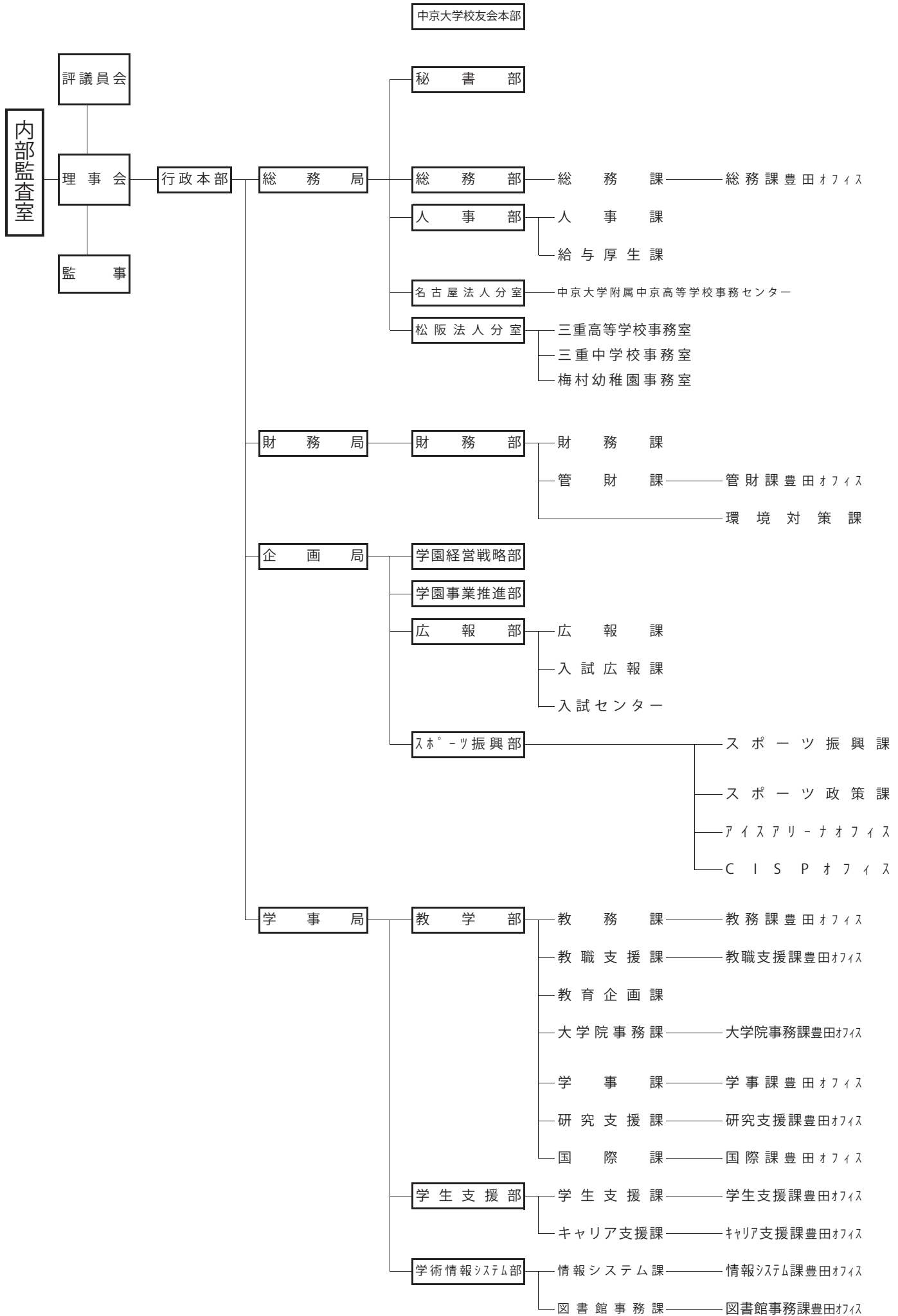
学部等	職階	70歳以上	60～69歳	50～59歳	40～49歳	30～39歳	29歳以下	計
文	教授		4	5	3			12
	准教授				2	2		4
	講師				1	2		3
	助教							0
	任期制助手							0
国際英語	教授		1	4	2			7
	准教授		1	1	2			4
	講師					1		1
	助教					1		1
	任期制助手							0
国際教養	教授		13	11	6	2		32
	准教授		3	2				5
	講師		1	2	10	11		24
	助教			1	2	1		4
	任期制助手			1		2		3
心理	教授		3	2	2			7
	准教授		2	1				3
	講師					4		4
	助教				1		1	2
	任期制助手					1	1	2
現代社会	教授	1	3	5	1			10
	准教授		2					2
	講師			1	1	1		3
	助教				1	1		2
	任期制助手					1		1
法	教授		2	2	3	1		8
	准教授			1	2			3
	講師				1	5		6
	助教				1	2		3
	任期制助手							0
総合政策	教授		4	5	2			11
	准教授				1			1
	講師				2			2
	助教				1		1	2
	任期制助手							0

専任教員の職階別、年齢別及び男女別構成

上段：男性、下段：女性

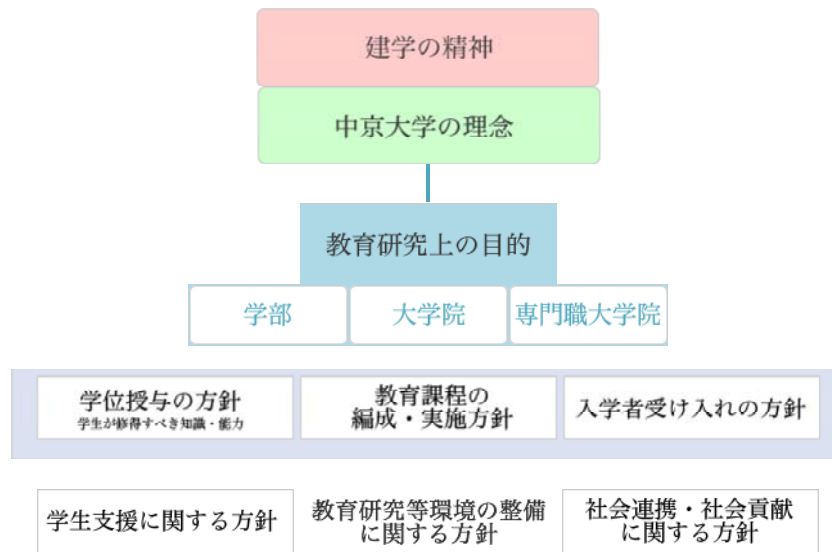
2017年5月1日現在

学部等	職階	70歳以上	60～69歳	50～59歳	40～49歳	30～39歳	29歳以下	計
経済	教授		3	4	4			11
				1				1
	准教授				2	5		7
						1		1
	講師							0
	助教							0
	任期制助手							0
経営	教授		5	6	4	1		16
			1	1				2
	准教授					2		2
							1	1
	講師							0
	助教							0
	任期制助手							0
工	教授		10	13	7			30
								0
	准教授			4	6			10
								0
	講師					3		3
	助教					2		2
	任期制助手					1		1
								0
スポーツ科	教授	1	10	9	1			21
				1				1
	准教授			1	2			3
			1		1			2
	講師					5		5
	助教					5		5
	任期制助手							0
								0
法務研究科	教授		4	2				6
				1	1			2
	専門教授			2				2
					1			1
	准教授							0
	講師							0
	助教							0
	任期制助手							0
合計	男性	2	64	78	64	56	1	265
	女性	0	9	11	13	12	1	46



中京大学の建学の精神・理念、教育研究上の目的、3つの方針等

※各項目をクリックすると、詳細がご覧頂けます。



2017年4月より、「学位授与の方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者受け入れの方針」の見直し・改正を行いました。

中京大学の教員像・中京大学の教員組織の編制方針

- [中京大学の教員像](#)
- [中京大学の教員組織の編制方針](#)

中京大学の学士課程教育における3つの方針

学位授与の方針 学生が修得すべき知識・能力 (Diploma Policy)	教育課程の編成・実施方針 (Curriculum Policy)	入学者受け入れの方針 (Admission Policy)
DP	CP	AP

中京大学の全学共通教育の方針

[全学共通教育（教養教育）の教育目的および学修成果と学修環境](#)

全学共通科目 カリキュラムマップ

[カリキュラムマップ（全学共通科目）](#)

各学部の3つの方針等

※「 」を押すと、各PDFが開きます

学部	学科 専攻	教育研究上の目的	学位授与の方針 (Diploma Policy)	教育課程の編成・実施 方針 (Curriculum Policy)	カリキュラムマップ	入学者受け入れの方針 (Admission Policy)
文学部	日本文学科	○	DP	CP	map	AP
	言語表現学科		DP	CP	map	
	歴史文化学科		DP	CP	map	
国際英語学部	国際英語学科 国際英語キャリア専攻	○	DP	CP	map	AP
	国際英語学科 英語圏文化専攻			CP	map	
	国際英語学科 国際学専攻			CP	map	

	国際英語学科 (2013年度以前入学)	○	DP	CP	上記参照	AP
	英米文化学科	○	DP	CP		
国際教養学部	国際教養学科	○	DP	CP	map	AP
心理学部	心理学科	○	DP	CP	map	AP
現代社会学科	現代社会学科 社会学専攻	○	DP	CP	map	AP
	現代社会学科 コミュニティ学専攻				map	
	現代社会学科 社会福祉学専攻				map	
	現代社会学科 国際文化専攻				map	
法学部	法律学科	○	DP	CP	map	AP
総合政策学部	総合政策学科	○	DP	CP	map	AP
経済学部	経済学科	○	DP	CP	map	AP
経営学部	経営学科	○	DP	CP	map	AP
工学部	機械システム工学科	○	DP	CP	map	AP
	電気電子工学科		DP	CP	map	
	情報工学科		DP	CP	map	
	メディア工学科		DP	CP	map	
情報理工学部	情報システム工学科	○	DP	CP	工学部参照	
	情報メディア工学科	○	DP	CP		
	機械情報工学科	○	DP	CP		
スポーツ科学部	スポーツ教育学科	○	DP	CP	map	AP
	競技スポーツ科学科		DP	CP	map	
	スポーツ健康科学科		DP	CP	map	

各研究科の3つの方針

※ 「 」を押すと、各PDFが開きます

	学位授与の方針 学生が修得すべき知識・能力 (Diploma Policy)	教育課程の編成・実施方針 (Curriculum Policy)	入学者受け入れの方針 (Admission Policy)
文学研究科	DP	CP	AP
国際英語学研究科	DP	CP	AP
心理学研究科	DP	CP	AP
社会学研究科	DP	CP	AP
法学研究科	DP	CP	AP
経済学研究科	DP	CP	AP
経営学研究科	DP	CP	AP
工学研究科	DP	CP	AP
情報科学研究科	DP	CP	AP
体育学研究科	DP	CP	AP
ビジネス・イノベーション研究科	DP	CP	AP
法務研究科	DP	CP	AP



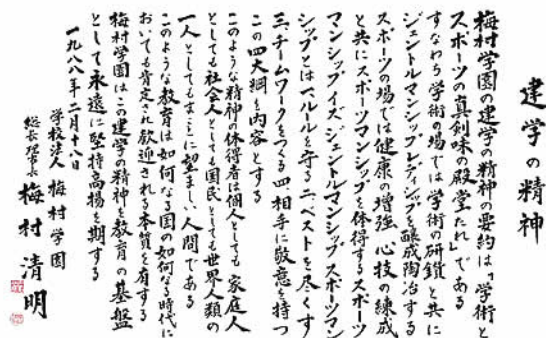
© CHUKYO UNIVERSITY All Rights Reserved.

建学の精神

「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」

建学の精神は、私学の創立者が次代を担う人材の育成を願い、私財を投げ打っての学校開設にあたって、創立者の理念と気概をうたいあげたものです。わが国の高等教育で大きな役割を果たしている私立大学は、それぞれの建学の精神に基づいて教育活動を展開、個性豊かな教育の場として発展してきました。

梅村学園の建学の精神は、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」で、1923年（大正12年）、学校法人梅村学園の母体である中京商業学校の開設にあたり、創立者の梅村清光がその理念と気概をうたいあげたものです。この精神は時代を超え、中京大学をはじめとする学園傘下の5つの教育機関に脈々と受け継がれています。



中京大学の理念

中京大学は、梅村学園の建学の精神に立ちつつ、研究と教育に邁進し、社会の多様な課題に挑んで、その健全な発展に貢献するよう努める。

本学は、大学の使命が研究と教育に存することに鑑み、学術の研鑽に尽力するとともに、優秀な人材の育成に努力する。この両者を分断させることなく、密接な連携を保ちながら、研究と教育を高い次元で調和させてゆく。建学の精神にいう、「学術の場では学術の研鑽と共に、ジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する」は、この理想的な調和を成し遂げてこそ、達成されるものと信じる。

本学は、また独自の使命として、学術とスポーツの調和をめざす。スポーツは肉体を鍛え、技を競うものとして発展したが、その過程で、競技力の向上にとどまらず、人間の全人的成長に必須な普遍的精神をも醸成してきた。建学の精神に謳われるスポーツマンシップの四大綱には、規範を遵守し、他者と協働しつつ、社会の発展に貢献してゆくための、拠るべき指針が明確に示されている。本学は、このスポーツマンシップを学術と結び合わせて、自由にして闊達な調和の道を追求してゆく。

本学は、研究と教育を調和させ、さらに学術とスポーツを調和させた、躍動的で真剣味あふれる学びの殿堂でありたいと願う。ここでいう調和とは、単に二つのものを釣り合わせるだけでなく、両者を止揚し、より高次のものへ発展させてゆく、創造的調和を意味する。ここに本学は、この創造的調和を旗じるしとして不断に前進し、多様な豊かな学術成果を生みだすとともに、社会に貢献できる優れた人材を輩出してゆくことを宣言する。

「建学の精神の四大綱」について

中京大学の創立者であり、初代学長の梅村清明（初代梅村学園理事長）は、建学の精神にうたわれた「学術の場」と「スポーツの場」のあり方について、次のように示しました。

「学術の場では学術の研鑽と共にジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する」。

学問に真摯、真剣に取り組むよう求めたうえに、男性も女性も人間としての人格陶冶が教育の理念であることを掲げました。大学が学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点として教育・研究両面でその役割を高めていくことが目標であることはいうまでもありません。

「スポーツの場では健康の増強、心技の練成と共にスポーツマンシップを体得する」。

スポーツ各競技の技の向上をめざし、精神力を鍛錬するだけにとどまらず、スポーツマンシップとして

- 1) ルールを守る
- 2) ベストを尽くす
- 3) チームワークをつくる
- 4) 相手に敬意を持つ

の四大綱の体得を求めました。

そして、「このような精神の体得者は個人としても、家庭人としても、社会人としても、国民としても、世界人類の1人として誠に望ましい人間である」として、「このような教育は如何なる国の如何なる時代においても肯定され、歓迎される本質を有する」と、建学の精神を時空を超えた教育理念として堅持する気概を示しました。

学部・学科の教育研究上の目的

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を制定し、その中で、11学部18学科、大学院11研究科16専攻それぞれの、「人材の養成に関する目的」を明記しています。各学科、各専攻は、それぞれの学びの特色を活かし、実社会で活躍できる能力と豊かな人間性を身につけた人材の輩出を目指します。

文学部

文学部日本文学科、言語表現学科及び歴史文化学科の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 日本文学科は、研究目標を世界文学における日本文学の持つ普遍性及び特殊性について実証的に考究することに置き、教育目標を日本文学科に学ぶ学生の自己実現をサポートし、伝統的な価値観を踏まえつつ多様化する社会に建設的に関わることのできる有為な人材を養成することに置く。これらの目標実現のために、言語表現学科及び歴史文化学科との連携の下、古典籍を含む資料の収集を段階的に図り、また、文学事跡の実地踏査を行う等実物に即した教育研究活動の実践に努める。
- (2) 言語表現学科は、高度情報化社会における日本語による多様な表現活動及び日本語文化全般を研究対象とする。現代メディアの状況を踏まえた「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を通して、情報を正確に理解した上で、的確な美しい日本語で自身の考えまたは思いを表現・発信できる能力の養成を教育上の目的とし、日本文学科及び歴史文化学科との連携の下、その能力を高度に発揮して表現活動の第一線で活躍できる専門家を始め、優れた日本語運用能力・コミュニケーション能力によって社会に貢献できる人材を養成する。
- (3) 歴史文化学科は、日本史学及び日本民俗学を中心とし、かつ、宗教学、社会学、地理学等のうち歴史的なアプローチを行う上で隣接する学問分野を研究対象とする。日本の歴史について正確な知識を有し、地域の歴史遺産及び人々の営みの歴史的多様性に敬意を抱くことを教育上の目的とし、歴史の知識を糧としつつ現代の諸課題に実証的 態度で向き合い、心豊かな社会の建設に貢献できる人材を養成する。そのため、日本文学科及び言語表現学科との連携の下、史料調査、実地踏査等実物に即した教育研究活動の実践に努める。

国際英語学部 (2014 年度入学生以降)

国際英語学部国際英語学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立つ英語指導を基に英語力の育成を図り、英語コミュニケーション能力の育成、コンピュータを駆使した英語による発表力の育成等にある。また、英米の言語・文化の枠を超えた新しい国際的視野を持つ社会人を養成する。さらに、現代の国際化する企業組織、国際団体等で求められる多様な専門知識及び技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力並びに異文化に対する深い理解及び柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。

国際英語学部国際英語学科(2013 年度以前入学生)・英米文化学科(2014 年度 学生募集停止)

国際英語学部国際英語学科と英米文化学科の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

国際英語学科は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立つ英語指導の基に英語力の育成を図り、英語コミュニケーション能力の育成、コンピュータを駆使した英語による発表力の育成などにつとめる。また、英米の英語や文化への偏重姿勢を超えた新しい国際的視野を持つ社会人を養成する。さらに、現代の国際化する企業組織や国際団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力と異文化に対する深い理解や柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。

英米文化学科は、従来の英文研究に見られた文学偏重を排して、イギリス及び北米の音楽・映画等も研究対象に取り入れた多彩な文化研究と、理論に偏らない実際の言語運用にも配慮した言語研究を中心とした専門科目を配すると同時に、国際英語の観点も視野に入れた実践的な英語コミュニケーション能力の強化にも努め、これにより高度な専門知識に加えて柔軟で多様な価値観を持った、国際化に対応できる企業人・英語教員等を養成する。

国際教養学部

国際教養学部国際教養学科の教育目標は、複数の外国語の運用能力を基礎に、言語・歴史・文化・思想・社会に関する学問分野の知見を深め、時々刻々と変化する世界情勢を見極めつつ、能動的に国際協調に貢献しうる国際的教養人を養成することにある。その基礎となる教育研究上の目的は、言語及び国際的教養に関わる学術研究並びにその知見の教育方法の開発である。言語に関わるとは、複数の言語を習得させ、その運用能力を高めることであり、国際教養に関わるとは、広範な分野にわたる多角的学術的課題である。

心理学部

心理学部心理学科の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、幅広い心理学の基礎知識を修得した上で、現代心理学の主要領域である、実験心理学、応用心理学、臨床心理学、発達心理学に関する専門知識と深い思考力を身につけた、社会に貢献できる人材の養成にある。特に、実験による科学的・客観的な心の分析、採用人事や社員教育、交通や作業上の安全性の追求、心の問題への的確なアセスメントと効果的な援助、人が生まれてから死ぬまでの心の発達の探究など、心理学の専門家として社会が求める人材を養成する。

現代社会学部 (2014年度以前入学生)

現代社会学部現代社会学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、現代社会における〈社会・文化・人間〉の諸相を探求するために、社会学を軸に心理学、教育学、文化人類学、社会福祉学等が連携して、「環境とまちづくり」「メディア表現」「グローバル化と文化」「共生と福祉」「心のケアとサポー

ト]「教育・家族とライフコース」の6領域で教育と研究に取り組むことである。専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力を備え、社会の一員として活躍するだけでなく、現代社会を理解し、生きぬく人材を養成する。

現代社会学部（2015年度入学生以降）

現代社会学部現代社会学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、現代社会に生起する諸課題に果敢に挑戦し、その克服のために尽力する人材の養成にある。この目的を達成するために、社会学を軸に教育学、心理学、社会福祉学、文化人類学等が連携して、社会学専攻、コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻及び国際文化専攻の4専攻を柱として配し、教育及び研究に取り組む。各専攻に基づいて体系的に修得する専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力を備え、社会の一員として活躍するだけでなく、現代社会の構造を理解し、目指すべき社会を構想する人材を養成する。

法学部

法学部法律学科は、法学（すなわち、法学及び政治学の両分野）に関する専門知識、思考方法、問題発見及び問題解決能力を修得させるとともに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を行うことを教育研究上の目的とする。

総合政策学部

総合政策学部総合政策学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会科学の諸分野すなわち政治学・法律学・経済学・経営学等の幅広い基礎的学修をベースとして、実社会で生起している本来的に多面性を有する諸問題に取り組むための思考習慣を涵養することである。そのような思考の実践過程が実社会においては協働のプロセスによって行われることに鑑み、能動的学修にも重点を置く。これらの教育を通じて、企業・公共団体等の組織、また地域・国際社会等における協働のプロセスの様々な場面において重要な役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。

経済学部

経済学部経済学科の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、経済現象を理論的・実証的・歴史的見地から解明し、経済問題の解決に広く貢献することを理念とする。基本的な経済学の知識を修得させること、現代情報化社会に適応できる能力を養わせること、および国際感覚に優れ、幅広い教養と総合的な判断力を培わせることを通じて、国際環境の変化と国内経済の変動に対処するべく、国際性と専門性を兼ね備えた、理論と実践に強い優れた人材の養成を教育目的とする。

経営学部

経営学部経営学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、複雑化・国際化が加速する現代社会に即した経営理論並びにその実践への応用力及び論理的思考力を備えた、企業を始め官公庁、NPO法人等の各種組織体で活躍できる人材の養成にある。そのために、次に掲げる能力、知識等を備えた人材の養成に取り組む。

- (1) コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力
- (2) 各種組織体経営に関する全般的・基礎的知識及び高度の専門的知識
- (3) 問題を発見し論理的に分析・解析する能力及びコミュニケーションを図る能力
- (4) 地域はもとより国家・世界に寄与する多様な視点

工学部

工学部機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、メディア工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 機械システム工学科は、機械、電子、システムなどを要素技術として、人間生活の利便性と生活の質を向上させるために、先進的な機械システムを築くことのできる基礎的な知識と技術を有した実践力のある人材の養成を目的とする。学生が、機械の強度設計や性能設計に必要な力学各分野の基礎知識の理解のもとに、機械や機械システムの設計の基本原則と各種機械要素の機能や原理、材料選択や製造加工など設計や製作のための基本的な知識と技術の修得と機械の性能や安全性について判断や評価ができる基礎的な知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。
- (2) 電気電子工学科は、電気、電子、情報通信技術の基礎を確実に修得し、急速に進歩する電気電子工学分野の産業の発展を担う信頼感のある技術者の養成を目的とする。学生が、電気回路及び電磁気学に関する基礎的な知識を修得した上で、電気系科目では電気機器および電力ネットワークの基礎知識を、電子系科目では電子デバイス、集積回路など半導体の基礎知識を、情報系科目では組込みシステムや画像信号処理の基礎知識を、通信系科目では通信システム、無線通信の基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。
- (3) 情報工学科は、高度に並列分散化しネットワークで結ばれた時代に即応できる情報システムの設計、実装、運用に携わる人材の養成を目的とする。学生が、情報システムの基本構成と基本要素について理解し、プログラミングとソフトウェア開発、情報処理環境の機能と運用、情報処理技法の設計と評価、情報と計算に関する形式的記述と論理的思考、ハードウェアやソフトウェアの設計と製作、分散システムの設計や開発に関する基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。

- (4) メディア工学科は、情報通信技術を情報の媒体と捉えた応用システムの考案、開発を担うメディア技術者の養成を目的とする。学生が、情報技術の基礎的な知識と技能を修得し、ネットワークの構築と運用やアプリケーションソフトの開発、コンテンツ制作のための基盤能力とデザイン能力、メディア情報処理システム的设计や開発などのメディアテクノロジーとメディアデザインに関する基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。

情報理工学部 (2013 年度 学生募集停止)

情報理工学部情報システム工学科、情報メディア工学科、機械情報工学科の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 情報システム工学科は、情報システムの設計、実装、運用に携わる技術者の養成を目的とする。オペレーティングシステム、ネットワーク、データベースなどを基幹構成要素として、情報の収集・処理・流通などの機能を果たす情報システムを実現するための教育、研究をおこなう。システムの設計からプログラミングによる実現に至るまでの情報システム開発における専門的かつ総合的な技術を身につけるための実践的教育を目標とする。
- (2) 情報メディア工学科は、情報メディア技術の実用的応用に携わる人材を育成することを目的とする。そのために、IT基礎技術、各種設計技法、アプリケーションソフトウェア習得について教育、研究を行い、今後増え続けるであろうIT応用サービスに関する社会的ニーズに対応することを教育目標とする。
- (3) 機械情報工学科は、機械工学と情報技術の融合分野で、理工学系の基礎と、専門を活かした実践力を併せ持つエンジニアの養成を目的とする。機械、電子、システムなどを要素技術として、人間生活を向上するための先進的機械システムを築くための教育・研究をおこなう。ロボティクス、メカトロニクス、生産システムなどの機械製造に関わる知識・原理および、ものづくりの基礎技術を習得するための実践的教育を目標とする。

スポーツ科学部

スポーツ科学部は、組織として研究対象とする中心的な学問分野をスポーツ科学分野とし、当該分野における教育・競技・健康にまたがる諸科学の総合的な教育研究を通して、科学的方法に基づくスポーツや心身の健康に関する専門的な知識や技術を涵養するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を兼ね備えた有為な人材を養成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。また、スポーツ科学部が設置するスポーツ教育学科、競技スポーツ科学科、スポーツ健康科学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。

- (1) スポーツ教育学科は、体育学分野及び健康科学分野に関する専門的な知識を修得したうえで、その知識を統合的に理解・応用することができる能力と、心身の発達段階に対応した実践指導能力および課外活動指導能力を身につけた人材を養成する。
- (2) 競技スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する知識を修得したうえで、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学やコーチング科学に関する知識とそれを実践の場面で応用する技法を有した人材及びスポーツ関連組織等の運営に関する実践能力を有した人材を養成する。
- (3) スポーツ健康科学科は、スポーツと健康科学に関する専門的な知識を修得したうえで、健康づくり運動やレクリエーションスポーツの実践力や指導力を有した人材及び健康科学の観点からスポーツパフォーマンスをサポートすることができる能力を有した人材を養成する。

体育学部 (2011年度 学生募集停止)

体育学部体育科学科の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

体育学部体育科学科は、体育科学モデル、スポーツ科学モデル、武道モデルの3つの履修モデルを有し、体育科学モデルでは保健体育教員を目指す人材の養成、スポーツ科学モデルではスポーツ競技者や競技スポーツ指導者を志向する人材の養成、武道モデルでは柔道および剣道の高度な技術および指導力を備えた人材の養成を目指した専門的な教育研究を施す。



© CHUKYO UNIVERSITY All Rights Reserved.

大学院の教育研究上の目的

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を制定し、その中で、11学部18学科、大学院11研究科16専攻それぞれの、「人材の養成に関する目的」を明記しています。各学科、各専攻は、それぞれの学びの特色を活かし、実社会で活躍できる能力と豊かな人間性を身につけた人材の輩出を目指します。

文学研究科

文学研究科日本文学・日本語文化専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 博士前期課程は、長い歴史をもつ日本の文学や言語を研究しながら、移り行く流行の奥にひそむ、不易な価値や本質を追究している。こうした追究を通して、あるべき日本の伝統的文化を明確に自覚し、継承するとともに、後代の者に伝えてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、上代から現代までの日本文学、日本語、漢文、書道など多様な方面への専門的研究をおこない、日本語や日本文学の研究者や教員、さらには豊かな日本語や文学的教養を有した人材の社会への輩出を図る。
- (2) 博士後期課程は、日本の文学や言語の研究をいっそう深化させ、あわせて隣接分野も俯瞰しながら、その普遍的な意義を追究してゆく。こうした追究を通して、日本の伝統が育んできた価値観や美意識をあきらかにし、現代的視点から改めて位置づけてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、専攻する各分野の文献や原典を正確に解析する高度な能力を錬磨してゆき、広範な視野から日本の文学や言語の価値を判断しうる研究者等の社会への輩出を図る。

国際英語学研究科

国際英語学研究科国際英語学専攻及び英米文化学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 国際英語学専攻修士課程は、国際英語の視点に立ち、英米の英語や文化への偏重姿勢を超えた新しい国際的視野をもつ英語教育者を養成すること、及び、そのような英語教育者の養成に自ら貢献しうる国際英語学研究者を育てることを目的とする。また、現代の国際化する企業組織や国際団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力と異文化に対する深い理解や柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。
- (2) 英米文化学専攻修士課程は、国際英語の観点も視野に入れた高いコミュニケーション能力を有するとともに英米文化に関する専門性を持った高度専門職業人・企業人、研究員を養成することを目的とする。文化研究コースでは、旧来の英文学専攻に見られる文学偏重を排し、英米の音楽・映画等の現代文化も題材にして多面的な英米文化研究を目指す。また、言語研究コースでは、実際の言語運用の側面にも配慮した研究・教育を行う。こうした専門教育に加えて、実践的英語運用能力の向上を配慮した科目を配することで高度な専門知識を備えた国際人の養成を目的とする。

心理学研究科

心理学研究科実験・応用心理学専攻及び臨床・発達心理学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 実験・応用心理学専攻博士前期課程は、基本的心理過程に関する学識を有し、その応用により快適で安全な人間環境系の設計に寄与する専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。実験心理学領域では、実験・測定・解析など基礎と応用を繋ぐ多様な方法に精通した人材を養成し、応用心理学領域では、基礎研究の成果を踏まえ、現実的諸問題の解決を可能にする心理技術を修得し、社会的要請に応じて専門的実務に従事する人材を養成する。
- (2) 実験・応用心理学専攻博士後期課程は、人間の基本的な心理過程を解明するとともに、その応用によって快適で安全な人間環境系の設計に寄与する学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。実験心理学領域では、人間の基本的な心理過程を解明する先端的研究を推進する人材を養成し、応用心理学領域では、現実的諸問題の解決を可能にするための心理技術の高度化を行うとともに、社会的要請に応じて諸問題を解決する人材を養成する。
- (3) 臨床・発達心理学専攻博士前期課程は、心理学全般にわたる広い学識を有し、適応事象の基本を身につけた専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、心理的適応の困難な個人又は集団に対し適切な援助を行う人材を養成し、発達心理学領域では、重要な発達研究方法である観察・面接・質問紙調査等を駆使した行動の発達過程の追跡及び分析を通して、現実社会で生起する諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。
- (4) 臨床・発達心理学専攻博士後期課程は、人間全般にわたる広い学識を有し、適応過程を解明するとともに、適切な援助を与えることのできる学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、適応、人格、心理査定等に関する基礎的研究及び臨床事象に関する研究に従事するとともに、適切な心理臨床を行う人材を養成し、発達心理学領域では、人間の生涯にわたる発達を体系的に解明するとともに、発達の諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。
- (5) 前各号の目的を達成するため、両専攻・各領域の連携及び協力を推進する。

社会学研究科

社会学研究科社会学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 博士前期課程は、社会学及び隣接諸科学の専門知識を深く修得させるとともに、現代社会に生起する諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を培うことを目的とする。また、「専門社会調査士」資格の養成のための教育をはじめ、フィールドワークにもとづく研究・教育を重視し、専門的実践的能力及び調査研究に求められる倫理性を育成することによって、行政機関、専門機関、企業等において専門的な業務を担当できる人材を養成する。
- (2) 博士後期課程は、社会学の諸領域および隣接諸科学の専門知識を体系的に修得させ、各専門分野の研究を自立的に遂行できる能力を培うことを目的とする。専門的学識を充実させるための研究指導とならび、調査研究を組織し指導するために求められる専門的実践的能力の育成を重視し、大学・高等教育機関等の研究・教育専門職をはじめ高度の専門業務に従事できる人材を養成する。

法学研究科

法学研究科法律学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 博士前期課程は、法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、本課程の研究教育を通じて、広い視野に立って、法律学及び政治学の精深な学識を授け、研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓抜した能力を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。
- (2) 博士後期課程は、法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、法律学及び政治学について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事する必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。

経済学研究科

経済学研究科経済学専攻及び総合政策学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 経済学専攻博士前期課程は、専門教育を通じて以下に掲げる人材の養成を目的とする。
 1. 経済学の新しいパラダイムの構築に資することのできる研究者
 2. 国際的に貢献できるエコノミスト等
 3. 高度な専門学識を通じて学問研究と社会の結びつきに資する専門職業人
 4. 出身国ならびにわが国の発展と相互友好のために活躍できる外国人研究者
- (2) 経済学専攻博士後期課程は、博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、それらの目的を自立的に遂行できる能力を培うための論文作成指導を徹底し、より高度な経済専門研究者および職業人を養成することを目的とする。
- (3) 総合政策学専攻博士前期課程における教育研究の目的は、第一に、学部段階において当該専門分野に関する基礎的な資質と能力を修得した者を対象として、より高度な専門知識や実践的能力、研究能力を培うことであり、第二に、既に政策立案や政策管理に関する実践現場において、高度な専門性が求められる職業を担っている人材の再教育機能を果たすことである。特に、総合政策学専攻博士前期課程では、公共政策や地域政策、経営政策などに関して当該専門分野に関する高度な理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力あるいは高度の専門的な職業を担うための卓越した実践的な能力を持つ人材を養成する。
- (4) 総合政策学専攻博士後期課程の教育研究上の目的は博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、高度な研究能力と豊かな学識に裏打ちされ、新たな知見や価値を創造できる能力を身に付けて企業経営や行政機関、教育研究機関など社会の多様な場で中核を担う人材を養成することを目的とする。

経営学研究科

経営学研究科経営学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 博士前期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、グローバル化、情報化、学際化の流れの中で高度の専門職職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを教育研究上の目的として設定している。
- (2) 博士後期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、知の集積拠点としてその役割を高めていくことに教育目標を絞り、専門的研究者の養成を教育研究上の目的として設定している。

工学研究科

工学研究科並びに機械システム工学専攻、電気電子工学専攻及び情報工学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 工学研究科修士課程は、工学の専門的な技術と知識を身に付け、それを製品及びシステムの設計・開発に応用できる高度専門技術者及び研究者を養成する。また、学会発表、共同研究等の対外活動を通して、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力に秀でた人材を養成する。さらに、技術者・研究者として高い倫理観を持ち、職業人としての立場を強く意識できる人材を養成する。
- (2) 機械システム工学専攻修士課程は、人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術及びシステム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成する。具体的には、機械装置やロボット等の研究開発を行う「機械技術系分野」、制御システムや知的マシン等の研究開発を行う「情報技術系分野」、生産システム等の研究開発を行う「システム技術系分野」の3つの分野の技術者を養成する。また、研究計画を立て自由な議論を行いながら研究を行い、事実に対する観察・調査・問題発見能力、指導力、プレゼンテーション能力及び報告書作成能力を持つ人材を養成する。さらに、起業家精神を有し、経営・管理運営に能力を発揮する人材及び新技術・新産業分野の開拓に能力を発揮する人材を養成する。
- (3) 電気電子工学専攻修士課程は、数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係性に優れた、応用力のある高度専門技術者を養成する。専門知識は、細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。また、デバイスとシステムのように異なる専門領域に強みを持つ人材の養成を重視する。具体的には、デバイス、電子回路、組込みシステム等の研究開発を行う「エレクトロニクス分野」、ロボット、制御システム等の研究開発を行う「制御・メカトロニクス分野」、無線通信システム、電波応用機器等の研究開発を行う「通信・電波分野」、情報システム、画像応用機器等の研究開発を行う「情報・画像分野」、電力システム及び電気機器等の研究開発を行う「電気分野」の5つの分野の技術者を養成する。
- (4) 情報工学専攻修士課程は、数理的な思考力とハードウェア、ソフトウェア及びメディア・データ処理の専門知識を持ち、システム設計構築、運用管理のできる高度専門技術者を養成する。具体的には、インフラストラクチャシステムの設計構築や運用等に関わる「情報システム分野」、画像応用や知識情報処理分野での高度なアプリケーションソフトウェアの設計や実装を行う「ソフトウェア開発分野」、さらには、これらのシステムを基盤としてコンテンツ開発や配信及びそれ

らのシステムを扱う「情報メディア分野」の3つの分野の技術者を養成する。

情報科学研究科

情報科学研究科情報科学専攻、情報認知科学専攻及びメディア科学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 情報科学専攻博士前期課程は、重要な社会インフラである情報技術の研究開発と応用に関して、高度な専門能力を発揮できる人材の養成を目的としており、特にネットワークを含めた情報システム、情報処理等の高度情報技術の専門家の養成を目的とする。人間の知的活動を支援するコンピュータとネットワーク環境についての基礎教育を重視し、修得すべき知識・技術の教育を行うと同時に専門能力を高めるために最先端の知識・技術の修得が重要であり、自ら進んで調査・研究することを教育目標とする。
- (2) 情報認知科学専攻博士後期課程は、情報科学技術、認知科学及びその応用分野で研究者として一人立ちできる研究専門家及び高度専門技術者の養成を目的とする。ネットワークを含む情報システム及び知的情報処理に関する研究専門家及び高度専門技術者並びに学習支援やヒューマンインタフェースに関する研究専門家及び高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。
- (3) メディア科学専攻博士前期課程は、コンピュータを活用した高度なメディア処理及び表現技術の専門家の養成を目的としており、特にコンピュータと人間との関わりの中で、デジタルコンテンツ、仮想化技術等、情報の表現を扱うことができる高度専門技術者の養成を目的とする。人間の知的活動を支援するメディア技術についての基礎教育を重視し、修得すべき知識・技術の教育を行うと同時に専門能力を高めるために最先端の知識・技術の修得と、自ら進んで調査・研究することを教育目標とする。
- (4) メディア科学専攻博士後期課程は、メディアを含む情報科学技術、認知科学及びその応用分野で研究者として一人立ちできる研究専門家及び専門技術者の養成を目的とする。コンピュータを活用した創造的な表現が行なえる高度なメディア研究専門家及び高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。

体育学研究科

体育学研究科体育学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 博士前期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を習得させ、博士後期課程に進学して体育学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成する。
- (2) 博士後期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を習得させ、体育学研究を自立的に遂行できる能力を培い、高等教育機関や研究所等において教育研究職に従事できる人材を養成する。

ビジネス・イノベーション研究科

ビジネス・イノベーション研究科は、経営革新や市場開拓を大胆に推し進める高度専門職業人の育成を基本目的としている。この目的を達成し、幅広い知識と戦略的発想を持って、革新的事業計画や市場開拓案を提案し実行しうる人材を育成するため、本研究科は、本学複数学部からなる専任教員と実業界から招聘する客員教授の混成組織によって、学生が経営理論を体系的に学び直し、その理論を、該当するビジネスの環境に合わせ適用しうる実践的スキルを身につけ、さらに、経営環境の変化を的確に認識するアンテナとしての広範な人脈を形成する機会の提供に努める。併せて、本研究科は社会人と学生の交流を通じ実業界のニーズをタイムリーに把握し経営系研究者にフィードバックする、本学と実業界の創造的な交流の場でもあり続けたいと考える。



中京大学
CHUKYO UNIVERSITY

© CHUKYO UNIVERSITY All Rights Reserved.

専門職大学院（法務研究科）の教育研究上の目的

法科大学院（法務研究科）

中京大学法科大学院法務研究科の社会的な使命は、「法学教育」、「司法試験」、「司法修習」を有機的に連携させた「プロセス」としての法曹養成機関たる機能を果たすことにある。

そのためには、ここで学ぶ者に対して、「法の支配」の直接の担い手であり、「国民の社会生活上の医師」としての役割を期待される法曹に共通して必要とされる専門的資質・能力を、現実に習得させなければならない。そして、かけがえのない人生を生きる人々の喜びや悲しみに対して深く共感しうる豊かな人間性の涵養と向上を図ることも不可欠である。さらに、専門的な法知識を確実に習得するとともに、これを批判的に検討し、発展させていく創造的な思考力、あるいは事実に則して具体的な法的問題を解決していくために必要な法的分析能力や、法的議論の能力等を育成することも必要である。そのうえで、現代社会において問題となっている先端的な法領域について基本的な理解を得させ、また、社会に生起する様々な問題に対して広い関心を持ち、人間や社会のあり方に関する思索や実際的な見聞・体験を基礎として、法曹としての責任感や倫理観を涵養するとともに、実際に社会への貢献を行うための機会を提供しうるものとする必要がある。

このような教育上の理念の下に、以下の3項目を法務研究科の教育の目的として掲げる。

- (1) 法曹としての高度な専門的知識の獲得
- (2) 法曹としての豊かな専門的能力の育成
- (3) 正義感および人権感覚の育成

中京大学法科大学院法務研究科は、以上のような教育理念・目的のもとで、具体的な教育目標として、以下のような法曹の養成を目指すものである。

(1) 社会的正義を担う法曹の養成

市民・消費者という視点に立つ正義感あふれる法曹、換言すれば、「国民の社会生活上の医師」という立場にふさわしい法曹の養成を目指すものである。

そのためには、技術者としての法曹能力だけでなく、仁術としての法曹能力をも養うことが必要となる。被害者、加害者、犯罪者の心の痛みを理解し、権利侵害という外的な傷を治療するだけでなく、心的な痛みをも理解し、和らげる能力のある法曹を養成する。

(2) 経済社会の要請に応える法曹の養成

企業が必要とする法務を担う能力を有する法曹の養成を目指すものである。

東海地域は、日本経済の主要な産業地域として、多くの企業が活躍しているが、それらの企業が必要とする法曹、すなわち、コンプライアンス能力のある企業法務を担う能力を有する法曹を養成する。



© CHUKYO UNIVERSITY All Rights Reserved.

学士課程教育における「3つの方針」

本学は、より一層質の高い教育を行って、社会に有為な人材を送り出すことを目的に2010年2月、学士課程教育の「3つの方針」を制定し、全学をあげて取り組んでいる。3つの方針は本学の教育の根幹となるもので、「入学者受入れの方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」で構成。それぞれの方針の柱に、本学の建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を据えている。その上で、意欲と能力を持つ者を受け入れて、総合的な知、専門的な知識・技能を修得させる教育を行い、それらを身につけた者に学位を授与する、と明記している。

入学者受入れの方針

中京大学の建学の精神は、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」という言葉をその真髄としています。

この言葉は、大学生生活を通じて学問と真摯に向き合い、高度な教養と専門知識を獲得すること、またスポーツに代表される鍛錬の場では心身の健康増進を図るとともに、様々な困難を乗り越えるための資質や実践力を養い、人間力を高めることを謳ったものです。

この建学の精神に照らし、本学は以下に挙げるような意欲と能力を持つ人を広く求めています。

- 高等学校等において幅広い教科の科目を学び、大学での学修に必要な基礎学力を有している人。
- 学習活動・各種技術の習得・文化活動・芸術活動・スポーツ活動において自己の研鑽を積み、実績を挙げている人。
- 新たな課題を発見し、それを解決するために自ら考え、行動することができる人。
- 積極的に学ぶことにより、幅広い教養を身につけ、また、高度な専門性を追求する意欲をもつ人。
- 研究活動や課外活動、学生生活を通じて、これからの世の中で必要となる知識と能力を身につけ、将来、社会の一員として大きく貢献する意志と意欲を持つ人。

また、各学部・学科においては「人材の養成に関する目的・教育研究上の目的」から、それを修得する素養を持つ人を求めています。具体的には、それぞれが「入学者受け入れの方針」([下記表参照](#))を定めるとともに、[各種入学試験要項](#)において、出願資格および試験科目を指定し、高等学校課程段階までに学ぶべき基本的な事項を示しています。それらの幅広い教科の科目を修得しており、各学部・学科においてそれを土台に学びを昇華させる意欲ある人を望みます。

教育課程編成・実施の方針

各学部・学科が定める「人材の養成に関する目的・教育研究上の目的」に基づき、中京大学に在籍するすべての学生に教養的知識を供する「全学共通科目」と、各学部・学科において専門的知識を供する「学部固有科目」を大きな二本の柱としてカリキュラムを編成します。

- 「全学共通科目」は、幅広い視野を育成し、多面的・論理的思考力とコミュニケーション能力を培い、総合的な知を身につけることを目的とする。
- 「学部固有科目」は、専門的な知識と技能を身につけ、社会の変化や技術の進展に対応しつつ、課題を発見・解決する能力の育成を目的とする。
- 将来の目標にあわせた履修コース・モデルを示しながら段階的・体系的なカリキュラムを編成するとともに、学生のキャリア形成に資する教育を実施する。
- 高等学校段階の学習から大学教育における能動的・主体的な学修への円滑な移行を助けるため、導入教育的な科目を配置する。

また、知識や技能の教育のみならず、建学の精神に定める四大綱に基づいて、社会人として最も大切な人間教育を行います。

- 1) 社会のきまりやモラルを大切にすることを養う（ルールを守る）
- 2) 目標に立ち向かうチャレンジ精神を養う（ベストを尽くす）
- 3) 協調性と社会性を身につけ養う（チームワークをつくる）
- 4) 他者の存在や意見を尊重する感性を養う（相手に敬意を持つ）

本学では、総合大学としてのスケールメリットを活かし、各自の興味に従って学部横断的に異分野の科目を履修することにより、幅広く学修を進めることができます。さらに、正課外教育においても、社会貢献・国際・キャリア・資格取得などをキーワードに各種プログラムを設定し、実践的な能力向上を支援します。

教育課程をより実効性あるものとするため、教育内容と方法に関する組織的な改善活動を継続的に実施するとともに、各科目においては予め公表した授業計画と学修到達目標に基づいて授業を展開し、厳格な成績評価を行うこととします。

なお、「教育課程の編成・実施方針」は、[下記表をご参照ください](#)。

学位授与の方針

中京大学の使命は有為な人材を社会に送り出すことにあります。建学の精神に定める四大綱では、「1) ルールを守る、2) ベストを尽くす、3) チームワークをつくる、4) 相手に敬意を持つ」の体得者は「個人としても、家庭人としても、社会人としても、国民としても、世界人類の一人としてもまことに望ましい人間である」と謳われています。

本学では、これらの四大綱を体得し、さらに、各学部の「人材の養成に関する目的・教育研究上の目的」に基づく教育課程において学修し、厳格な成績評価を経て、以下に挙げる能力を身につけた者に対して学士の学位を授与することとします。

- 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。
- 専門以外の分野に関する体系的な知識や素養を身につけている。
- 修得した知識や技能に基づき、自らが発見した新たな課題を解決できる。また、未来について創造的な考え方を発信することができる。
- グローバル化が進化する社会で活躍するために不可欠な言語力、モラルに則って情報を収集・活用する能力、他者と協調して目標実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ精神を身につけている。

本学の卒業生には、新たな課題を解決する論理的思考力を有し、社会の一員として、他者と協調して社会の発展に寄与できる人材となることが期待されています。

なお、「学位授与の方針」は、[下記表をご参照ください](#)。

全学共通科目 学修成果及び学修環境

【全学共通教育】

[教育目的]

建学の精神と中京大学の理念に基づいて、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ、総合的な知を身につけるために、次のような教養教育を行う。

- 1、言語的コミュニケーション能力を高める。
- 2、心身の健康の保持と増進及び体力を向上させる。
- 3、人文・社会・自然科学の分野における体系的な教養を獲得する。
- 4、現代社会が直面しているさまざまな課題に対する主体的判断力を育成する。

こうした教養教育を重視することにより、専門教育との連関を図りつつ、職業人であると同時に世界市民として社会の発展に寄与できる人材の養成に努める。

[学修成果と学修環境]

上記の教育目的を達成するために、ゼミ、コンピュータ、コンピュータ処理論、英語、第二外国語、スポーツ・健康、自然の探究、人間の探究、社会の探究、新領域、教養テーマ講義、自校教育の各科目を配置している。また、教職を志す学生のための全学共通の教職科目を配置している。それぞれの分野の学修成果及び学修環境は、以下のとおりである。

【言語教育：英語】

[学修成果]

- 1、読む・書く・聞く・話すという基本的技能を身につけ、場面や状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
- 2、留学や社会活動などの実践の場において、英語によって状況を把握し、情報を発信することができる。
- 3、上記の基本技能を習得することに加え、異文化の多様性を理解・尊重し、それについて自らの意見を述べることができる。

[学修環境]

- 1、学生が自分の語学レベルやニーズに応じたクラスを選択できる。
- 2、学内教育支援システムの活用により、教材を効果的・効率的に配布し、学生の予習・復習を支援する。
- 3、1年次の英語基礎科目(選択必修科目)終了後、より高次の英語運用能力を養うために、各種応用クラスを提供する。

【言語教育：ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、日本語】

[学修成果]

- 1、読む・書く・聞く・話すという基本的技能を身につけ、場面状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
- 2、各言語圏の文化や社会とその多様性を理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 3、日本語学修者(留学生)は大学での学修を可能にする高度な日本語運用能力を身につけ、口頭での発表やレポートを作成することができる。

[学修環境]

- 1、言語ごとに、基本的技能を総合的に学ぶ基礎クラスを、1年次に週2回提供する。
- 2、基礎クラス終了後、より高次の言語能力を養うための演習・応用クラスを提供する。
- 3、各クラスにおいて言語能力を養う過程で、それぞれの言語圏の文化や社会について学ぶ機会を提供する。
- 4、日本語学修者には日本語能力を高めるために週4回少人数日本語クラスを提供する。また、大学で必要なアカデミックな日本語運用能力を高めるため、週4回のクラスを提供する。

【スポーツ実技】

[学修成果]

- 1、個人スポーツ系科目：スポーツに関する深い理解を持ち、多様な運動技能を身につけている。
- 2、チームスポーツ系科目：チームスポーツにおける個々の役割と技能への理解を持ち、集団的技能及び協応性を身につけている。
- 3、フィットネス系科目：健康管理や体力づくりに必要な運動について理解し、運動メニューの作成及び実践ができる。
- 4、障害者スポーツ：身体的障害の程度に応じて運動の手段や方法を検討し、運動メニューを作成することができる。

[学修環境]

- 1、学生の自主性を尊重するため、希望する種目クラスの履修を優先させるとともに、4年間8セメスターで受講の場と機会を提供する。
- 2、学部・学年の枠を超えて学生間の交流を深めるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力を養成する場と機会を提供する。
- 3、クラスごとに受講者数の上限を定め、全員の身体活動量が高まるようにする。
- 4、視覚情報を利用するための装置を導入することにより、学生の技術習得を促す。さらに、生理学的指標を利用することにより、学生が自身の身体状況を把握するための情報を提供する。

【人間の探究】

[学修成果]

- 1、日本及び世界の歴史・文学に関する知見を獲得して、多様な価値観の存在を理解し、自己と他者の文化的背景について説明できるようになる。
- 2、人間の思索や言葉を主たる対象として培われてきた人文科学の手法及び成果を学ぶことにより、論理的な思考力と表現力を身につけている。
- 3、人文科学の培ってきた歴史的成果や現代の学際的な方法を学ぶことで、人間の心の本質について深い知見を得ることができる。

[学修環境]

- 1、人文科学の幅広い領域に対応した17科目を開設し、学生自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【社会の探究】

[学修成果]

- 1、現代社会に至る時代感覚を身につけ、法・政治・経済の基本的な理論や内容を理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 2、グローバル化した現代社会の中で、歴史的・地理的な比較を通して、さまざまな社会事象を把握し、説明することができる。

[学修環境]

- 1、社会科学の領域に対応した12科目を開設し、学生が自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【自然の探究】

[学修成果]

- 1、自然科学及びこれに密接に関係する数学・統計学の基礎知識を身につけ、それぞれの学問の役割を認識し説明することができる。
- 2、数理的に扱うことができる対象が、自然現象を始めとした世の中の事象の中に非常に多くあることを知り、その具体例を説明することができる。
- 3、日常生活におけるさまざまな現象を科学的・数理的な視点から考えることができ、科学的な根拠を取捨選択することができる。

[学修環境]

- 1、自然科学の領域に対応した12科目を開設し、学生が自ら関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、実験や野外観察、ビデオなどの視聴覚教材を駆使し、理解の促進に配慮した授業を提供する。
- 3、e-Learning システム、Web サイト、プレゼンテーション・ソフトなどのIT技術を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。

【新領域】

[学修成果]

- 1、国際問題や国内における政治・経済・社会問題、性差（ジェンダー）や異文化をめぐる問題、環境問題、情報化社会の問題など現代社会が直面する諸課題について多面的に理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 2、上記の諸課題に関する知識を獲得するにとどまらず、現代社会を生きる当事者としての問題意識を深め、市民としての役割について理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 3、健康に関する体系的な「知」を獲得するとともに、日常生活やライフステージに応じて「健康づくり」を実現しようとする力を身につけている。

[学修環境]

- 1、現代社会の直面する課題に関係する13科目を開設し、学生が自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、グループ・ディスカッション等を中心にした授業運営により、自らの問題意識や理解を高めあう場と機会を積極的に提供する。
- 3、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【ゼミ・教養テーマ講義】

[学修成果]

- 1、大学で学ぶために必要な「読む・書く・話す」の基本的な技術と学びの姿勢を身につけることができる。
- 2、時事的かつ専門的なテーマの学修を通じて、社会の発展や問題、事柄を客観的に捉え、それについて自らの考えを述べることができる。
- 3、時事的かつ専門的なテーマを自発的に調査し、自律的かつ批判的に考察したうえで、創造的な成果を提示することができる。

[学修環境]

- 1、時事的かつ専門的なテーマを扱う4つの講義と演習科目を開設し、学生が自らの問題意識をもとに履修できる環境を提供する。
- 2、グループ・ディスカッション等を取り入れた授業運営により、能動的かつ自発的な学修機会を提供する。
- 3、IT技術を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。

【自校教育】

[学修成果]

- 1、中京大学の歴史と現状についての学修を通じて自校についての知識を身につけることができる。
- 2、上記の知識に加えて、日本の経済・社会や中京圏との関係性の中に中京大学の歴史を位置づけることを通じて、中京大学の特性について理解し、説明することができる。
- 3、大学における学びを客観的に捉える機会を通じて、社会の中での自らの立ち位置を客観的に捉え、それについて自らの考えを述べることができる。

[学修環境]

- 1、中京大学について関心を持つ学生に自校の歴史・現状・特性について学ぶ機会を提供する。
- 2、レポート執筆の機会を授業内に設けることにより、思考力及び文章力を磨く機会を積極的に提供する。
- 3、グループ・ディスカッション等を随時採り入れる授業運営により、自らの問題意識や理解を高めあう場と機会を積極的に提供する。
- 4、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

【コンピュータ処理】

[学修成果]

- 1、OS（基本ソフト）が提供するユーザインターフェイスを介して、コンピュータの基礎的概念や操作が修得できる。
- 2、コンピュータの動作原理やネットワークの仕組みの理解に基づいて、Web ページを制作できる。
- 3、ソフトウェアの役割を理解し、大量データを処理するためのプログラムを作成できる。

[学修環境]

- 1、コンピュータ処理に対応した2科目を開設し、学生が自ら関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、e-Learning システム、Web サイト、プレゼンテーション・ソフトなどの IT 技術を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。
- 3、主体的に Web ページやプログラムを作成できる PC 環境を提供する。

文学部日本文学科 学位授与の方針

文学部日本文学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 日本文学の歴史の変遷について理解し、説明することができる。
2. 日本文学と世界の他地域の文学との関わりについて理解し、説明することができる。
3. 日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を修得し、上代から現代までの各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。
4. 日本文化の諸相について理解し、説明することができる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

文学部日本文学科 教育課程編成・実施の方針

文学部日本文学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部日本文学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

<専門教育課程（学部固有科目）の構成>

1. 卒業所要単位は 124 単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

- ①日本文学及び日本語学を学ぶ上での基礎を身につける科目（基礎科目）として、「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「比較文学Ⅰ・Ⅱ」を配置します。
- ②基幹科目として、「日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ」「上代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中古文学を読むⅠ・Ⅱ」「中世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ」「現代文学Ⅰ・Ⅱ」「児童文学」「大衆文学」「外国文学の世界」等を配置します。
- ③展開科目として、「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「中国文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史」「演劇の世界」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」「中国文学を読むⅢ・Ⅳ」「日本語日本文学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」「大衆文化」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「メディア史」「芸能文化」「実用文章Ⅰ・Ⅱ」「レトリック論」「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「民俗芸能論」「文化人類学」「日本文化史」「古文書読解入門」「有職故実」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」「仕事のコミュニケーション」「教職実践演習（中・高）」「インターンシップ」「海外留学科目」「短期海外研修」等を配置します。
- ④演習科目として「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。

2. 本学科では、1年次に基礎科目16単位を履修し、2年次に基幹科目のうちの選択必修科目から12単位以上と、演習科目である「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を履修し、3・4年次に卒業研

究の執筆へと導く演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」8単位を履修するという形で、段階的な学びができるようなカリキュラムを組んでいます。また、隣接する言語表現学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位としてそれぞれ8単位まで履修することができます。

3．本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

- ①「郷土の文学」：東海地方出身の作家や、東海地方にゆかりのある文学作品について理解することにより、歴史を通じて形成された愛知県の文化の特質等について考えます。
- ②「図書の世界」：中京大学図書館が所蔵する、この地区の大学では質量とも屈指の和書等の実物を示し、見て、さわることにより、昔の書物に対する理解を深めます。
- ③「短詩型文学の世界」：短歌、俳句という世界に例のない定型詩の共通点と相違点を学び、海外の人にも説明できるような知識を身につけます。

4．「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。

- ① 日本文学の歴史の変遷について理解し、説明することができる。
「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「日本文学入門Ⅱ」等
- ② 日本文学と世界の他地域の文学との関わりについて理解し、説明することができる。
「比較文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「中国文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史」「外国文学の世界」「演劇の世界」「翻訳論」「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」等
- ③ 日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を修得し、上代から現代まで各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。
「日本文学入門Ⅰ」「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ」「上代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中古文学を読むⅠ・Ⅱ」「中世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「現代文学Ⅰ・Ⅱ」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」等
- ④ 日本文化の諸相について理解し、説明することができる。
「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書論」「書学」「児童文学」「大衆文学」「日本語日本文学特論Ⅱ」「民俗芸能論」「文化人類学」「日本文化史」「有職故実」等
- ⑤ 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コンピュータで学ぶ文章作法」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」等
- ⑥ 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。
「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「コンピュータ活用技術」「図書館概論」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」「教職実践演習（中・高）」等

文学部日本文学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	日本文学 の歴史 の変遷に ついて理 解し、説 明するこ とができ る。	日本文学 と世界の 他地域の 文学との 関わりを 理解し、 説明する ことので きる。	日本語の 口語や文 語に関す る正しい 知識や文 字を修得 し、上代 から現代 まで各時 代の文学 作品を正 しく読み 解くこと ができる。	日本文化 の諸相に ついて理 解し、説 明すること ができる。	日本語で 表現する 機会にお いては、 他者と良 好な関係 を築き、 協働して 目的を達 することが できる。	卒業後 も、次代 への継承 しつつ、 自らの種 々のテーマ を設定し、 探究する ために自 律的・創 造的に研 究・調査 できるた めの資質 を身につ けている。	
学科基礎科目（学科入門科目）										
日本語学入門Ⅰ・Ⅱ	必修	1	日本語の多様な側面（音声・語彙・文法・表記など）を学問的対象として観察・分析する力がつく。			◎	○			
日本文学入門Ⅰ	必修	1	日本文学研究に必要な基礎知識（基本文献とその探し方、書誌学の知識、くずし字の読み方など）が身につく。	○		◎				
日本文学入門Ⅱ	必修	1	日本近代文学の誕生から確立に至る経緯を知ることができる。	◎		○				
学科基礎科目										
日本文学史Ⅰ・Ⅱ	必修	1	上代から近世までの古典文学を歴史的観点から総括的に把握できる。	◎		○				
比較文学Ⅰ・Ⅱ	必修	1	日本近代文学への外国文学の影響を理解し、また日本文学と外国文学との比較の意義を知ることができる。		◎	○	○			
日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ	必修	2	少人数のクラスに分かれて自ら調べ、考え、発表するための訓練を積むことができる。			○		○		◎
学科基幹科目										
卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ	必修	3・4	対象から問題を見出し、解決のために自ら調査し、解決策を探り、それを文章（論文または制作物に対する解説）によって表現するという、一連の学問的経験が得られる。			○		○		◎
日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ	選択必修	2	上代から現代に至るまでの日本語の歴史、変遷について総括的に把握できる。		○	◎	○			
上代文学を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	上代文学諸作品を読むことで、上代文学に対する理解が深まる。	○		◎				
中古文学を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	中古文学の諸作品を読むことで、中古文学における「虚構」と「歴史」の方法が把握できる。	○		◎				
中世文学を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	中世文学諸作品と、他の文芸・文化との関係が分かる。	○		◎				
近世文学を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	近世文学作品を丁寧に読み込む力が身につく。	○		◎				
近代文学を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	近代文学の諸作品を読むことで、近代文学についての基本的な知識と研究方法が身につく。	○		◎				
中国文学を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	日本語や日本文学の背景には、漢文がかかわっていることが少なくない。受講によって、漢文読解力が向上する。		◎		○			
現代文学Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	戦後文学や女性文学の諸作品を読み進めることで、現代文学の特質を理解することができる。	○		◎				
児童文学	選択	1～4	児童文学の諸作品を読み、児童文学・文化の輪郭を理解することができる。			○	◎			
郷土の文学	選択	1～4	東海地方ゆかりの作品を読み、この地方の文化や文学の重要性を捉えることができる。			○	◎			
大衆文学	選択	1～4	大衆文学の諸作品を読むことで、その輪郭と内実が理解できる。			○	◎			
短詩型文学の世界	選択	1～4	短歌と俳句の違いを知り、海外の人にも説明できる力が身につく。	○	○		◎			
外国文学の世界	選択	1～4	外国文学の諸作品を読むことで、他者とは何かを思惟する力が養われる。		◎		○			
学科展開科目										
国語表現法Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	国語の表現に関する様々なスキル（言語コミュニケーション、文章作成法、論理的読解、資料調査法）が修得できる。				○	◎		○
中国文学Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	中国語・中国文学に関する様々な教材を扱うことで、漢字・漢文の基礎知識が幅広く身につく。		◎		○			
中国文学史	選択	1～4	古代以来の中国文学の諸作品を読むことで、その成立について理解することができる。		◎					
図書の世界	選択	1～4	和装本などの実物にふれ、袋綴本を作ったりすることで、昔の本に慣れ親しむことができる。				◎			
演劇の世界	選択	1～4	世界の劇場と演劇文化について理解し、アートマネージャーの世界を身近に感じることができる。		◎		○			
日本語日本文学特論Ⅰ	選択	1～4	（不開講）							
日本語日本文学特論Ⅱ	選択	1～4	柳田國男や折口信夫の著述を読むなどして、日本文学の民俗学的研究についての理解が深まる。		○		◎			
コンピュータ活用技術	選択	1～4	レポート作成、ゼミの発表及び卒業論文に必要なパソコンの基礎的技術が修得できる。					○		◎
コンピュータで学ぶ文章作法	選択	1～4	大学生活を送る上で必要な文章作成が、パソコン上でできるようになる。				○	◎		○
日本語文法Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	学校教育において取り上げる「文法」の意義と問題点が分かる。			◎	○			
日本語音声学Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	日本語の「音」に関する体系的な知識・理解が得られる。			◎	○			○
日本語日本文学特論Ⅲ	選択	2～4	（不開講）							
日本語日本文学特論Ⅳ	選択	2～4	（不開講）							
国語教材論Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	国語教材としてふさわしい古文の諸作品を読み進めることで、的確な読解力と授業を創っていく基本的な力が身につく。				○			◎
中国文学を読むⅢ・Ⅳ	選択	3・4	漢詩を理解し、鑑賞する力を養うことができる。		◎		○			
日本語日本文学特論Ⅴ	選択	3・4	（不開講）							

文学部日本文学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	日本文学の歴史の変遷について理解し、説明することができる。	日本文学と世界の他地域の文学との関わりについて理解し、説明することができる。	日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字について理解し、上代から現代の文学作品を正しく読み解くことができる。	日本文化の諸相について理解し、説明することができる。	日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して達成することができる。	卒業後も、次世代への継承しつつ、自らのテーマを設定し、探究するために自律的に研究・調査することができるための資質を身に付けている。
日本語日本文学特論Ⅵ	選択	3・4	(不開講)						
大衆文化	選択	1～4	マンガ、アニメ、SF映画などを学問の対象として見るができる。また、著作権についての基礎的な理解が得られる。				◎		○
現代日本語論Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	自らの母語である現代日本語を学問の対象として見るということの意味が分かるようになる。			◎		○	
メディア史	選択	1～4	近代以降の新聞メディアがいかに形成され、受容されていったかなど、その発展過程が分かる。			○	◎		
芸能文化	選択	1～4	歌舞伎と文楽の舞台を、劇場及び映像で見るを通して、歌舞伎と文楽に関する基礎的な知識が得られる。	○			◎		
実用文章Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	基礎的なビジネス文書の種類とスタイルを習得できる。また、レポートや論文を書く際のルールが分かる。			○		◎	
レトリック論	選択	2～4	ただ「見たまま、感じたままに話す(書く)」のではなく、相手に対して効果的に訴えるための表現技巧が身につく。			◎		○	
読書の文化史	選択	2～4	書物と社会との関係を通して、読書について考えることができる。	○			◎		
文字の文化史	選択	2～4	身の回りにある文字に対し、常に興味関心をもって見る眼と、文字に対する適確な理解が養われる。	○		○	◎		
出版の文化史	選択	2～4	各時代の出版の状況、出版物の形態、流通の様態、主要出版社の活動、読者の受容等々、さまざまな角度から日本の出版文化について理解できる。	○			◎		
翻訳論	選択	2～4	翻訳を通じて近現代日本の社会や歴史、文化の知識を身につけることができる。	○	◎		○		
民俗芸能論	選択	1～4	日本の祭りや民俗芸能を通して、日本人および自分とは何かを考えることができるようになる。				◎		
文化人類学	選択	1～4	沖縄の祭祀芸能や文学の世界にふれることで、沖縄から日本文化を見る視座が養われる。		○		◎		
日本文化史	選択	1～4	日本の思想文化を通じて、古代以来展開した、さまざまな思想・宗教の世界観を理解することができる。	○			◎		
古文書読解入門	選択	2～4	くずし字で書かれた古文書を読解し、戦国大名発給文書のうち、一般的な和漢文で書かれた文章を、読み下すことができる。	◎	○				
有職故実	選択	3・4	絵巻に描かれた貴族や武家の生活を眺めることで、有職・故実についての理解が深まる。			○	◎		
書道Ⅰ	選択	1	書写能力が向上し、書の表現、鑑賞、理論における美的感覚が養われる。		○	○	◎		
書道Ⅱ	選択	2	古典を臨書してゆく中で、さまざまな用筆法・結構法を学習し、多くの書表現ができるような技術や知識が身につく。		○	○	◎		
書道史Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	中国の文字文化を理解した上で、それが日本にどのように入ってきたのか、どのように変化してきたのかを理解できる。	○	◎		○		
書道Ⅲ	選択	3	細字仮名の基本学習により、仮名の基礎的な表現が身につく。			○	◎		
書論	選択	3・4	書法・書体に関する概念と芸術論を理解することができる。	○	○	◎			
書学	選択	3・4	能書家の書論を理解した上で、実際の作品にどの様にその考え方が活かされているのかを説明できるようになる。	○		○	◎		
コミュニケーション・スキルⅠ	選択	1～4	対人コミュニケーションの理論を学び、練習し、考えることを通して、コミュニケーション・スキルの基礎(コツ)が身につく。					◎	
オーラル・コミュニケーションⅠ	選択	2～4	英語によるスピーキングとリスニングの能力を活性化し、また改善することができる。		◎				
図書館概論	選択	1～4	図書館と本について知識を広め、図書館サービスと司書の仕事について理解することができる。				○		
図書館情報資源論概論	選択	2～4	多様な図書館資料の形態と特徴が理解できる。また、出版事情に関する知識や資料収集における情報源に留意しながら、図書館資料全体を見る見方が身につく。				○		○
歴史資料と博物館	選択	2～4	歴史資料の収集、整理保存行為が博物館の調査研究活動と一体の行為として存在することを理解することができる。						○
博物館概論	選択	2～4	博物館成立に至る歴史過程を通し、博物館学成立の根拠を理解することができる。						○
地域と歴史文化情報	選択	3・4	博物館からの情報発信・情報活用や博物館への情報提供に関し、その実際とともに基本的な考え方を理解することができる。						○
仕事のコミュニケーション	選択	2～4	あらゆる職業で求められる基本的なコミュニケーション能力の修得および、就業意識を向上することができる。					◎	
教職実践演習(中・高)	選択	4	これまでの学習内容を振り返り、教職に対する意義や知識を深め、指導力を磨くことができる。						○
インターンシップ	選択	2～4	実際の仕事を体験する中で、社会や経済の仕組みを理解しながら、自らの可能性を確かめることができる。					○	○
海外留学科目	選択	2～4	国際体験を通し、実践的な語学力の向上と国際理解力やコミュニケーション能力を得ることができる。		△		○		○
短期海外研修	選択	2～4	実践的な語学力の向上や、国際感覚を身に付けることができる。		△		○		○
書道Ⅳ	自由	4	仮名作品の制作を通して、仮名の魅力が理解できる。			○	○		
書道Ⅴ	自由	4	書作品の表現方法を、書体の違いや用具用材の違い、古典の筆法や書風の違いなどの面から学習し、実作に活かす力を身に付ける。			○	○		

文学部言語表現学科 学位授与の方針

文学部言語表現学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解し、説明することができる。
2. 「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
3. 言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
4. 従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画等、言語による表現を伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。
6. 卒業後も次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

文学部言語表現学科 教育課程編成・実施の方針

文学部言語表現学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部言語表現学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

<専門教育課程（学部固有科目）の構成>

1. 卒業所要単位は 124 単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①言語による表現全般を研究対象とする言語表現学という学問を総括的に捉え、基礎科目として、「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「比較文化Ⅰ・Ⅱ」を配置します。

②基幹科目として、以下の科目を配置します。

②-1 日本語及び日本語文化に関する科目：「実用文章Ⅰ・Ⅱ」「レトリック論」「文字の文化史」「社会とことば」

②-2 コミュニケーション文化に関する科目：「メディア解釈論」「実践話術」「広告文化論」「芸能文化」「身体表現」「広告の現場」「映像文化」「議論の技術」「言語コミュニケーション論」

②-3 書物・読書文化に関する科目：「編集の実際」「読書の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「情報と権利」「創作Ⅰ・Ⅱ」

③各自の興味・関心をいっそう深めるために自由に履修できる展開科目として、以下の科目を配置します。

③-1 日本語文化に関する科目：「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「日本文化史」「民俗芸能論」

③-2 コミュニケーション文化に関する科目：「メディア史」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ」「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

③-3 書物・読書文化に関する科目：「大衆文化」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「上代・中古・中世・近世・近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」

④①～③の科目で養った能力を活かして、卒業研究を完成させるための演習科目として、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。

2. 本学科では、次のように段階的な学びが行えるようカリキュラムを組んでいます。1年次で基礎科目(16単位)を履修し、2年次で基幹科目の選択必修科目から12単位以上と、演習科目である「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(4単位)を履修し、これを学問的土台とします。以上の土台固めをしながら、自身の卒業研究テーマをにらんで展開科目を履修し、3・4年次で演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」(8単位)を履修します。また、隣接する日本文学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位として合計8単位まで算入することができます。

3. 本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

- ①「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」: テレビ局で活躍する現役のアナウンサーによる講義と実技によって、「会話力」「話す力」を身につけ、言語の表現力を養う。
- ②「身体表現」: 日本の伝統芸能である「狂言」を講義と実技によって体感する経験が得られ、日本文化に対する奥深い理解を身につける。
- ③「広告文化論」: 広告に使われるキャッチコピーを細かく分析することにより、言語表現の様々な様相を考え、広告の文化的要因を明らかにする。

4. 「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。

- ① 日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解している。
「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「比較文化Ⅰ・Ⅱ」等
- ② 「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「実用文章Ⅰ・Ⅱ」「実践話術」「レトリック論」「議論の技術」等
- ③ 言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
「ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ」「メディア解釈論」「編集の実際」「社会とことば」「翻訳論」「情報と権利」等
- ④ 従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画等、言語による表現を伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。
「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」等
- ⑤ 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」等
- ⑥ 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。
「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「図書館概論」「教職実践演習(中・高)」等

文学部言語表現学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識と理解を、体系的な形で有し、また理解し、説明することができる。	「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。	言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を断することができる。	従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画など、言語に伴う幅広い分野について、それらを学問の対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。	日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。	卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。	
学科入門科目（学科基礎科目）										
言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ	必修	1	ふだん何気なく使用し、接している言語表現に対する基本的な問題意識が修得できる。	◎	○		○			
現代日本語論Ⅰ・Ⅱ	必修	1	自らの母語である現代日本語を学問の対象として見るということの意味が分かるようになる。	◎	○	○				
学科基礎科目										
会話技術論Ⅰ・Ⅱ	必修	1	会話の楽しさやポイントを知り、「パブリック・スピーキング」ができるようになる。	○	◎	◎				
比較文化Ⅰ・Ⅱ	必修	1	日本の古代文化と中国の古代文化における、さまざまな相違点を知り、その違いの原因や影響関係が理解できる。	◎						
専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ	必修	2	少人数のクラスに分かれて自ら調べ、考え、発表するための訓練を積むことができる。	○	○	○	◎			◎
学科基幹科目										
卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ	必修	3・4	対象から問題を見出し、解決のために自ら調査し、解決策を探り、それを文章（論文または制作物に対する解説）によって表現するという、一連の学問的経験が得られる。	○	○	○	◎			◎
メディア解釈論	選択必修	2	メディアの情報戦略を知ること、情報に対する基礎体力を養うことができる。			◎	○			
実用文章Ⅰ・Ⅱ	選択必修	2	基礎的なビジネス文書の種類とスタイルを習得できる。また、レポートや論文を書く際のルールが分かる。	○	◎					
編集の実際	選択必修	2	本づくりの工程を体験することで、「出版」の世界を認識し、編集者の実際の仕事を理解することができる。		○	◎				○
実践話術	選択必修	2	難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く話す話術が習得できる。	○	◎	◎			○	○
レトリック論	選択必修	2	ただ「見たまま、感じたままに話す（書く）」のではなく、相手に対して効果的に訴えるための表現技巧が身につく。	○	◎					
読書の文化史	選択必修	2	書物と社会との関係を通して、読書について考えることができる。	○			◎			
文字の文化史	選択必修	2	身の回りにある文字に対し、常に興味関心をもって見る眼と、文字に対する適確な理解が養われる。	○			◎			
出版の文化史	選択必修	2	各時代の出版の状況、出版物の形態、流通の様態、主要出版社の活動、読者の受容等々、さまざまな角度から日本の出版文化について理解できる。	○			◎			
翻訳論	選択必修	2	翻訳を通じて近現代日本の社会や歴史、文化の知識を身につけることができる。	○		◎	○			
社会とことば	選択必修	2	社会の変化や場面、個人の違いが言語と密接に関連していることを知ることができる。	○		◎				
情報と権利	選択必修	2	大衆文化への深い理解を養い、著作権についての基礎を理解することができる。			◎				○
創作Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	小説と作文の違いを知り、自己の思想・感性の表現として、また他者の鑑賞にも堪える作品を書けるようになる。	○	◎	○				
広告文化論	選択	1～4	終戦直後から現代までの代表的な商品とその宣伝をみることで、宣伝の力を支える文化的な要因が分かる。	○			◎			
芸能文化	選択	1～4	歌舞伎と文楽の舞台を、劇場及び映像で見ることを通して、歌舞伎と文楽に関する基礎的な知識が得られる。				◎			
身体表現	選択	1～4	日本の伝統芸能である「狂言」を講義と実技によって体感する経験が得られる。	○		◎	◎		○	
広告の現場	選択	1～4	実際の広告事例を見ながら、広告業という職種を理解することができる。			◎				○
映像文化	選択	1～4	さまざまな種類の映像形式にしたしみ、映像作品を分析的に見る見方を学び、映像と社会との関係について批判的に考察する力がつく。	○			◎			
議論の技術	選択	2～4	ディスカッションの体験を通して、根拠を客観的に検討し互いに了解を得ながら議論を進めることができる。		◎				○	
言語コミュニケーション論	選択	2～4	言語を形態的に分析することにより、コミュニケーション手段である言語の時代的変化について知ることができる。	○		◎				
学科展開科目										
メディア史	選択	1～4	近代以降の新聞メディアがいかに形成され、受容されていったかなど、その発展過程が分かる。	○		◎	○			
大衆文化	選択	1～4	マンガ、アニメ、SF映画などを学問の対象として見るができる。また、著作権についての基礎的な理解が得られる。	○		○	◎			
コンピュータ活用技術	選択	1～4	レポート作成、ゼミの発表及び卒業論文に必要なパソコンの基礎的技術が修得できる。	○	◎					
コンピュータで学ぶ文章作法	選択	1～4	大学生活を送る上で必要な文書作成が、パソコン上でできるようになる。	○	◎					
ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	報道メディアの基本的な理念と役割を学びながら、報道の結果もたらされたさまざまな問題を検証し、各自がその問題点や、そのあり方を考える力を身につける。	○		◎	○			
言語表現学特論Ⅰ	選択	1～4	日本の伝統芸能である「狂言」を理論と実技によって体感し、表現の視野を広げることができる。				◎			
言語表現学特論Ⅱ	選択	1～4	日本語の文法的な性格を理解し、言語の性格を明らかにする際の手続きを応用して、未解明の問題に取り組むことができる。	○	◎	○				
言語表現学特論Ⅲ	選択	2～4	(不開講)							
言語表現学特論Ⅳ	選択	2～4	(不開講)							

文学部言語表現学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果						
				日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識と理解を、体系的な形で有し、また理解し、説明することができる。	「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。	言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を断することができる。	従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画など、言語に伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。	日本語で表現する機会には、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。	卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真摯に探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。
言語表現学特論Ⅴ	選択	3・4	(不開講)						
言語表現学特論Ⅵ	選択	3・4	(不開講)						
書道Ⅰ	選択	1	書写能力が向上し、書の表現、鑑賞、理論における美的感覚が養われる。	◎	○				
書道Ⅱ	選択	2	古典を臨書してゆく中で、さまざまな用筆法・結構法を学習し、多くの書表現ができるような技術や知識が身につく。	◎	○				
書道史Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	中国の文字文化を理解した上で、それが日本にどのように入ってきたのか、どのように変化してきたのかを理解できる。	◎	○				
書道Ⅲ	選択	3	細字仮名の基本学習により、仮名の基礎的な表現ができる。	◎	○				
書論	選択	3・4	書法・書体に関する概念と芸術論を理解することができる。	◎	○				
書学	選択	3・4	能書家の書論を理解した上で、実際の作品にどの様にその考え方が活かされているのかが説明できるようになる。			○			
日本語学入門Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	日本語の多様な側面（音声・音韻、語彙、文法、表記など）を学問的対象として観察・分析する力がつく。	◎	○				
日本文学入門Ⅰ	選択	1～4	日本文学研究に必要な基礎知識（基本文献とその探し方、書誌学の知識、くずし字の読み方など）が身につく。	◎	○				
日本文学入門Ⅱ	選択	1～4	日本近代文学の誕生から確立に至る経緯を知ることができる。	◎	○				
日本文学史Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	上代から近世までの古典文学を歴史的観点から総括的に把握できる。	◎	○				
国語表現法Ⅰ・Ⅱ	選択	1～4	国語の表現に関する様々なスキル（言語コミュニケーション、文章作成法、論理的読解、資料調査法）が修得できる。	○	◎		◎		
図書の世界	選択	1～4	和装本の実物にふれ、袋綴本を作ることで、昔の本に慣れ親しむことができる。				◎		
日本語文法Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	学校教育において取り上げる「文法」の意義と問題点が分かる。	◎					
日本語音声学Ⅰ・Ⅱ	選択	2～4	日本語の「音」に関する体系的な知識・理解が得られる。	◎					
上代文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2～4	上代文学諸作品を読むことで、上代文学に対する理解が深まる。	◎	○			◎	
中古文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2～4	中古文学の諸作品を読むことで、中古文学における「虚構」と「歴史」の方法が把握できる。	◎	○			◎	
中世文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2～4	中世文学諸作品と、他の文芸・文化との関係が分かる。	◎	○			◎	
近世文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2～4	近世文学作品を丁寧に読み込む力が身につく。	◎	○			◎	
近代文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2～4	近代文学の諸作品を読むことで、近代文学についての基本的な知識と研究方法が身につく。	◎	○			◎	
中国文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2～4	日本語や日本文学の背景には、漢文がかかっていることが少なくない。受講によって、漢文読解力が向上する。	◎	○			◎	
中国文学を読むⅢ・Ⅳ	選択	3・4	漢詩を理解し、鑑賞する力を養うことができる。	◎	○			◎	
日本文化史	選択	1～4	日本の思想文化を通じて、古代以来展開した、さまざまな思想・宗教の世界観を理解することができる。	◎					
民俗芸能論	選択	1～4	日本の祭りや民俗芸能を通して、日本人および自分と伝統的社会とのつながりを考えることができるようになる。				◎		
日本思想史	選択	2～4	江戸時代の人々の意識・思想を、書物・出版を通し読み解くことができる。		○				
郷土の民俗特論	選択	2～4	愛知県下における信仰の広まりに伴う様々な民俗事象について、歴史的意義を理解することができる。			◎	◎		
コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ	選択	1～4	対人コミュニケーションの理論を学び、練習し、考えることを通して、コミュニケーション・スキルの基礎（コツ）が身につく。	○	◎			◎	
オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ	選択	2～4	英語によるスピーキングとリスニングの能力を活性化し、また改善することができる。	○	◎			○	
図書館概論	選択	1～4	図書館と本について知識を広め、図書館サービスと司書の仕事について理解することができる。	◎			◎	○	
図書館情報資源論概論	選択	2～4	多様な図書館資料の形態と特徴が理解できる。また、出版事情に関する知識や資料収集における情報源に留意しながら、図書館資料全体を見る見方が身につく。	◎			○		
歴史資料と博物館	選択	2～4	歴史資料の収集、整理保存行為が博物館の調査研究活動と一体の行為として存在することを理解することができる。				◎	○	
博物館概論	選択	2～4	博物館成立に至る歴史過程を通し、博物館学成立の根拠を理解することができる。				◎	○	
地域と歴史文化情報	選択	3・4	博物館からの情報発信・情報活用や博物館への情報提供に関し、その実際とともに基本的な考え方を理解することができる。				◎	○	
仕事のコミュニケーション	選択	2～4	あらゆる職業で求められる基本的なコミュニケーション能力の修得および、就業意識を向上することができる。		○			◎	
教職実践演習（中・高）	選択	4	これまでの学習内容を振り返り、教職に対する意義や知識を深め、指導力を磨くことができる。					◎	
インターンシップ	選択	2～4	実際の仕事を体験する中で、社会や経済の仕組みを理解しながら、自らの可能性を確かめることができる。					○	

文学部言語表現学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識と理解を、体系的な形で有し、また理解し、説明することができる。	「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。	言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。	従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画など、言語に伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的に観察・分析することができる。	日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、目的を達することができる。	卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。
海外留学科目	選択	2~4	国際体験を通し、実践的な語学力の向上と国際理解力やコミュニケーション能力を得ることができる。						○
短期海外研修	選択	2~4	実践的な語学力の向上や、国際感覚を身に付けることができる。						○
書道Ⅳ	自由	4	仮名作品の制作を通して、仮名の魅力が理解できる。		◎				
書道Ⅴ	自由	4	書作品の表現方法を、書体の違いや用具用材の違い、古典の筆法や書風の違いなどの面から学習し、実作に活かす力を身に付ける。		◎				

文学部歴史文化学科 学位授与の方針

文学部歴史文化学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。
2. 古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。
3. 日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。
4. 地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の下にその保存や活用に貢献できる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

文学部歴史文化学科 教育課程編成・実施の方針

文学部歴史文化学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部歴史文化学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

<専門教育課程（学部固有科目）の構成>

1. 卒業所要単位は124単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①学科「基礎科目」群を置き、学科専門教育への導入的科目として、以下の科目を配置しています。

①-1 歴史文化学科で学ぶ内容の理解及び学びと社会との接点への関心に導くための「入門科目」として「歴史文化学入門」「古文書読解入門」「現代と歴史文化」を配置。

①-2 学科の中心的学問分野である日本史学・日本民俗学の各時代概説・概論として「古代中世史概説」「近世史概説」「近現代史概説」「民俗学概論」及び隣接分野である宗教学・外国史・社会学の概説・概論として「宗教学概論」「東洋史概説」「西洋史概説」「社会学概論」を配置。

②学科「基幹科目」群を置き、教育研究の到達目標に向けての核心とし、以下の科目を配置しています。

②-1 各時代・分野の資史料を正確に読解する能力を養う資史料講読科目として「古代史料を読む」「中世史料を読む」「織豊期史料を読むⅠ・Ⅱ」「江戸時代史料を読むⅠ・Ⅱ」「近代史料を読むⅠ・Ⅱ」「宗教史料を読むⅠ・Ⅱ」「民俗資料を読むⅠ・Ⅱ」を配置。

②-2 専門研究を支えるべく、より細分された諸学問の基本知識を得るための科目として「日本思想史」「祭祀と信仰」「古文書学」及び資料調査の実践法を学ぶ諸科目として「調査と記録の方法Ⅰ・Ⅱ」を配置。

②-3 各時代、民俗学・宗教史上の特定のテーマについて先端的研究成果を学ぶ科目として「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「近世史特論」「近代史特論」「郷土の民俗特論」「宗教文化特論」を配置。

②-4 演習科目として「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置し、Ⅰ・Ⅱ一貫した教員指導の下、Ⅰ

においては他者にもその意義が理解可能な研究課題を発見させ、Ⅱにおいてはその課題に即して歴史像を構築し他者に示せるよう導く。成果物として卒業研究（論文）を完成させる。

③学科「展開科目」群を置き、卒業研究の課題又は卒業後の進路に対応して必要となる科目を、学生自ら目的意識を持って選択履修してキャリア形成に資することができるようにし、以下の科目を配置しています。

- ③-1 各時代・分野にまたがるテーマを扱う諸科目
- ③-2 応用的テーマを扱う諸科目
- ③-3 コミュニケーション能力を修得させる諸科目

2. 本学科では、段階的に学びを達成できるよう次のようにカリキュラムを組み、必修としています。

1年次では、学科専門教育への無理のない導入として「入門科目」を含めた「基礎科目」16単位を履修し、2年次で「基幹科目」のうちの選択必修科目から12単位以上と演習科目である「踏査基礎演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を履修し、今後の専門研究に向けて各種能力を培います。3・4年次では演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」8単位を履修し、卒業研究（論文）を完成させます。

3. 本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

①「現代と歴史文化」

歴史学修・研究活動、歴史遺産・歴史的由緒を生かしたまちづくり、観光創出等の実例を知ることによって、歴史文化にかかわるこんにちにおける活動の広がり・諸相を知り、問題のありかと今後の新たな展開の可能性を考察します。

②「調査と記録の方法Ⅱ」

紙以外のさまざまな伝来品歴史資料の各種存在を知り、それらの調査・記録の方法を学びます。授業では、学生が実際に石塔から拓本を採取します。これら歴史資料を調査・記録するにあたって必要な基本知識を修得します。

③「踏査基礎演習Ⅰ・Ⅱ」

特定の地域を対象とし、学生自身が踏査しつつ、当該地域の歴史文化に関する情報を集め、論理的思考に基づいてまとめ、ゼミ合同発表会において報告します。

4. 「学修成果」と科目との関係は以下のとおりです。

①歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。

「古文書読解入門」「踏査基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「古代史料を読む」「中世史料を読む」「織豊期史料を読むⅠ・Ⅱ」「江戸時代史料を読むⅠ・Ⅱ」「近代史料を読むⅠ・Ⅱ」「宗教史料を読むⅠ・Ⅱ」「民俗資料を読むⅠ・Ⅱ」「古文書学」「調査と記録の方法Ⅰ・Ⅱ」

②古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。

「古代中世史概説」「近世史概説」「近現代史概説」「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「近世史特論」「近代史特論」

③日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。

「民俗学概論」「祭祀と信仰」「郷土の民俗特論」「文化人類学」「民俗芸能論」

- ④地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の下にその保存や活用に貢献できる。

「調査と記録の方法Ⅰ・Ⅱ」「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「郷土の民俗特論」「戦国織豊城館論」「歴史資料と博物館」「博物館概論」「地域と歴史文化情報」「図書館概論」「図書館情報資源概論」

- ⑤日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。

「踏査基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

- ⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

文学部歴史文化学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。	古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。	日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。	地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断のもとにその保存や活用につながる。	日本語で表現する機会において、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。	卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真摯に研究・調査するために自律的・創造的に研究・調査するための資質を身につけている。
学科基礎科目（入門科目）									
歴史文化学入門	必修	1	過去の史実を、文献史学・考古学・民俗学でどう明らかにしているか、これら諸学問の方法と特長を理解することができる。	◎	○	○			
現代と歴史文化	必修	1	歴史文化に関わるこんにちにおける活動の広がり・諸相を知り、問題のあり方と今後の新たな展開の可能性を考察することができる。		○		○		◎
古文書読解入門	必修	1	くずし字で書かれた文書が読めて意味・内容を理解でき、歴史学の基礎知識も修得できる。	◎			○		○
学科基礎科目									
宗教学概論	必修	1	世界の宗教を、共通性・多様性・人間の信念という観点から明晰に認識できる視点が得られる。			○	○		
民俗学概論	必修	1	身近な伝統的習俗や社会事象について、その動機（起源）や意義を正しく説明できる。			◎	○		
古代中世史概説	必修	1	日本の古代から中世までの歴史文化の変遷のあらましを学びおおよその推移と、時代ごとの社会のしくみ・特徴について正しく説明できる。		◎				
近世史概説	必修	1	織豊政権期から江戸幕府の終焉までの社会構築の歴史的背景について、多角的に理解し、説明ができる。		◎				
近現代史概説	必修	1	明治維新期から高度成長期までの歴史文化の変遷を学び、推移と時代ごとの政治や社会のしくみ・特徴について説明できる。		◎				
踏査基礎演習Ⅰ・Ⅱ	必修	2	特定の地域を踏査し、当該地域の歴史文化に関する情報をもとに論理的考察に基づいてまとめ、報告することができる。	◎			○	◎	○
東洋史概説	選択	2	世界史のなかでの位置付けを認識し、幅広い観点から歴史事実を再検討することにより、一連の問題意識のもとに東洋史の概略を理解できる。		○				
西洋史概説	選択	2	西洋世界に対して様々な問いを投げかけながら、一連の問題意識のもとに西洋史の概略を理解できる。		○				
社会学概論	選択	2	東アジアの現代諸事象の特異な展開と特質から、疑問を整理し解消する過程をとおして、社会学的手法と感覚を身につけることができる。			○			
学科基幹科目									
卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ	必修	3・4	対象から問題を見出し、解決のために自ら調査し、解決策を探り、それを文章（論文または制作物に対する解説）によって表現するという一連の学問的経験が得られる。	◎			○	◎	◎
古代史料を読む	選択必修	2	日本古代の古文書や記録を読み解くことにより、当該期史料の特徴や時代特有の表現等を理解することができる。	◎			○		○
中世史料を読む	選択必修	2	日本中世の古文書や記録を読み解くことにより、当該期史料の特徴や時代特有の表現等を理解することができる。	◎			○		○
織豊期史料を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	織豊期の古文書や記録を読み解くことにより、当該期史料の特徴や時代特有の表現等を理解することができる。	◎			○		○
江戸時代史料を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	江戸時代の古文書や記録を読み解くことにより、当該期史料の特徴や時代特有の表現等を理解することができる。	◎			○		○
近代史料を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	日本近代の古文書や記録を読み解くことにより、当該期史料の特徴や時代特有の表現等を理解することができる。	◎			○		○
宗教史料を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	日本の宗教・思想史に関する史料を読み解き、当時の人々と同じ目線に立ち、宗教とは何かを知ることができる。	◎			○		○
民俗資料を読むⅠ・Ⅱ	選択必修	2	日本の民俗に関する調査報告・民俗誌などを読み解くことにより、民俗語彙や民俗学特有の用語等を理解することができる。	◎			○		
日本思想史	選択必修	2	江戸時代の人々の意識・思想を、書物・出版を通し読み解くことができる。		○				
祭祀と信仰	選択必修	2	世界各地の様々な宗教儀礼を学び、祭祀・宗教教義や思想・文化・慣習などを理解することができる。			◎			
古文書学	選択	1~4	日本前近代の古文書の様式を理解するとともに、語彙や文体・読み方・形状などが習得できる。	◎					○
調査と記録の方法Ⅰ・Ⅱ	選択	1~4	歴史資料について、さまざまな形状の資料の存在を知り、これらを調査するにあたっての必要な基本知識を得ることができる。	◎			◎		○
尾張三河戦国史論	選択	2~4	15世紀前半の織田一族・松平一族の動向を追うことにより、地域権力創出過程の特質を理解することができる。		◎		◎		
尾張三河と織豊政権	選択	2~4	地方史的観点及び全国的な動向をふまえた尾張三河の特質や、織豊政権の果たした役割や歴史的意義を理解することができる。		◎		◎		
近世史特論	選択	2~4	日本近世史における郷土の歴史的特徴や現代に継承されていると伝統文化への理解を深めることができる。		◎		○		
近代史特論	選択	2~4	近代の日本の政治と社会の研究課題を理解し、日本の近代史への理解を深めることができる。		◎		○		
郷土の民俗特論	選択	2~4	愛知県下における信仰の広まりに伴う様々な民俗事象について、歴史的意義を理解することができる。			◎	◎		
宗教文化特論	選択	2~4	日本史上の時代や社会の激動期における宗教動向を明らかにし、歴史的意義を理解することができる。		○	○			

文学部歴史文化学科のカリキュラム				学修成果との関連 ◎：強く関連 ○：関連					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。	古代から現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。	日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。	地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断のもとにその保存や活用に関与することができる。	日本語で表現する機会において、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。	卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を追究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。
学科展開科目									
日本文化史	選択	1~4	日本の文化事象を通じて、古代以来展開した、さまざまな思想・宗教の世界観を理解することができる。		○	○			
文化人類学	選択	1~4	沖縄の祭祀芸能や文学の世界にふれ、文化人類学の方法を通して沖縄から日本文化を見る視座が養われる。			◎			
近代社会の形成と東アジア	選択	1~4	東アジアの近代化が直面した固有の課題と近代化の筋道を理解することができる。		○				
考古学概論	選択	1~4	考古学の方法や概念・理論・用語などの基礎を理解することができる。	○			○		
民俗芸能論	選択	1~4	日本の祭りや民俗芸能を通して、日本人および自分と伝統的社会とのつながりを考えることができるようになる。			◎	○		
歴史地理学	選択	2~4	歴史地理学の研究手法を理解し、地域の特色や問題について、適切なキーワードを用いて歴史的積み重ねの過程として説明することができる。	○			○		
戦国織豊城館論	選択	2~4	城館が戦国織豊期社会の変化に密接に対応しつつ、複雑な構築物へと進化したさまを理解することができる。	○			◎		
歴史資料と博物館	選択	2・3	歴史資料の収集、整理保存行為が博物館の調査研究活動と一体の行為として存在することを理解することができる。				◎		○
博物館概論	選択	2・3	博物館成立に至る歴史過程を通し、博物館学成立の根拠を理解することができる。				◎		○
自然地理学Ⅰ・Ⅱ	選択	2~4	自然環境について、人間活動や生活環境との関係で多面的に捉え、理解を深めることができる。		○				
地誌Ⅰ・Ⅱ	選択	2~4	自然や社会などの条件の異なる多様な国や地域の存在を認識し、相互理解の重要性を理解することができる。		○				
有職故実	選択	3・4	絵巻に描かれた貴族や武家の生活を眺めることで、有職・故実についての理解が深まる。		○				
地域と歴史文化情報	選択	3	博物館からの情報発信・情報活用や博物館への情報提供に関し、その実際とともに基本的な考え方を理解することができる。				◎		○
郷土の文学	選択	1~4	小栗風葉、清水義範らの作品を読み、愛知県の文化や文学の重要性を捉えることができる。				○		
図書の世界	選択	1~4	和装本の実物にふれ、袋綴本を作ることで、昔の本に慣れ親しむことができる。	○			○		
上代文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2~4	上代文学諸作品を読むことで、上代文学に対する理解が深まる。		○				
中古文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2~4	中古文学の諸作品を読むことで、中古文学における「虚構」と「歴史」の方法が把握できる。		○				
中世文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2~4	中世文学諸作品と、他の文芸・文化との関係が分かる。		○				
近世文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2~4	近世文学作品を丁寧に読み込む力が身につく。		○				
近代文学を読むⅠ・Ⅱ	選択	2~4	近代文学の諸作品を読むことで、近代文学についての基本的な知識と研究方法が身につく。		○				
図書館概論	選択	1~4	図書館と本について知識を広め、図書館サービスと司書の仕事について理解することができる。				◎		○
図書館情報資源概論	選択	2~4	多様な図書館資料の形態と特徴が理解できる。また、出版事情に関する知識や資料収集における情報源に留意しながら、図書館資料全体の見方が身につく。				◎		○
書道史Ⅰ・Ⅱ	選択	2~4	中国の文字文化を理解した上で、それが日本にどのように入ってきたのか、どのように変化してきたのか理解できる。			○			
文字の文化史	選択	2~4	身の回りにある文字に対し、常に興味関心をもって見る眼と、文字に対する的確な理解が得られる			○			
書道Ⅰ	選択	1	書写能力が向上し、書の表現、鑑賞、理論における美的感覚が養われる。			○		○	
書道Ⅱ	選択	2	古典を臨書していく中で、さまざまな用筆法・結構法を学習し、多くの書表現ができるような技術や知識が身につく。			○		○	
書道Ⅲ	選択	3	細字仮名の基本学習により、仮名の基礎的な表現が身につく。			○		○	
書論	選択	3・4	書法・書体に関する概念と芸術論を理解することができる。			○			
書学	選択	3・4	能書家の書論を理解した上で、実際の作品にどの様にその考え方が活かされているのかが説明できるようになる。			○			
コンピュータ活用技術	選択	1~4	レポート作成、ゼミの発表及び卒業論文に必要なパソコンの基礎的技術が修得できる。					○	○
コンピュータで学ぶ文章作法	選択	1~4	大学生活を送るうえで必要な文書作成が、パソコン上でできるようになる。					○	○
コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ	選択	1~4	対人コミュニケーションの理論を学び、練習し考えることを通してコミュニケーション・スキルの基礎（コツ）が身につく。				◎		○
オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ	選択	2~4	英語によるスピーキングとリスニングの能力を活性化し、また改善することができる。						○
仕事のコミュニケーション	選択	2~4	あらゆる職業で求められる基本的なコミュニケーション能力の修得および、就業意識を向上することができる。				◎		◎
教職実践演習（中・高）	選択	4	これまでの学習内容を振り返り、教職に対する意義や知識を深め、指導力を磨くことができる。						○
インターンシップ	選択	2~4	実際の仕事を体験する中で、社会や経済の仕組みを理解しながら、自らの可能性を確かめることができる。						○
海外留学科目	選択	2~4	国際体験を通し、実践的な語学力の向上と国際理解力やコミュニケーション能力を得ることができる。						○
短期海外研修	選択	2~4	実践的な語学力の向上や、国際感覚を身に付けることができる。						○

文学部 入学者受入れの方針

文学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を、広く求めています。

<入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度>

〔知識・技能〕

文学部での学びは、「社会が必要とする<日本文学、言語表現及び歴史文化>の課題に対する問題意識を持ち、その解決方法を探る」ということであり、そのための広い視野と知識が求められます。その基本となる教科を、高等学校段階においてしっかりと学習しておくことが大切です。

- ・「日本文学、言語表現及び歴史文化」を学ぶには、同方面に関する幅広い知識と的確な理解力と柔軟な思考力が必要になります。そのためには、豊かな読書体験を積んでおかなければなりません。文芸作品はもちろん、現代の新聞や内外の歴史書等もしっかり読む習慣をつけてください。高等学校課程における「国語総合」「現代文」「日本史」「世界史」「現代社会」「政治・経済」等の学習が、強く望まれます。
- ・現代に必要とされる日本語能力は、実に広範なものです。さらに本学部の授業では、自分でレポートを書いたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりしますし、また4年次では卒業研究の作成が必須になっています。そのためには、美しく正確な日本語で「聞く・読む・書く・話す」ことができなければなりません。高等学校課程における「国語表現」「小論文」等の学習が、強く望まれます。
- ・現代の文化や社会を理解するには、過去の人びとの精神や心性も学ばなければなりません。伝統的な文化遺産や古い習俗等への幅広い教養があつてこそ、現代の多様な社会的事象への関心が深まるのです。そのためには、古今東西にわたる文化や歴史、さらに地

理や思想等に関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「古典」「日本史」「世界史」「地理」「倫理」等の学習が、強く望まれます。

〔思考力・判断力・表現力〕

- ・自分でレポートや卒業研究を仕上げたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりするには、資料を調査して何が必要かを考えたり見分けたりする力、人に分かりやすく説明できる表現力が必要です。その基礎となるアクティブ・ラーニング（能動的な学び。調べ学習やグループワークに基づく発表等）に、高等学校在学中から積極的に取り組んでいることが強く望まれます。
- ・高度情報社会では、多様な情報の中から正確な情報を見分け、メディアを通して適切に収集・発信するメディア・リテラシーを高めておくことが必要です。それを日頃から意識して、基礎となる思考力や判断力、求められる倫理意識に沿った表現力を磨く努力をすることが強く望まれます。
- ・文学部の学びは、人間力を高める学びでもあります。相手の気持ちを思いやる思考力や、自分のふるまいの適否を見分ける判断力、チームワークを作るための表現力など、相手に敬意を持って接することで日々の生活を通して鍛えられる多くの能力があります。これらを身に付けていることが強く望まれます。

〔意欲・態度〕

文学部は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような意欲を持ち、態度を身に付けた入学希望者を求めます。

- ・主体的に学習する意欲を持っていること。
- ・「日本文学、言語表現及び歴史文化」に関心を持っていること。
- ・解決を必要とする課題を発見し、それを解決し得る上記方面の知識や能力の修得を目指し、その強い意欲をもっていること。
- ・上記方面の知識や能力を介して、地域や国内外の社会とつながり、活躍・貢献したいと考えていること。
- ・柔軟な思考力や想像力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。

具体的には、各種入学試験要項において、出願資格及び試験科目を指定することにより、高等学校段階までに学ぶべき事項や修得しておくべき資格等を示しています。

入学者選抜において、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うかについては、下表のとおりです。

		前期・後期日程 A・M・F センタープラス センター利用	推薦入試				特別入試 帰国生徒 留学生 社会人
			公募制推薦 (基礎学力型)	一芸一能推薦 (特Ⅰ推薦)	指定校推薦 (特Ⅱ推薦)	附属校 併設校 推薦	
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 (知識・読解 力等を問う設 問) で確認	◎ 筆記試験 (知識・読解 力等を問う設 問) で確認	◎ 筆記試験 (知識・読解 力等を問う設 問) で確認	◎ 筆記試験 (知識・読解 力等を問う設 問) で確認	○ 筆記試験 (小論文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 (小論文又 は課題作文を 書かせる設 問) で確認	◎ 筆記試験 (小論文又 は課題作文を 書かせる設 問) 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 筆記試験 (小論文又 は課題作文を 書かせる設 問) 志望理由書 調査書 で確認	◎ 筆記試験 (小論文又 は課題作文を 書かせる設 問) 志望理由書 調査書 で確認	◎ 筆記試験 (小論文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク(協働)をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 当日の 面接で 確認

国際英語学部国際英語学科 学位授与の方針

国際英語学部国際英語学科は、定められた課程を修め、以下の全専攻共通と各専攻固有に掲げる学修成果をあげた者に対して学士（国際英語学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

《全専攻共通》

1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。
2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。
3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。
4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を収集でき、それらを客観的に評価できる。

《各専攻固有》

[国際英語キャリア専攻]

国際英語キャリア専攻は、言語の本質に対する深い理解や言語使用に対する鋭敏な感性を背景とした高度な英語運用能力と、国際的視野に立つ豊富な専門知識や技術を有し、国際実務や教育、研究の分野で即戦力となりうる人材の育成を図ります。また、言葉に対する体系的理解を深める中で論理性や建設的批判能力を高め、さらに、教育課程における主体的な学びを通して、あらゆる局面に主体的かつ自律的に対応する能力を身につけることによって、国際社会にあって真に自立しリーダーシップを発揮できる人材の育成を図ります。

5. 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等に対応可能な高度な言語運用を行える。
6. 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できる。

7. ICT を含め、国際実務や教育に資する知識や技術を高め、それらをあらゆる活動の場に応用できる。

[英語圏文化専攻]

英語圏文化専攻は、英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国の歴史・思想・文化を始め、公用語として英語を用いる国々の歴史・思想・文化を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解するための専門的知識及び幅広い教養を修得します。また、グローバル化時代における英語圏文化の多様性を理解すると共に、現在の異文化交流の可能性とその問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に分析できる判断力も身につけます。なお、本専攻の卒業生は、グローバル化時代において必要とされる高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、世界の多種多様な人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて貢献できる人材となることが期待されます。

8. 英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国を始め、公用語として英語を用いる国々の文化、すなわち広範な英語圏諸国の文化に関する知識を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解できる。
9. 英語圏文化の多様性を総合的に把握し、グローバル化時代に相応しい異文化交流の可能性と、その問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に探究できる。
10. グローバル化社会の一員としての社会的責任とリーダーシップ精神を常に意識しつつ、世界の幅広い人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて生涯にわたり自律的に学修できる。

[国際学専攻]

国際学専攻は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く西洋と東洋の社会・歴史・文化・思想・宗教を踏まえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、IT 技術や時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を培い、英語のスキルと国際的視野をあわせ持つ世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通して、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力の養成を目的とします。

11. 他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で行うことができる。
12. 積極的に他者と協力しながら学修活動に参加できる。
13. 自発的・自立的に課題を発見し、効果的な方法で調査し、論理的に分析・議論をし、かつ、「伝える」表現でまとめることができる。

国際英語学部国際英語学科英語圏文化専攻

教育課程編成・実施の方針

国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を教養教育課程（全学共通科目）と専門教育課程（学部固有科目）で構成し、実施します。

《教養教育課程（全学共通科目）》

全学共通科目の卒業要件単位数は、40 です。教養教育課程は、全専攻共通になっています。全学共通科目を中心に様々な科目の中から、自然科学、社会科学、人文科学、語学の各領域を満遍なく目的意識を持って自律的に履修することによって、幅広い教養とともに多面的な思考力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を養い、豊かな教養人となるために自己研鑽を継続し、社会の発展に貢献しようとする姿勢を磨きます。

《専門教育課程（学部固有科目）》

学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。英語圏文化専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

英米のみならず、英語を公用語とする英語圏の言語文化に関する広範な専門知識と教養を自主的・主体的に学び、英語圏の文化の多様な価値観と文化を尊重し、異文化交流のあり方を倫理的、複眼的、かつ、体系的に理解できる判断力を身につけることを目的とします。あわせて、グローバル化時代に見合った高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、社会的責任とリーダーシップ精神に関して理解を深めていくことで、日本だけでなく世界各国の発展に積極的に貢献できるグローバル人材の育成を目指しています。なお、成績評価は、あらかじめシラバスにより公表された授業計画及び学修到達目標を踏まえて厳正かつ適正に行われます。

1. 履修区分に応じて科目群に分類

① 必修科目 (44 単位) は、学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 学士 (国際英語学) にふさわしい知見を獲得し、キャリア教育を目的とする科目群：
国際英語学に関する知識の自主的・自律的修得及びキャリア形成に資する能力の向上を目指します。

「国際英語入門」、「国際キャリア・ディベロップメント」

B. 英語運用能力の向上を目的とする科目群：グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力を身につけます。

「Oral Communication I～IV」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、
「Presentation I～IV」、「英文電子文書作成 I～IV」

C. 英語圏文化の体系的理解を深めるべく、入門から卒業論文作成まで運営する演習科目群：能動的・主体的なディスカッションやディベートを通じて、初年次から英語圏文化の専門的な知識や幅広い教養をグローバルな視点から理解することができます。初年次教育では、演習形式を通じて、英語圏文化に関する入門的知識、又は語学及び専門教育科目を自主的・主体的に学修する手法を身につけることができます。4年次では、自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、またそれに基づいて自身の見解を卒業論文として完成させるための方法や英語・日本語の高度、かつ、専門的表現を修得できます。

「英語圏文化入門演習 I・II」、「英語圏文化演習 I～VI」

D. 基礎力をつけた 3 年次にさらに応用・発信型の英語力向上を目指す科目群：グローバル化社会において必要とされる実践的な英語能力を獲得することができます。

「Critical Reading I・II」、「English Project Workshop」

② 選択必修科目 (14 単位) は、学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 3 年次・4 年次に上級レベルの英語運用能力を自主的・主体的に修得することを目的とする科目群

「Professional English I～IV」、「Professional Writing I・II」

B. 英語圏文化について、地域区分により複眼的かつ体系的に知識を獲得する科目群

「イギリス研究入門」、「イギリス研究」、「アメリカ研究入門」、「アメリカ研究」、「英語圏研究入門」、「英語圏研究」、「イギリス文学 A・B」、「アメリカ文学 A・B」、「英語圏文学 A・B」

C. 座学を越えた体験学修の機会を与える海外研修科目群：長期・中期・短期の海外研修を通じて、現地で異文化交流を直接体験し、英語運用能力の向上とあわせて多文化・異文化理解に対する認識を深めることができます。

「交換留学」、「セメスター留学」、「海外大学研修 1・2」、「海外セミナー I・II」

③ 選択科目 (26 単位) は、英語圏文化について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開していま

す。

A. 英語による講義科目群

「American Social History」、「British Social History」、「History of Cultural Exchanges I・II」、「Media Literacy I・II」、「Women's History」、「Current Topics I・II」を開講。

B. 教員の免許状取得のための選択科目群

「英語科教育法 I・II」、特に「英米文学」に関しては、「比較文学論」、「批評理論」、「エンターテインメント文芸」、「演劇文化論」を指定しています。

C. 現代的な問題意識とニーズに応える科目群

「音楽文化論」、「映画文化論」、「現代文化論」、「児童文化論」

D. 英語発信力を高める科目群：他者との協力・協働作業を通じて、協調性・社会性を身につけるとともに英語コミュニケーションの実践的能力を高めることができます。

「Intensive Workshop I・II」

なお、英語圏文化専攻開講科目の特徴として、英語による講義科目・上級年次向け英語科目を海外から中京大学への交換留学生が参加する授業とし、それらを通じて本専攻生は実践的な異文化交流を体験できます。

2. 進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

①教員の免許状取得を目指す学生の履修例

英語圏文化専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員として英語の本流と文化的素養を身につけます。さらに他専攻が開講する英語学系科目・異文化理解系科目を選択科目として修得できるため、「教科に関する科目」については、卒業要件の範囲内で修得可能となっています。

②文化研究を目指す学生の履修例

高度な英語力を培った上に、多彩な文化研究科目を自らの興味・関心に沿い自主的に選択履修し、豊かな教養人としてグローバル化社会で活躍できる能力を育成します。あるいは、大学院に進学し研究を続けるために必要とされる英語圏文化に関する専門的知識と幅広い教養を養います。

③文化交流とビジネスを目指す学生の履修例

社会的責任とリーダーシップ精神を保持し、実践的な英語力と文化的素養をビジネスに結びつけることを目指します。他専攻開講科目、国内企業インターンシップ等を積極的に活用し、現代のグローバル化社会のニーズに応じていきます。

3. 英語圏文化専攻固有科目の特色

英語圏文化専攻では、グローバル化時代に相応しい高度かつ実践的な英語運用能力と、背景となる多種多様な英語圏文化に対する広範な知識と深い教養を能動的・主体的に修得し、グローバル化社会で積極的に活躍するグローバル人材を育成します。講義科目のおよそ半数がネイティブ教員による英語による授業です。また、初年次教育では、ネイティブ教員と日本人教員が連携し、高等学校等で学んだ基礎知識を応用しつつ、能動的な学修方法を身につける入門演習を展開しています。また、セメスターごとにネイティブ教員と日本人教員が相互的に乗り入れるような授業形態を2年次演習等で構築しています。英語力増強については、4年次卒業まで持続して授業を運営しています。文化研究関連科目も1年次から継続的、かつ、主体的に修得できるプログラムとなっています。学生たちが放課後を利用し自主的に交流アクティビティを行える施設・設備も整えています。海外研修については、学生にとって馴染み深い英国と北米の二地域を中心に期間は長期・中期・短期を提供し、現地で異文化交流に関する理解を深めることができるようになっています。

4. 学修成果と科目との関係

- ① グローバル化時代に即した総合的、かつ、実践的な英語運用能力を身につけ、海外研修を実地訓練とします。

「Oral Communication I～IV」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「英文電子文書作成 I～IV」、「Presentation I～IV」、「Professional English I～IV」、「Professional Writing I・II」、「交換留学」、「セメスター留学」、「海外大学研修1・2」、「海外セミナー I・II」等

- ② 英語圏文化に対する複眼的かつ体系的な理解を通じて、英語圏の様々な他者の存在を認識しつつ、様々な価値観を倫理的に判断し、異文化に対する敬意と尊ぶ感性を養えます。

「国際英語入門」、「イギリス研究入門」、「イギリス研究」、「アメリカ研究入門」、「アメリカ研究」、「英語圏研究入門」、「英語圏研究」、「イギリス文学A・B」、「アメリカ文学A・B」、「英語圏文学A・B」、「American Social History」、「British Social History」、「History of Cultural Exchanges I・II」、「Media Literacy I・II」、「Women's History」、「Current Topics I・II」、「比較文学論」、「批評理論」、「エンターテインメント文芸」、「演劇文化論」、「音楽文化論」、「映画文化論」、「現代文化論」、「児童文化論」等

- ③ 自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開します。また、他者との協力・協働作業を通じて、社会性やモラルを身につけ、自ら設定した目標に向かって努力することの重要性を学べます。

「英語圏文化入門演習 I・II」、「英語圏文化演習 I～VI」、「国際キャリア・ディベロップメント」、「Critical Reading I・II」、「Intensive Workshop I・II」、「English Project Workshop」等

国際英語学部国際英語学科英語圏文化専攻 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	英語圏文化専攻の学修成果との関連 (○関連する)							
				1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。	2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。	3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。	4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を集めて、それらを客観的に評価できる。	5. 英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国を始め、公用語として英語を用いる国々の文化、すなわち広範な英語圏諸国の文化に関する知識を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解できる。	6. 英語圏文化の多様性を総合的に把握し、グローバル化時代に相応しい異文化交流の可能性と、その問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に探究できる。	7. グローバル化社会の一員としての社会的責任とリーダーシップ精神を常に意識しつつ、世界の幅広い人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて生涯にわたり自律的に学修できる。	
1	基礎科目	Academic Writing I	1年			○	○				
2	基礎科目	Academic Writing II	1年			○	○				
3	基礎科目	英文電子文書作成 I	1年				○				
4	基礎科目	英文電子文書作成 II	1年				○				
5	基礎科目	Oral Communication I	1年			○					
6	基礎科目	Oral Communication II	1年			○					
7	基礎科目	Presentation I	1年	○	○	○					
8	基礎科目	Presentation II	1年	○	○	○					
9	基礎科目	Reading I	1年			○					
10	基礎科目	Reading II	1年			○					
11	基礎科目	英語圏文化入門演習 I	1年	○	○		○	○	○	○	○
12	基礎科目	英語圏文化入門演習 II	1年	○	○	○	○	○	○	○	○
13	基礎科目	Intensive Workshop I	1年		○	○				○	
14	基礎科目	Intensive Workshop II	2年		○	○				○	
15	基幹科目	比較文学論	1年	○				○	○		○
16	基幹科目	Academic Writing III	2年			○					
17	基幹科目	Academic Writing IV	2年			○					
18	基幹科目	英文電子文書作成 III	2年			○	○				
19	基幹科目	英文電子文書作成 IV	2年			○	○				
20	基幹科目	Oral Communication III	2年			○		○			
21	基幹科目	Oral Communication IV	2年			○		○			
22	基幹科目	Presentation III	2年	○		○					
23	基幹科目	Presentation IV	2年	○		○					
24	基幹科目	Reading III	2年	○		○					
25	基幹科目	Reading IV	2年	○		○					
26	基幹科目	英語圏文化演習 I	2年	○	○	○	○	○	○	○	○
27	基幹科目	英語圏文化演習 II	2年	○	○	○	○	○	○	○	○
28	基幹科目	Critical Reading I	3年			○		○		○	
29	基幹科目	Critical Reading II	3年			○		○		○	
30	基幹科目	英語科教育法 II A	2-3年		○						
31	基幹科目	英語科教育法 II B	2-3年		○						
32	基幹科目	アメリカ研究入門	1年	○		○		○			
33	基幹科目	イギリス研究入門	1年	○				○	○		
34	基幹科目	英語圏研究入門	1年	○		○		○			
35	基幹科目	アメリカ文学 A	2年	○				○		○	○
36	基幹科目	イギリス文学 A	2年	○				○		○	○
37	基幹科目	英語圏文学 A	2年	○						○	○
38	基幹科目	アメリカ文学 B	1年	○				○		○	○
39	基幹科目	イギリス文学 B	1年	○	○	○		○		○	○
40	基幹科目	英語圏文学 B	1年	○		○		○		○	
41	基幹科目	アメリカ研究	2年	○				○		○	
42	基幹科目	イギリス研究	2年	○				○		○	
43	基幹科目	英語圏研究	2年	○		○		○		○	
44	基幹科目	Professional Writing I	3年			○	○				
45	基幹科目	Professional Writing II	3年			○	○				

国際英語学部国際英語学科英語圏文化専攻 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	英語圏文化専攻の学修成果との関連 (○関連する)							
				1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。	2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。	3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。	4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を集めて、それらを客観的に評価できる。	5. 英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国を始め、公用語として英語を用いる国々の文化、すなわち広範な英語圏諸国の文化に関する知識を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解できる。	6. 英語圏文化の多様性を総合的に把握し、グローバル化時代に相応しい異文化交流の可能性と、その問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に探究できる。	7. グローバル化社会の一員としての社会的責任とリーダーシップ精神を常に意識しつつ、世界の幅広い人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて生涯にわたり自律的に学修できる。	
46	基幹科目	Professional English I	3年	○		○					
47	基幹科目	Professional English II	3年	○		○					
48	基幹科目	Professional English III	4年	○		○					
49	基幹科目	Professional English IV	4年	○		○					
50	展開科目	英語圏文化演習Ⅲ	3年	○	○	○	○	○	○	○	○
51	展開科目	英語圏文化演習Ⅳ	3年	○	○	○	○	○	○	○	○
52	展開科目	English Project Workshop	3年	○	○	○					
53	展開科目	Current Topics I	2-4年	○	○	○					
54	展開科目	Current Topics II	2-4年	○	○	○					
55	展開科目	Media Literacy I	2-4年	○	○			○			
56	展開科目	Media Literacy II	2-4年	○	○			○			
57	展開科目	British Social History	2-4年	○		○			○		
58	展開科目	American Social History	2-4年	○		○			○		
59	展開科目	History of Cultural Exchange I	2-4年	○		○			○	○	
60	展開科目	History of Cultural Exchange II	2-4年	○		○			○	○	
61	展開科目	演劇文化論	2-4年	○					○	○	○
62	展開科目	映画文化論	2-4年	○					○	○	○
63	展開科目	現代文化論	2-4年	○		○			○	○	○
64	展開科目	音楽文化論	2-4年	○		○			○		
65	展開科目	児童文化論	2-4年	○		○			○	○	
66	展開科目	批評理論	2-4年	○		○			○	○	
67	展開科目	エンターテインメント文芸	2-4年	○		○			○	○	
68	展開科目	Women's History	2-4年	○		○			○	○	○
69	展開科目	英語圏文化演習Ⅴ	4年	○	○	○	○	○	○	○	○
70	展開科目	英語圏文化演習Ⅵ	4年	○	○	○	○	○	○	○	○
71	展開科目	海外大学研修1	2年	○	○	○	○	○	○	○	○
72	展開科目	海外大学研修2	2年	○	○	○	○	○	○	○	○
73	展開科目	海外セミナーⅠ	1-4年	○	○	○	○	○	○	○	○
74	展開科目	海外セミナーⅡ	1-3年	○	○	○	○	○	○	○	○

国際英語学部国際英語学科国際学専攻

教育課程編成・実施の方針

国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を教養教育課程（全学共通科目）と専門教育課程（学部固有科目）で構成し、実施します。

《教養教育課程（全学共通科目）》

全学共通科目の卒業要件単位数は、40 です。教養教育課程は、全専攻共通になっています。全学共通科目を中心に様々な科目の中から、自然科学、社会科学、人文科学、語学の各領域を満遍なく目的意識を持って自律的に履修することによって、幅広い教養とともに多面的な思考力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を養い、豊かな教養人となるために自己研鑽を継続し、社会の発展に貢献しようとする姿勢を磨きます。

《専門教育課程（学部固有科目）》

学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。国際学専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く世界の社会・文化・思想・宗教をふまえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、コンピュータ、時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を涵養し、英語運用能力と国際的視野を合わせ持つ、世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通し、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力を養成します。

1. 履修区分に応じて科目群に分類

- ① 必修科目(32単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。
- A. 学士(国際英語学)にふさわしい知見を獲得し、キャリア教育を目的とする科目群
「国際英語入門」、「国際キャリア・ディベロップメント」
 - B. 基礎的英語運用能力の向上を目的とする科目群
「Oral Communication I・II」、「Academic Writing I・II」、「英文電子文書作成 I・II」、「発音ワークショップ」
 - C. 国際学研究科目群
「国際学入門、国際関係史、世界の宗教と思想 I」
 - D. 初年次教育を目的とする科目群
「言語技術と論理的思考」
 - E. 国際学の体系的理解を深める演習科目群
「国際学演習 I～VI」
- ② 選択必修科目(32単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。
- A. 国際学研究科目群
「イギリス研究入門」、「アメリカ研究入門」、「英語圏研究入門」、「比較文化論」、「異文化理解」、「国際経営学」、「アジア研究」、「世界と日本」、「国際ビジネス論 I・II」、「ホスピタリティ論」、「マーケティング論」
 - B. 英語資格講座科目群
「TOEIC 600」、「TOEIC 800」、「TOEIC 1000」、「TOEIC 1200」、「TOEFL 80」、「TOEFL 100」
 - C. 戦略的コミュニケーション科目群
「Argument & Persuasion」、「Explanation」、「Troubleshooting」、「Workplace English」、「Advanced IT Literacy」、「Presentation Skills」、「Essay Writing」、「Advanced English」
 - D. 職業体験科目群
「海外業界研究 I～VI」、「総合実践英語」、「ICTと言語教育」、「ICTとビジネス」、「海外短期研修 I～IV」
- ③ 選択科目(20単位)は、国際学について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開しています。
- A. 国際学専攻開講科目の特徴として、選択科目には主に国際ビジネス関連の科目、また日本語教授法等国際社会で実際に働くことを想定した諸科目を配しています。「航空ビジネス論」、「国際情報と企業戦略」、「国内企業インターンシップ」、「国際地域研究入門」、「世界の宗教と思想 II」、「日本語教授法 I・II」、「日本語教育実習 I・II」、「交換留学」、「セメスター留学」
 - B. 教員免許状取得のための選択科目として、「英語科教育法 I・II」、「Rhythm & Intonation」、「Grammar & Vocabulary」、「Reading Strategies」、「Paragraph Writing」、他専攻開講の英語学関連、英米文学関連の科目が履修できます。
 - C. その他、他専攻開講科目の一部を履修できます。

2. 進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

① 交換留学を重視する履修例

2年次秋学期から3年次春学期の ISEP 留学を中心に、国際社会理解関連、国際コミュニケーション関連の諸科目を履修の根幹に据えます。

② 職業体験を重視する履修例

国際的に活躍できるビジネス・パーソンを目指す学生が、カリキュラム内で海外職業体験ができます。その体験とビジネス関連の諸科目を履修の根幹に据えます。

③ 教員免許状取得を目指す学生の履修例

国際学専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員としての基礎英語力・教養を身につけます。さらに他専攻が開講する英語学系科目・英文学系科目を選択科目として修得できるため、卒業要件範囲内で教科専門科目が修得可能となっています。

3. 国際学専攻固有科目の特色

国際学専攻の英語名 Information Technology & International Studies (ITIS) が表すように、国際学専攻では英語で IT 関連のスキルと国際社会・政治・経済・文化について学修する科目がカリキュラムの根幹を形成しています。国際学専攻のカリキュラムで特徴的なのは、実践的な英語授業や日本語と英語で実施される講義を1年次と2年次に集中的に配置し、学生一人ひとりが自分の興味・関心そして意欲によって自主的な学びに参加できる仕組みを提供していることです。海外研修・海外業界研究については、全専攻の中で最も多様な英語使用環境を体験できる研修・研究を揃えています。英語を母語とする英国・北米・オセアニア諸国、公用語としているシンガポール・インド、そして外国語として学んでいる韓国等で研修を実施します。期間は長期・中期・短期があります。

4. 学修成果と科目との関係

① 国際学研究科目群

外国語系専攻で一般的な人文系科目以外に、国際関係論、地域研究等の社会科学系科目が多く開講されているため、国際社会で通用する複眼的視点や論理的思考力を身につけることができます。

② 英語資格講座科目群

学修目的と到達目標を明確にした英語科目が1年次から2年次にかけて集中的に配置されているため、能率的な英語学修ができます。英語力の到達目標は海外留学の学内選考基準を満たすことです。

③ 戦略的コミュニケーション科目群

海外を含む学内外での学修や活動を通じて、すべての職業において生涯にわたって有効な、語学力・文章力・ICTスキル・情報収集力・分析力・論理的思考力・異文化適応性・

柔軟性・協調性を身につけることができます。

- ④ 自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開する科目群

担当教員の学修支援のもと、学生一人ひとりが高い動機付けを維持できる研究テーマを見付け、問題解決に必要な理論と分析方法及び言語表現方法を獲得できます。

国際英語学部国際英語学科国際学専攻 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	国際学専攻の学修成果との関連 (○関連する)						
				1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。	2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。	3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。	4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を収集でき、それらを客観的に評価できる。	5. 他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で行うことができる。	6. 積極的に他者と協力しながら学修活動に参加できる。	7. 自発的・自立的に課題を発見し、効果的な方法で調査し、論理的に分析・議論をし、かつ、「伝える」表現でまとめることができる。
1	基礎科目	Academic Writing I	1年			○	○			○
2	基礎科目	Academic Writing II	1年			○	○			○
3	基礎科目	英文電子文書作成 I	1年				○			
4	基礎科目	英文電子文書作成 II	1年				○			
5	基礎科目	Oral Communication I	1年			○			○	
6	基礎科目	Oral Communication II	1年			○			○	
7	基礎科目	言語技術と論理的思考	1年					○	○	○
8	基礎科目	国際学入門	1年		○			○	○	○
9	基礎科目	国際関係史	1年	○						
10	基礎科目	世界の宗教と思想 I	1年		○					
11	基礎科目	発音ワークショップ	1年			○				
12	基礎科目	Rhythm & Intonation	1-4年			○				
13	基礎科目	Grammar & Vocabulary	1-4年			○				
14	基礎科目	Paragraph Writing	1-4年			○				
15	基礎科目	Reading Strategies	1-4年			○				
16	基礎科目	TOEIC 600	1-2年			○				
17	基礎科目	TOEIC 800	1-2年			○				
18	基礎科目	TOEIC 1000	1-2年			○				
19	基礎科目	TOEIC 1200	1-2年			○				
20	基礎科目	TOEFL 80	1-2年			○				
21	基礎科目	TOEFL 100	1-2年			○				
22	基礎科目	国際学演習 I	2年	○		○		○	○	○
23	基礎科目	国際学演習 II	2年	○		○		○	○	○
24	基礎科目	異文化理解	2-4年		○					
25	基礎科目	世界と日本	2-4年		○					
26	基礎科目	比較文化論	2-4年		○					
27	基礎科目	マーケティング論	2-4年					○	○	○
28	基礎科目	国際ビジネス論 I	2-4年	○				○	○	○
29	基礎科目	国際ビジネス論 II	2-4年	○				○	○	○
30	基礎科目	ホスピタリティ論	2-4年		○					
31	基礎科目	国際経営学	2-4年	○					○	○
32	基礎科目	アジア研究	2-4年	○	○					
33	基礎科目	Argument & Persuasion	1-4年			○		○		
34	基礎科目	Explanation	1-4年			○		○		
35	基礎科目	Troubleshooting	1-4年			○		○		
36	基礎科目	Workplace English	1-4年			○		○		
37	基礎科目	Advanced IT Literacy	1-4年			○	○			
38	基礎科目	Presentation Skills	1-4年			○				○
39	基礎科目	Essay Writing	1-4年			○				○
40	基礎科目	Advanced English	1-4年			○				○
41	基礎科目	英語科教育法 I A	2-3年		○					
42	基礎科目	英語科教育法 I B	2-3年		○					
43	基礎科目	英語科教育法 II A	2-3年		○					
44	基礎科目	英語科教育法 II B	2-3年		○					
45	展開科目	国際学演習 III	3年		○			○	○	○
46	展開科目	国際学演習 IV	3年		○			○	○	○

国際英語学部国際英語学科国際学専攻 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	国際学専攻の学修成果との関連 (○関連する)						
				1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。	2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。	3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。	4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を収集でき、それらを客観的に評価できる。	5. 他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で行うことができる。	6. 積極的に他者と協力しながら学修活動に参加できる。	7. 自発的・自立的に課題を発見し、効果的な方法で調査し、論理的に分析・議論をし、かつ、「伝わる」表現でまとめることができる。
47	展開科目	総合実践英語	1-4年			○				
48	展開科目	I C Tと言語教育	1-4年		○		○			
49	展開科目	I C Tとビジネス	1-4年				○			
50	展開科目	国際地域研究入門	2-4年	○	○					
51	展開科目	日本語教授法 I	2-4年		○	○				
52	展開科目	日本語教授法 II	2-4年		○	○				
53	展開科目	日本語教育実習 I	2-4年		○	○			○	○
54	展開科目	日本語教育実習 II	2-4年		○	○			○	○
55	展開科目	世界の宗教と思想 II	2-4年		○	○		○	○	○
56	展開科目	航空ビジネス論	2-4年		○					
57	展開科目	国際情報と企業戦略	2-4年	○						
58	展開科目	国際学演習 V	4年		○			○	○	○
59	展開科目	国際学演習 VI	4年		○			○	○	○
60	展開科目	海外業界研究 I	1-4年	○	○	○		○	○	○
61	展開科目	海外業界研究 II	1-3年	○	○	○		○	○	○
62	展開科目	海外業界研究 III	1-3年	○	○	○		○	○	○
63	展開科目	海外業界研究 IV	1-3年	○	○	○		○	○	○
64	展開科目	海外業界研究 V	1-4年	○	○	○		○	○	○
65	展開科目	海外業界研究 VI	1-3年	○	○	○		○	○	○
66	展開科目	海外短期研修 I	1-4年	○	○	○		○	○	○
67	展開科目	海外短期研修 II	1-3年	○	○	○		○	○	○
68	展開科目	海外短期研修 III	1-4年	○	○	○		○	○	○
69	展開科目	海外短期研修 IV	1-3年	○	○	○		○	○	○

国際英語学部国際英語学科国際英語キャリア専攻 教育課程編成・実施の方針

国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を教養教育課程（全学共通科目）と専門教育課程（学部固有科目）で構成し、実施します。

《教養教育課程（全学共通科目）》

全学共通科目の卒業要件単位数は、40 です。教養教育課程は、全専攻共通になっています。全学共通科目を中心に様々な科目の中から、自然科学、社会科学、人文科学、語学の各領域を満遍なく目的意識を持って自律的に履修することによって、幅広い教養とともに多面的な思考力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を養い、豊かな教養人となるために自己研鑽を継続し、社会の発展に貢献しようとする姿勢を磨きます。

《専門教育課程（学部固有科目）》

学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。国際英語キャリア専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

言語に対する体系的理解と高度な英語運用能力を基盤とし、国際ビジネスや教育の分野で必要となる知識や技術を獲得させることで、国際社会のあらゆる局面に対応でき、さらに、高い論理性、倫理性、建設的批判能力を駆使して社会的責任を自覚しつつあらゆる局面に主体的かつ自律的に対応し、国際社会にあって、真に自立しリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とします。

1. 履修区分に応じて科目群に分類

①必修科目（42単位）はその主たる学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

「Oral Communication I～VI」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「英文電子文書作成 I・II」、「海外基礎研修」

B. 英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群

「国際英語入門」、「英語学概説 I」、「言語システム論 I」、「国際英語キャリア演習 I～VI」

C. キャリア教育を目的とする科目群

「国際キャリア・ディベロップメント」

D. 初年次教育を目的とする科目群

「国際英語キャリア入門演習 I・II」

必修科目においては、英語運用の4技能を満遍なく向上させるため当該の科目を配置するとともに、言語の体系的理解や、職業的能力の向上の基礎となる科目を配置しています。特に、1年次に海外研修を必修化し、英語運用の実際や国際ビジネス等の現状を理解することによって、その後の学修への方向性を確立させるとともに、それへ向けての取り組みを加速させています。

また、初年次教育においては、「国際英語キャリア入門演習 I・II」を核として、すべての授業を通じて高等学校から大学へ円滑な移行を図るとともに、大学での学修が学問的にも社会的にも成果を上げるよう履修指導を含めた総合的の大学リテラシーの指導を行います。また、授業外においてもゼミ担当教員が、随時個別指導を行います。

②選択必修科目（32単位）はその主たる学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

「Presentation I～VI」、「英文電子文書作成Ⅲ・Ⅳ」、「Advanced Discussion I～IV」、「Current English I～IV」

B. 英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群

「実用英語運用法 I・II」、「英語音声学 I・II」、「英語学概説 II」、「語形成論」、「英語の歴史 I・II」、「国際社会言語学 I・II」、「英語コミュニケーション論 I・II」、「ことばの意味」、「言語学外書講読 I・II」、「Language Variation」、「Language and Culture」、「言語システム論 II」、「海外研修 A～C」、「交換留学」、「セメスター留学」

C. キャリア形成に資する能力の向上を目的とする科目群

「英語資格 I～III」、「ビジネス英語資格 I～III」、「ビジネス翻訳実務 I・II」、「翻訳と IT I・II」、「通訳演習 I・II」、「国際言語管理」、「ビジネスとアジア英語」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、「英語科教育法 IA・IB・IIA・IIB」、「早期英語習得論 I・II」、「ツーリズム論 I・II」、「海外業務体験 I～IV」

選択必修科目群においては、必修科目で獲得した技術的・学問的基盤に基づいて、主体

的に科目を選択しつつ、英語運用能力を高度化し、言葉に対する体系的理解をさらに深め、国際的なあらゆる局面に即応できる知識を蓄えることが可能となる科目を配置しています。海外研修を選択必修としているため、結果として、卒業までに最低 2 回の海外研修を課しています。これにより、高度な英語運用能力を確かなものとするとともに、職業人としての活躍の場を世界に求める意識を浸透させています。

2. 進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

① ビジネスキャリアを目指す学生の履修例

演習、講義等の授業のほか、海外研修等での現場体験を通じて、高い英語力を身につけ、その高い英語力を駆使して企業や公的機関で国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。

② 言語研究者や英語教育専門家を目指す学生の履修例

言語に関する幅広い内容の講義・演習・実習を通じて、英語教員、英語教育研究者・言語研究者の志望者を、理論と実践の両面から育成することを目的とする。

③ 通訳者や翻訳者としての専門的活動を目指す学生の履修例

高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、海外研修を含む幅広い科目を履修させることによって、通訳者や翻訳者としてフリーランスでも活躍できる人材の育成を目指す。

3. 国際英語キャリア専攻固有科目の特色

国際英語キャリア専攻では、高度の英語運用能力と言葉に対する体系的理解を基盤として、国際舞台に即応できる知識を活用して活躍する国際人の育成を目指しています。その専門科目として、英語運用能力、言語科学、キャリア関連の科目を重厚に配置しています。さらに、海外研修を 2 回義務付けることにより、獲得した知識や技術を机上のものにすることなく活用できるまで浸透させています。また、ゼミ指導を 1 年次から開始することによって高等学校から大学への円滑な移行を図るとともに、ネイティブ教員と日本人教員の共同授業、上級生によるチュートリアル等を通じて授業外でも学生の主体的学びを支援する仕組みを整えており、それらを支える施設（PC 教室、自習室等）も完備しています。その一方で、科目群の中での選択に幅を持たせることによって、目的を見失うことなく、自律的に履修ができるカリキュラムとなっており、生涯にわたるキャリア・ディベロップメントを見据えることができます。選択必修の海外研修においても、1 年間の交換留学から短期の研修まで選択できるようになっており、学生のニーズにあった選択が可能となっています。

4. 学修成果と科目との関係

① 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等にも対応可能な高度な言語運用を行えま

す。

「Oral Communication I～VI」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「英文電子文書作成 I～IV」、「海外基礎研修」、「Presentation I～VI」、「Advanced Discussion I～IV」、「Current English I～IV」

② 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できます。

「国際英語入門」、「英語学概説 I・II」、「言語システム論 I・II」、「国際英語キャリア入門演習 I・II」、「国際英語キャリア演習 I～VI」、「実用英語運用法 I・II」、「英語音声学 I・II」、「語形成論」、「英語の歴史 I・II」、「国際社会言語学 I・II」、「英語コミュニケーション論 I・II」、「ことばの意味」、「言語学外書講読 I・II」、「Language Variation」、「Language and Culture」、「海外研修 A～C」、「交換留学」、「 Semester 留学」

③ 国際実務や教育に資する知識や技術を有し、それらをあらゆる活動の場に応用できます。

「国際キャリア・ディベロップメント」、「英語資格 I～III」、「ビジネス英語資格 I～III」、「ビジネス翻訳実務 I・II」、「翻訳と IT I・II」、「通訳演習 I・II」、「国際言語管理」、「ビジネスとアジア英語」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、「英語科教育法 IA・IB・IIA・IIB」、「早期英語習得論 I・II」、「ツーリズム論 I・II」、「海外業務体験 I～IV」

国際英語学部国際英語学科国際英語キャリア専攻 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	国際英語キャリア専攻の学修成果との関連 (○関連する)						
				1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。	2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。	3. グローバル時代に必要とされる高度な英語運用能力 (リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング) を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。	4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を集め、それらを客観的に評価できる。	5. 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等に対応可能な高度な言語運用を行える。	6. 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できる。	7. ICTを含め、国際実務や教育に資する知識や技術を高め、それらをあらゆる活動の場に応用できる。
1	基礎科目	国際英語入門	1年	○	○	○			○	
2	基礎科目	Academic Writing I	1年	○	○	○	○	○		
3	基礎科目	Academic Writing II	1年	○	○	○	○	○		
4	基礎科目	英文電子文書作成 I	1年	○	○	○	○	○		○
5	基礎科目	英文電子文書作成 II	1年	○	○	○	○	○		○
6	基礎科目	Oral Communication I	1年	○	○	○		○		
7	基礎科目	Oral Communication II	1年	○	○	○		○		
8	基礎科目	Presentation I	1年	○	○	○	○	○		○
9	基礎科目	Presentation II	1年	○	○	○	○	○		○
10	基礎科目	Reading I	1年	○	○			○		
11	基礎科目	Reading II	1年	○	○			○		
12	基礎科目	海外基礎研修	1年	○	○			○		
13	基礎科目	国際英語キャリア入門演習 I	1年	○	○	○	○	○	○	
14	基礎科目	国際英語キャリア入門演習 II	1年	○	○	○	○	○	○	
15	基礎科目	英語音声学 I	1年	○		○			○	
16	基礎科目	英語音声学 II	1年	○		○			○	
17	基礎科目	Intensive Workshop I	1年	○	○	○	○	○		
18	基礎科目	Intensive Workshop II	2年	○	○	○	○	○		
19	基礎科目	国際キャリア・デビューメント	2年		○					
20	基幹科目	英語学概説 I	1年	○					○	
21	基幹科目	英語学概説 II	1-4年	○					○	
22	基幹科目	実用英語運用法 I	1年	○	○	○		○	○	
23	基幹科目	実用英語運用法 II	1年	○	○	○		○	○	
24	基幹科目	Academic Writing III	2年	○	○	○	○	○		
25	基幹科目	Academic Writing IV	2年	○	○	○	○	○		
26	基幹科目	英文電子文書作成 III	2年	○	○	○	○	○		○
27	基幹科目	英文電子文書作成 IV	2年	○	○	○	○	○		○
28	基幹科目	Oral Communication III	2年	○	○	○		○		
29	基幹科目	Oral Communication IV	2年	○	○	○		○		
30	基幹科目	Presentation III	2年	○	○	○	○	○		○
31	基幹科目	Presentation IV	2年	○	○	○	○	○		○
32	基幹科目	Current English I	2年	○	○	○		○		
33	基幹科目	Current English II	2年	○	○	○		○		
34	基幹科目	Reading III	2年	○	○			○		
35	基幹科目	Reading IV	2年	○	○	○		○		
36	基幹科目	国際英語キャリア演習 I	2年	○	○	○	○	○	○	
37	基幹科目	国際英語キャリア演習 II	2年	○	○	○	○	○	○	
38	基幹科目	Presentation V	3年	○	○	○	○	○		○
39	基幹科目	Presentation VI	3年	○	○	○	○	○		○
40	基幹科目	Current English III	3年	○	○			○		
41	基幹科目	Current English IV	3年	○	○	○		○		
42	基幹科目	語形成論	2-4年	○					○	
43	基幹科目	Language and Culture	2-4年	○	○				○	
44	基幹科目	Language Variation	2-4年	○	○				○	
45	基幹科目	ことばの意味	2-4年	○					○	
46	基幹科目	英語コミュニケーション論 I	2-4年	○	○	○			○	
47	基幹科目	英語コミュニケーション論 II	2-4年	○	○	○			○	
48	基幹科目	英語の歴史 I	2-4年	○			○		○	
49	基幹科目	英語の歴史 II	2-4年	○			○		○	
50	基幹科目	言語学外書講読 I	2-4年			○			○	
51	基幹科目	言語学外書講読 II	2-4年	○		○			○	

国際英語学部国際英語学科国際英語キャリア専攻 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	国際英語キャリア専攻の学修成果との関連 (○関連する)						
				1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に活用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。	2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。	3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。	4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を集めて、それらを客観的に評価できる。	5. 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等に対応可能な高度な言語運用を行える。	6. 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できる。	7. ICTを含め、国際実務や教育に資する知識や技術を高め、それらをあらゆる活動の場に応用できる。
52	基幹科目	国際社会言語学Ⅰ	2-4年	○	○		○		○	
53	基幹科目	国際社会言語学Ⅱ	2-4年	○	○		○		○	
54	基幹科目	英語資格Ⅰ	1-4年	○		○		○		
55	基幹科目	ビジネス英語資格Ⅰ	1-4年	○		○		○		
56	基幹科目	英語資格Ⅱ	1-4年			○		○		
57	基幹科目	ビジネス英語資格Ⅱ	1-4年			○		○		
58	基幹科目	英語資格Ⅲ	1-4年			○		○		
59	基幹科目	ビジネス英語資格Ⅲ	1-4年			○		○		
60	基幹科目	通訳演習Ⅰ	2-4年			○		○		○
61	基幹科目	通訳演習Ⅱ	2-4年			○		○		○
62	基幹科目	ビジネス翻訳実務Ⅰ	2-4年			○		○		○
63	基幹科目	ビジネス翻訳実務Ⅱ	2-4年			○		○		○
64	基幹科目	翻訳とITⅠ	2-4年			○		○		○
65	基幹科目	翻訳とITⅡ	2-4年			○		○		○
66	基幹科目	New Management Trends	2-4年		○					
67	基幹科目	Global Economic Trends	2-4年		○	○				
68	基幹科目	国際言語管理	2-4年	○	○	○	○	○	○	
69	基幹科目	ビジネスとアジア英語	2-4年	○	○	○	○	○	○	
70	基幹科目	早期英語習得論Ⅰ	2-4年	○					○	○
71	基幹科目	早期英語習得論Ⅱ	2-4年	○					○	○
72	基幹科目	ツーリズム論Ⅰ	2-4年		○					○
73	基幹科目	ツーリズム論Ⅱ	2-4年		○					○
74	基幹科目	英語科教育法ⅠA	2-3年	○	○	○			○	○
75	基幹科目	英語科教育法ⅠB	2-3年	○	○	○			○	○
76	基幹科目	英語科教育法ⅡA	2-3年	○	○	○			○	○
77	基幹科目	英語科教育法ⅡB	2-3年	○	○	○			○	○
78	基幹科目	言語システム論Ⅰ	2年	○					○	
79	基幹科目	言語システム論Ⅱ	2-4年	○					○	
80	基幹科目	Advanced DiscussionⅠ	2年	○	○	○	○	○		
81	基幹科目	Advanced DiscussionⅡ	2年	○	○	○	○	○		
82	基幹科目	Advanced DiscussionⅢ	3年	○	○	○	○	○		
83	基幹科目	Advanced DiscussionⅣ	3年	○	○	○	○	○		
84	基幹科目	Oral CommunicationⅤ	3年	○	○	○	○	○		
85	基幹科目	Oral CommunicationⅥ	3年	○	○	○	○	○		
86	展開科目	国際英語キャリア演習Ⅲ	3年	○	○	○	○	○	○	
87	展開科目	国際英語キャリア演習Ⅳ	3年	○	○	○	○	○	○	
88	展開科目	国内企業インターンシップ	2-4年		○					○
89	展開科目	国際英語キャリア演習Ⅴ	4年	○	○	○	○	○	○	
90	展開科目	国際英語キャリア演習Ⅵ	4年	○	○	○	○	○	○	
91	展開科目	海外研修A	2年	○	○			○	○	○
92	展開科目	海外研修B	2-4年	○	○	○	○	○	○	○
93	展開科目	海外研修C	2年	○			○	○	○	
94	展開科目	海外業務体験Ⅰ	2-4年	○	○	○	○	○	○	○
95	展開科目	海外業務体験Ⅱ	2-4年	○	○	○	○	○	○	○
96	展開科目	海外業務体験Ⅲ	2-4年	○	○	○	○	○	○	○
97	展開科目	海外業務体験Ⅳ	2-4年	○			○	○	○	○
98	展開科目	交換留学	2-4年	○	○	○	○	○	○	○
99	展開科目	セメスター留学	2年	○	○	○	○	○	○	○
100	展開科目	図書館概論	1-4年		○					

国際英語学部国際英語学科 入学者受入れの方針

国際英語学部は、「中京大学の建学の精神」「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的」に立脚し、以下の全専攻共通と各専攻固有に掲げる人を広く求めています。

《全専攻共通》

1. グローバル化時代に即した高度な英語運用能力の修得に興味を持つ人
2. 学習活動・各種技術の習得・文化活動・芸術活動・スポーツ活動において常に努力し、その成果を上げている人
3. 学修活動や研究活動、学生生活を通じて社会的責任とリーダーシップ精神を身につけ、グローバル化社会の一員として、将来、多様な人々と協力・協働し、世界各国の持続的発展に貢献したい人

特に、学力の三要素について、以下を有する人を求めています。

＜入学者に求める知識・技能＞

1. 英語に限らず、大学での学習に必要な幅広い基礎学力を有していること。
2. 英語を「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」のいずれにおいても発展的な学習の素地となる運用力を有していること。
3. 思考力の素地となる読解力を有していること。
4. 海外や日本の文化について考えを深める素地となる知識を有していること。
5. 言語について考えを深める素地となる知識を有していること。
6. PC等の基礎的アプリケーションソフトを使用する基礎的技術を有していること。

＜入学者に求める思考力・判断力・表現力＞

1. 物事を建設的かつ客観的に見つめる能力を有していること。
2. 論点を整理し、筋道をたてて考える能力を有していること。
3. 正しい倫理観・責任感を有していること。
4. 自らの考えを適切な表現を使って伝えることができること。
5. 広い視野を持って物事を体系的に理解することができること。
6. 積極的にコミュニケーションを図ることができること。

<入学者に求める主体性・多様性・協働性>

1. 主体的かつ自律的に自らを成長させることができること。
2. 組織における役割を自覚し、責任感をもってそれを果たすことができること。
3. 必要に応じてリーダーシップを発揮し、周囲により影響を与えることができること。
4. 他者の意見を率直に受けとめ、積極的に取り入れることができること。
5. 社会的責任を自覚し、地域や社会に貢献しようとする態度を有していること。
6. 異なる文化や価値観を柔軟に受けとめ、協調することができること。

《各専攻固有》

[国際英語キャリア専攻]

1. 英語運用力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の向上を望む人
2. 幅広い分野の本を読み、内容を理解したい人
3. 国際情勢や社会の変化に関する知識を蓄えたい人
4. 社会的責任を自覚し、適切な倫理観を持って生涯にわたり自らの能力を高められる人

入学者選抜においては、様々な試験方式を採用します。具体的にはそれぞれの試験方式に定員を割り当て、定員の比重に応じて多彩かつ個性的な人材が集うことを目指します。各試験方式とそのねらいを以下の表に示します。

	前期・後期日程	推薦入試		AO入試	グローバル特別	特別入試
	A/M/F センタープラス センター利用	公募制 一般推薦 (基礎学力型)	附属校 併設校 推薦			帰国生徒 社会人 外国人留学生
知識 技能	◎ 筆記試験もしくはセン ター試験で確認	◎ 筆記試験で確認	○ 筆記試験で確認	○ プレゼンテーション、質 疑応答で確認	◎ 筆記試験、面接で確 認	○ 筆記試験で確認
思考力 判断力 表現力	△ 筆記試験もしくはセン ター試験で確認	△ 筆記試験で確認	◎ 志望理由書、調査 書、面接で確認	◎ エントリーシート、プ レゼンテーション、質 疑応答で確認	○ 志望理由書、面接で 確認	◎ 筆記試験、面接で確 認
主体性多様性協働性	△ 調査書で確認	△ 調査書で確認	△ 志望理由書、調査 書、面接で確認	△ エントリーシート、プ レゼンテーション、質 疑応答で確認	△ 志望理由書、面接で 確認	△ 面接で確認

入学者選抜においては、上記の試験方式を適宜組み合わせ、全体としてバランスのとれた学生構成を目指します。

[英語圏文化専攻]

高等学校等で幅広い教科の科目を学習し、イギリスやアメリカを含め、それ以外の英語圏諸国の多種多様な文化に興味を持ち、またそれらに関する基礎学力を持ち合わせている人

1. 英語圏文化を科学的・客観的・論理的に分析し、幅広い知識を身につけ、より高次の専門性を探究する意欲を持つ人
2. 英語圏文化及び多文化・異文化交流を探究するに際して、新たな課題を自ら発見し、それを解決するために、主体性を持って様々な人々と共に考え、行動できる人
3. 英語圏文化に関する専門的な知識と同様に、高度で幅広い教養も積極的に学ぼうとする意志と意欲のある人

入学者選抜においては様々な試験方式を採用します。具体的には、それぞれの試験方式に定員を割り当て、定員の比重に応じて多彩かつ個性的な人材が集うことを目指します。各試験方式とそのねらいを以下の表に示します。

	前期・後期日程	推薦入試		AO入試	グローバル特別	特別入試
	A/M/F センタープラス センター利用	公募制 一般推薦 (基礎学力型)	附属校 併設校 推薦			帰国生徒 社会人 外国人留学生
知識 技能	◎ 筆記試験もしくはセン ター試験で確認	◎ 筆記試験で確認	○ 筆記試験で確認	○ プレゼンテーション、質 疑応答で確認	◎ 筆記試験、面接で確 認	○ 筆記試験で確認
思考力 判断力 表現力	△ 筆記試験もしくはセン ター試験で確認	△ 筆記試験で確認	◎ 志望理由書、調査 書、面接で確認	◎ エントリーシート、プ レゼンテーション、質 疑応答で確認	○ 志望理由書、面接で 確認	◎ 筆記試験、面接で確 認
主体性多様性協働性	△ 調査書で確認	△ 調査書で確認	△ 志望理由書、調査 書、面接で確認	△ エントリーシート、プ レゼンテーション、質 疑応答で確認	△ 志望理由書、面接で 確認	△ 面接で確認

入学者選抜においては、上記の試験方式を適宜組み合わせ、全体としてバランスのとれた学生構成を目指します。

[国際学専攻]

1. 高等学校等で幅広い教科の科目を学習し、世界の国や地域の社会・歴史・文化・思想・宗教をふまえて意思表示をしようと望む人
2. 他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で実践したい人
3. 現代の国際化する企業組織、国際団体等で求められる汎用性のある多様な知識や技能を身につけたい人

入学者選抜においては、様々な試験方式を採用します。具体的にはそれぞれの試験方式に定員を割り当て、定員の比重に応じて多彩かつ個性的な人材が集うことを目指します。各試験方式とそのねらいを以下の表に示します。

	前期・後期日程	推薦入試		高大接続入試	グローバル特別	特別入試
	A/M/F センタープラス センター利用	公募制 一般推薦 (基礎学力型)	附属校 併設校 推薦			帰国生徒 社会人 外国人留学生
知識 技能	◎ 筆記試験もしくはセンター試験で確認	◎ 筆記試験で確認	○ 筆記試験で確認	○ エントリーシート・施設ツアー・プレゼンテーション・質疑応答で確認	◎ 筆記試験、面接で確認	○ 筆記試験で確認
思考力 判断力 表現力	△ 筆記試験もしくはセンター試験で確認	△ 筆記試験で確認	◎ 志望理由書、調査書、面接で確認	◎ エントリーシート・施設ツアー・プレゼンテーション・質疑応答で確認	○ 志望理由書、面接で確認	◎ 筆記試験、面接で確認
主体性多様性協働性	△ 調査書で確認	△ 調査書で確認	△ 志望理由書、調査書、面接で確認	◎ 施設ツアー・プレゼンテーション・質疑応答で確認	△ 志望理由書、面接で確認	△ 面接で確認

入学者選抜においては、上記の試験方式を適宜組み合わせ、全体としてバランスのとれた学生構成を目指します。

以上の全専攻共通と各専攻固有に掲げた方針を踏まえ、入学者には、次に示す内容について学習しておくことが期待されます。

1. 英語運用力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を高めること。
2. 幅広い分野の本を読み、内容を理解すること。
3. 国際情勢や社会の変化に関する知識を蓄えること。

国際教養学部国際教養学科 学位授与の方針

国際教養学部国際教養学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（国際教養学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 2つの言語（フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語のうちいずれか1つ及び英語）を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
2. 国外で学ぶ場合には、世界の人々との交流を深め、多様な文化のありようを客観的に観察・分析することができる。
3. 世界の言語と文化の独自性と普遍性を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。
4. 世界の多様な事象を歴史的観点から把握し、それについて自己の考えを述べることができる。
5. 現代社会の思想的課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。
6. 国際社会が直面する課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。
7. 探究すべきテーマを自ら設定して調査を行い、自律的・批判的に考察し、創造的な研究成果を提示できる。
8. さまざまな人々と交流し、相互の視点を理解し、社会の中で他者と協調して行動できる。

国際教養学部国際教養学科

教育課程編成・実施の方針

国際教養学部国際教養学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

〈カリキュラムの構成〉

本学部のカリキュラムは、全学共通科目と学部固有科目から成り立っています。全学共通科目 36 単位、学部固有科目 78 単位に加えて、履修者の関心と目標に応じて全学共通科目と学部固有科目の両者から自由に選択できるフロート単位が 10 単位設けられ、合計 124 単位が卒業所要単位となっています。

【全学共通科目の目標】

全学共通科目では、幅広い視野と多面的な思考力を養い、専門分野にとらわれない総合的な知を身につけることを目指しています。科目の構成については〈全学共通科目の教育課程編成の方針〉を参照のこと。

【学部固有科目の特色】

学部固有科目のカリキュラムの特色は、一つ目には、入学時にフランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語の 5 言語の中から 1 言語を選択し、英語とあわせ、集中的に学修することにあります。二つ目に、4つの分野（言語文化、歴史文化、思想文化、国際社会）を柱としていることにあります。さらに、この 4 分野にわたって設けられた多様な科目の核として演習を配置しています。演習は、2年次から4年次まで必修とし、4年次には卒業研究を完成させることが求められており、それを通して国際的教養人にふさわしい情報収集力、分析力、思考力、発信力を養成します。

【科目区分】

学部固有科目の区分の仕方は、二つあります。一つ目は段階的な区分で、基礎科目・基幹科目・展開科目と段階的に科目を配置しています。二つ目の区分は分野に基づくもので、言語文化系科目群、歴史文化系科目群、思想文化系科目群、国際社会系科目群の4つの科目群から成り立っています。これら学部固有科目全体の中心に位置するのが演習科目です。

なお展開科目には、キャリア形成支援科目、海外留学に関わる科目も含まれています。

以上を図で示すと次のようになります。

段階的科目区分

	1年	2年	3年	4年
選択言語科目	基礎科目			
			基幹科目	
			展開科目	
英語科目	基礎科目			
		基幹科目		
			展開科目	
講義科目	基礎科目			
		基幹科目		
			展開科目	
その他の科目	展開科目(キャリア形成支援科目、海外留学に関わる科目)			
演習科目		演習科目		

分野別科目区分

言語文化系科目群	歴史文化系科目群	思想文化系科目群	国際社会系科目群	その他の科目
演習科目				

【特徴的な科目・学修方法・学修過程】

- ① 5つの選択言語の運用能力を確実なものとするため、「発音」「会話」「語彙」「文法」「情報処理」「講読」「作文」「語学検定対策」などのクラスにおいて、段階的に学修をすすめます。コミュニケーションに重点を置いたクラスでは、少人数による双方向的な授業運営を行い、特に「発音」クラスは履修者数の上限（15名以内）を定めています。
- ② 英語の高度な運用能力を確実なものとするため、イングリッシュ・ワークショップ（リスニングとスピーキングに重点を置いた授業）、イングリッシュ・スタディーズ（リーディングとライティングに重点を置いた授業）の各クラスを少人数編成にしています（履修者数 15名程度）。英語によるリサーチと発表を通じて、高度な内容を英語で発信する能力を磨きます。
- ③ 5つの選択言語の運用能力を向上させ、各文化圏の理解を実地で深めるための機会として、2年次（または3年次）秋学期に各言語圏の大学への留学プログラムを設けています。この留学プログラムは「海外課題研究」という科目として単位認定されます。この科目の履修を強く推奨しています。
- ④ 1年次において国際教養学部での学修の全体像を見渡し、以後の学修の方向づけができるよう、「国際教養学入門A(言語)・B(歴史)・C(思想)・D(国際社会)」を設け、4科目すべてを必修としています。
- ⑤ 国際教養学部における学修の成果を踏まえ、的確に自らの適性を把握し、卒業後のキャリアを展望させることを目的とした「キャリア・ディベロップメント」という科目を3年次春学期に配置しています。
- ⑥ 2年次から4年次までの学修の核となる演習では、4年次秋学期に「卒業研究」を完成させることを目標に、各自がテーマを定め、調査、発表、論文執筆の実際を学びます。その際、少人数クラスにおいて、教員の綿密な指導のもと、各自が主体的に学修に取り組み、積極的に議論に参加することが求められます。
- ⑦ 演習は、言語文化系、歴史文化系、思想文化系、国際社会系の4つの系にわたってクラスを開設しており、履修者は2年次以降、いずれかの系のクラスに属することで、それぞれの系の科目を中核に据えて学部全体のカリキュラムを体系的に学修することができます。
- ⑧ 語学科目の学修成果は、授業への参加度、課題の成果、口頭・筆記の試験をもとに総合的に評価します。講義科目の学修成果は、レポート、試験、又は授業への参加度で評価します。演習科目においては、授業への参加度、口頭発表、レポートを総合して学修成果を評価しますが、演習VIにおいては「卒業研究」の成果の比重が大きくなります。

カリキュラムマップ(国際教養学部)

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
			2つの言語（フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語のうちいずれか1つ、および英語）を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる	国外で学ぶ場合には、世界の人々との交流を深め、多様な文化のありようを客観的に観察・分析することができる	世界の言語と文化の独自性と普遍性を理解し、それについて自己の考えを述べることができる	世界の多様な事象を歴史的観点から把握し、それについて自己の考えを述べることができる	現代社会の思想的課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる	国際社会が直面する課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる	探求すべきテーマを自ら設定して調査を行い、自律的・批判的に考察し、創造的な研究成果を提示できる	さまざまな人々と交流し、相互の視点を理解し、社会の中で他者と協調して行動できる
フランス語 I A	必修	1	○							
フランス語 I B	必修	1	○							
フランス語 I C	必修	1	○							
フランス語 I D	必修	1	○							
フランス語 I E	必修	1	○							
フランス語 I F	必修	1	○							
フランス語 I G	必修	1	○							
スペイン語 I A	必修	1	○							
スペイン語 I B	必修	1	○							
スペイン語 I C	必修	1	○							
スペイン語 I D	必修	1	○							
スペイン語 I E	必修	1	○							
スペイン語 I F	必修	1	○							
スペイン語 I G	必修	1	○							
ドイツ語 I A	必修	1	○							
ドイツ語 I B	必修	1	○							
ドイツ語 I C	必修	1	○							
ドイツ語 I D	必修	1	○							
ドイツ語 I E	必修	1	○							
ドイツ語 I F	必修	1	○							
ドイツ語 I G	必修	1	○							
ロシア語 I A	必修	1	○							
ロシア語 I B	必修	1	○							
ロシア語 I C	必修	1	○							
ロシア語 I D	必修	1	○							
ロシア語 I E	必修	1	○							
ロシア語 I F	必修	1	○							
ロシア語 I G	必修	1	○							
中国語 I A	必修	1	○							
中国語 I B	必修	1	○							
中国語 I C	必修	1	○							
中国語 I D	必修	1	○							
中国語 I E	必修	1	○							
中国語 I F	必修	1	○							
中国語 I G	必修	1	○							
フランス語情報処理	必修	1	○							
スペイン語情報処理	必修	1	○							
ドイツ語情報処理	必修	1	○							
ロシア語情報処理	必修	1	○							
中国語情報処理	必修	1	○							
イングリッシュ・ワークショップ I A	必修	1	○							
イングリッシュ・ワークショップ I B	必修	1	○							
イングリッシュ・スタディーズ I A	必修	1	○							
イングリッシュ・スタディーズ I B	必修	1	○							
国際教養学入門 A (言語)	必修	1			○					
国際教養学入門 B (歴史)	必修	1				○				
国際教養学入門 C (思想)	必修	1					○			
国際教養学入門 D (国際社会)	必修	1						○		
フランス語 II A	必修	2	○							
フランス語 II B	必修	2	○							
フランス語 II C	必修	2	○							
フランス語 II D	必修	2	○							
フランス語 II E	必修	2	○							
フランス語 II F	必修	2	○							
スペイン語 II A	必修	2	○							
スペイン語 II B	必修	2	○							
スペイン語 II C	必修	2	○							
スペイン語 II D	必修	2	○							
スペイン語 II E	必修	2	○							
スペイン語 II F	必修	2	○							
ドイツ語 II A	必修	2	○							
ドイツ語 II B	必修	2	○							
ドイツ語 II C	必修	2	○							
ドイツ語 II D	必修	2	○							
ドイツ語 II E	必修	2	○							
ドイツ語 II F	必修	2	○							
ロシア語 II A	必修	2	○							

ロシア語Ⅱ B	必修	2	○								
ロシア語Ⅱ C	必修	2	○								
ロシア語Ⅱ D	必修	2	○								
ロシア語Ⅱ E	必修	2	○								
ロシア語Ⅱ F	必修	2	○								
中国語Ⅱ A	必修	2	○								
中国語Ⅱ B	必修	2	○								
中国語Ⅱ C	必修	2	○								
中国語Ⅱ D	必修	2	○								
中国語Ⅱ E	必修	2	○								
中国語Ⅱ F	必修	2	○								
イングリッシュ・ワークショップⅡ	必修	2	○								
イングリッシュ・スタディーズⅡ	必修	2	○								
西洋史概説	選択必修	2-3				○					
東洋史概説	選択必修	2-3				○					
現代思想概論	選択必修	2-3					○				
哲学概論	選択必修	2-3					○				
国際社会概論 A	選択必修	2-3							○		
国際社会概論 B	選択必修	2-3							○		
フランス語フランス文化研究Ⅰ A	選択必修	3-4	○		○						
フランス語フランス文化研究Ⅰ B	選択必修	3-4	○		○						
フランス語フランス文化研究Ⅱ A	選択必修	3-4	○		○						
フランス語フランス文化研究Ⅱ B	選択必修	3-4	○		○						
スペイン語スペイン・ラテンアメリカ文化研究Ⅰ A	選択必修	3-4	○		○						
スペイン語スペイン・ラテンアメリカ文化研究Ⅰ B	選択必修	3-4	○		○						
スペイン語スペイン・ラテンアメリカ文化研究Ⅱ A	選択必修	3-4	○		○						
スペイン語スペイン・ラテンアメリカ文化研究Ⅱ B	選択必修	3-4	○		○						
ドイツ語ドイツ文化研究Ⅰ A	選択必修	3-4	○		○						
ドイツ語ドイツ文化研究Ⅰ B	選択必修	3-4	○		○						
ドイツ語ドイツ文化研究Ⅱ A	選択必修	3-4	○		○						
ドイツ語ドイツ文化研究Ⅱ B	選択必修	3-4	○		○						
ロシア語ロシア文化研究Ⅰ A	選択必修	3-4	○		○						
ロシア語ロシア文化研究Ⅰ B	選択必修	3-4	○		○						
ロシア語ロシア文化研究Ⅱ A	選択必修	3-4	○		○						
ロシア語ロシア文化研究Ⅱ B	選択必修	3-4	○		○						
中国語中国文化研究Ⅰ A	選択必修	3-4	○		○						
中国語中国文化研究Ⅰ B	選択必修	3-4	○		○						
中国語中国文化研究Ⅱ A	選択必修	3-4	○		○						
中国語中国文化研究Ⅱ B	選択必修	3-4	○		○						
応用フランス語 A	選択	3-4	○								
応用フランス語 B	選択	3-4	○								
応用フランス語 C	選択	3-4	○								
応用フランス語 D	選択	3-4	○								
応用スペイン語 A	選択	3-4	○								
応用スペイン語 B	選択	3-4	○								
応用スペイン語 C	選択	3-4	○								
応用スペイン語 D	選択	3-4	○								
応用ドイツ語 A	選択	3-4	○								
応用ドイツ語 B	選択	3-4	○								
応用ドイツ語 C	選択	3-4	○								
応用ドイツ語 D	選択	3-4	○								
応用ロシア語 A	選択	3-4	○								
応用ロシア語 B	選択	3-4	○								
応用ロシア語 C	選択	3-4	○								
応用ロシア語 D	選択	3-4	○								
応用中国語 A	選択	3-4	○								
応用中国語 B	選択	3-4	○								
応用中国語 C	選択	3-4	○								
応用中国語 D	選択	3-4	○								
イングリッシュ・ワークショップⅢ	選択	2-4	○								
イングリッシュ・スタディーズⅢ	選択	2-4	○								
比較言語論 A	選択	2-4			○						
比較言語論 B	選択	2-4			○						
ことばと文化 A	選択	2-4			○						
ことばと文化 B	選択	2-4			○						
ヨーロッパ中世史	選択	2-4				○					
ヨーロッパ近代史	選択	2-4				○					
文字と文書の中国史	選択	2-4				○					
日本古代・中世史	選択	2-4				○					
東アジア近代史	選択	2-4				○					
日本近現代史	選択	2-4				○					
近現代ヨーロッパ思想	選択	2-4					○				
心の哲学	選択	2-4					○				
応用哲学	選択	2-4					○				
論理的思考法	選択	2-4					○				
日欧比較文化論	選択	2-4					○				
進化文化学	選択	2-4					○				
現代海域世界論	選択	2-4							○		
地球市民社会論	選択	2-4							○		
国際環境協力論	選択	2-4							○		
少数民族論	選択	2-4							○		
国際労働移動論	選択	2-4							○		
地域公共論	選択	2-4							○		

海外セミナー	選択	1-4	○	○						○
海外課題研究	選択	2-3	○	○						○
キャリア・ディベロップメント	選択	3								○
インターンシップ	選択	2-4								○
海外留学科目	選択	2-4	○	○						○
演習Ⅰ	必修	2							○	○
演習Ⅱ	必修	2							○	○
演習Ⅲ	必修	3							○	○
演習Ⅳ	必修	3							○	○
演習Ⅴ	必修	4							○	○
演習Ⅵ	必修	4							○	○

国際教養学部国際教養学科 入学者受入れの方針

国際教養学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の教育の理念」、及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度などを有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を広く求めています。

〈入学者に求める知識・技能・意欲・態度〉

〔知識・技能〕

本学部での学びは、言語・歴史・文化・思想・社会に関する知見を深めて、世界の多様な国の人々と相互理解と交流を図り、国際協調に貢献できる国際的教養人を養成することを目標としています。その学びの基礎として広い視野と知識が必要となります。このため、高等学校段階において特に次のような学習に力を入れて取り組んでおくことが望まれます。

〈国語〉

本学部での学びにおいては、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどが求められ、日本語で他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝える力が必要となります。さらに外国語を学ぶにあたって、多くの人にとって母語である日本語の十分な知識と運用能力が必要です。したがって高等学校課程における国語の学習が極めて重要となります。

〈英語〉

国際的教養人の養成を目指して、本学部では英語ともうひとつの言語を学びます。そうした外国語学修を進めるための基礎として、高等学校課程における「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「リーディング」「ライティング」の確実な学習が望まれます。また、入学前の英語運用能力を測るひとつの目安として、実用英語技能検定（英検）2級、TOEIC500点以上などが考えられます。

〈社会科〉

国際的な広い視野を得ることを目指す本学部の学びにおいては、日本と世界の歴史や地理、社会のしくみや思想、政治や経済に関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「世界史A・B」「日本史A・B」「地理A・B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」などを広く学習しておくことが望まれます。

〔意欲・態度〕

本学部では、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めています。

- 主体的に学習する意欲をもっていること。
- 世界と日本の言語や歴史や思想、国際社会の諸問題に関心をもっていること。
- 状況を冷静に分析する力、粘り強く考える力、柔軟な想像力をもっていること。
- 解決を必要とする課題を発見し、自ら解決できる能力を獲得する意欲と実行力をもっていること。
- 自己表現能力や他者とのコミュニケーション能力を高めたいと考えていること。
- 多様な文化とかかわりを持ち、国際社会で活躍し、貢献したいと考えていること。

〈入試選抜の方法〉

本学部に関心をもつ多様な学生が入学することを目指して、以下の表のような入試選抜を行います。

		前期・後期 日程	推薦入試		AO入試	グローバル 特別	特別入試
		A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎 学力型)	指定校 附属校・ 併設校推 薦 (特II 推薦)	AO		帰国生徒 留学生
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか。 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 当日の プレゼンテー ション ・質疑応答 で確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論 文) で確認
思考力 判断力 表現力	自ら課題を発見し、その解決に向けて探究したか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができたか。	△ 筆記試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ エントリー 当日の プレゼンテー ション ・質疑応答 で確認	○ 志望理由 書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論 文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク (協働) をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ エントリー 当日の プレゼンテー ション ・質疑応答 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認
募集定員 (全 110 名のうち)		70 名	10 名	16 名	7 名	7 名	若干名

心理学部心理学科 学位授与の方針

心理学部は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（心理学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 心理学における基本的な考え方や理論を理解し、その知見を踏まえて自ら学び続けることができる。
2. 心理学の主要領域に関する知見に基づき、社会に対する誠実な態度をもって、人間の心理と行動の基本的なメカニズム、文化差や個人差といった人間の多様性、あるいはその生涯過程等を理解し、実践に生かす力を身につけている。
3. 実験・観察・面接等の科学的論理性と倫理的配慮を備えたデータ収集法及び適切な情報処理技術による分析法を修得し、心理学に近接する関連領域からの学際的な知見も踏まえて、状況や事態を冷静かつ客観的に評価できる。
4. 現実社会で直面する諸問題に対し、自他の心理と行動を的確にモニターしながら、熱意と行動力をもって積極的に意見を述べ、自らが学んだ分野の独自性に立脚した課題解決を行うことができる。
5. 大学卒業後、各々が活躍する場において社会貢献を意欲的に果たすことができるように、心理学的見地から一つひとつの問題に着眼する力、相手の意見に耳を傾ける力及び相手に語り返す力を身につけている。

心理学部心理学科 教育課程編成・実施の方針

<カリキュラム全体の方針及び構成>

心理学部の教育課程は、幅広い視野をもって総合的な知を身につける全学共通科目と、心理学の専門的な知識及び技能をもって社会に貢献できる人材を養成する学部固有科目で構成する。卒業要件単位は全体で 124 単位であり、そのうち専門教育課程を構成する学部固有科目の卒業要件単位は 72 単位である。また、履修者の関心に応じて全学共通科目と学部固有科目の両方から自由に選択できるフロート単位が 8 単位設けられている。

<専門教育課程の概要>

心理学部は、実験心理学領域、応用心理学領域、臨床心理学領域、発達心理学領域という 4 つの領域で構成されている。専門教育課程では、1 年次は心理学全般を学ぶ概論的な科目と導入教育的な科目を中心とし、2 年次に先のビジョンを持てるような各領域の概論と方法論について学ぶ。3 年次にはゼミに配属されて専門の知識と技能を身につけ、4 年次にはそれらを使いこなして卒業論文を仕上げることで必要な能力を実際に生かすことができるようになる。

<専門教育課程の方針及び構成>

心理学部の専門教育課程は、学位授与の方針に基づく以下の 5 つの方針に従って学部固有科目により構成される。

1. 心理学とはいかなる学問であるのか理解し、「学び方」を学ぶことができる初年次教育から、2 年次以降に専門的な知識及び技能を徐々に積み上げていく構成とする。
2. 人間の心理、行動、多様性、生涯過程に対する理解を促進する専門科目を構成する。講義科目による多様な知識の蓄積に加え、それらの知識を実践に生かす力の獲得を目指した実習科目を充実させる。また、国際社会においても知識及び実践力を発揮できるよう、英文を講読する演習科目や海外演習等を配置する。

3. 心理学のデータ収集法及び情報処理技術を、倫理的な態度で適切に扱うことができるように方法論に関する科目も充実させる。また、心理学の方法論を幅広く他分野とも結びつけて使えるよう、ゼミ配属後も分野を横断した科目選択を可能とする（実習科目も含む）。
4. 学修成果を現実社会の様々な問題の解決に生かせるよう、個人又はグループで課題に取り組むことを主とする演習形式の科目を配置するほか、自らの問題意識に沿ってテーマを策定し、計画的にデータを収集・分析して成果を論文にまとめる卒業研究を必修とする。
5. 心理学の専門知識・技能を卒業後の活動や社会貢献と関連づけられるよう、ゼミ配属前からキャリア関連の科目を配置する。また、心理学を修めた者として意欲的に社会と関わる人材を育てるため、カウンセリング関連の科目を始め、どの領域においても対話力の向上を重視する。

カリキュラムマップ(心理学部)

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
			心理学における基本的な考え方や理論を理解し、その知見を踏まえて自ら学び続けることができる。	心理学の主要領域に関する知見に基づき、社会に対する誠実な態度をもって、人間の心理と行動の基本的なメカニズム、文化差や個人差といった人間の多様性、あるいはその生涯過程などを理解し、実践に生かす力を身に付けている。	実験・観察・面接等の科学的論理性と倫理的配慮を備えたデータ収集法、及び適切な情報処理技術による分析法を修得し、心理学に近接する関連領域からの学際的な知見も踏まえて状況や事態を冷静かつ客観的に評価できる。	現実社会で直面する諸問題に対し、自他の心理と行動を的確にモニターしながら熱意と行動力をもって積極的に意見を述べ、自らが学んだ分野の独自性に立脚した課題解決を行うことができる。	大学卒業後、各々が活躍する場において社会貢献を意欲的に果たすことができるように、心理学的見地から一つひとつの問題に着眼する力、相手の意見に耳を傾ける力、相手に語り返す力を身に付けている。
現代心理学の諸領域 1	必修	1	○				
現代心理学の諸領域 2	必修	1	○				
心理統計法 1	必修	1			○		
心理統計法 2	選択	1			○		
心理学概論 1	必修	1	○				
心理学概論 2	必修	1	○				
心理学基礎実験演習 1	必修	2-3	○		○		
心理学基礎実験演習 2	必修	2-3	○		○		
心理学課題演習 1	必修	3-4		○	○	○	○
心理学課題演習 2	必修	3-4		○	○	○	○
キャリア形成	必修	2				○	○
卒業研究	必修	4		○	○	○	○
心理学講読演習 1	必修	1	○	○			
心理学講読演習 2	必修	1	○	○			
心理学講読演習 3	選択	2	○	○		○	
心理学講読演習 4	選択	2	○	○		○	
心理学講読演習 5	選択	3-4	○	○		○	○
心理学講読演習 6	選択	3-4	○	○		○	○
発達心理学概論 1	選択必修	2-3		○			
発達心理学概論 2	選択必修	2-3		○			
実験心理学概論 1	選択必修	2-3		○			
実験心理学概論 2	選択必修	2-3		○			
応用心理学概論 1	選択必修	2-3		○			
応用心理学概論 2	選択必修	2-3		○			
臨床心理学概論 1	選択必修	2-3		○			
臨床心理学概論 2	選択必修	2-3		○			
心理調査法	選択必修	2-4			○		
心理実験法	選択必修	2-4			○		
心理測定法	選択必修	2-4			○		
心理学と法	選択	2-4		○			
心理学と倫理	選択	2-4		○			
認知心理学	選択	3-4		○			
認知行動科学	選択	2-4		○			
心理データ処理演習	選択	1			○		
感覚知覚心理学	選択	3-4		○			
照明・色彩心理学	選択	3-4		○			
環境心理学	選択	3-4		○			
心理学と現代社会	選択	2-4		○			
産業心理学	選択	3-4		○			
組織心理学	選択	3-4		○			
交通心理学	選択	3-4		○			
人間工学	選択	3-4		○			
パーソナリティ心理学	選択	3-4		○			
認知行動療法	選択	3-4		○			
臨床心理面接法	選択	3-4		○			○
青年期臨床心理学	選択	3-4		○			
自分づくりの発達心理学	選択	2-3		○			
親と子の発達心理学	選択	2-4		○			
生涯発達心理学	選択	2-4		○			
多様な人生の発達心理学	選択	2-4		○			
心理学基礎演習	選択	2				○	○
神経科学 1	選択	1-4		○			
神経科学 2	選択	1-4		○			
社会心理学 1	選択	2-4		○			
社会心理学 2	選択	2-4		○			
教育心理学 1	選択	2-4		○			
教育心理学 2	選択	2-4		○			
精神医学 1	選択	2-4		○			
精神医学 2	選択	2-4		○			
精神保健学	選択	2-4		○			
障害児心理学	選択	2-4		○			
心身医学	選択	2-4		○			
心理学と哲学史	選択	2-4		○			
心理データ解析法	選択	3-4			○		
生理心理学 1	選択	3-4		○			

生理心理学2	選択	3-4		○			
コミュニティ心理学	選択	3-4		○			
海外留学	選択	2-4		○		○	○
インターンシップ	選択	2-3				○	○
心理アセスメント実習1	選択	3-4		○	○	○	○
心理アセスメント実習2	選択	3-4		○	○	○	○
応用心理学実習	選択	3-4		○	○	○	○
カウンセリング基礎実習	選択	3-4		○	○	○	○
臨床心理学学外実習	選択	4		○	○	○	○
発達心理学実習	選択	3-4		○	○	○	○
心理学海外演習	選択	2-3		○		○	○
文章表現Ⅰ	選択(自由科目)	2-3					○
文章表現Ⅱ	選択(自由科目)	2-3					○

心理学部心理学科 入学者受入れの方針

心理学部では、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」を尊重し、以下に示す知識や技能、知的好奇心を有し、それらを土台に学びを昇華させる意欲のある人を広く求めています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

[知識・技能]

心理学部での学びは、「人の心の働きを科学的に探究し、それを実際の社会問題の解決に役立てること」です。多様な価値観を持つ人間を理解するとともに、社会が抱える問題を考えるためには、高等学校段階において、その基本となる教科・知識を幅広く学習しておくことが大切です。

特に、心理学部での学びと関連して、次のような学習をすすめておくことが望まれます。

- ・ 心理学は科学（science）です。実験等で得られたデータの数的・統計的処理を行うことから、ある程度の数学的な能力が必要となります。
- ・ 先端の研究内容を学んだり、参考にしたりするためには、外国語で書かれた学術論文を読み解く必要があります。そのためには、継続的に英語の学習をすすめておくことが求められます。
- ・ 心理学には、人と関わりを持ち、対話を通じて他者をより良い方向へと導くカウンセリング等の分野があり、高度なコミュニケーション能力が求められます。そのためには、読書を通じて幅広い教養を身につけるとともに、国語力や国語表現等の学習を確実にすすめておくといよいでしょう。

[意欲・態度]

心理学部で学ぶにあたっては、データの処理・分析を通して、科学的結論を得る力だけでなく、相手を受け入れつつ導くことができる心の広さ、懐の深さも求められます。これらは、心理学特有の面接技法や心理テストの実施能力を身につけることで、ある程度は入学後に伸ばすことができる素養でもあります。しかしながら、それにもまして必要とさ

れるのは、人間の行動や人間そのものへの興味や旺盛な知的好奇心、学習を粘り強く続ける力です。

上記のことを踏まえて、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めます。

- ・ 人間の行動に興味があり、そのメカニズムを知りたいという知的好奇心があること。
- ・ 柔軟な思考力や想像力を持ち、主体的に学習する意欲を持っていること。
- ・ 実験や観察といった研究方法を通じた、科学的な分析に興味を持てること。

上記を踏まえ、別表のとおりに入学者選抜を実施します。具体的には、各種入学試験要項において、出願資格および入学試験科目を指定することにより、入学までに学んでほしい事項や資格等を示しています。

		前期・後期日程	推薦入試			グローバル 特別	特別入試
		A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎学力 型)	指定校推薦 (特Ⅱ推 薦)	附属校 併設校 推薦		帰国生徒 留学生 社会人
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか。 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	○ 志望理 由書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク(協働)をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

現代社会学部現代社会学科 学位授与の方針

現代社会学部現代社会学科は、定められた課程を修め、厳格な成績評価を経て、以下の学修成果をあげたと判定される者に対して学士（社会学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 社会に生起する諸現象に関心を持ち、諸現象の中から社会的な問題を発見し、分析し、適切なアプローチ方法を構築し、実践していくことができる。
2. 社会を形成する人びとの営みを「市民」という視点で捉えるとともに、社会の本質的かつ基礎的な理論を踏まえて、理解し、分析することができる。
3. 現代社会の成り立ちと変化・変動を、歴史的・世界的な枠組みから捉え、近代化とポスト近代化、グローバル化とローカリティ、少子化人口減少社会と超高齢化、格差と社会的孤立、価値規範の多様化と生きづらさ等の社会現象を、それぞれの現象の関連性と異質性において分析、考察することができる。
4. 「現場主義」を重視することにより、実証的な方法と行動力を身につけ、データの収集とその精査、分析を通し、事実への認識力を向上させることができる。
5. 混迷する社会に対し、21世紀を構想するビジョンを持ち、問題の解決に向けた具体的な提案をし、実行に移す自信を醸成することができる。
6. 「フィールドワーク」「現場体験」「プレゼンテーション」等を通して、他者と協働することにより、チームワークの重要性を認識することができるようになる。すなわち他者との協働を円滑にしている力を醸成することができ、そのことにより他者とのコミュニケーション能力を身につけることができる。

以上の学部学科全体の学修成果に加えて、各専攻において以下のような学修成果を定めています。

[社会学専攻]

1. 社会学的想像力を身につけている。社会学的想像力によって、従来の常識や枠組にとらわれずに、できるかぎり全体社会とのつながりのなかで、日常世界を理解できるようになる。
2. 「新しい社会」の仕組みを構想できる力を身につけている。社会の仕組みをどのように変えていけば

よいか、構想・デザインできるようになる。

3. コミュニケーション能力を身につけている。諸問題の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、IT やメディアも活用できる。

[コミュニティ学専攻]

1. コミュニティの現場で調べ、考え、実践する力を身につけている。さまざまなコミュニティにおける人のつながりの実際を調べ、その意味を理解し、説明できる力を身につけている。
2. 社会学、心理学の両方の学びを通して、実践的な知を身につけている。「集団」に注目する社会学と「個人」に注目する心理学とをともに学び、実践的な知識を養っている。
3. 実社会に役立つ力を身につけている。「現場」での経験を重視し、実社会で役に立つ力を身につけている。そのために重要なコミュニケーション力、すなわち、調査現場での協調性、情報収集能力、分析力、プレゼンテーション能力等を身につけている。

[社会福祉学専攻]

1. フィールドワークを重視し、理論と実践を融合する力を身につけている。実習、演習教育を主眼とし、福祉専門職としての力を身につけている。社会福祉士国家資格を取得するために必要な力を有している。
2. 共生のための新しいつながりを創る、主体性を身につけている。地域という現場において、つながりあい、共同する関係を創造する力を身につけている。
3. 社会に貢献するチームワーク力を身につけている。仕事を遂行していくためのチームリーダー力やチームワークを推進していくためのフォローアップ力を身につけている。

[国際文化専攻]

1. 文化人類学を基礎とし、人間の営みを「文化」の観点から理解できる。「文化」という営みを中心に捉えつつ、新たなつながりを創出できる。
2. モノへのまなざしを身につけることができる。モノの先にあるひとの暮らしを理解できる。
3. フィールドワークを通して、現代社会の諸問題を具体的に理解し、説明できる。さまざまな文化をつなぐ事ができる。

現代社会学部現代社会学科 教育課程編成・実施の方針

現代社会学部現代社会学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していきます。教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門教育科目である学部（専攻）固有科目から構成されます。全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨きます。それとあわせて初年次教育では、専門課程の基礎としての知識・技能の養成及びキャリア教育の導入を行います。専門課程では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するための科目編成をしています。成績評価については、各科目の特性に照らして適切と考えられる多面的な方法をシラバスに明示し、それを厳格に適用します。

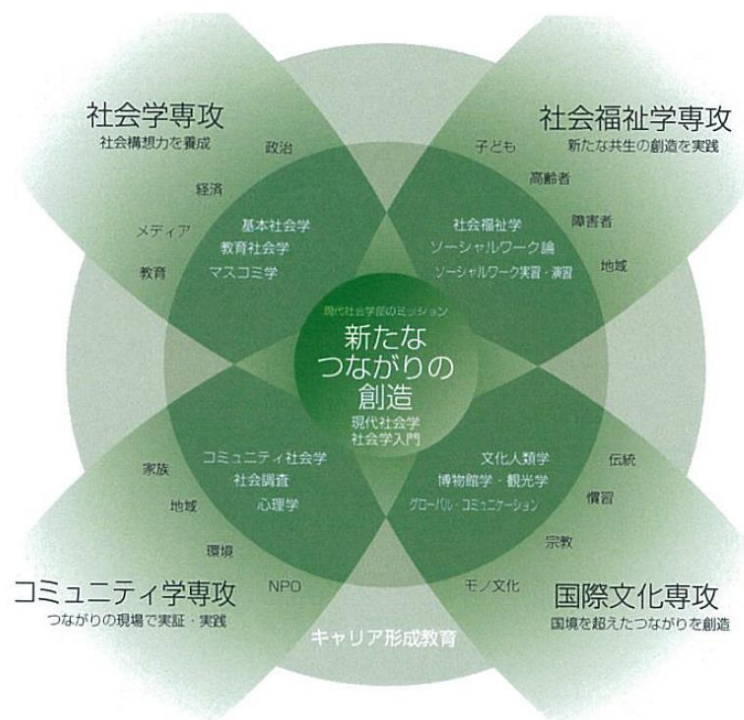
<専門教育科目（学部固有科目）の全体構成とキーコンセプト>

現代社会学部の専門教育課程は、以下の概念図に示すとおり、社会学を現代社会への視座として学部教育の基礎に置き、その上に心理学、教育学、文化人類学、社会福祉学といった学を基盤にした専門性を高める専攻別カリキュラムを採用しています。それぞれの専攻のカリキュラムは基礎科目・基幹科目・展開科目に分かれており、学年が上がるにつれてより専門性の高い科目が配置されています。

科目編成における学部のキーコンセプトは「社会構想」です。これは理論的な追究と現実的、具体的な場における制度や関係の追究に分かれます。新しいつながりを基礎とする社会構想は、社会学専攻のカリキュラムによって理論的・総合的に追究されます。コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻、国際文化専攻は、それぞれの領域における現場を素材に新しいつながりの形成を追究します。その追究の視点と方法がカリキュラムの構成となっています。

この「社会構想」の追究とともにカリキュラムの背骨になっているもう一つの柱が、「キ

「キャリア構想」関連の科目群です。このキャリア構想科目群は1年次から4年次まで系統的に設けられています。現代社会の分析からこれからの「社会」を「構想」するなかで、各自の実践的なキャリア形成の方向を具体化することを狙いとしています。



なお、4専攻が扱うテーマと概要は以下のとおりです。

[社会学専攻]

社会学専攻では、現代社会で生じている諸問題の全体像を、政治、経済、教育、労働といった複数の専門分野を横断しながら多角的に解明できる「社会学的想像力」を修得します。

また、そうした現代の諸問題を解決するためには、新しい社会の仕組みをどのように構想・デザインしていけばよいかを追究するとともに、現代社会において「メディア」と「教育」が果たす役割を社会学の観点から深く考察することで、自ら構想した社会の仕組みのあり方を他者に向けて発信し、提案していくための方法についても学びます。

[コミュニティ学専攻]

コミュニティ学専攻では、集団の分析に焦点を置く「社会学」と個人の内面を分析する「心理学」をバランスよく学び、コミュニティをその関係構造と構成する人の内面を結びつけて理解するための視点と方法を展開します。その獲得のために、具体的な対象コミュニティの社会調査（量的・質的）を通して、現代のコミュニティが持つ課題を明らかにし、

その実践的解決を提起できる能力を身につけます。それは実社会で求められる情報の収集・分析力、企画力、プレゼンテーション力を獲得する方法です。

[社会福祉学専攻]

地域社会に出て人とかかわり、働き、家庭を持ち、子どもを生み、育てるというあたり前な生き方が、あたり前に誰もができるということを大切に、自分らしく生きられる社会を目指していく領域です。そのための社会的装置をどのように整備していけばよいのかということを考え、その実践方法を追究していきます。

[国際文化専攻]

価値が多様化する現代を生きぬくための世界観を広げる領域です。さまざまな価値観、世界観の交流を図りながら、その地域に積み重ねられた文化実践を国際的な視点や歴史的な観点から幅広く比較、検討できる視野と実践力を養うとともに、地球市民として活躍できる力を醸成していきます。

<専門教育課程の構成>

専門教育科目の卒業所要単位は80単位であり、以下のようにカリキュラムを編成します。

1. 学部教育（全専攻共通）の基礎を身につける科目として、「現代社会学」「社会学入門」「コミュニケーション・スキル」を設けます。「現代社会学」では、現代社会学部の現代社会への4つ専攻のアプローチ方法を提示します。また【新しいつながり】を探究する学部の学問的基礎として「社会学入門」を配置しました。「コミュニケーション・スキル」は、基礎的な情報処理とプレゼンテーションの方法を学ぶ必修の情報教育です。
2. 現代社会学部の学部教育の柱として、1年次から4年次までの系統的なキャリア教育を配置しました。1年次には「キャリアデザイン」及び「キャリア構想レクチャー」を、2年次には「キャリア構想スタディⅠ」を、3年次には「キャリア構想スタディⅡ」を、4年次には「キャリア構想実践研究」を設けています。このキャリア教育は、学問的に今後の社会変動の方向を探究するとともに、その関連で自らのキャリア形成を実践的に考えることを目的としています。

4専攻の専門教育課程の編成は次のとおりです。

[社会学専攻]

- ①社会学専攻では、われわれの身近にある社会現象を、全体社会の動向と密接に関連させながら多角的に分析するための「社会学的想像力」を重視します。1年次には、そうした社会学的想像力の基礎を培うため、「社会調査入門」「教育問題と学校の社会学」「メディア社会学」を選択必修の基礎科目として配置しています。
- ②2年次には、1年次に獲得した「社会学的想像力」の基礎を駆使しながら、実際にメディアや教育、労働、福祉等の各領域ではどのような問題が生じており、そうした問題を解決するためには、どのような社会の仕組みを新たに構想・デザインし、それについて他者に向けていかに発信していくべきかについて多角的に分析できることを目指します。そのための基幹科目として、「マスコミの社会学」、「労働とグローバル化の社会学」、「福祉社会学Ⅰ」、「社会の哲学」、「臨床の社会学」、「ジェンダーの社会学」、「地域社会学」を配置し、いずれも選択必修としています。同時に、基礎科目及び基幹科目で身につけた知識や技能を、さらに発展させながらその定着を図るため、「市民の政治学」、「青少年問題の社会学」を選択必修の展開科目として配置しています。2年次の秋 Semester からは「演習Ⅰ」を受講することで、それまでに修得した社会学的想像力の基礎を実践的に応用するためのトレーニングをしながら、自らの研究対象を見つけていきます。
- ③3年次には、「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」を受講します。これら演習の目的は、2年次までに自らが興味をもった研究分野について、新しい社会の仕組みやつながりをデザインし、外部社会に向けて具体的に提案、発信していくための【社会構想力】を育成することにあります。3年次の基幹科目としては「社会学理論」と「社会階層と教育の社会学」が選択必修、展開科目としては「生きることの社会学」、「地域メディアの社会学」、「コミュニケーションと自己の社会学」、「福祉社会学Ⅱ」がいずれも選択必修です。
- ④4年次には、「演習Ⅳ」と「演習Ⅴ」を通して、3年次までに各自が構想・デザインしてきた新しい社会の仕組みやつながり、キャリアに関する成果を、ゼミ論あるいはそれをより深く追究した卒業論文の形にまとめ上げ、完成させることを目指します。

[コミュニティ学専攻]

- ①コミュニティ学専攻は、人間関係・社会関係が生み出す【現場】を重視します。そのための基礎科目として、【現場】を理解するための「社会調査入門」と「コミュニティ心理学」を必修科目として配置しています。さらにその基礎学力を補強するために選択必修として「ボランティア論」と「社会調査論」を設けています。
- ②2年次には、【現場】を知る方法を具体的な形で修得するために「コミュニティ学演習」を必修科目として設け、さまざまなコミュニティの基本的知識を修得するための基幹科目として「社会関係論」「地域社会学」「家族社会学」「労働とグローバル化の社会学」「人間関係の心理学」を配置するとともに社会調査の専門知識を修得するための「社会統計学」「データ分析論」を設けています。2年次の秋 Semester からは「コミュニティ学演習」で修得した【現場】理解の基礎力を、さらに「演習Ⅰ」として高めます。

- ③3年次には、「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」でより具体的な【現場】の理解力と実践力を修得します。同時に、実際に【現場】に向き合う科目として「社会調査実習」「インターンシップ」を設けています。また、2・3年次に、個別のコミュニティ分析の視点を社会全体の構造や変動と結びつけることができるように、「社会の哲学」「社会階層と教育の社会学」「社会保障論」等を選択科目として配置しています。
- ④4年には、「演習Ⅳ」「演習Ⅴ」でそれぞれが向き合ってきた【現場】を社会構想という課題と絡めながらゼミ論、またそれを深く追究した「卒業論文」へとまとめあげます。

[社会福祉学専攻]

- ①社会福祉学専攻は、人生を豊かにし、持続可能な社会を構想するために、社会学や心理学、文化人類学等の手法を活用し、福祉課題を分析し、問題解決力を身につけます。フィールドワークを重視し、チームワーク力、行動力を研鑽する。
- ②1年次には、社会福祉の思想、哲学、価値が、一人ひとりの【いのちと暮らし】を大切に、経済活動や法制度、市民活動等の社会の骨格になっていることを理解するため、「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅰ」等を配置しました。
- ③2年次には、現代社会においてどのような福祉課題があるのか、私たちがどのような地域社会に暮らしているのか、他人を理解し、現状を把握し、課題を見出すため、「ソーシャルワーク論Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅲ」等を配置し、関連知識を修得します。児童、高齢者、障害者等の領域に関する知識を修得し、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」等の実習・演習による体験的な学びを通して、社会福祉学の基礎的な知識、実践方法を身につけます。
- ④3・4年次には、1・2年次の学びを様々な福祉現場で実体験し、理論と実践の融合を図るとともに、「ソーシャルワーク応用実習」「地域福祉論」「生活保護と生活支援」「医療福祉論」等を通して、専門職として知識と技術を修得します。

[国際文化専攻]

- ①1年次には、国際文化専攻の基盤である文化人類学の基礎と基本的な手法を修得します。理論的な面での文化人類学の基礎を身につけるために、「文化人類学入門」「文化人類学方法論」「博物館概論」を配置します。また、実践的な面での基礎を身につけるために、秋 Semester に「国際文化フィールドワークⅠ」を開講し、春休みの「海外短期研修(海外フィールドワーク)」に備えます。
- ②2年次には、グローバルな視点を獲得し、さまざまな文化を理解する能力を鍛えます。理論的な面では、「文化人類学特講」「社会人類学特講」「宗教人類学特講」を設け、世界各地で暮らす人びとの営みを社会、文化、宗教の側面から考察できるようにします。一方、実践面では、「国際理解教育Ⅰ」「国際理解教育Ⅱ」「グローバル市民論」の3つの参加型の科目を開講し、ワークショップ形式で、異文化コミュニケーション能力を磨きます。

③3・4年次には、フィールドワークを実践し、その成果を発信するための理論と方法を学びます。理論的には、フィールドワークの成果を記したエスノグラフィーを学ぶ「生活文化のエスノグラフィー」「モノと人のエスノグラフィー」「市民社会のエスノグラフィー」、異文化の出会いに着目する「多文化社会論」「観光文化論」、文化にかかわる情報の保存と発信について学ぶ「博物館資料保存論」「博物館情報・メディア論」等を配置します。実践面では、「社会調査実習」「文化人類学実習」「海外博物館研修」で、フィールドワークに挑戦します。

<「学修成果」と科目との関係>

1. 社会に生起する諸現象に関心を持ち、諸現象の中から社会的な問題を発見し、分析し、適切なアプローチ方法を構築し、実践していくことができる。
「現代社会学」「社会学入門」等
2. 社会を形成する人びとの営みを【市民】という視点で捉えるとともに、社会の本質的かつ基礎的な理論を踏まえて理解し、分析することができる。
「社会学理論」「国際理解教育Ⅱ」「ボランティア論」「臨床の社会学」「現代社会と福祉Ⅱ」「福祉社会学Ⅰ」「地域社会学」等
3. 現代社会の成り立ちと変化・変動を、歴史的・世界的な枠組みから捉え、近代化とポスト近代化、グローバル化とローカリティ、少子化人口減少社会と超高齢化、格差と社会的孤立、価値規範の多様化と生きづらさ等の社会現象を、それぞれの現象の関連性と異質性において理解することができる。
「社会の哲学」「社会学理論」「市民の政治学」「環境社会学」「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」「メディア社会学」「生活文化のエスノグラフィー」等
4. 【現場主義】を重視することで、実証的な方法を身につけ、データの収集とその精査、分析を通し、事実の認識力を高めることができる。
「社会調査入門」「調査研究法」「社会調査実習」「ソーシャル応用実習」「データ分析論」「社会統計学」「多変量解析論」等
5. 混迷する社会に対し、21世紀を構想するビジョンを持ち、問題の解決に向けた具体的な提案をすることができる。
「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「卒業論文」等
6. 【フィールドワーク】【現場体験】【プレゼンテーション】等を通じて、他者と協働することにより、チームワークの重要性を認識することができるようになり、そのことにより、物事を進めるためのコミュニケーション能力を身につけることができる。
「コミュニケーション・スキル」等

[社会学専攻]

- ①社会学的想像力が身につく。

社会学的想像力によって、従来の常識や枠組みにとらわれずに、できるかぎり全体社会とのつながりのなかで、日常世界を理解できるようになる。

「労働とグローバル化の社会学」「福祉社会学Ⅰ・Ⅱ」「市民の政治学」「社会階層と教育の社会学」等

②【新しい社会】の仕組みを構想できる力が身につく。

社会の仕組みをどのように変えていけばよいのか、構想・デザインできるようになる。

「社会構想学」「教育問題と学校の社会学」「社会の哲学」「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」等

③コミュニケーション能力が身につく。

諸問題の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、IT やメディアも活用できる。

「メディア社会学」「地域メディアの社会学」「教育問題と学校の社会学」「社会階層と教育の社会学」等

[コミュニティ学専攻]

①現場で経験・調査し、考察・実践する力を醸成できる。

「コミュニティ学演習」「コミュニティ調査法」等

②社会学アプローチ及び心理学的アプローチの二つのコミュニティ調査手法の学びを通して、情報の収集・分析力、企画力、プレゼンテーション力等を高めることができる。

「地域社会学」「家族社会学」「コミュニティ心理学」「人間関係の心理学」等

③社会貢献活動への参加を通して、具体的なコミュニティの課題を解決する実践的能力と感性を磨くことができる。

「社会調査論」「データ分析論」「社会調査実習」等

[社会福祉学専攻]

①社会福祉学専攻では、フィールドワークを重視し、専攻の基礎科目である「現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ」や「ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ」等の科目を通じて理論と実践を融合する力を身につけることができます。なかでも、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」や「ソーシャルワーク実習」といった資格課程に設置された実習・演習教育を通して、福祉専門職としての力を身につけることができます。さらに、基幹科目、展開科目にある「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ」「障害者福祉論」「児童福祉論」等の社会福祉士国家試験受験資格科目の履修を通して、国家資格の取得を目指します。

②基幹科目の「ソーシャルワーク論Ⅲ・Ⅳ」「地域福祉論Ⅰ」「ソーシャルワーク応用実習」等を通して、地域という現場において、つながりあい、協働する関係を創造する力を身につけることができます。(共生のための新しいつながりを創り、主体性を育む力を身につけることができます。)

③「地域福祉論Ⅱ」「就労支援論」「生活保護と生活支援」「医療福祉論」といった他分野、

他職種との連携やチームワークが求められる分野に関する知識を深め、「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」等を通して、仕事を遂行していくためのチームリーダー力やチームワークを推進していくためのフォローアップ力を身につけることができます。（社会に貢献するチームワーク力を身につけることができます。）

[国際文化専攻]

- ①文化人類学を基礎とし、人間の営みを「文化」という点から理解できる。「文化」という営みを中心に捉えつつ、新たなつながりを創出できる。

「文化人類学入門」「文化人類学方法論」「生活文化のエスノグラフィー」「モノと人のエスノグラフィー」「市民社会のエスノグラフィー」「文化人類学特講」「社会人類学特講」「宗教人類学特講」

- ②モノへのまなざしを身につける。モノの先にあるひとの暮らしを理解できる。

「博物館概論」「博物館と英語」「博物館教育論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館展示論」「海外博物館研修」

- ③フィールドワークを通して、現代社会の諸問題を具体的に理解し、説明できる。さまざまな文化をつなぐことができる。

「国際理解教育Ⅰ・Ⅱ」「グローバル市民論」「文献学と英語」「海外短期研修（海外フィールドワーク）」

社会学専攻 カリキュラムマップ

科目区分	開講科目名	社会に生じる諸現象に関心を持ち、諸現象の中から社会的な問題を発見し、分析し、適切なアプローチ方法を構築し、実践していくことができる。	社会を形成する人びとの営みを「市民」という視点で捉え、近代的な視点から捉え、近代化とポスト近代化、グローバル化とローカル化、少子化人口減少社会と超高齢化、格差と社会的孤立、価値規範の多様化と生きづらさ等の社会現象を、それぞれの現象の関連性と異質性において分析、考察することができる。	「現場主義」を重視することにより、実証的な方法と行動力を身につけ、データの取捨とその精選、分析を深し、事案への理解力を向上させることができる。	選定する社会に対し、21世紀を構想するビジョンを持ち、問題の解決に向けた具体的な提案をし、実行に移す自信を醸成することができる。	「フィールドワーク」「現場体験」「プレゼンテーション」等を通して、他者と協働することにより、チームワークの重要性を認識することができるようになる。すなわち他者との協働を円滑にしていけるようになる。そのことにより他者とのコミュニケーション能力を身につけることができる。	社会的想像力を身につけている。社会的想像力によって、従来の常識や枠組にとらわれずに、できるかぎり全体社会とのつながりのなかで、日常世界を理解できるようにになる。	「新しい社会」の仕組みを構想できる力を身につけている。構想の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、IT やメディアも活用できる。	コミュニケーション能力を身につけている。構想の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、IT やメディアも活用できる。	
基礎科目	必 キャリア構想レクチャー	○	○	○	○	○			○	
	必 キャリアデザイン	○		○	○	○			○	
	必 コミュニケーション・スキル				○	○	○		○	
	必 社会学入門	○		○		○		○		
	必 現代社会学	○	○	○		○		○		
	必 教育問題と学校の社会学	○							○	
	必 メディア社会学	○	○					○	○	
	選(修) 生涯学習論 I	○	○	○		○				
	選(修) コミュニティ心理学	○	○			○				
	選(修) ボランティア論	○	○			○			○	
	選 現代社会と福祉 I	○	○	○						
	選 文化人類学入門	○		○			○		○	
	選 文化人類学方法論	○		○			○			
	選 博物館概論	○		○			○			
	必 社会調査入門	○		○		○			○	
	選(修) 社会調査論	○		○		○			○	
	専門科目	必 キャリア構想ケーススタディ I	○	○	○	○	○			○
		必 社会構想学				○	○	○	○	○
		選 社会の哲学	○	○			○		○	
		選 社会学理論	○	○	○		○		○	
		選 臨床社会学	○	○	○		○		○	
		選 労働とグローバル化の社会学	○	○	○		○		○	
		選 福祉社会学 I	○				○	○		○
		選 ジェンダーの社会学	○	○	○		○		○	
		選(修) 人間形成論	○	○	○		○		○	
選 社会階層と教育の社会学		○	○	○		○		○		
選 マスコミの社会学		○	○		○		○		○	
選 社会関係論		○		○		○	○		○	
選(修) 人間関係の心理学		○		○						
選 地域社会学		○	○	○		○	○	○	○	
選(修) 家族社会学		○			○				○	
選 データ分析論						○	○			
選 社会統計学						○	○			
選(修) 社会保障論 I		○	○			○		○		
選 高齢者福祉論 I		○				○		○		
選 児童福祉論		○				○		○		
選 障害者福祉論		○	○	○		○		○		
選 地域福祉論 I		○	○	○		○		○		
選 伝承文化論		○	○	○						
選 文化人類学特講		○	○	○						
選 宗教人類学特講		○	○	○						
選 社会人類学特講		○	○	○						
選 国際理解教育 I		○				○	○		○	
選 国際理解教育 II		○				○	○		○	
選 グローバル市民論		○				○	○		○	
応用科目		必 キャリア構想ケーススタディ II	○		○		○			○
		必 キャリア構想実践研究	○		○		○			○
		選 生涯学習論 II	○	○	○		○			
		選 生きることの社会学	○	○	○		○		○	
		選 コミュニケーションと自己の社会学	○	○		○				○
		選 青少年問題の社会学	○	○	○		○			
		選 福祉社会学 II	○	○	○		○		○	
		選 広告論	○	○	○			○		○
		選 地域メディアの社会学	○	○	○			○		○
		選 ポピュラー音楽論	○					○		
		選 出版メディア技法	○				○	○		
		選 映像メディア技法	○				○	○		○
		選 メディア特論	○				○	○		○
		選 音声メディア技法	○				○	○		○
		選 イベントプロデュース論	○		○			○		○
		選 現代ファッション論	○	○	○			○		
	選 市民の政治学	○	○	○		○				
	選 社会心理学	○	○	○			○			
	選 社会意識論	○	○	○			○			
	選 結婚と家族の社会学	○	○	○		○			○	
	選 発達心理学	○					○			
	選 臨床発達援助論	○			○		○			
	選(修) 環境社会学	○		○		○				
	選 ウェルビーイングの社会学	○	○	○		○		○		
	選 障害学	○				○				
	選 臨床心理学	○			○		○			
	選 健康心理学	○			○		○			
	選 ウェルビーイングの心理学	○			○		○			
	選 多変量解析論						○			
	選 質的調査法						○			
	選 調査研究法	○					○		○	
	選 コミュニティ調査法		○	○		○	○		○	
	選 社会調査実習	○	○	○		○	○		○	
	選 地域文化の社会学	○	○	○			○		○	
	選 社会保障論 II	○	○	○		○			○	
	選 高齢者福祉論 II	○	○	○		○			○	
	選 就労支援論	○	○	○		○			○	
	選 地域福祉論 II	○	○	○		○			○	
	選 生活保護と生活支援	○	○	○		○			○	
	選 医療福祉論	○	○	○		○			○	
	選 モノと人のエスノグラフィー	○	○	○			○		○	
	選 生活文化のエスノグラフィー	○	○	○			○		○	
	選 多文化社会論	○	○	○		○			○	
	選 観光文化論	○	○	○			○		○	
	選 市民社会のエスノグラフィー	○	○	○			○		○	
選 多文化共生フィールドワーク	○	○	○	○	○	○		○		
選 インターンシップ	○	○	○	○	○	○		○		
選 海外留学科目	○	○	○	○	○	○		○		
演習	必 演習 I	○	○	○	○	○	○	○	○	
	必 演習 II	○	○	○	○	○	○	○	○	
	必 演習 III	○	○	○	○	○	○	○	○	
	必 演習 IV	○	○	○	○	○	○	○	○	
	必 演習 V	○	○	○	○	○	○	○	○	
	選(修) 卒業論文	○	○	○	○	○	○	○	○	
	選 海外語学演習	○		○		○		○	○	
	共通専門基礎科目	選 日本史概説	○	○	○	○	○			○
		選 西洋史概説	○	○	○	○	○			○
		選 東洋史概説	○	○	○	○	○			○
選 哲学概説		○	○	○	○	○			○	
選 自然地理学		○	○	○	○	○			○	
選 地誌	○	○	○	○	○			○		

社会福祉学専攻 カリキュラムマップ

科目区分	開講科目名	社会福祉学専攻 カリキュラムマップ													
		社会に生じる諸現象に 関心をもち、諸現象 の中から社会的な問題 を見出し、分析的、適 切なアプローチ方法を 構築し、実践していく ことができる。	社会を形成する人びと の営みを「市民」とい う視点で捉え、近代 化とポスト近代化、グロ ーバル化とローカルティ、少 子化人口減少社会と超高 齢化、格差と社会的孤立、 価値観の多様化と生きづ らさ等の社会現象を、それ ぞれの現象の関連性と真 実性において分析、考察 することができる。	現代社会の成り立ちと家 化・寛政を、歴史的・世界 的な枠組みから捉え、近 代化とポスト近代化、グロ ーバル化とローカルティ、少 子化人口減少社会と超高 齢化、格差と社会的孤立、 価値観の多様化と生きづ らさ等の社会現象を、それ ぞれの現象の関連性と真 実性において分析、考察 することができる。	「価値主義」を重視するこ とにより、実践的方法と行 動力を身につけ、データ の取集とその精査、分 析を通して、事実への臨 場力を向上させることが できる。	迅速化する社会に対し、21 世紀を担う若者を育む ために、問題の解決に向け た具体的な提案をし、 実行に移す自信を醸成 することができる。	「フィールドワーク」「現場 体験」「プレゼンテーション」 等を通して、他者と協働 することにより、 チームワークの重要性を 認識することができるよ うになる。すなわち他 者との協働を円滑にし ていく力を醸成するこ とができる。	フィールドワークを重視し、 理論と実践を融合する 力を身につけている。 実習、演習教育を主 眼とし、福祉専門職 としての力を身につ けている。社会福祉 士国家資格取得 のために必要な力 を身につけている。	共生のための新しい つながりを創出し、 地域という現場にお いて、つながりあ い、共同する関 係を創造する力を 身につけている。	社会に貢献する チームワークを 身につけている。 チームリーダー やチームワーク を推進していく ためのフォロー アップ力を身に つけている。					
基礎科目	必	キャリア構想レクチャー	○		○	○		○					○		
	必	キャリアデザイン	○		○	○		○					○		
	必	コミュニケーションスキル	○		○	○		○					○		
	必	社会学入門	○		○		○								
	必	現代社会学	○	○	○		○								
	選択	教育問題と学校の社会学	○												
	選択	メディア社会学	○	○											
	選択	生涯学習論 I	○	○	○			○							
	選択(准)	コミュニティ心理学	○	○				○							
	選択(准)	ボランティア論	○	○				○							
	必	現代社会と福祉 I	○	○	○							○			
	必	現代社会と福祉 II	○	○	○										
	必	ソーシャルワーク論 I	○	○	○		○						○	○	
	必	ソーシャルワーク論 II	○	○	○		○						○	○	
	選択	文化人類学入門	○	○	○		○					○			
	選択	文化人類学方法論	○	○	○		○					○			
	選択	博物館概論	○	○	○		○					○			
	選択	社会調査入門	○	○	○		○					○			
	選択	社会調査論	○	○	○		○					○			
	振替科目	必	キャリア構想ケーススタディ I	○		○	○		○						○
		必	社会構想学	○		○	○		○						○
		選択	社会の哲学	○	○				○						
		選択	社会学理論	○	○	○			○						
		選択(准)	臨床社会学	○	○				○						
		選択(准)	労働とグローバル化の社会学	○	○	○			○						
選択(准)		福祉社会学 I	○					○			○				
選択		ジェンダーの社会学	○	○	○			○							
選択		人間形成論	○	○	○			○							
選択		社会階層と教育の社会学	○	○	○			○							
選択(准)		マスコミの社会学	○	○			○				○				
選択		社会関係論	○	○	○			○							
選択		人間関係の心理学	○	○	○			○							
選択(准)		地域社会学	○	○				○			○				
選択		家族社会学	○	○			○				○				
選択		データ分析論	○					○			○				
選択		社会統計学	○					○			○				
選択		社会保険論 I	○	○	○			○			○		○		
選択		ソーシャルワーク論 III	○	○	○			○			○		○	○	
選択		ソーシャルワーク論 IV	○	○	○			○			○		○	○	
選択		高齢者福祉論 I	○	○	○			○			○		○		
選択		児童福祉論	○	○	○			○			○		○		
選択		障害者福祉論	○	○	○			○			○		○	○	
選択		地域福祉論 I	○	○	○			○			○		○	○	
選択		伝承文化論	○	○	○			○			○		○	○	
選択		文化人類学特講	○	○	○			○			○		○	○	
選択		宗教人類学特講	○	○	○			○			○		○	○	
選択		社会人類学特講	○	○	○			○			○		○	○	
選択		国際理解教育 I	○	○	○			○		○			○	○	
選択		国際理解教育 II	○	○	○			○		○			○	○	
選択		グローバル市民論	○	○	○			○		○			○	○	
演習		必	キャリア構想ケーススタディ II	○		○	○		○						○
		必	キャリア構想実践研究	○		○	○		○						○
		選択	生涯学習論 II	○	○	○			○						
		選択	生きることの社会学	○	○	○			○						
		選択	コミュニケーションと自己の社会学	○	○	○		○							
		選択(准)	青少年問題の社会学	○	○	○			○						
		選択(准)	福祉社会学 II	○	○	○			○				○		
		選択	広告論	○	○	○			○						
		選択	地域メディアの社会学	○	○	○		○			○				○
		選択	ポピュラー音楽論	○	○	○			○						
		選択	出版メディア技法	○	○	○			○						
		選択	メディア特論	○	○	○			○						
		選択	イベントプロデュース論	○	○	○		○							
		選択	現代ファッション論	○	○	○			○						
	選択(准)	市民の政治学	○	○	○			○							
	選択(准)	社会心理学	○	○	○			○							
	選択	社会意識論	○	○	○			○							
	選択	結婚と家族の社会学	○	○	○			○							
	選択	発達心理学	○	○	○			○							
	選択(准)	臨床発達援助論	○	○	○			○			○				
	選択(准)	環境社会学	○	○	○			○							
	選択(准)	ウェルビーイングの社会学	○	○	○			○							
	選択(准)	障害学	○	○	○			○				○			
	選択	臨床心理学	○	○	○			○			○			○	
	選択	健康心理学	○	○	○			○			○				
	選択(准)	ウェルビーイングの心理学	○	○	○			○			○				
	選択	多変量解析論	○	○	○			○			○				
	選択	質的調査法	○	○	○			○			○				
	選択	地域文化の社会学	○	○	○			○			○				
	選択	社会保険論 II	○	○	○			○							
	選択	高齢者福祉論 II	○	○	○			○			○		○		
	選択	就労支援論	○	○	○			○			○		○		
	選択	地域福祉論 II	○	○	○			○			○		○		
	選択	生活保護と生活支援	○	○	○			○			○		○		
	選択	医療福祉論	○	○	○			○			○		○		
	選択	ソーシャルワーク応用実習	○	○	○		○			○		○	○	○	
	選択	ソーシャルワーク応用実習指導	○	○	○		○			○		○	○	○	
	選択	モノと人のエスノグラフィ	○	○	○			○							
	選択	生活文化のエスノグラフィ	○	○	○			○							
	選択(准)	多文化社会学	○	○	○			○							
	選択(准)	観光文化論	○	○	○			○							
	選択	市民社会のエスノグラフィ	○	○	○			○							
	選択	多文化共生フィールドワーク	○	○	○		○			○					
	選択	インターンシップ	○	○	○		○			○					
	選択	海外留学科目	○	○	○			○							
共通専門基礎科目	必	演習 I	○	○	○		○			○		○	○		
	必	演習 II	○	○	○		○			○		○	○		
	必	演習 III	○	○	○		○			○		○	○		
	必	演習 IV	○	○	○		○			○		○	○		
	必	演習 V	○	○	○		○			○		○	○		
	選択(准)	卒業論文	○	○	○		○			○		○	○		
	選択	海外語学演習	○	○	○		○			○		○	○		
	選択	日本史概説	○	○	○		○			○					
	選択	西洋史概説	○	○	○		○			○					
	選択	東洋史概説	○	○	○		○			○					
選択	哲学概説	○	○	○		○			○						
選択	自然地理学	○	○	○		○			○						
選択	地誌	○	○	○		○			○						

現代社会学部現代社会学科 入学者受入れの方針

現代社会学部現代社会学科は、「中京大学の建学の精神」「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を広く求めています。多様な能力・個性をもった人たちに入学してもらうために、知識・技能以外に、思考力・表現力・判断力を重視するといった、評価の観点異なる、複数の入り口を用意しています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

[知識・技能]

現代社会学部での学びは、人々の営みを真正面から見つめ、そこに潜む問題を発見し、掘り起し、その原因を分析・追究し、解決を目指すものです。それゆえ、扱うテーマは広範囲に及んでいます。環境、福祉、心理、グローバリゼーション、文化、メディア、コミュニティ、家族、教育等多彩です。このようなテーマに向き合うためには、広い視野と知識が求められるため、高等学校段階において基本となる教科をしっかりと学習しておくことが大切です。

特に、現代社会学部の教育課程を通じた学びに関連しては、高等学校段階において、次のような学習をすすめておくことが望まれます。

- ・ 「社会」をテーマに学修をすすめるわけですから、その成り立ちや仕組みに関する理解が必要です。そのため、日本のみならず世界の地理・歴史や政治経済に関する基本的な知識は不可欠です。
- ・ 社会は他者との関係において形成されるものであり、それを学ぶためには他者とのコミュニケーションなしでは成り立ちません。そのため、「読む・書く・話す・聞く」国語力が必須ですし、場合により対象とするフィールドは世界の各地にも及びますから、それぞれの国、地域の言語への興味を持つことが望まれます。そして多くの場合の共通言語としての英語力が必要になります。

[思考力・判断力・表現力等]

社会学では、社会学と関連領域の理論を理解するとともに、社会現象を理論にもとづいて分析したり、社会に関するデータを収集・分析したりするための、論理的・数理的思考

力が要求されます。また、未来の社会のあり方を構想するために、多くの情報を総合・検証する判断力や想像力も必要です。さらに、プレゼンテーションなどを通じて、事実を報告したり提案を行ったりするための表現力、仕事を進めるためのチームワークを作り維持する能力等も求められます。こうした能力は、推薦入試や特別入試では特に重視されます。

〔意欲・態度〕

現代社会学部では、自立した個人（市民）が孤立することなく社会の中で共生するためのしくみ（公共性）と様々に生起する問題事象に対する行動（ボランティア）を教育の軸としています。授業は座学を基礎としつつも、フィールドワーク、現場体験、プレゼンテーション等の実践系の科目を重視しており、自らが行動すること（フットワーク）が求められます。具体的には、以下のような意欲や態度を有していることが望まれます。

- ・ 現代社会と人間に対する興味や好奇心を持つことと持ち続けること。
- ・ 21世紀社会において生起する諸課題に対する問題意識と、それらに果敢に立ち向かう気概・勇気を持つこと。
- ・ 現代社会で起きている諸問題への深い関心と、課題究明のために尽力するフットワークがあること。
- ・ 主体的・積極的に他者との関わりを持つことができること。

具体的には、各種入学試験要項において、出願資格及び試験科目を指定することにより、高等学校段階までに学ぶべき事項や修得しておくべき資格等を示しています。

		前期・後期日程	推薦入試				グローバル特別	特別入試
		A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎学力 型)	一芸一能推 薦 (特I推 薦)	指定校推薦 (特II推 薦)	附属校 併設校 推薦		帰国生徒 留学生 社会人
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	○ 志望理 由書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク（協働）をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

法学部法律学科 学位授与の方針

法学部法律学科は、所定の課程を修め、かつ具体的に下記の6つの学修成果をあげた者に対して、学士(法学)を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる。
2. 法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題領域において法学的発想をすることができる。
3. 法学的思考力を身につけることにより、様々な物事を論理的、批判的、客観的、かつ公平に自らの頭で考えることができる。
4. 法学的思考方法に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる
5. 法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得することができる。
6. 法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる。

法学部法律学科 教育課程編成・実施の方針

法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する教育研究を行う学部であり、建学の精神における四大綱の「ルールを守る」人物を育成するという目的を達成するために最も相応しい学部です。

法学部法律学科は、「教育研究上の目的（理念・目的）」に掲げたとおり、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を教育研究上の目的としています。

I. 教育課程の編成の二本柱

法学部は、以上の教育研究上の目的を達成するため、「全学共通科目」と「学部固有科目」を大きな柱として、教育課程（＝カリキュラム）を編成しています。

1. 「全学共通科目」

「全学共通科目」は、教養的知識を提供することにより、法学部生が、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を培うことを目的とする科目群です。

2. 「学部固有科目」

「学部固有科目」は、法学部が、法学（法律学及び政治学）に関する専門的知識を提供することにより、法学部生が、社会の変化や文化の発展に対応しつつ、既存又は新規の課題発見能力及び解決能力を身につけることができるようになることを目的とする科目群です。

II. 「学部固有科目」の構成と特色

1. コース区分・履修モデル

法学部の専門教育課程では、学生自身の興味や将来の目的・進路に応じて多彩な専門的科目を合理的かつ体系的に学ぶことができるように、また、特に、1年生が自ら4年間の学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように、さらに、学生のキャリア形成に

資するように、以下の三つのコースを設置し、各コースに履修モデルを提示しています。学生は、2年次履修登録の際にコースを決定・登録し、3年次履修登録の際に、コースを変更することができます。

☆. 「法律コース」

★. 「国家公務員（総合職）・ロースクール進学モデル」

★. 「国家公務員（一般職・専門職）・地方公務員（上級）モデル」

★. 「警察官・消防士モデル」

☆. 「企業コース」

★. 「民間企業就職モデル」

☆. 「政治コース」

★. 「教員・公務員モデル」

★. 「NPO職員・議員秘書モデル」

2. 「学部固有科目」の構成

(1). 「必修科目」

1年次に配当されています。「法学・憲法の基礎」は、「専門科目」のうち「基幹科目」・「展開科目」を受講するための基礎を身につけるための初年次教育科目です。また、「キャリア形成の基礎」は、将来目標とする職業に就いて理想的な社会人生活を送るためのキャリア教育科目です。

(2). 「専門科目」

「専門科目」は、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」から構成されています。DPに掲げた学修成果との関連性は以下のとおりです。

①. 「基礎科目」

DPに掲げた6つの学修成果のうち、主に、「1. 法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる」ことを目的とする科目で、主に、1年次に配当されています。

②. 「基幹科目」

DPに掲げた6つの学修成果のうち、主に、「2. 法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題領域において法学的発想をすることができる」こと及び「3. 法学的思考力を身につけることにより、様々な物事を論理的、批判的、客観的、かつ公平に自らの頭で考えることができる」ことを目的とする科目で、主に、2年次に配当されています。

③. 「展開科目」

DPに掲げた6つの学修成果のうち、「4. 法学的思考方法に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる」、「5. 法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得するこ

とができる」及び「6. 法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる」ことを目的とした科目で、主に、3年次・4年次に配当されています。

(3). 「関連科目」

「経済」・「経営」は、法学と密接に関係しているため、法学をより深く理解するために、履修することが強く推奨されます。また、「実践科目」として、初年次教育としての一環としての「日本語リテラシー」と「情報リテラシー」(1年次配当)、キャリア教育の一環としての「インターンシップ」(3年次配当)が設けられています。さらに、総合大学としてのスケールメリットを活かし、各自の興味により学部横断的に異分野の科目を履修することにより、幅広く学修を進めることができます。

3. 特色ある専門科目

①. 「入門科目」

講義科目として「民法入門」、「刑事法入門」、「政治学入門」が設けられており、法学の専門知識を修得していくための導入教育として位置付けられています。

②. 「入門演習」

1年次に配当されていて、大学教育における能動的・主体的な学修への円滑な移行を助けるための導入教育として位置付けられています。また、2年次配当の「基本演習」、3年次配当の「専門演習Ⅰ」、4年次配当の「専門演習Ⅱ」と履修することにより、4年間継続してゼミナールに所属できることが本学部の特長です。

③. 「特別テーマ講義」

法学に関する体系的学修を行う科目群と並行して、その時々の時勢において求められる特別な専門知識や実務能力を身につけるために設けられた科目です。各講義にはそれぞれに固有のテーマが設定され、そのテーマに沿った授業が展開されます。

☆. 「法実践プログラム」

実務家による講義・演習で「使える場を意識した」法学教育の実現を目標とする科目です。「講義科目」としての「法実践講義」、「演習科目」としての「法実践演習」があります。

4. 授業の方法

①. 講義

教員が、独自に、予め公表した「授業計画(シラバス)」と「学修到達目標」に基づいて、授業を展開しています。

通常の口頭による授業では、以下の点に留意して、授業しています。

(i) よく聞き取れる声

(ii) 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材の効果的な使用

(iii) 学生の理解度やレベルへの配慮

(iv) 授業内容と学修目標の適切な対応

(v) 新しい知識、技術、能力の修得

②. 演習（ゼミナール）

少人数の学生を対象に、学生と教員、学生と学生が、お互いにディスカッション・ディベートにより双方向的な質疑討論を行わせて、研究を進め、知識を修得していく授業形態です。

5. 学修成果の評価

教員が、独自に、DP に掲げた学修目標の到達を的確かつ適切に評価する方法（定期試験、レポート、確認テスト、平常点等）を考え、その方法に基づいて、厳正な成績評価を行っています。

法学部法律学科 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	法学部の学修成果との関連 (○関連する)					
				1) 法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる。	2) 法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題領域において法学的発想をすることができる。	3) 法学的思考力を身につけることにより、様々な物事を論理的、批判的、客観的、かつ公平に自らの頭で考えることができる。	4) 法学的思考方法に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる。	5) 法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得することができる。	6) 法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる。
1	基礎科目	法学・憲法の基礎	1年	○		○		○	○
2	基礎科目	政治学入門	1年	○		○			
3	基礎科目	民法入門	1年	○		○			
4	基礎科目	刑事法入門	1年	○		○			
5	基礎科目	入門演習	1年	○		○	○	○	○
6	基幹科目	憲法ⅠA	1年	○	○	○	○		
7	基幹科目	憲法ⅠB	2年	○	○	○	○		
8	基幹科目	民法ⅠA	1年	○		○	○		
9	基幹科目	民法ⅠB	2年	○		○	○		
10	基幹科目	刑法ⅠA	2年	○	○	○	○		
11	基幹科目	刑法ⅠB	2年	○	○	○	○		
12	基幹科目	政治学原論A	1年	○	○	○			
13	基幹科目	政治学原論B	2年	○	○	○			
14	基幹科目	基本演習	2年	○		○	○	○	○
15	基幹科目	専門演習Ⅰ	3年		○	○	○	○	○
16	基幹科目	専門演習Ⅱ	4年		○	○	○	○	○
17	展開科目	憲法ⅡA	2年	○	○	○	○		
18	展開科目	憲法ⅡB	2年	○	○	○	○		
19	展開科目	行政法ⅠA	3-4年		○	○	○		
20	展開科目	行政法ⅠB	3-4年		○	○	○		
21	展開科目	行政法ⅡA	3-4年		○	○	○		
22	展開科目	行政法ⅡB	3-4年		○	○	○		
23	展開科目	租税法A	3-4年		○	○	○		
24	展開科目	租税法B	3-4年		○	○	○		
25	展開科目	民法ⅡA	2年	○	○	○	○		
26	展開科目	民法ⅡB	3年	○	○	○	○		
27	展開科目	民法ⅢA	2年	○	○	○	○		
28	展開科目	民法ⅢB	2年	○	○	○	○		
29	展開科目	民法ⅣA	3年	○	○	○	○		
30	展開科目	民法ⅣB	3年	○	○	○	○		
31	展開科目	民法ⅤA	3年	○	○	○	○		
32	展開科目	民法ⅤB	3年	○	○	○	○		
33	展開科目	刑法ⅡA	2年	○	○	○	○		
34	展開科目	刑法ⅡB	3年	○	○	○	○		
35	展開科目	刑事訴訟法A	3年	○	○	○	○		
36	展開科目	刑事訴訟法B	3年	○	○	○	○		
37	展開科目	刑事学A	3年		○	○	○		
38	展開科目	刑事学B	3年		○	○	○		
39	展開科目	商法ⅠA	2年	○	○	○	○		
40	展開科目	商法ⅠB	2年	○	○	○	○		
41	展開科目	商法ⅡA	3-4年	○	○	○	○		
42	展開科目	商法ⅡB	3-4年	○	○	○	○		
43	展開科目	商法ⅢA	3-4年		○	○	○		
44	展開科目	商法ⅢB	3-4年		○	○	○		
45	展開科目	商法Ⅳ	3-4年		○	○	○		
46	展開科目	商法Ⅴ	3-4年		○	○	○		
47	展開科目	経済法A	3-4年		○	○	○		
48	展開科目	経済法B	3-4年		○	○	○		
49	展開科目	知的財産法	3-4年		○	○	○		
50	展開科目	民事訴訟法ⅠA	3-4年	○	○	○	○		
51	展開科目	民事訴訟法ⅠB	3-4年	○	○	○	○		
52	展開科目	民事訴訟法ⅡA	3-4年		○	○	○		
53	展開科目	民事訴訟法ⅡB	3-4年		○	○	○		
54	展開科目	労働法A	3-4年		○	○	○		
55	展開科目	労働法B	3-4年		○	○	○		
56	展開科目	社会保障法A	3-4年		○	○	○		
57	展開科目	社会保障法B	3-4年		○	○	○		
58	展開科目	法哲学A	3-4年		○	○	○		
59	展開科目	法哲学B	3-4年		○	○	○		
60	展開科目	法史学A	3-4年		○	○	○		
61	展開科目	法史学B	3-4年		○	○	○		
62	展開科目	比較法A	3-4年		○	○	○		
63	展開科目	比較法B	3-4年		○	○	○		
64	展開科目	国際政治A	2年	○	○	○	○		
65	展開科目	国際政治B	2年	○	○	○	○		
66	展開科目	国際法A	3-4年		○	○	○		
67	展開科目	国際法B	3-4年		○	○	○		
68	展開科目	国際経済論A	3-4年		○	○	○		
69	展開科目	国際経済論B	3-4年		○	○	○		
70	展開科目	国際平和論A	3-4年		○	○	○		
71	展開科目	国際平和論B	3-4年		○	○	○		

72	展開科目	国際私法	3-4年		○	○	○		
73	展開科目	国際刑事法	3-4年		○	○	○		
74	展開科目	政治史A	2年	○	○	○	○		
75	展開科目	政治史B	2年	○	○	○	○		
76	展開科目	行政学A	2年	○	○	○	○		
77	展開科目	行政学B	2年	○	○	○	○		
78	展開科目	政治思想史A	3-4年		○	○	○		
79	展開科目	政治思想史B	3-4年		○	○	○		
80	展開科目	卒業論文	4年			○	○	○	○
81	展開科目	特別テーマ講義Ⅰ	1-4年	○	○	○	○		
82	展開科目	特別テーマ講義Ⅱ	1-4年	○	○	○	○		
83	展開科目	特別テーマ講義Ⅲ	1-4年	○	○	○	○		
84	展開科目	特別テーマ講義Ⅳ	1-4年	○	○	○	○		
85	展開科目	特別テーマ講義Ⅴ	1-4年	○	○	○	○		
86	展開科目	特別テーマ講義Ⅵ	1-4年	○	○	○	○		
87	展開科目	特別テーマ講義Ⅶ	1-4年	○	○	○	○		
88	展開科目	特別テーマ講義Ⅷ	1-4年	○	○	○	○		
89	展開科目	法実践講義Ⅰ-1	2年	○	○	○	○		○
90	展開科目	法実践講義Ⅰ-2	2年	○	○	○	○		○
91	展開科目	法実践講義Ⅰ-3	2年	○	○	○	○		○
92	展開科目	法実践講義Ⅱ-1	3-4年		○	○	○		○
93	展開科目	法実践講義Ⅱ-2	3-4年		○	○	○		○
94	展開科目	法実践演習Ⅰ-1	2年		○	○	○	○	○
95	展開科目	法実践演習Ⅰ-2	2年		○	○	○	○	○
96	展開科目	法実践演習Ⅱ-1	3-4年		○	○	○	○	○
97	展開科目	法実践演習Ⅱ-2	3-4年		○	○	○	○	○
98	展開科目	日本語リテラシー	1年	○		○	○	○	○
99	展開科目	キャリア形成の基礎	1年			○	○	○	○
100	展開科目	情報リテラシーⅠ	1年	○		○	○	○	
101	展開科目	情報リテラシーⅡ	1年	○		○	○	○	
102	展開科目	インターンシップ	3年			○	○	○	○
103	展開科目	経済原論A	2年	○	○	○	○		
104	展開科目	経済原論B	2年	○	○	○	○		
105	展開科目	財政学A	3年		○	○	○		
106	展開科目	財政学B	3年		○	○	○		
107	展開科目	会計学A	3年		○	○	○		
108	展開科目	会計学B	3年		○	○	○		
109	展開科目	短期海外演習	1-4年						○
110	展開科目	海外留学科目	2-4年						○
111	自由科目	地誌A	2年	○					
112	自由科目	地誌B	2年	○					
113	自由科目	自然地理学A	3年	○					
114	自由科目	自然地理学B	3年	○					

法学部法律学科 入学者受入れの方針

法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する専門知識、思考方法、問題発見及び問題解決能力を修得させるとともに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を行うことを教育研究上の目的としています。この目的を達するため、法学部法律学科が入学者に求める能力及び意欲は下記のとおりです。

<知識・技能>

- ・ 高等学校等において幅広い教科の科目を学び、法学を学ぶために必要な基礎学力を有していること。
- ・ 文章を正しく「読む・書く・話す」ことができ、法学に関する文献の講読、文書の作成及び意見や成果の発表等に当たって必要となる基本的な言語能力を有していること。

<思考力・判断力・表現力>

- ・ 物事を単なる感覚ではなく論理に基づいて考えることができ、さらに高い論理的思考力（法学的思考力）を身につけることが求められる法学学修の前提的素地を有していること。
- ・ 人の意見に流されず、自らの判断で物事を考え自分の意見を形成することができること。
- ・ 自らの考えを整理してわかりやすく他者に伝えることができ、それを大学における法学学修によって説得力や弁論能力の向上につなげていく素質を有していること。

<意欲・態度>

- ・ 学問としての法学に強い興味関心を抱いており、入学後に法学の専門的知識及び技能を身につけ、論理的思考力を向上させていくことに高い意欲を有していること。
- ・ 倫理観とバランス感覚をもって、主体的かつ能動的に法学の体系的学修に励み、他者と

協調しながら大学生活を送る姿勢が整っていること。

なお、法学部では、上記の入学者受け入れの方針に基づき、多様な学生を受け入れるべく、複数の入試区分を設けるとともに、下記の表のとおり入試区分ごとに重要視する評価要素に差を設けています。

	前期・後期日程	推薦入試		高大接続入試				グローバル特別	特別入試
	A・M・F センタープラス センター利用	特Ⅱ推薦	附属校 併設校 推薦	基礎力評価型			リーダーシップ 型		帰国生徒 留学生 社会人
				基礎学力 型	法学的 思考型	活動実績 型			
知識 技能	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	○ 調査書 推薦基準 で確認	○ 筆記試験 調査書 推薦基準 で確認	◎ 筆記試験 および 出願基準 調査書 で確認	◎ 筆記試験 および 出願基準 調査書 で確認	◎ 筆記試験 および 調査書・ 活動実績で 確認	◎ センター試験 で確認	◎ 筆記試験 調査書 推薦基準 で確認	○ 調査書 で確認
思考力 判断力 表現力	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	○ 志望理由書 当日の面接 で確認	◎ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 および グループディス カッション で確認	◎ 筆記試験 で確認	◎ グループディス カッション で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認
意欲 態度	△ 調査書 で確認	◎ 調査書 当日の面接 で確認	△ 調査書 で確認	○ 調査書 で確認	◎ グループディス カッション および 調査書 で確認	◎ 志望理由書 および 当日の面接 で確認	◎ グループディス カッション および 調査書 で確認	○ 志望理由書 当日の面接 で確認	○ 当日の面接 で確認

総合政策学部総合政策学科 学位授与の方針

総合政策学部総合政策学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（総合政策学）を授与します。

【学修成果（教育目標）】

1. 市民社会を構成する社会人として社会に関わり、社会の仕組みや動きについての基本的な知識を持ち、状況に応じて合理的な根拠に基づく判断をすることができる。
2. 集団や組織を運営するためのリーダーシップ及びチームワークに基づくマネジメント能力を身につけている。
3. 社会の諸問題に関する論理的思考力を身につけている。
4. 政治学・法律学・経済学・経営学を中心とした社会科学を多面的に学修し、さらにプロジェクト研究、社会人基礎力講座等において社会に関する諸問題を数量的スキルや情報リテラシーを用いて分析し、問題に取り組むための思考習慣を有している。

総合政策学部総合政策学科

教育課程編成・実施の方針

総合政策学部の教育研究上の目的に沿って政治学、法律学、経済学、経営学の各学問分野の基礎を総合的に学修し、複雑に絡み合う今日的な問題を基礎的・本質的側面から多面的に捉えることができるようになるために、以下に示す教育課程を編成・実施します。

1. 初年次教育：1年次に「アカデミック・スキルズ A、B」を講義形式にて開講し、課外に2年次からの「プロジェクト研究」選択の参考とすることを主目的とした教員とのコミュニケーションを図るオフィスラリーの機会を春・秋の両学期に実施することによって、高等学校から大学への円滑な移行を図る。
2. 教養教育：総合政策学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、教養的知識を供し、総合的な知を身につけることを目的とする「全学共通科目」により、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 専門教育：導入科目と展開科目に分類する。導入科目として「総合政策概論」、「政治学概論」、「法学概論」、「経済学概論」、「経営学概論」等の必修科目及び選択必修科目を講義形式にて配置する。展開科目として社会科学全般を幅広く学ぶ選択科目を講義形式にて配置することにより、諸問題に取り組むための思考習慣の涵養をさらに促す。そして、2年次からは「総合政策プロジェクト研究」や「社会人基礎力講座」等の演習科目によって、少人数授業でのディスカッション・ディベート・プレゼンテーションを通じた双方向型の授業によって能動的な学修を実施する。また、「総合政策特殊講義」によって、学外の講師による社会の多様な問題に対応するための学修を実施する。
4. キャリア教育：「キャリア・デザイン」、「キャリア・イングリッシュ」、「インターンシップ」等の科目を配置し、総合政策学部での学修をもとにしたキャリア形成教育を実施する。

小テスト、レポート、定期試験、プレゼンテーション等を通じて、これらの科目に対する成績評価の厳正化によって、上記についての最低限の資質・能力を検証します。

総合政策学部総合政策学科 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	総合政策学部の学修成果との関連 (○関連する)			
				1) 市民社会を構成する社会人として社会に関わり、社会の仕組みや動きについての基本的な知識をもち、状況に応じて合理的な根拠に基づく判断をすることができる。	2) 集団や組織を運営するためのリーダーシップ及びチームワークに基づくマネジメント能力を身につけている。	3) 社会の諸問題に関する論理的思考力を身につけている。	4) 政治学・法学・経済学・経営学を中心とした社会科学を多面的に学修し、さらにプロジェクト研究、社会人基礎力講座等において社会に関する諸問題を数量的スキルや情報リテラシーを用いて分析し、問題に取り組むための思考習慣を有している。
1	基礎科目	総合政策概論	1年	○		○	○
2	基礎科目	政治学概論	1年	○		○	○
3	基礎科目	法学概論	1年	○			○
4	基礎科目	経済学概論	1年	○		○	○
5	基礎科目	経営学概論	1年	○			○
6	基幹科目	近代日本政治外交史	1-4年				○
7	基幹科目	公共政策論	1-4年	○		○	○
8	基幹科目	行政学	2-4年	○			○
9	基幹科目	国際関係論	2-4年	○		○	
10	基幹科目	国際法	2-4年			○	○
11	基幹科目	マクロ経済学	1-4年	○		○	○
12	基幹科目	ミクロ経済学	2-4年	○		○	○
13	基幹科目	経営戦略論	2-4年	○			○
14	基幹科目	マーケティング論	1-4年			○	○
15	基幹科目	金融論	2-4年	○			○
16	展開科目	現代デモクラシー論	2-4年				○
17	展開科目	政治過程論	2-4年	○		○	○
18	展開科目	政策形成論	2-4年	○		○	○
19	展開科目	政策実施論	2-4年	○		○	○
20	展開科目	政策評価論	3-4年	○			○
21	展開科目	行政管理論	2-4年				○
22	展開科目	日本行政論	3-4年				○
23	展開科目	地方自治論	2-4年	○		○	○
24	展開科目	地方政治論	2-4年	○		○	○
25	展開科目	電子政府・自治体論	3-4年	○		○	○
26	展開科目	国際政治史	2-4年				○
27	展開科目	安全保障論	2-4年	○			○
28	展開科目	現代日本政治外交史	2-4年				○
29	展開科目	経済政策論	2-4年	○		○	○
30	展開科目	産業政策論	2-4年				○
31	展開科目	地域政策論	2-4年				○
32	展開科目	福祉政策論	3-4年	○		○	○
33	展開科目	労働政策論	3-4年			○	○
34	展開科目	環境政策論	3-4年			○	○
35	展開科目	流通政策論	2-4年	○			○
36	展開科目	消費者政策論	2-4年			○	○
37	展開科目	資源エネルギー政策論	3-4年				○
38	展開科目	憲法	2-4年				○
39	展開科目	民法	2-4年			○	○
40	展開科目	行政法	2-4年	○		○	○
41	展開科目	環境法	3-4年			○	○
42	展開科目	地方自治法	3-4年	○		○	○
43	展開科目	税法	3-4年	○			○
44	展開科目	商法	3-4年	○			○
45	展開科目	NPO/NGO論	3-4年	○			
46	展開科目	地域福祉論	3-4年	○		○	
47	展開科目	居住福祉と社会・生活	2-4年	○		○	
48	展開科目	居住福祉と住居	3-4年	○		○	
49	展開科目	居住計画論	2-4年	○			
50	展開科目	産業政策と環境問題	2-4年			○	○
51	展開科目	生活様式と産業発展	3-4年				○
52	展開科目	財政学	2-4年				○
53	展開科目	経済政策と日本経済	3-4年				○
54	展開科目	比較経済システム論	3-4年				○
55	展開科目	アジア経済論	2-4年				○

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	1) 市民社会を構成する社会人として社会に関わり、社会の仕組みや動きについての基本的な知識をもち、状況に応じて合理的な根拠に基づく判断をすることができる。	2) 集団や組織を運営するためのリーダーシップ及びチームワークに基づくマネジメント能力を身につけている。	3) 社会の諸問題に関する論理的思考力を身につけている。	4) 政治学・法学・経済学・経営学を中心とした社会科学を多面的に学修し、さらにプロジェクト研究、社会人基礎力講座等において社会に関する諸問題を数量的スキルや情報リテラシーを用いて分析し、問題に取り組むための思考習慣を有している。
56	展開科目	国際経営論	2-4年				○
57	展開科目	国際マーケティング論	2-4年				○
58	展開科目	非営利組織マーケティング論	3-4年	○			
59	展開科目	マーケティング戦略論	2-4年				○
60	展開科目	国際マーケティング戦略論	2-4年				○
61	展開科目	サービスマーケティング戦略論	2-4年	○			○
62	展開科目	人的資源管理論	3-4年	○			○
63	展開科目	オペレーションズ・マネジメント論	2-4年		○		○
64	展開科目	ブランドマネジメント論	3-4年				○
65	展開科目	日本の金融システムの諸課題	3-4年			○	○
66	展開科目	地域金融論	2-4年			○	○
67	展開科目	消費論	3-4年				○
68	展開科目	マスコミ論	3-4年				○
69	展開科目	広告論	2-4年				○
70	展開科目	流通論	2-4年	○			○
71	展開科目	小売業態論	2-4年	○			○
72	展開科目	電子商取引論	3-4年	○		○	
73	展開科目	ベンチャー企業論	3-4年				○
74	展開科目	会計学	2-4年				○
75	展開科目	簿記論	2-4年				○
76	展開科目	財務諸表論	3-4年				○
77	展開科目	キャッシュフロー会計論	3-4年				○
78	展開科目	総合政策特殊講義Ⅰ	3-4年			○	○
79	展開科目	総合政策特殊講義Ⅱ	3-4年	○			○
80	展開科目	総合政策特殊講義Ⅲ	3-4年	○			○
81	展開科目	産業観光論	3-4年	○			
82	展開科目	表現文化論	3-4年	○			
83	展開科目	文化政策論	3-4年	○			
84	展開科目	国土政策論	3-4年	○		○	
85	実践科目	キャリア・デザイン	1年	○		○	○
86	実践科目	アカデミック・スキルズA	1年				○
87	実践科目	キャリア・イングリッシュⅠ	1年	○			
88	実践科目	キャリア・イングリッシュⅡ	2年	○			
89	実践科目	キャリア・イングリッシュⅢ	2年	○			
90	実践科目	キャリア・イングリッシュⅣ	3-4年	○			
91	実践科目	アカデミック・スキルズB	1年			○	○
92	実践科目	社会調査論	2-4年			○	○
93	実践科目	データ解析入門	2-4年				○
94	実践科目	データ解析Ⅰ	2-4年				○
95	実践科目	データ解析Ⅱ	3-4年				○
96	実践科目	社会人基礎力講座公共編	2-4年		○	○	○
97	実践科目	社会人基礎力講座ビジネス編	2-4年		○	○	○
98	実践科目	ロジカル・シンキング	2年			○	○
99	実践科目	事例研究	2-4年	○	○	○	
100	実践科目	インターンシップⅠ	1-4年	○	○		
101	実践科目	インターンシップⅡ	1-4年	○	○		
102	実践科目	インターンシップⅢ	1-4年	○	○		
103	実践科目	課題研究	1-3年	○			○
104	実践科目	短期海外演習	1-3年	○		○	○
105	実践科目	海外留学科目	2-4年	○		○	○
106	プロジェクト研究	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	2年			○	○
107	プロジェクト研究	総合政策プロジェクト研究Ⅱ	2年			○	○
108	プロジェクト研究	総合政策プロジェクト研究Ⅲ	3年			○	○
109	プロジェクト研究	総合政策プロジェクト研究Ⅳ	3年			○	○
110	プロジェクト研究	総合政策プロジェクト研究Ⅴ	4年				○
111	プロジェクト研究	総合政策プロジェクト研究Ⅵ	4年				○
112	関連科目	日本史	2-4年	○			
113	関連科目	世界史	2-4年	○			

総合政策学部総合政策学科 入学者受入れの方針

総合政策学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定めた「教育研究上の目的(理念・目的)」に基づき、積極的に学修し、自らを高めていく意欲ある人を求めています。

総合政策学部は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような能力や意欲をもつ入学希望者を求めています。

- 高等学校での学びを通じて、政治学・法律学・経済学・経営学を中心とした社会科学の学修を可能とする幅広い知識を持ち備えている人。
- その思考習慣を涵養するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び論理的思考力を持ち備えている人。
- 正課内外を問わず様々な活動に参加し、主体性をもって様々な人々と協働して学んできた人。
- 新たな課題を発見し、それを解決するために考え、行動することができる人。
- 研究活動や課外活動、学生生活を通じて、これからの世の中で必要となる知識を身につけ、将来、社会の一員として大きく貢献する意志と意欲を持つ人。

入学前には、高等学校での各教科の幅広い学びを通じ、世界で起きている問題への意識や関心を高めしておくことが重要です。

入学者選抜において、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うかについては、以下の表のとおりです。

		前期・後期日程		推薦入試				グローバル特別	特別入試
		A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎学力 型)	一芸一能推 薦 (特Ⅰ推 薦)	指定校推薦 (特Ⅱ推 薦)	専門高校 特別推薦 (特Ⅲ推 薦)	附属校 併設校 推薦		帰国生徒 留学生 社会人
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、 基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資 格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことが でき、他者の考えを正確に理解し、自分の 考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 実績 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試 験 面接で 確認	○ 筆記試 験 (小論 文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探 究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをま とめ、相手に伝えることができる力がある か。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	○ 志望理 由書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試 験 (小論 文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な 活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク (協働)をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことが できたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけ ができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

経済学部経済学科 学位授与の方針

経済学部は、中京大学「学位授与の方針」で示された能力を身につけるとともに、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（経済学）を授与することとします。

1. 経済学の基本的な考え方や理論を理解できる。
2. 経済現象や経済の歴史・制度を分析的に考察できる。
3. 経済分析に必要な情報や経済データを選択・収集・処理できる。
4. 現実の経済における課題を発見・分析し、その結果を記述・表現できる。
5. 国際感覚及び教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる。
6. 様々な問題の解決に向けて、他者と協調し、リーダーシップを発揮して、主体的に行動できる。

経済学部経済学科 教育課程編成・実施の方針

経済学部では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

【カリキュラムの全体構成】

経済学部の教育課程は、「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、以下に示すカリキュラムの概念図のように、幅広く深い教養と総合的な判断力を養うことを目的とする「全学共通科目」と、専門的知識だけではなく、国際社会に通用する能力の育成を目指す「学部固有科目」から構成されます。

【全学共通科目の構成と特徴】

<全学共通科目の教育課程編成の方針を参照>

		1年		2年		3年		4年	
		第1セメ	第2セメ	第3セメ	第4セメ	第5セメ	第6セメ	第7セメ	第8セメ
全学共通科目		全学共通科目							
学部固有科目 (専門教育課程)	専門科目	共通科目							
		経済学関連科目							
				経済分析科目					
				政策科目					
				国際経済科目					
		演習科目			演習科目				
	ジェネリック・スキル科目	表現力科目							
		語学力科目							
		海外経験科目							
				EXP科目					

【学部固有科目の構成】

経済学部の専門教育課程の卒業要件単位は80単位であり、学部固有科目は、「専門科目」と「ジェネリック・スキル科目」から構成されます。「専門科目」は、基礎から、基幹、展開と段階的に専門性を積み上げるカリキュラムとなっており、経済の仕組みを正しく理解した上で、専門知識と理論を学修します。個々の科目は相互の関連性により、さらに「経済分析」「政策」「国際経済」の3つの科目群及び「共通科目」に分けられ、系統的な履修ができます。「ジェネリック・スキル科目」は、表現力、語学力、海外経験、EXP（エグゼクティブ・プログラム）からなり、経済の専門知識・理論を効果的に修得し、実践するための汎用な能力を養うことができます。

【科目群の構成】

各科目群は、カリキュラムマップ(別紙)に示す複数の科目によって構成され、各科目群では、主として以下の能力を身につけることを学修目標とします。

共通科目群	: 経済学の基本的な考え方や理論を理解する能力
経済学関連科目群	: 経済に関連する幅広い知識を学び広い視野で物事を捉える能力
経済分析科目群	: 経済データを選択・収集・処理し、分析的に考察する能力
政策科目群	: 経済現象、経済の歴史・制度、政策を分析的に考察する能力
国際経済科目群	: 国際的な経済現象とその課題を分析的に考察する能力
演習科目群	: 課題を発見し、他者と協調して、解決に向けて行動する能力
表現力科目群、語学力科目群	: 現象や思考を記述・表現することを通じて他者と協調する能力
海外経験科目群	: グローバルに経済現象を考える能力
EXP科目群	: リーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつける能力

【年次配当】

1年次においては、経済学の学修を始める上で必要とされる科目が配当されています。「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「入門ゼミ」「情報リテラシー」「日本語表現」は、必修科目(10単位)としてすべての学生が修得し、その他に1年次に学修しておくのが望ましい科目を選択必修科目として6単位以上修得します。2年次では、経済学の中心的な分野を集めた基幹科目の中から選択必修科目として20単位以上を修得します。3・4年次では、「経済分析」「政策」「国際経済」のそれぞれに関連する展開科目を中心に選択科目を履修します。また、2年次秋学期からは、少人数で個別の専門テーマを能動的に学修する「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を選択できます。

【履修モデル設定】

経済学部における専門教育課程のカリキュラムでは、体系的・整合的に学修を進められるように3つの履修モデル「経済分析モデル」「政策モデル」「国際経済モデル」を提示し、規範的な履修方法を示しています。これらのモデルは、専門的関心や将来の目標にあわせて、1年次から4年次まで専門科目とジェネリック・スキル科目を組み合わせた無理のない修得方法となるように設定されています。

【特徴的な科目】

経済学部の特設教育課程では、講義科目と演習科目を組み合わせた学修を勧めています。演習科目では、専門テーマに関する基礎的知識を定着させるとともに、課題解決に必要な方法を修得することで現実社会で必要とされる思考力、判断力及び表現力を有する人材の育成を目指しています。

語学力、表現力、海外経験及び資格等、すべての社会人に求められる汎用的なスキルを身につけるための科目をジェネリック・スキル科目として開講し、中でも EXP 科目は、企業幹部や上級公務員として能力を発揮しうる人材育成を目的としたキャリアプログラムであり、確かな就職に向け、学生一人ひとりに向き合ったきめ細かな支援を行っています。

【初年次教育】

初年次教育として、全ての学生が、「情報リテラシー」「日本語表現」「入門ゼミ」を必修科目として履修することになっています。「情報リテラシー」と「日本語表現」を履修することで、大学教育を受けるための基礎的知識と技術を修得することができます。「入門ゼミ」では、少人数クラス編成とし、経済学部での学修を円滑に行うためのスタディスキル及びアカデミックスキルの修得並びにプレゼンテーション力及びコミュニケーション力の育成を目指しています。

【成績評価】

各科目の授業は、シラバスで公表している授業概要と学修到達目標に基づいて行い、シラバスに明記されている方法・基準で厳格に評価を行います。

経済学部では、授業支援システムの活用と履修相談会の開催によって、各学生の学修の進捗状況を把握して適宜アドバイスを行う体制を整備し、学生が、カリキュラムと調和した学修を行えるように PDCA サイクルを意識したガイダンスを行います。

カリキュラムマップ(経済学部)

経済学部のカリキュラム				経済学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果 (この科目の学習後に得られる学習成果を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	1) 経済学の基本的な考え方や理論を理解できる	2) 経済現象や経済の歴史・制度を分析的に考察できる	3) 経済分析に必要な情報や経済データを適切に選択・収集・処理できる	4) 現実の経済における課題を発見・分析し、その結果を記述・表現できる	5) 国際感覚及び教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる	6) 様々な問題の解決に向けて、他者と協調し、リーダーシップを発揮して、主体的に行動できる
必修科目									
専門科目									
マクロ経済学入門	基礎科目 共通	1	マクロ経済学の基礎理論を習得し、一国経済全体の動きや活動について簡単な分析ができる。	◎	○	○	△		
ミクロ経済学入門	基礎科目 共通	1	ミクロ経済学の基本である消費者行動、生産者行動、完全競争市場の概念が理解できる。	◎	○		△		
入門ゼミ	基礎科目 演習	1	経済学を学ぶための基本的な作法: 文献・資料調査、レポート作成、発表、議論などができる。	○	○	○	○	○	◎
ジェネリクススキル科目									
日本語表現	基礎科目 表現力	1	文章を読みこなす力を養い、それを利用してレポートや論文の文章を自分で作成できる。				△	○	
情報リテラシー	基礎科目 表現力	1	基本的な情報リテラシーを使って学生生活や学修を効果的にすすめることができる。			○		◎	
選択必修科目									
専門科目									
経済と経済学の歩み	基幹科目 共通	1	市場経済と経済学の歴史について、基本的な事項を理解し、説明できる。	○	◎		△		
データから見た経済	基幹科目 共通	1	さまざまな経済データに関する知識を習得し、数値および図を用いて、経済の現状を要約できる。	○	○	○	○	○	
経済数学Ⅰ	基幹科目 共通	1	経済分析で不可欠の微分法および行列の初歩を理解し、応用できる。	◎		○	○	△	
経済数学Ⅱ	基幹科目 共通	1	制約条件付き最適化問題の解法を理解し、応用できる。	◎		○	○	△	
日本経済の仕組み	基幹科目 共通	1	日本経済の成長と変動の過程を学習することで、現在直面している経済問題に対する対応策を考察できる。	○	○	○	◎		
統計学の基礎	基幹科目 共通	1	データの構造を図示する方法と記述統計(平均・分散・相関)の意味を理解して、計算できる。			◎		△	
マクロ経済学	基幹科目 共通	2	中級レベルのマクロ経済学を習得し、一国経済全体の活動や経済政策について、自分なりの分析ができる。	◎	○	○	△		
ミクロ経済学	基幹科目 共通	2	ミクロ経済学入門での知識を踏まえ、ミクロ経済学の基礎知識を固め、経済主体の行動や市場分析に応用できる。	◎	○		△		
経済数学Ⅲ	基幹科目 共通	2	基本的な線形代数の知識を習得し、経済分析に応用できる。	◎		○	○	△	
経済数学Ⅳ	基幹科目 共通	2	制約条件付き最適化問題をはじめとする比較的高度な分析手法を習得し、実践できる。	◎		○	○	△	
財政学Ⅰ	基幹科目 共通	2	ミクロ経済学・マクロ経済学的手法を用いて、政府がなぜ必要となるのか理解できる。	○	○	△	◎		
金融論Ⅰ	基幹科目 共通	2	金融に関する制度と理論を習得することを通じて、現実に行われている金融取引や金融経済を考察できる。	○	○	△	○		
国際経済学	基幹科目 共通	2	国際収支、為替相場、国際通貨制度、貿易自由化などについての基礎知識を理解し、応用できる。	○	○		△	△	
英書講読	基幹科目 共通	2	海外の大学で使用されている英文の経済学の教科書や関連文書を読むための基礎力を身につけることができる。	△				◎	
経済学史Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	経済学は一つではなくいろいろな経済学が存在することを理解することができる。	○	◎		△	○	
統計学	基幹科目 経済分析	2	基本的な分布の概念を理解し、標本と概念を身につけ、推測統計(検定・推計)の仕組みについて理解できる。			◎	◎		
計量経済学Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	計量経済の基礎的な分析手法の学習を通じて、経済現象を数値的にとらえる力を身につけることができる。			○	◎	△	
経済データ分析Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	ゼミナール発表、卒業研究で必要となる経済情報処理を自律的に使いこなせる。			△	◎	○	
経済データ分析Ⅱ	基幹科目 経済分析	2	経済理論を理解するために有用な数値計算ができる。			△	◎	○	
産業組織論Ⅰ	基幹科目 経済分析	2	ミクロ経済学に依拠した完全競争・不完全競争の理論学習を通じて、社会における競争の重要性を理解できる。	◎	○		○		
経済政策	基幹科目 政策	2	経済政策の基礎理論に基づき、現実の政策的問題を考察できる。	○	○	△	◎		
地方財政論	基幹科目 政策	2	都道府県や市町村が存在する理由や、その仕事内容を知ることを通じて、地方政府の重要性を理解できる。	△	○		◎		
都市経済学	基幹科目 政策	2	都市の形成過程と都市内の空間利用について経済理論をもとに説明できる。	○	△		◎		
労働経済学Ⅰ	基幹科目 政策	2	働くか否か、雇うか否か、失業発生メカニズム等生活に関わる社会現象を経済学的根拠を持って理解できる。	○	○	○	◎		
社会保障論Ⅰ	基幹科目 政策	2	社会保障制度の歴史や現状を学び、現行制度が抱える問題を経済学的な視点から論理的に考察できる。	○	○	○	◎		
環境経済学Ⅰ	基幹科目 政策	2	現実の環境問題の解決方法を経済学のフレームワークを使って説明できる。	◎	○		○	△	
日本経済論	基幹科目 国際経済	2	戦後日本経済のパフォーマンスについての理解し、今後の日本経済の展望を考察できる。	○	◎	○	◎		
貿易論Ⅰ	基幹科目 国際経済	2	比較優位の概念を用いることにより、簡単な貿易構造について説明できる。	◎	○		△		
国際金融論	基幹科目 国際経済	2	国際金融取引の背後にあるメカニズムについて、多角的視点から理解できる。	△	○	○	○	○	
日本経済史Ⅰ	基幹科目 国際経済	2	幕末期から昭和戦前期までの日本経済について歴史的に理解し、基礎的な歴史過程を説明できる。	○	◎			△	
西洋経済史Ⅰ	基幹科目 国際経済	2	歴史学と経済学双方に関わる経済史の特徴を理解し、経済分析における歴史的視点の重要性を説明できる。	○	◎			○	
選択科目									
専門科目									
演習Ⅰ	演習	2	各指導教員に依存	○	○	○	○	○	◎
演習Ⅱ	演習	3	各指導教員に依存	○	○	○	○	○	◎
演習Ⅲ	演習	4	各指導教員に依存	○	○	○	○	○	◎

経済市民の学び	基礎科目 共通	1	基本的な経済学の知識を習得し、経済全般にわたる諸問題について議論できる。	◎	○	○	○	○		
経済特殊講義Ⅰ	展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存						
経済特殊講義Ⅱ	展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存						
経済特殊講義Ⅲ	展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存						
経済特殊講義Ⅳ	展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存						
経済特殊講義Ⅴ	展開科目 共通	1～4	担当教員に依存	科目に依存						
経済統計論	展開科目 経済分析	3～4	様々な経済統計の仕組みと基本的な統計分析を学習することで、実際の経済現象を数量的に把握できる。		△	◎	◎			
産業連関分析	展開科目 経済分析	3～4	産業連関分析を用いて、経済構造を把握し、経済政策の数量的な評価について理解できる。	○	○	◎	◎			
ゲーム理論	展開科目 経済分析	3～4	ゲーム理論を習得し、それをを用いて経済問題を分析できる。	◎	○		△			
情報と不確実性の経済学	展開科目 経済分析	3～4	不確実性や情報の非対称性が存在する場合におけるミクロ経済分析の基礎を理解できる。	◎	◎		△			
計量経済学Ⅱ	展開科目 経済分析	3～4	計量経済モデル分析の方法を学習し、実際の経済政策の数量的な評価の意味について理解できる。	○	○	◎	◎			
農業経済学	展開科目 経済分析	3～4	現代日本の食料・農業・農村問題について、経済学に基づいて理解し、考察できる。	○	△		◎			
産業組織論Ⅱ	展開科目 経済分析	3～4	高度なミクロ経済学的手法を習得するとともに、その知識をもとに経済諸現象を理解し深く考察できる。	◎	○		○			
経済成長論	展開科目 経済分析	3～4	経済成長論を習得し、卒業論文レベルの経済成長に関する理論研究がある程度できる。	◎	○		△			
交通経済学	展開科目 経済分析	3～4	交通市場の仕組みとその分析方法について経済学的な観点から説明できる。	○	△	△	◎			
保険論	展開科目 経済分析	3～4	保険の基礎概念や様々な保険商品の特性について説明できる。		◎		○			
経済学史Ⅱ	展開科目 経済分析	3～4	過去と現在の経済現象をさまざまな学説を用いて分析できる。	○	◎		○	○		
社会思想史	展開科目 経済分析	3～4	社会思想史の発展を学習し、社会的・客観的事情の変化と思想の変遷の間の相互作用を理解できる。		◎			◎		
財政政策	展開科目 政策	3～4	財政支出の拡大や減税などの現実の財政政策の効果を考え、評価できる。	○	△	△	◎			
金融政策	展開科目 政策	3～4	金融政策に関する制度と理論を習得することを通じて、マクロ経済効果に関して理解できる。	○	△	△	◎			
銀行証券論	展開科目 政策	3～4	金融機関が金融取引で果たす役割や日本銀行の機能を理論・制度など多面的な視点から理解できる。	○	○	△	○			
中小企業論	展開科目 政策	3～4	中小企業の在り方を経営学の考え方から学び、自身のマネジメント能力を発揮できる。				○	○		
医療経済学	展開科目 政策	3～4	中級レベルの経済学や統計学の知識を用いて、現在の医療制度が抱える問題を論理的に分析・考察できる。	○	○	○	◎			
公共経済学	展開科目 政策	3～4	高度な経済学的手法を用いて政府に求められる政策を理解できる。	◎	○	△	○			
文化経済学	展開科目 政策	3～4	文化を経済学のフレームワークで捉え、文化の保護、育成を政府、企業、一個人の立場から考察できる。	△	△		◎			
教育経済学	展開科目 政策	3～4	教育を経済学的に分析することにより、教育の公共的役割を理解できる。	◎	△		○			
法と経済学	展開科目 政策	3～4	法制度や現実に観察される法現象を経済学的に理解し、説明できる。	○	◎		◎			
財政学Ⅱ	展開科目 政策	3～4	より高度な財政理論を修得でき、現在の財政問題を分析できる。	◎	○		◎			
金融論Ⅱ	展開科目 政策	3～4	ファイナンスに関する知識を身につけ、ファイナンスに関連する現実経済における事象を理解できる。	○	○	△	○			
労働経済学Ⅱ	展開科目 政策	3～4	競争環境や人口構成、人々の意識など労働市場の変化を理解し、今後の対策を考えられる。	○	○	○	◎			
社会保障論Ⅱ	展開科目 政策	3～4	中級レベルの経済学や統計学の知識を用いて、現在の社会保障制度が抱える問題を論理的に分析・考察できる。	○	○	○	◎			
環境経済学Ⅱ	展開科目 政策	3～4	企業の環境対策を巡る経済学的視点を学び、現実の環境経営に対して自分の意見を述べられる。			○	◎	○	△	
貿易論Ⅱ	展開科目 国際経済	3～4	貿易理論が実証分析によりどのように発展してきたかを説明できる。	◎	○	△	○			
貿易政策	展開科目 国際経済	3～4	種々の貿易政策の経済効果の善悪について説明できる。	○	○		◎			
開発経済論	展開科目 国際経済	3～4	発展途上国における経済開発問題に関心を持ち、その実態、構造、経済開発の本質について説明できる。	○	○	○	○	○		
国際マクロ経済学	展開科目 国際経済	3～4	国際経済や国際金融に関する制度と理論を習得し、その波及メカニズムと効果に関して理解できる。	◎	○		○	△		
国際要素移動論	展開科目 国際経済	3～4	資本や労働の国際間移動が経済社会のおよぼす影響を理解できる。	◎	○		○	△		
日本経済史Ⅱ	展開科目 国際経済	3～4	戦後復興期から現在にいたる日本経済について、歴史的に理解し、基礎的な歴史過程を説明できる。	○	◎			△		
西洋経済史Ⅱ	展開科目 国際経済	3～4	産業の盛衰や経済の構造転換、イギリスを軸に世界経済の動向を学び、歴史的視点から経済を説明できる。	○	◎			○		
中部経済論	展開科目 国際経済	3～4	地方行政からみた名古屋の経済・産業の課題を認識した上で、今後の展望について議論できる。	△	○	○	◎			
中国経済論	展開科目 国際経済	3～4	中国経済の基本知識を習得し、激動の中国の実態をより客観的に理解できる。	△	○	○	◎	○		
アジア経済論	展開科目 国際経済	3～4	アジア諸国の経済発展の歴史、および、現状と問題点について理解し説明できる。	△	○	○	◎	○		
アメリカ経済論	展開科目 国際経済	3～4	アメリカ発展の歴史を学ぶとともに、90年代以降のアメリカの世界経済における重要性について理解できる。	△	○	○	◎	○		
ヨーロッパ経済論	展開科目 国際経済	3～4	EUを構成する各国経済の歴史を周辺国との関係性の中でとらえられる。	△	○	○	◎	○		
経済学関連科目										
簿記Ⅰ	基礎科目	1	仕訳、勘定記入、帳簿作成について、その処理手続き手法を理解できる。							◎
簿記Ⅱ	基礎科目	1	簿記の原理(考え方や処理方法)の技術的な手法を把握できる。							◎

会計学Ⅰ	基幹・展開科目	2~4	財務諸表についての基礎知識を習得し、新聞やニュース等での会計記事の内容を理解できる。					◎	
会計学Ⅱ	基幹・展開科目	2~4	企業の経営戦略・経営計画や目標とされる経営諸比率の意味とそれぞれの関連性が理解できる。					◎	
民法Ⅰ	基幹・展開科目	2~4	権利の変動を中心に、日常生活に役立つ民法上の知識を理解し、説明できる。					◎	
民法Ⅱ	基幹・展開科目	2~4	社会生活を円滑に過ごすのに欠かせない、民法上の権利義務関係についての知識を理解し、説明できる。					◎	
民法Ⅲ	基幹・展開科目	2~4	債権と物権という2つの権利の相違・特徴・関連性について理解し、説明できる。					◎	
商法Ⅰ	基幹・展開科目	2~4	企業の内容・特色に基づき、企業に関する多くの法律問題を解決する方法を理解できる。					◎	
商法Ⅱ	基幹・展開科目	2~4	株式会社制度に関する法規制を学び、株式会社に関する多くの法律問題を解決する方法を理解できる。					◎	
行政法	基幹・展開科目	2~4	様々な事例・判例を概観し、日常生活における行政法の重要性を認識できる。					◎	
国際法Ⅰ	基幹・展開科目	2~4	現代国際法の基本的枠組みや基本原理などを理解し、我々の日常生活とのかかわりが認識できる。					◎	
国際法Ⅱ	基幹・展開科目	2~4	国際的な諸問題を国際法を通して多角的に理解する視座を形成できる。					◎	
税法	基幹・展開科目	2~4	租税法の体系的学習を通じて、一般社会に対応できる税についての基礎知識を理解し、応用できる。					◎	
経営学	基礎科目	1	各種業界とそこのイノベーションの事例を軸に、企業経営の概要について理解できる。					◎	
歴史Ⅰ	基幹・展開科目	1~4	古代から現代までの日本社会について歴史を理解し、基礎的な過程・事項を説明できる。			○		◎	
歴史Ⅱ	基幹・展開科目	2~4	世界史を各国別・テーマ別に再構成して学び、多角的に知識を獲得・整理できる。			○		◎	
ジェネリック・スキル科目									
ビジネス英語Ⅰ	基礎科目 語学力	1	英語でビジネスやビジネスに関連した基本的なコミュニケーションをできる。					◎	
ビジネス英語Ⅱ	基礎科目 語学力	1	英語でビジネスやビジネスに関連した基本的なコミュニケーションを継続できる。					◎	
時事英語Ⅰ	基礎科目 語学力	1	会話と語彙の活用を重視した英語を学び、自然な英会話ができる。					◎	
時事英語Ⅱ	基礎科目 語学力	1	会話と語彙の活用を重視した英語を学び、自然な英会話を継続できる。					◎	
Academic Communication	基礎科目 語学力	1	英語圏の大学への海外留学時に最低限必要とされるコミュニケーションスキルを身につけ、応用できる。					◎	
Academic Writing	基礎科目 語学力	1	英語圏の大学への海外留学時に最低限必要とされるライティングスキルを身につけ、応用できる。					◎	
英語で学ぶ経済学	基礎科目 語学力	1	英語圏の大学への海外留学時に最低限必要とされる経済学の基礎知識を身につけ、応用できる。	○			△	◎	
Fundamentals of Economic Analysis	基幹科目 語学力	2	様々な社会問題を経済学的な観点から英語で議論できる。	○			△	◎	
Applied Economics	基幹科目 語学力	2	様々な社会問題を経済学的な観点から英語で議論できる。	○			△	◎	
イングリッシュ・スキル	基幹・展開科目 語学力	2~4	TOEICのスコアを向上を目標として英語の語学力を確保し、国際的に活躍できる。					◎	
海外ビジネス英語研修Ⅰ	基礎・基幹・展開科目 海外経験	1~4	海外ビジネス英語研修に参加し、就業状況・語学・生活習慣などを肌で感じて学ぶことでグローバルな視野で物事を考えられる。				△	◎	
海外ビジネス英語研修Ⅱ	基礎・基幹・展開科目 海外経験	1~4	海外ビジネス英語研修に参加し、就業状況・語学・生活習慣などを肌で感じて学ぶことでグローバルな視野で物事を考えられる。				△	◎	
海外語学研修	基礎・基幹・展開科目 海外経験	1~4	生きた英語や異文化に触れ、語学力を主体的に向上させ、忍耐力・異文化適応力を中心とした国際感覚を発揮できる。					◎	
海外留学科目	基礎・基幹・展開科目 海外経験	2~4	ISEP加盟校や学術交流締結校との留学生プログラムに参加し、国際感覚を理解し、将来に向かって能動的に行動できる。					◎	
ロジカルシンキング	基幹科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2	ロジカルシンキングとその必要性を理解し、実際の問題に応用できる。				△	○	◎
戦略思考とコンセプト思考	基幹科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	2	俯瞰的な視点でビジネスを視る意義と戦略思考を理解し、事業戦略を策定できる。				△	○	◎
プレゼンテーションとコミュニケーション	展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	3	プレゼンテーションとコミュニケーションのスキルを理解し、相手の納得を引き出す効果的な伝え方ができる。				△	○	◎
キャリア・マネジメントⅠ	展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	3	自己理解力、他者理解力、主体性、フィードバック力などの社会人基礎力を高め、就職活動で活用できる。					△	◎
キャリア・マネジメントⅡ	展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	3	自己理解力、他者理解力、主体性、フィードバック力などの社会人基礎力を高め、就職活動で活用できる。					△	◎
インターンシップⅠ	基幹・展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	1~4	就業経験をもとに、社会人としての基礎的素養の重要性を身につけ、能動的に職業を探索、選択できる。				△	○	◎
インターンシップⅡ	基幹・展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	1~4	海外インターンシップに参加し、世界の人々の思考や生活を体得して視野を広げ、国際的な感覚で就業意識が高められる。				△	○	◎
インターンシップⅢ	基幹・展開科目 EXP(エグゼクティブ・プログラム)	1~4	海外インターンシップに参加し、世界の人々の思考や生活を体得して視野を広げ、国際的な感覚で就業意識が高められる。				△	○	◎

経済学部経済学科 入学者受入れの方針

経済学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の教育の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、中京大学「入学者受け入れの方針」を踏まえ、これまでに培った知識や技能を土台として、真摯な態度で経済学を学び、昇華させる意欲的な人を広く求めています。特に以下の知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度を持つ人を求めています。

<入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度>

- ・ 個人や企業の行動、政府による経済政策や国家間の関係等、我々の身の回りで起こりうるさまざまな経済現象を理論的に捉える力を養うための、基本的な数学の知識を有している人。
- ・ ヒト・モノ・カネのグローバル化が進む現代社会で活躍するための、英語を始めとする外国語の運用能力を有している人。具体的には高等学校課程での「英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディング」、「ライティング」を確実に学習した人。
- ・ レポート作成、プレゼンテーション及びディスカッションにより、自身の考えを他者に正確に伝えるための、国語力を有している人。新聞記事や論説に目を通す習慣を身につけていることが望ましい。
- ・ 現代世界の成り立ちと、その諸問題の本質を理解するための、地理・歴史・公民等の社会科に関する強い関心と深い知識を有している人。
- ・ 自分の視野や知識を広げる努力を惜しまず、直面する社会的・経済的問題に対して、関心を抱き、主体的に学習する意欲を持っている人。
- ・ 地域や国内外の社会に根ざし、将来、そこでの活躍や貢献を視野に入れて、コミュニケーション能力及び自己表現能力の向上を目指す人。

入学者選抜において、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うかについては、下表のとおりです。

		前期・後期日程	推薦入試					高大接続入試	グローバル特別	特別入試
			A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎学力型)	一芸一能推薦 (特Ⅰ推薦)	指定校推薦 (特Ⅱ推薦)	専門高校 特別推薦 (特Ⅲ推薦)			附属校 併設校 推薦
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 実績 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 単位認定型 講義で 確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 単位認定型 講義 および 面接で 確認	○ 志望理由書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク(協働)をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	◎ 単位認定型 講義 および 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

経営学部経営学科 学位授与の方針

経営学部経営学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（経営学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力を身につけている。
2. 企業を始めとする各種組織体経営に関する基礎知識と高度の専門知識を体系的に備えている。
3. 各種組織体経営に関する問題を主体的に発見し、論理的に分析・解析することができる。
4. 自分の考えや意見を、プレゼンテーションや討議を通して伝えることができる。
5. 多様な人の考えや意見を理解しつつ、自分の個性を生かしながら他の人々と共同作業を進めていくことができる。
6. 基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うことができる。
7. 多様な異文化を理解できるグローバルな視点を備えている。

経営学部経営学科 教育課程編成・実施の方針

経営学部経営学科は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

本学部では、教育研究上の目的（理念・目的）で目指すところの、「複雑化・国際化が加速する現代社会に即した、経営理論とその実践への応用力及び論理的思考力を備えた、企業を始め官公庁、NPO 法人等の各種組織体で活躍できる人材の育成」を考慮して科目を設けています。

本学部の学生の進路は、多様な業種や職種が考えられ、また就職後も配置転換、転職等、多様な職場を経験する可能性があることから、多様な科目を段階的、体系的に履修できるように配慮しています。具体的には、以下のように科目を分類し、また履修モデルを提供する等の配慮を心がけています。

1. 全学共通科目と学部固有科目

複雑化・国際化が加速する現代社会に対応するためには、幅広い視野が不可欠であり、専門知識とともに幅広い視野を養う教養知識が必要であることから、以下のとおり全学共通科目と学部固有科目を設けています。

- ①全学共通科目：幅広い視野を養うための、コミュニケーションや自然、人間、社会に関連した科目
- ②学部固有科目：経営学に関連した専門知識や技能を身につける科目

2. 学部固有科目の区分

専門知識を段階的に身につけることができるように、学部固有科目を以下のとおりに大きく分類しています。

- ①必修科目：経営学を学ぶ上で、また将来の進路を考える上で必須の知識や技能を身につける初年次教育科目
- ②基礎科目（選択必修科目）：経営学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につける科目
- ③基幹科目（選択必修科目）：経営学の各分野を深く学ぶ上で事前に必要となる知識を身につける科目

④展開科目（選択科目）：経営学の各分野を深く学ぶ科目

3. 学部固有科目の科目群

専門知識を分野別に身につけるために、学部固有科目を以下のとおりに大きく分類しています。

①企業・戦略分野：組織の中・長期的な方針・計画を立案し、実現する方法について学ぶ

②組織・管理分野：経営の基礎となる組織の運用・管理に関する手法について学ぶ

③会計・財務分野：資金や金融の観点から、経営について学ぶ

④演習科目：少人数の双方向型講義により、各専門分野に関する知識を身につける

⑤グローバルビジネス・コミュニケーション：

グローバル化に対応するためのコミュニケーションの技能を高める

⑥ビジネス・コンピューティング：

情報化に対応するためのコンピュータと情報の活用技能を高める

⑦関連科目：経営学を理解する上で重要な周辺の知識を獲得する

4. 学修成果（教育目標）と学部固有科目との関係

学修成果に関連する代表的な学部固有科目は、以下のとおりです。

①コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力を身につけている。

「ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ」「ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」等

②企業を始めとする各種組織体経営に関する基礎知識と高度の専門知識を体系的に備えている。

「企業入門」「マーケティング入門」「組織デザイン論」「経営管理論」「経営戦略論」「会計学Ⅰ・Ⅱ」「経営財務Ⅰ・Ⅱ」等

③各種組織体経営に関する問題を主体的に発見し、論理的に分析・解析することができる。

「ゼミリテラシー」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「プロジェクト研究 A～D」「実践・Web マーケティング」「ビジネス情報分析」等

④自分の考えや意見を、プレゼンテーションや討議を通して伝えることができる。

「学びと仕事のリテラシー」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「プロジェクト研究 A～D」等

⑤多様な人の考えや意見を理解しつつ、自分の個性を生かしながら他の人々と共同作業を進めていくことができる。

「学びと仕事のリテラシー」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「プロジェクト研究 A～D」等

⑥基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うことができる。

「海外ビジネス研修」「ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ」「アドバンスト・ビジネス・イングリッシュⅠ～Ⅳ」等

⑦多様な異文化を理解できるグローバルな視点を備えている。

「海外ビジネス研修」「異文化コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「国際ビジネス戦略Ⅰ・Ⅱ」「国際経営論」等

5. カリキュラム実施における取り組み

これらのカリキュラムの円滑な運営のために、学部として、シラバス、カリキュラム、講義内容等の自己点検活動を通して、教育の質を確保するよう取り組んでいます。また、成績評価については、個々の教員が学修到達目標に基づき、厳格な成績評価を行っています。さらに、学生の支援として、入学時に実施される履修ガイダンスや新入生オリエンテーション合宿を通して、カリキュラムの理解を促し、また個人の必要に応じた履修ができるように支援しています。

経営学部経営学科 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	経営学部の学修成果との関連 (○関連する)						
				1. コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力を身につけている。	2. 企業を始めとする各種組織体経営に関する基礎知識と高度の専門知識を体系的に備えている。	3. 各種組織体経営に関する問題を主体的に発見し、論理的に分析・解析することができる。	4. 自分の考えや意見を、プレゼンテーションや討議を通して伝えることができる。	5. 多様な人の考えや意見を理解しつつ、自分の個性を生かしながら他の人々と共同作業を進めていくことができる。	6. 基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うことができる。	7. 多様な異文化を理解できるグローバルな視点を備えている。
1	演習科目	学びと仕事のリテラシー	1	○			○	○		
2	演習科目	ゼミレテラシー	1			○	○	○		
3	演習科目	ゼミナルⅠ	2			○	○	○		
4	演習科目	ゼミナルⅡ	2			○	○	○		
5	演習科目	ゼミナルⅢ	3			○	○	○		
6	演習科目	ゼミナルⅣ	3			○	○	○		
7	演習科目	ゼミナルⅤ	4			○	○	○		
8	演習科目	ゼミナルⅥ	4			○	○	○		
9	演習科目	プロジェクト研究A	2-4			○	○	○		
10	演習科目	プロジェクト研究B	2-4			○	○	○		
11	演習科目	プロジェクト研究C	2-4			○	○	○		
12	演習科目	プロジェクト研究D	2-4			○	○	○		
13	グローバルビジネス・コミュニケーション	海外ビジネス研修	1	○			○	○	○	○
14	グローバルビジネス・コミュニケーション	ビジネス・イングリッシュⅠ	1	○					○	○
15	グローバルビジネス・コミュニケーション	ビジネス・イングリッシュⅡ	1	○					○	○
16	グローバルビジネス・コミュニケーション	ビジネス・イングリッシュⅢ	2-4	○					○	○
17	グローバルビジネス・コミュニケーション	ビジネス・イングリッシュⅣ	2-4	○					○	○
18	グローバルビジネス・コミュニケーション	アドバンスト・ビジネス・イングリッシュⅠ	1	○					○	○
19	グローバルビジネス・コミュニケーション	アドバンスト・ビジネス・イングリッシュⅡ	2	○					○	○
20	グローバルビジネス・コミュニケーション	アドバンスト・ビジネス・イングリッシュⅢ	2	○					○	○
21	グローバルビジネス・コミュニケーション	アドバンスト・ビジネス・イングリッシュⅣ	3	○					○	○
22	グローバルビジネス・コミュニケーション	異文化コミュニケーションⅠ	2-4	○				○	○	○
23	グローバルビジネス・コミュニケーション	異文化コミュニケーションⅡ	2-4	○				○	○	○
24	グローバルビジネス・コミュニケーション	海外語学研修	1-4	○					○	○
25	グローバルビジネス・コミュニケーション	海外留学	2-4	○					○	○
26	グローバルビジネス・コミュニケーション	企業実習	2-3		○	○	○	○		
27	ビジネス・コンピューティング	ビジネス・コンピューティングⅠ	1	○						
28	ビジネス・コンピューティング	ビジネス・コンピューティングⅡ	1	○						
29	ビジネス・コンピューティング	データベース	2-4	○						
30	ビジネス・コンピューティング	プログラミング	2-4	○						
31	ビジネス・コンピューティング	ビジネス情報分析	2-4			○	○	○		
32	ビジネス・コンピューティング	実践・Webマーケティング	2-4	○	○	○	○	○		
33	基礎科目	企業入門	1		○	○				

34	基礎科目	経営組織入門	1		○	○		○		
35	基礎科目	マーケティング入門	1		○	○				
36	基礎科目	人材マネジメント入門	1		○	○				
37	基礎科目	簿記入門Ⅰ	1	○						
38	基礎科目	簿記入門Ⅱ	1	○						
39	基幹科目	中小企業論	2		○					○
40	基幹科目	情報・ビジネス戦略	2		○	○	△			
41	基幹科目	経営戦略論	2		○	○				
42	基幹科目	国際経営論	2		○	○				○
43	基幹科目	国際ビジネス戦略Ⅰ	2		○	○				○
44	基幹科目	経営管理論	2		○	○				
45	基幹科目	情報システム論	2	○	○					
46	基幹科目	組織デザイン論	2		○	○				
47	基幹科目	トヨタ生産方式	2		○	○				○
48	基幹科目	生産マネジメント	2		○	○	○			○
49	基幹科目	金融論	2	○	○	○				
50	基幹科目	会計学Ⅰ	2	○						
51	基幹科目	管理会計Ⅰ	2	○	○					
52	基幹科目	経営財務Ⅰ	2	○	○	○				
53	展開科目	ベンチャー企業論	2-4		○					○
54	展開科目	日本経営史	2-4		○	○				○
55	展開科目	アメリカ経営史	2-4		○	○				○
56	展開科目	マーケティング・リサーチ	2-4	○	○	○	○	○		○
57	展開科目	マーケティング戦略	2-4	○	○	○	○	○		○
58	展開科目	消費者行動論	2-4	○	○	○	○	○		○
59	展開科目	消費社会論	2-4		○	○				○
60	展開科目	意思決定論	2-4		○	○	○			
61	展開科目	日本企業論	2-4		○	○				
62	展開科目	現代企業論	2-4		○			○		○
63	展開科目	スモールビジネス未来論	2-4		○					○
64	展開科目	コーポレート・ガバナンスⅠ	2-4		○	○				
65	展開科目	コーポレート・ガバナンスⅡ	2-4		○	○				
66	展開科目	技術戦略論	2-4		○	○				
67	展開科目	サプライチェーンマネジメントとIEの基礎	2-4		○	○	○	○		○
68	展開科目	国際ビジネス戦略Ⅱ	2-4		○	○	○	○		○
69	展開科目	経営学史	2-4		○	○	○	○		

70	展開科目	人材マネジメント	2-4		○	○				
71	展開科目	産業心理学	2-4		○	○				
72	展開科目	技術経営	2-4		○	○	○			○
73	展開科目	情報管理論	2-4		○					
74	展開科目	グローバル経営管理論	2-4		○	○				○
75	展開科目	経営科学Ⅰ	2-4		○	○				
76	展開科目	経営科学Ⅱ	2-4		○	○				
77	展開科目	異文化マネジメントⅠ	2-4		○	○		○		○
78	展開科目	異文化マネジメントⅡ	2-4		○	○		○		○
79	展開科目	生産システム論Ⅰ	2-4		○	○		○		○
80	展開科目	生産システム論Ⅱ	2-4		○	○		○		○
81	展開科目	ロジスティクス論Ⅰ	2-4	○	○	○	○	○		○
82	展開科目	ロジスティクス論Ⅱ	2-4	○	○	○	○	○		○
83	展開科目	品質管理	2-4		○	○	○			○
84	展開科目	会計学Ⅱ	2-4	○						
85	展開科目	商業簿記	2-4		○					
86	展開科目	工業簿記	2-4		○					
87	展開科目	財務会計Ⅰ	2-4		○	○				
88	展開科目	財務会計Ⅱ	2-4		○	○				
89	展開科目	経営分析	2-4	○	○	○				
90	展開科目	国際金融論	2-4	○	○					
91	展開科目	証券投資論	2-4	○	○					
92	展開科目	経営財務Ⅱ	2-4	○	○	○				
93	展開科目	管理会計Ⅱ	2-4	○	○					
94	展開科目	リスクマネジメントⅠ	2-4	○	○	○				○
95	展開科目	リスクマネジメントⅡ	2-4	○	○	○				○
96	展開科目	証券市場論Ⅰ	2-4	○	○					
97	展開科目	証券市場論Ⅱ	2-4	○	○	○	○			○
98	関連科目	会社法	2-4		○	○				
99	関連科目	税法	2-4	○	○		○			
100	関連科目	企業法Ⅰ	2-4		○	○				
101	関連科目	企業法Ⅱ	2-4		○	○				
102	関連科目	民法Ⅰ	2-4		○	○				
103	関連科目	民法Ⅱ	2-4		○	○				
104	関連科目	労働法Ⅰ	2-4		○	○				
105	関連科目	労働法Ⅱ	2-4		○	○				

106	関連科目	経済原論Ⅰ	2-4		○	○				
107	関連科目	経済原論Ⅱ	2-4		○	○				
108	関連科目	経営学特殊講義A	2-4				○			○
109	関連科目	経営学特殊講義B	2-4				○			○
110	関連科目	経営学特殊講義C	2-4		○	○				
111	関連科目	経営学特殊講義D	2-4		○	○				
112	関連科目	資格取得単位認定	1-3	○	○				○	
113	関連科目	行政法	2-4		○					
114	関連科目	国際法Ⅰ	2-4				○	○		○
115	関連科目	国際法Ⅱ	2-4				○	○		○
116	関連科目	歴史Ⅰ	2-4							○
117	関連科目	歴史Ⅱ	2-4				○	○		○
118	関連科目	職業指導Ⅰ	3		○	○	○	○		○
119	関連科目	職業指導Ⅱ	3		○	○	○	○		○
120	その他	社会科教育法	3				○	○		○
121	その他	社会・地理歴史科教育法	3				○	○		○
122	その他	社会・公民科教育法	3				○	○		○
123	その他	商業科教育法	3	○	○	○	○			
124	その他	教育実習Ⅰ	4				○	○		○
125	その他	教育実習Ⅱ	4				○	○		○

経営学部経営学科 入学者受入れの方針

経営学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度等を有しており、それを土台に学びを昇華させる意欲のある人を広く求めています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

本学部では、「企業を始め官公庁、NPO 法人等の各種組織体経営に関する基礎的知識と高度の専門的知識を体系的に備え、問題を主体的に発見し論理的に分析・解析する思考力・判断力、及びコミュニケーションを図る能力を身につける」ことを目指しています。

経営学の学修対象の中心は、現代社会における各種組織体であり、それらを取り巻く環境の経済的、歴史的、社会的、国際的理解が不可欠です。また、組織体が抱える問題を解決するためには、ときには数学的なアプローチが必要となります。これらの知識を理解し、また発信するには日本語力はもちろんのこと、英語力も不可欠となります。以上の理由から、高等学校における各科目の基礎学力を身につけておくことが望まれます。特に、本学部の特徴である国際化に関する科目を積極的に履修することを希望する人は、英語に関しては高い学力が必要とされる点に留意してください。

また、商業科等専門高校の生徒は、専門科目を学習していることは、本学での講義の理解を深めるのに有益であるため、それらの科目の知識をしっかりと身につけるように心がけてください。

さらに、本学部では、問題発見能力やコミュニケーション能力等を高めるために、グループ・ディスカッションに取り組む講義も準備されているため、多様な人の考えや意見を理解しながら主体性を持って他の人々と協働作業を進め、自身の意見を表明する意志を持つておくことが望まれます。

本学部では、大学での充実した学びを達成するために、具体的には以下のような入学希望者を求めます。

- ・各種組織体の経営や、そこで仕事をするに関心がある。
- ・各種組織体を取り巻く社会の様々な環境に関心がある。
- ・広い視野で異文化を理解するに関心がある。
- ・問題を主体的に発見し、分析・解析するに関心がある。
- ・自分の考えや意見を、プレゼンテーション・討議・交渉を通して伝えるに関心がある。
- ・基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うに関心がある。

<入試区分・方法及び評価項目>

入学者に求める「学力の3要素」	前期・後期日程	推薦入試					グローバル特別	特別入試 帰国生徒 留学生 社会人
	A・M・F センタープラス センター利用	公募制推 薦 (基礎学 力型)	一芸一能推 薦 (特I推 薦)	指定校推 薦 (特II推 薦)	専門高校 特別推 薦 (特III推 薦)	附属校 併設校 推 薦		
知識 技能 高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 実績 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論 文) で確認
思考力 判断力 表現力 自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	◎ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	○ 志望理由 書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論 文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性 主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク(協働)をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 志望理由書 調査書 当日の面接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

* 表中の「◎,○,△」は評価の比重を表す

工学部機械システム工学科 学位授与の方針

工学部機械システム工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、機械・ロボット工学と情報工学の基本技術を活用できる。
2. メカトロニクス分野、ロボティクス分野、自動化システム分野のいずれかの一つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
4. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
5. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

工学部機械システム工学科

教育課程編成・実施の方針

工学部機械システム工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

<専門教育課程の構成>

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。機械システム工学科における教育課程の履修・単位取得により、メカトロニクス、ロボティクス、自動化システムに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、機械工学と制御技術を学ぶメカトロニクス系、工学理論と生命体の構造知識を学ぶロボティクス系、総合生産システム構築知識・技術を学ぶ自動化システム系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及び総合系を配置する。これら専門科目により機械システム工学の基本技術を修得する。
5. 卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1年次からの継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

6. 1年次で20単位、2年次で32単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3年次で38単位の必修科目の学部固有科目修得とプロジェクト研究基礎演習・プロジェクト研究応用演習の単位修得を4年次への進級要件とする。
7. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。

カリキュラムマップ(工学部 機械システム工学科)

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
			工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、機械・ロボット工学と情報工学の基本技術を活用できる能力があること。	メカトロニクス分野、ロボティクス分野、自動化システム分野のいずれかの一つ分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有して、自立的に応用展開を図る能力を身につけていること。	工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけていること。	技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。	幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる統合された知の基盤としての十分な教養を身につけていること。
解析学 1	必修	1	○	○			
線形代数学	必修	1	○				○
基礎数学	選択	1					○
解析学 2	必修	1	○	○			
幾何学 A	必修	1			○		
幾何学 B	選択	2			○		
離散数学	選択	2	○	○			
確率統計学 A	選択	2	○	○			
確率統計学 B	選択	2	○	○			
コンピュータ・リテラシ	必修	1	○	○	○		
プレゼンテーション・コミュニケーション	選択	2					○
技術英語 1	必修	2	○				
技術英語 2	選択	3	○				
技術者倫理	必修	3				○	
キャリアデザイン	必修	1				○	○
キャリアマネジメント 1	選択	3				○	○
キャリアマネジメント 2	選択	3				○	○
インターンシップ	選択	3					○
海外セミナー 1	選択	1-4					○
海外セミナー 2	選択	1-4					○
工学基礎実験 A (体験・シミュレーション)	必修	1	○		○		○
工学基礎実験 B (体験・シミュレーション)	必修	1	○		○		○
機械設計製作 1 (構造、設計、CAD)	必修	2	○		○	○	○
機械設計製作 2 (回路、制御、解析)	必修	2	○	○	○	○	○
プロジェクト研究基礎演習	必修	3	○	○	○	○	○
プロジェクト研究応用演習	必修	3	○	○	○	○	○
卒業研究 1	必修	4	○	○	○	○	○
卒業研究 2	必修	4	○	○	○	○	○
機械静力学基礎	必修	1	○				
機械静力学基礎演習	必修	1	○				
機械動力学基礎	必修	2	○				
機械動力学基礎演習	必修	2	○				
生産システム工学概論	選択	1	○	○	○		○
CAD設計	選択	1	○	○	○		○
支援工学	選択	2			○		○
感性工学	選択	2		○			○
バイオメカニクス	選択	2			○		○
ニューロインフォマティクス論	選択	2		○			○
最適化学	選択	3	○	○			
センサ工学	必修	1	○	○	○		
材料力学	選択	1	○	○	○		
ロボット工学	選択	2	○	○	○		
構造力学	選択	2	○		○		
熱力学	選択	2	○		○		
ロボット製作実習	選択	3	○	○	○	○	○
材料工学	選択	3	○	○			○
流体力学	選択	3	○	○	○		
振動工学	選択	3	○	○	○		
電気回路	必修	1	○		○		
電子回路	選択	1	○		○		
メカトロニクス	選択	2	○	○	○		○

システム制御工学	選択	4	○	○	○		
Cプログラミング→Cプログラミング1	必修	1	○				
J a v aプログラミング→Cプログラミング2	選択	1		○			
計測制御プログラミング (L a b V I E W)	選択	1	○		○		
数値シミュレーション	選択	2	○	○			
デジタル信号処理	選択	3	○	○			
機械学習論	選択	3			○		
画像信号計測・処理	選択	3	○	○	○		
生産管理論	選択	2	○	○	○		
システム・シミュレーション	選択	3	○	○	○		
技術経営論	選択	3	○	○	○		
機械システム特別講義 A	選択	3			○		
機械システム特別講義 B	選択	4			○		

工学部電気電子工学科 学位授与の方針

工学部電気電子工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、電気電子工学の基本技術を活用できる。
2. 制御・メカトロニクス分野、エレクトロニクス分野、通信分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
4. 修得した知識や技能に基づき、自らが発見した新たな課題を解決できる。また、未来について創造的な考え方を発信することができる。
5. グローバル化が進展する社会で活躍するために不可欠な言語力、モラルに則って情報を収集・活用する能力、他者と協調して目標実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ精神を身につけている。
6. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
7. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

工学部電気電子工学科 教育課程編成・実施の方針

工学部電気電子工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

<専門教育課程の構成>

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。電気電子工学科における教育課程の履修・単位取得により、制御・メカトロニクス、エレクトロニクス、通信に必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、電気・システム制御技術を学ぶ制御・メカトロニクス系、半導体・電子工学技術を学ぶエレクトロニクス系、通信・電波技術を学ぶ通信系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系および、総合系を配置する。これら専門科目により電気電子工学の基本技術を修得する。
5. 1年次で12単位、2年次で32単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3年次で36単位の必修科目の学部固有科目修得と電気電子工学実験2の単位修得を4年次への進級要件とする。
6. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。

7. 卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1年次からの継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。
8. 教職資格については、高等学校教諭一種・工業の教員資格取得を可能とする。
9. 工業高校からの入学者、高等学校段階で理数科目を十分に履修していない学生のために、物理及び数学の基礎を固める科目を配置し、春学期、秋学期の両方に開講する等、高等学校の学習から大学教育への円滑な移行を助ける。
10. プロジェクト系科目と合わせて技術者倫理科目を配置し、技術者としての倫理観を深め、社会へ貢献するための基本的考え方を身につける。

カリキュラムマップ(工学部 電気電子工学科)

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、電気電子工学の基本技術を活用できる。	制御・メカトロニクス分野、エレクトロニクス分野、通信分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。	工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。	修得した知識や技能に基づき、自らが発見した新たな課題を解決できる。また、未来について創造的な考え方を発信することができる。	グローバル化が進化する社会で活躍するために不可欠な言語力、モラルに則って情報を収集・活用する能力、他者と協調して目標実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ精神を身につけている。	技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。	幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。
物理学	必修	1	○						○
微分積分学 1	必修	1	○						○
微分積分学 2	必修	1	○						○
幾何学 B	必修	1	○						○
幾何学 A	選択	2	○						○
離散数学	必修	1	○						○
線形代数学	必修	1	○						○
複素数とベクトル解析	必修	1	○						○
フーリエ解析	選択	2	○						○
確率統計学 A	選択	2	○						○
確率統計学 B	選択	2	○						○
コンピュータリテラシ	必修	1	○		○				
プレゼンテーション・コミュニケーション	必修	2			○		○		
科学技術英語	必修	2	○		○		○		
技術者倫理	選択	3			○			○	
キャリアデザイン	必修	1			○		○	○	
キャリアマネジメント 1	選択	3			○		○	○	
キャリアマネジメント 2	選択	3			○		○	○	
海外セミナー 1	選択	1-4			○	○	○	○	○
海外セミナー 2	選択	1-4			○	○	○	○	○
インターンシップ	選択	3			○	○	○	○	
物理学実験	必修	1	○		○				
電気電子工学実験 1	必修	2	○		○				
電気電子工学実験 2	必修	2	○		○				
電気電子工学実験 3	選択	3		○	○	○			
プロジェクト研究基礎演習	必修	3		○	○	○	○	○	
プロジェクト研究応用演習	必修	3		○	○	○	○	○	
卒業研究 1	必修	4		○	○	○	○	○	
卒業研究 2	必修	4		○	○	○	○	○	
電気電子工学概論	必修	1	○	○	○				
情報基礎理論	必修	1	○						
電磁気学 1・実習	必修	2	○						
電気回路 1・実習	必修	2	○						
電磁気学 2・実習	選択	2	○						
電気回路 2・実習	選択	2	○						
デジタル回路とHDL	必修	2		○	○				
電子回路	必修	2	○		○				
電気電子計測	選択	3		○	○				
電気設計・製図	選択	3		○	○				
Cプログラミング 1	必修	2	○		○				
Cプログラミング 1 演習	選択	2	○		○				
Cプログラミング 2	選択	2	○		○				
制御・メカトロニクス概論	選択	2	○	○	○				
エレクトロニクス概論	選択	2	○	○	○				
通信工学概論	選択	2	○	○	○				
パワーエレクトロニクス	選択	3		○	○				
電気エネルギー工学	選択	3		○	○				
電気機器工学	選択	3		○	○				
電気材料工学	選択	3		○	○				
電力ネットワーク工学	選択	3		○	○				
システム制御工学	選択	4		○	○				
電気法規	選択	4		○	○			○	
半導体・電子デバイス	選択	3		○	○				
物性基礎	選択	3	○	○	○				
集積回路工学	選択	3		○	○				
電子材料工学	選択	3		○	○				
組み込みシステム	選択	3		○	○				
オートマトンとシーケンス制御	選択	3		○	○				
人工知能概論	選択	3		○	○				
画像信号計測・処理	選択	3		○	○				
画像信号計測・処理演習	選択	3		○	○				
大規模システム設計工学	選択	4		○	○				
デジタル信号処理	選択	4		○	○				
通信システム	選択	3		○	○				
伝送工学	選択	3		○	○				
電波工学	選択	3		○	○				

通信ネットワーク	選択	3		○	○				
無線通信工学	選択	3		○	○				
電波法規	選択	4		○	○			○	
電気電子特別講義 A	選択	3		○	○				
電気電子特別講義 B	選択	3		○	○				
数学基礎	自由	1	○						
教育原論	教職	2						○	○
学習・発達論	教職	2						○	○
教育の制度と経営	教職	3						○	○
教職入門	教職	2						○	○
教育課程論	教職	2						○	○
特別活動の方法	教職	4						○	○
教育方法論	教職	3						○	○
生徒指導・進路指導の方法	教職	4						○	○
教育相談（カウンセリングを含む）	教職	3						○	○
教職実践演習（中・高）	教職	4					○	○	○
工業科教育法	教職	3	○						○
教育実習Ⅱ	教職	4					○	○	○

工学部情報工学科 学位授与の方針

工学部情報工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、情報工学の基本技術を活用できる。
2. 数理的な基礎思考力とコンピュータで利用するためのハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を身につけている。
3. コンピュータエンジニア分野、システムソフトウェア分野、ウェブ・ネットエンジニア分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自律的に応用展開を図る能力を身につけている。
4. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
5. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
6. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

工学部情報工学科 教育課程編成・実施の方針

工学部情報工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

<専門教育課程の構成>

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。情報工学科における教育課程の履修・単位取得により、コンピュータエンジニア、システム・ソフトウェアエンジニア、ウェブ・ネットエンジニアに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、ソフトウェア開発技術を学ぶコンピュータエンジニア系、情報システム技術やネットワーク技術を学ぶシステム・ソフトウェアエンジニア系、ウェブ工学や通信技術を学ぶウェブ・ネットエンジニア系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及び情報工学の総合系を配置する。これら専門科目により情報工学の基本技術を修得する。
5. 1年次で12単位、2年次で16単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3年次で54単位の学部固有科目修得を4年次への進級要件とする。
6. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。

7. 卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1年次からの継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

工学部情報工学科 カリキュラムマップ

NO	科目区分	開講科目名	配当年次	工学部情報工学科の学修成果との関連（○関連する）					
				1) 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、情報工学の基本技術を活用できる。	2) 数理的な基礎思考力とコンピュータで利用するためのハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を身につけている。	3) コンピュータエンジニア分野、システムソフトウェア分野、ウェブ・ネットエンジニア分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自律的に応用展開を図る能力を身につけている。	4) 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。	5) 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。	6) 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。
1	工学基礎科目	代数学 1	1年	○	○		○		○
2	工学基礎科目	代数学 2	1-2年	○	○		○		○
3	工学基礎科目	離散数学	1年	○	○	○	○		○
4	工学基礎科目	解析学	1-2年	○	○		○		○
5	工学基礎科目	基礎数学	1年	○	○		○		○
6	工学基礎科目	幾何学	2年	○	○		○		○
7	工学基礎科目	確率・統計	2年	○	○	○	○		○
8	工学基礎科目	グラフ理論	3年	○	○	○	○		○
9	工学基礎科目	ライティング/コミュニケーション	2年	○		○		○	○
10	工学基礎科目	技術英語 1	2年	○			○		○
11	工学基礎科目	技術英語 2	2年	○			○		○
12	工学基礎科目	技術英語 3	3年	○			○		○
13	工学基礎科目	Foundations of Computer Science	3年	○			○		○
14	工学基礎科目	キャリアデザイン	1年	○			○	○	
15	工学基礎科目	キャリアマネジメント1	3年					○	○
16	工学基礎科目	キャリアマネジメント2	3年					○	○
17	工学基礎科目	情報技術者倫理	2年	○			○	○	○
18	工学基礎科目	インターンシップ	3年	○			○		○
19	工学基礎科目	海外セミナー 1	1-4年	○			○		○
20	工学基礎科目	海外セミナー 2	1-4年	○			○		○
21	学科基幹科目	プロジェクト研究	2年	○		○	○	○	○
22	学科基幹科目	プロジェクト研究基礎演習	3年	○		○	○	○	○
23	学科基幹科目	プロジェクト研究応用演習	3年	○		○	○	○	○
24	学科基幹科目	卒業研究 1	4年	○	○	○	○	○	○
25	学科基幹科目	卒業研究 2	4年	○	○	○	○	○	○
26	学科基幹科目	情報工学実験 1	2年	○		○	○		○
27	学科基幹科目	情報工学実験 2	2年	○		○	○		○
28	学科基幹科目	システム製作 A	3年	○		○	○		○
29	学科基幹科目	システム製作 B	3年	○		○	○		○
30	学科基幹科目	C言語 1	1年	○	○		○		○
31	学科基幹科目	C言語 1 演習	1年	○	○		○		○
32	学科基幹科目	C言語 2	1年	○	○	○			○
33	学科基幹科目	J a v a 言語 1	2年	○	○		○		○
34	学科基幹科目	J a v a 言語 1 演習	2年	○	○		○		○
35	学科基幹科目	J a v a 言語 2	2年	○	○	○			○
36	学科基幹科目	C + + 言語 1	2年	○	○		○		○
37	学科基幹科目	C + + 言語 2	3年	○	○	○	○		○
38	学科基幹科目	知識/知能プログラミング	3年	○	○		○		○
39	学科展開科目	コンピュータのアーキテクチャと構成	1年	○	○		○		○
40	学科展開科目	オペレーティングシステム	2年	○	○		○		○

41	学科展開科目	データベースシステム	2年	○	○		○		○
42	学科展開科目	ソフトウェア工学	3年	○	○		○		○
43	学科展開科目	コンパイラ論	3年	○	○		○		○
44	学科展開科目	ウェブ入門	1年	○	○		○		○
45	学科展開科目	コンピュータネットワーク	2年	○	○		○	○	○
46	学科展開科目	ウェブ工学	2年	○	○		○		○
47	学科展開科目	情報と通信の理論	3年	○	○		○	○	○
48	学科展開科目	電気電子基礎	1年	○	○		○		○
49	学科展開科目	ディジタル回路	1年	○	○		○		○
50	学科展開科目	ディジタルシステム設計	3年	○	○	○	○		
51	学科展開科目	組み込み用アーキテクチャ	4年	○	○		○		○
52	学科展開科目	アルゴリズムとデータ構造 1	1年	○	○		○		○
53	学科展開科目	アルゴリズムとデータ構造 2	2年	○	○	○	○		
54	学科展開科目	Pythonを用いた情報工学入門	1年	○	○	○			
55	学科展開科目	人工知能	1年	○	○		○		○
56	学科展開科目	画像処理	2年	○	○		○		○
57	学科展開科目	ディジタル信号処理	2年	○	○		○		○
58	学科展開科目	数値解析学	3年		○	○	○		○
59	学科展開科目	オートマトンと言語理論	3年	○	○		○		○
60	学科展開科目	最適化工学	3年	○	○		○		○
61	学科展開科目	パターン情報処理	3年	○	○		○		○
62	学科展開科目	暗号とセキュリティ	4年	○	○		○	○	○
63	学科展開科目	情報工学特別講義 A	3年	○			○		○
64	学科展開科目	情報工学特別講義 B	4年	○			○		○

工学部メディア工学科 学位授与の方針

工学部メディア工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、メディア工学の基本技術を活用できる。
2. メディア技術分野、メディアデザイン分野、メディアアート分野のいずれか 1 つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
4. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
5. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。
6. メディア技術が社会に及ぼす影響を適切に理解し、職業人・家庭人・地域住人として、それぞれが置かれた立場で、様々な分野の関係者と協同して、地域社会の課題に取り組み、健全で持続可能な社会運営に貢献する意志と能力を身につけている。
7. エネルギー・資源・環境・格差・紛争等の問題に直面するグローバル社会の状況を適切に理解し、異分野・異文化と協同して諸問題に取り組む意志と能力を身につけている。

工学部メディア工学科 教育課程編成・実施の方針

工学部メディア工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

<専門教育課程の構成>

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。メディア工学科における教育課程の履修・単位取得により、メディア技術、メディアアートに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、プログラム開発と音響・映像に対する応用技術を学ぶメディア技術系、情報コンテンツやデジタルアートの制作技術を学ぶメディアアート系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及びデザイン系を配置する。これら専門科目によりメディア工学の基本技術を修得する。
5. 学外での社会活動を体験し、また様々な分野と協同して、主体的に課題を発見しメディア技術を活用して取り組むことで、地域社会の課題に対するメディア技術の役割を学ぶ。
6. 留学生との交流及びメディア技術を活用した海外との交流を通じて異文化と協同し、主体的に課題を発見し取り組むことで、グローバル社会の諸問題に対するメディア技

術の役割を修得する。

7. 1年次で16単位、2年次で40単位、3年次で54単位の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。
8. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。
9. 卒業要件となる研究は、1年次からのプロジェクト系の継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

工学部メディア工学科 カリキュラムマップ

工学部メディア工学科の学修成果との関連 (○関連する)										
NO	科目区分	開講科目名	配当年次	1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、メディア工学の基本技術を活用できる。	2. メディア技術分野、メディアデザイン分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。	3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。	4. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。	5. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。	6. メディア技術が社会に及ぼす影響を適切に理解し、職業人・家庭人・地域人として、それぞれが置かれた立場で、様々な分野の関係者と協同して、地域社会の課題に取り組み、健全で持続可能な社会運営に貢献する意志と能力を身につけている。	7. エネルギー・資源・環境・格差・紛争等の問題に直面するグローバル社会の状況を適切に理解し、異分野・異文化と協同して諸問題に取り組む意志と能力を身につけている。
1	工学基礎科目	幾何学 1	1年	○		○				
2	工学基礎科目	代数学 1	1年	○		○				
3	工学基礎科目	離散数学	1年	○		○				
4	工学基礎科目	代数学 2	1-2年	○		○				
5	工学基礎科目	解析学	1-2年	○		○				
6	工学基礎科目	確率・統計 1	2年	○		○				
7	工学基礎科目	数値解析学	3年	○		○				
8	工学基礎科目	幾何学 2	3年	○		○				
9	工学基礎科目	確率・統計 2	3年		○	○		○		
10	工学基礎科目	ライティング/コミュニケーション	2年	○			○	○		
11	工学基礎科目	技術英語 1	2年					○		
12	工学基礎科目	技術英語 2	2年					○		
13	工学基礎科目	キャリアデザイン	1年						○	○
14	工学基礎科目	情報技術者倫理	2年				○			
15	工学基礎科目	キャリアマネジメント 1	3年						○	○
16	工学基礎科目	キャリアマネジメント 2	3年						○	○
17	工学基礎科目	インターンシップ	3年				○		○	○
18	工学基礎科目	海外セミナー 1	1-4年				○	○		○
19	工学基礎科目	海外セミナー 2	1-4年				○	○		○
20	学科基幹科目	プロジェクト研究	2年	○	○					
21	学科基幹科目	プロジェクト研究基礎演習	3年		○	○				
22	学科基幹科目	プロジェクト研究応用演習	3年			○	○			
23	学科基幹科目	卒業研究 1	4年				○	○	○	
24	学科基幹科目	卒業研究 2	4年					○	○	○
25	学科基幹科目	メディア技術 1 (ICTの基本)	1年	○						
26	学科基幹科目	メディア技術 2 (ICTの応用)	1年	○	○	○				
27	学科基幹科目	メディア技術 3 (ICTとメディア社会)	2年				○	○	○	
28	学科基幹科目	情報と通信の理論	3年					○		
29	学科基幹科目	パターン認識基礎	2年	○	○	○				
30	学科基幹科目	暗号とセキュリティ	4年			○				
31	学科基幹科目	プログラミング基礎 1	1年			○				
32	学科基幹科目	プログラミング基礎 2	1年			○				
33	学科基幹科目	プログラミング基礎 3	2年	○	○	○				
34	学科基幹科目	プログラミング応用 1	1年		○	○				
35	学科基幹科目	プログラミング応用 2	2年	○	○	○				
36	学科基幹科目	アルゴリズムとデータ構造 1	1年	○		○				
37	学科基幹科目	アルゴリズムとデータ構造 2	2年	○		○				
38	学科展開科目	映像メディア 1 (基礎)	1年	○		○				
39	学科展開科目	映像メディア 2 (Digital Art)	1年	○	○					
40	学科展開科目	映像メディア 3 (CG)	2年		○	○				
41	学科展開科目	メディア工学特別講義 A	2年		○	○				
42	学科展開科目	映像処理 1 (CG)	1年	○	○	○				
43	学科展開科目	映像処理 2 (画像処理)	2年	○	○	○				
44	学科展開科目	映像処理 3 (Computer Vision)	2年	○	○	○				
45	学科展開科目	メディア工学特別講義 C	3年	○	○	○				
46	学科展開科目	音響メディア 1 (Sound Design)	2年	○	○					
47	学科展開科目	音響メディア 2 (Sound Informatics)	2年		○	○				
48	学科展開科目	音響メディア 3 (Aural Technology)	3年			○	○	○		

49	学科展開科目	映像音響表現	3年	○	○	○		○		
50	学科展開科目	アート基礎実習 A	1年	○						
51	学科展開科目	アート基礎実習 B	1年	○						
52	学科展開科目	工房実習	2年		○					
53	学科展開科目	メディアアート	3年		○					
54	学科展開科目	メディア工学特別講義 D	4年		○					
55	学科展開科目	クリエイティブ・コラボレーション	1年	○	○					
56	学科展開科目	メディアと地域社会	1年		○	○	○		○	
57	学科展開科目	メディアとグローバル社会	2年			○	○	○	○	○
58	学科展開科目	グラフィックデザイン 1	2年				○	○	○	○
59	学科展開科目	グラフィックデザイン 2	3年				○	○	○	○
60	学科展開科目	情報デザイン	2年		○		○	○	○	○
61	学科展開科目	アルゴリズムデザイン	2年		○		○	○	○	○
62	学科展開科目	メディア工学特別講義 B	3年	○	○	○	○	○	○	○

工学部 入学者受入れの方針

工学部においては、基幹分野に関する基本的な知識の理解と技術の獲得と、豊かな創造性の涵養を図るために、工学系分野に興味・関心を持つ人を積極的に受け入れます。

高等学校において関連の教科、科目を幅広く学び、大学での学修に必要な基礎学力を有していること、学修活動、各種技術の習得において自己の研鑽を積み、実績を挙げていることを基本方針として、本学部では、数学と理系科目を重視した学力試験に合格した志願者とともに、課外活動を通して工学に関わる資格、実績などを有する志願者を受け入れます。「教育研究上の目的（理念・目的）」にある人材を輩出するため、以下に示す能力と意欲のある人を広く求め、受け入れます。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

1. 一般選抜として、数学を重視した入学試験を実施し、その他の選抜として、理系学力以外に工学分野に関連する資格や実績を有する人の推薦入試を実施します。
具体的に必要となる学力として、数学については、「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B」の十分な理解が重要であり、システム・機械・電気系の分野では「数学Ⅲ、数学活用」の学習も望まれます。また、推薦入試においては、論理的思考の基本が必要となるため、基本的な作文力として国語における論述技術や表現力が重要です。
2. 各学科では、以下の能力と態度を有する人を受け入れます。
 - ・機械システム工学科は、機械・ロボット工学と情報技術を活かした実践力を持つ技術者を養成する人材に適し、ものづくりの創意工夫に関心があり、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。
 - ・電気電子工学科は、電気、電子、情報、通信技術を活かした実践力を持つ技術者を養成する人材に適し、好奇心を持ち実験とその洞察に関心があり、自ら設定した課題を遂行する意欲を有する人を募集します。
 - ・情報工学科は、ソフトウェア開発、ネットワーク設計・構築・運用、情報システムの

ハードウェアやソフトウェアの設計、実装及び運用に携わる技術者養成に適した人材を求めており、論理的構成を積み上げることに関心があり、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。

- メディア工学科は、デジタル技術を活用した創造的活動及びメディア工学技術の応用研究に興味があり、かつ、デザインやマネジメント等の活動にも関心をもつ、現代の幅広いニーズに応え得る技術者養成に適した人材を求めており、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。

入学者選抜において、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うかについては、下表のとおりです。

		前期・後期日程	推薦入試				グローバル特別	特別入試
		A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎学力 型)	一芸一能推 薦 (特I推 薦)	指定校推薦 (特II推 薦)	附属校 併設校 推薦		帰国生徒 留学生 社会人
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	○ 志望理 由書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク(協働)をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	△ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

スポーツ科学部スポーツ教育学科 学位授与の方針

スポーツ科学部スポーツ教育学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。
2. スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。
3. スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。
4. スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。
5. スポーツの指導力を身につけている。
6. スポーツと教育に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。
7. 専門的な知識を学校教育に関連づけて活用することができる。
8. 教育現場で必要な教員としての実技指導能力と課外活動指導能力を身につけている。

スポーツ科学部スポーツ教育学科 教育課程編成・実施の方針

スポーツ科学部スポーツ教育学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

<教育課程の構成>

1. 教育課程は、一般教養科目である「全学共通科目」とスポーツ科学の専門科目である「学部固有科目」から構成される。
2. 全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 学部固有科目は、導入科目、基礎科目、基幹科目、応用科目の4科目群に分けて編成する。
4. 導入科目は、スポーツ科学を専門的に学ぶための導入として、基礎科目は、スポーツ科学を総合的に学ぶ科目として配置する。
5. 基幹科目と応用科目は、スポーツ科学の専門性を高める科目として配置し、学部共通科目群と学科開講科目群により構成する。
6. 学科開講科目群は、学校教育、保健体育科教育関連の科目を配置する。
7. 科目履修の順序性を考慮して、履修のための条件を設定する。
8. 履修モデルとして、保健体育科教員や各種スポーツの指導者を目指すスポーツ教育モデルを示す。
9. 学生のキャリア形成に資する教育として、就業体験研修や各種スポーツ現場で実習を行う科目を設置する。
10. 教室外（海外を含む）の施設の見学、体験、報告等を行う事例研究の科目を設置する。
11. 成績評価については、シラバスに到達目標と基準を明記して厳格に行う。

カリキュラムマップ(スポーツ科学部スポーツ教育学科)

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
			幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。	スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。	スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。	スポーツの実技力(「できる」だけでなく「わかる」)を身につけている。	スポーツの指導力を身につけている。	スポーツと教育に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。	専門的な知識を学校教育に関連づけて活用することができる。	教育現場に必要な教員としての実技指導能力と課外活動指導能力を身につけている。
スポーツ科学入門	必修	1		○	○					
スポーツ情報リテラシー	必修	1		○	○					
スポーツコミュニケーション	必修	1		○	○					
健康学概論	必修	2			○					
トレーニング演習	必修	1		○	○	○	○			
レクリエーション基礎実習	選択	1			○					
トレーニング演習アドバンス	選択	1			○	○	○			
安全教育	選択	2						○		
スポーツ社会学	選択	2			○					
運動・スポーツ生理学Ⅱ	選択	3			○					
スポーツ経営学	選択	3			○					
スポーツ栄養学	選択	3			○					
体育科教育法ⅠB	選択	2-3						○	○	
保健科教育法ⅠB	選択	2-3						○	○	
インターンシップⅠ	選択	2-4						○		
インターンシップⅡ	選択	2-4						○		
スポーツ実技A(バレーボール)	選択必修	1		○		○	○	○		○
スポーツ実技A(バスケットボール)	選択必修	1		○		○	○	○		○
スポーツ実技A(サッカー)	選択必修	1		○		○	○	○		○
スポーツ実技A(ソフトボール)	選択必修	1		○		○	○	○		○
スポーツ実技A(ラグビー)	選択必修	1		○		○	○	○		○
スポーツ実技A(ハンドボール)	選択必修	1		○		○	○	○		○
スポーツ実技B(陸上競技トラック)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技B(陸上競技フィールド)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技B(器械運動)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技B(水泳)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技C(柔道)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技C(剣道)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技C(ダンス)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技C(体づくり運動)	選択必修	2		○		○	○	○		○
スポーツ実技D(バドミントン)	選択必修	3		○		○	○	○		○
スポーツ実技D(卓球)	選択必修	3		○		○	○	○		○
スポーツ実技D(テニス)	選択必修	3		○		○	○	○		○
野外活動実習(スキー)	選択必修	1		○		○	○	○		○
野外活動実習(マリンスポーツ)	選択必修	2		○		○	○	○		○
野外活動実習(キャンプ)	選択必修	3		○		○	○	○		○
野外活動実習(アウトドアスポーツ)	選択必修	3		○		○	○	○		○
発育老化論	選択	2			○					
スポーツ動作分析法	選択	3			○					
スポーツ環境論	選択	3			○					
武道論	選択	3			○					
スポーツ科学英語A	選択	3			○					
スポーツ科学英語B	選択	3			○					
スポーツ心理学演習	選択必修	3		○	○					
運動生理学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ社会科学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ医学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ人文科学演習	選択必修	3		○	○					
バイオメカニクス演習	選択必修	3		○	○					
衛生・公衆衛生学演習	選択必修	3			○					
ゼミナールA	必修	3		○				○		
ゼミナールB	必修	3		○				○		
卒業研究A	必修	4		○				○		
卒業研究B	必修	4		○				○		
スポーツ実技E(ゴルフ)	選択	4				○	○	○		○
スポーツ実技E(スケート)	選択	4				○	○	○		○
スポーツ実技E(ニュースポーツA)	選択	4				○	○	○		○
スポーツ実技E(ニュースポーツB)	選択	4				○	○	○		○
スポーツ実技E(ジャズダンス)	選択	4				○	○	○		○
救急処置法	選択	4			○					
スポーツ科学特論	選択	3			○					
C I S P パフォーマンストレーニング	選択	2-4			○					
C I S P パフォーマンストレーニング	選択	2-4			○					
応急手当・テーピング実習	選択	4			○					
教育実習Ⅰ	選択	3-4		○				○	○	○

海外課題研究	選択	2-4			○					
海外事例研究	選択	1-4			○					
解剖・生理学A	必修	1			○					
解剖・生理学B	必修	1			○					
体育・スポーツ原論	必修	1		○	○					
体育・スポーツ史	必修	1		○	○					
バイオメカニクス	必修	2		○	○					
体育・スポーツ心理学	必修	2		○	○					
生涯スポーツ論	必修	2		○	○					
運動・スポーツ生理学 I	必修	2		○	○					
学校保健A	選択	3						○		
学校保健B	選択	3						○		
スポーツ教育学	選択	2						○		
健康教育学	選択	2						○		
体育科教育法 I A	選択	2						○	○	
保健科教育法 I A	選択	2						○	○	
スポーツパフォーマンス評価法	選択	1						○	○	○
体育科教育法 II	選択	3-4						○	○	
保健科教育法 II	選択	3-4						○	○	
保健体育科総合演習A	選択必修	3		○				○	○	
保健体育科総合演習B	選択必修	3		○				○	○	
体育実技指導法(武道)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
体育実技指導法(体づくり運動)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
体育実技指導法(球技)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
体育実技指導法(ダンス)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
体育実技指導法(陸上競技)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
体育実技指導法(器械運動)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
体育実技指導法(水泳)	選択必修	3-4		○		○	○	○		○
学校指導実習	選択	3						○	○	○
スポーツパフォーマンス実習 I	選択	1			○					
スポーツパフォーマンス実習 II	選択	1			○					
スポーツパフォーマンス実習 III	選択	2			○					
スポーツパフォーマンス実習 IV	選択	2			○					
コーチング科学A	選択	3			○					
コーチング科学B	選択	3			○					
トレーニング論A	選択	2			○					
トレーニング論B	選択	2			○					
スポーツ法学	選択	3			○					
スポーツマネジメント事例研究	選択	2			○					
コーチング演習(専門種目) A	自由	4				○	○			
コーチング演習(専門種目) B	自由	4				○	○			
衛生・公衆衛生学A	選択	3			○					
衛生・公衆衛生学B	選択	3			○					
スポーツ医学A	選択	2			○					
スポーツ医学B	選択	2			○					
レジャー・レクリエーション論	選択	1			○					
リハビリテーション	選択	3			○					
障害者スポーツ論	選択	3			○					
レクリエーション指導法 I	選択	2			○					
レクリエーション指導法 II	選択	2			○					
障害者スポーツ実習	選択	1			○					
トレーナー事例研究	選択	1			○					
健康運動実習 A	選択	2			○					
健康運動実習 B	選択	2			○					

スポーツ科学部競技スポーツ科学科 学位授与の方針

スポーツ科学部競技スポーツ科学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。
2. スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。
3. スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。
4. スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。
5. スポーツの指導力を身につけている。
6. スポーツとパフォーマンスに関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。
7. スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学、コーチング科学に関する知識を活用することができる。
8. スポーツ関連組織等の運営に関する知識や技能を身につけている。

スポーツ科学部競技スポーツ科学科 教育課程編成・実施の方針

スポーツ科学部競技スポーツ科学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

<教育課程の構成>

1. 教育課程は、一般教養科目である「全学共通科目」とスポーツ科学の専門科目である「学部固有科目」から構成される。
2. 全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 学部固有科目は、導入科目、基礎科目、基幹科目、応用科目の4科目群に分けて編成する。
4. 導入科目は、スポーツ科学を専門的に学ぶための導入として、基礎科目は、スポーツ科学を総合的に学ぶ科目として配置する。
5. 基幹科目と応用科目は、スポーツ科学の専門性を高める科目として配置し、学部共通科目群と学科開講科目群により構成する。
6. 学科開講科目群は、トレーニング、コーチング、マネジメント関連の科目を配置する。
7. 科目履修の順序性を考慮して、履修のための条件を設定する。
8. 履修モデルとして、パフォーマンス向上のための科学的知識とそれを実践する技法を学ぶ競技スポーツモデルと、スポーツ関連組織等の運営について学ぶマネジメントモデルを示す。
9. 学生のキャリア形成に資する教育として、就業体験研修や各種スポーツ現場で実習を行う科目を設置する。特に初年次に、学生が自身の将来の方向性や生き方について考えるきっかけを提供する科目を配置する。
10. 教室外（海外を含む）の施設の見学、体験、報告等を行う事例研究の科目を設置する。
11. 成績評価については、シラバスに到達目標と基準を明記して厳格に行う。

カリキュラムマップ（スポーツ科学部競技スポーツ科学科）

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
			幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。	スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。	スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。	スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。	スポーツの指導力を身につけている。	スポーツとパフォーマンスに関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。	スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学、コーチング科学に関する知識を活用することができる。	スポーツ関連組織等の運営に関する知識や技能を身につけている。
スポーツ科学入門	必修	1		○	○					
スポーツ情報リテラシー	必修	1		○	○					
スポーツコミュニケーション	必修	1		○	○					
健康学概論	必修	2			○					
トレーニング演習	必修	1		○	○	○	○		○	
レクリエーション基礎実習	選択	1			○					
トレーニング演習アドバンス	選択	1			○	○	○		○	
安全教育	選択	2			○					
スポーツ社会学	選択	2			○					
運動・スポーツ生理学Ⅱ	選択	3			○					
スポーツ経営学	選択	3			○					
スポーツ栄養学	選択	3			○					
体育科教育法ⅠB	選択	2-3			○					
保健科教育法ⅠB	選択	2-3			○					
インターンシップⅠ	選択	2-4						○		
インターンシップⅡ	選択	2-4						○		
スポーツ実技A(バレーボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(バスケットボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(サッカー)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(ソフトボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(ラグビー)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(ハンドボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技B(陸上競技トラック)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技B(陸上競技フィールド)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技B(器械運動)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技B(水泳)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(柔道)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(剣道)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(ダンス)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(体づくり運動)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技D(バドミントン)	選択必修	3		○		○	○			
スポーツ実技D(卓球)	選択必修	3		○		○	○			
スポーツ実技D(テニス)	選択必修	3		○		○	○			
野外活動実習(スキー)	選択必修	1		○		○	○			
野外活動実習(マリンスポーツ)	選択必修	2		○		○	○			
野外活動実習(キャンプ)	選択必修	3		○		○	○			
野外活動実習(アウトドアスポーツ)	選択必修	3		○		○	○			
発育老化論	選択	2			○					
スポーツ動作分析法	選択	3						○		
スポーツ環境論	選択	3			○					
武道論	選択	3						○		
スポーツ科学英語A	選択	3			○					
スポーツ科学英語B	選択	3			○					
スポーツ心理学演習	選択必修	3		○				○		
運動生理学演習	選択必修	3		○				○		
スポーツ社会科学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ医学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ人文科学演習	選択必修	3		○	○					
バイオメカニクス演習	選択必修	3		○				○		
衛生・公衆衛生学演習	選択必修	3			○					
ゼミナールA	選択	3		○						
ゼミナールB	選択	3		○						
卒業研究A	選択	4		○						
卒業研究B	選択	4		○						
スポーツ実技E(ゴルフ)	選択	4				○	○			

スポーツ実技E(スケート)	選択	4				○	○			
スポーツ実技E(ニュースポーツA)	選択	4				○	○			
スポーツ実技E(ニュースポーツB)	選択	4				○	○			
スポーツ実技E(ジャズダンス)	選択	4				○	○			
救急処置法	選択	4			○					
スポーツ科学特論	選択	3						○		
C I S PパフォーマンストレーニングA	選択	2-4						○	○	
C I S PパフォーマンストレーニングB	選択	2-4						○	○	
応急手当・テーピング実習	選択	4						○		
教育実習 I	選択	3-4		○						
海外課題研究	選択	2-4			○					
海外事例研究	選択	1-4			○					
解剖・生理学A	必修	1			○					
解剖・生理学B	必修	1			○					
体育・スポーツ原論	必修	1		○	○					
体育・スポーツ史	必修	1		○	○					
バイオメカニクス	必修	2		○	○					
体育・スポーツ心理学	必修	2		○	○					
生涯スポーツ論	必修	2		○	○					
運動・スポーツ生理学 I	必修	2		○	○					
スポーツキャリアデザイン	必修	1		○	○					
学校保健A	選択	3			○					
学校保健B	選択	3			○					
スポーツパフォーマンス実習 I	選択	1						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 II	選択	1						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 III	選択	2						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 IV	選択	2						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 V	選択	3						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 VI	選択	3						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 VII	選択	4						○	○	
スポーツパフォーマンス実習 VIII	選択	4						○	○	
コーチング論 A	選択	2						○	○	
コーチング論 B	選択	2						○	○	
コーチング論 C	選択	4						○	○	
コーチング科学 A	選択	3						○	○	
コーチング科学 B	選択	3						○	○	
トレーニング論 A	選択	2						○	○	
トレーニング論 B	選択	2						○	○	
スポーツ産業論	選択	2						○		○
スポーツマーケティング論	選択	2						○		○
スポーツ法学	選択	3						○		○
スポーツ技術・戦術論	選択	4						○	○	
スポーツマネジメント演習	選択必修	3		○				○		○
コーチング演習(専門種目) A	選択必修	4		○				○	○	
コーチング演習(専門種目) B	選択必修	4		○				○	○	
スポーツマネジメント事例研究	選択	2						○		○
コーチング実習 I	選択	3						○	○	
コーチング実習 II	選択	3						○	○	
コーチング実習 III	選択	4						○	○	
コーチング実習 IV	選択	4						○	○	
スポーツパフォーマンス評価法	選択	1						○	○	○
体育科教育法 II	選択	3-4			○					
保健科教育法 II	選択	3-4			○					
体育実技指導法(武道)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(体作り運動)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(球技)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(ダンス)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(陸上競技)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(器械運動)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(水泳)	選択	3-4			○	○	○			
衛生・公衆衛生学A	選択	3			○					
衛生・公衆衛生学B	選択	3			○					
スポーツ医学A	選択	2			○					
スポーツ医学B	選択	2			○					
トレーナー事例研究	選択	1			○					
健康運動実習 A	選択	2			○					
健康運動実習 B	選択	2			○					

スポーツ科学部スポーツ健康科学科 学位授与の方針

スポーツ科学部スポーツ健康科学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。
2. スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。
3. スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。
4. スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。
5. スポーツの指導力を身につけている。
6. スポーツと心身の健康に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。
7. 健康づくり運動、レクリエーションスポーツに関して実践力と指導力を身につけている。
8. 健康科学の観点からスポーツパフォーマンスをサポートする実践力を身につけている。

スポーツ科学部スポーツ健康科学科 教育課程編成・実施の方針

スポーツ科学部スポーツ健康科学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

＜教育課程の構成＞

1. 教育課程は、一般教養科目である「全学共通科目」とスポーツ科学の専門科目である「学部固有科目」から構成される。
2. 全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 学部固有科目は、導入科目、基礎科目、基幹科目、応用科目の4科目群に分けて編成する。
4. 導入科目は、スポーツ科学を専門的に学ぶための導入として、基礎科目は、スポーツ科学を総合的に学ぶ科目として配置する。
5. 基幹科目と応用科目は、スポーツ科学の専門性を高める科目として配置し、学部共通科目群と学科開講科目群により構成する。
6. 学科開講科目群は、健康づくり運動、レクリエーションスポーツ、トレーナー関連の科目を配置する。
7. 科目履修の順序性を考慮して、履修のための条件を設定する。
8. 履修モデルとして、生涯スポーツや健康のためのスポーツに関する理論と実践を学ぶ健康科学モデルと競技スポーツ選手を支えるスポーツトレーナーモデルを示す。
9. 学生のキャリア形成に資する教育として、就業体験研修や各種スポーツ現場で実習を行う科目を設置する。
10. 教室外（海外を含む）の施設の見学、体験、報告等を行う事例研究の科目を設置する。
11. 成績評価については、シラバスに到達目標と基準を明記して厳格に行う。

カリキュラムマップ（スポーツ科学部スポーツ健康科学科）

科目名	科目区分	配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
			幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。	スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。	スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。	スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。	スポーツの指導力を身につけている。	スポーツと心身の健康に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。	健康づくり運動、レクリエーションスポーツに関して実践力と指導力を身につけている。	健康科学の観点からスポーツパフォーマンスをサポートする実践力を身につけている。
スポーツ科学入門	必修	1		○	○					
スポーツ情報リテラシー	必修	1		○	○					
スポーツコミュニケーション	必修	1		○	○					
健康学概論	必修	2			○					
トレーニング演習	必修	1		○	○	○	○			
レクリエーション基礎実習	選択	1			○				○	
トレーニング演習アドバンス	選択	1			○	○	○			
安全教育	選択	2			○					
スポーツ社会学	選択	2			○					
運動・スポーツ生理学Ⅱ	選択	3			○					
スポーツ経営学	選択	3			○					
スポーツ栄養学	選択	3						○		
体育科教育法ⅠB	選択	2-3			○					
保健科教育法ⅠB	選択	2-3			○					
インターンシップⅠ	選択	2-4						○		
インターンシップⅡ	選択	2-4						○		
スポーツ実技A(バレーボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(バスケットボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(サッカー)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(ソフトボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(ラグビー)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技A(ハンドボール)	選択必修	1		○		○	○			
スポーツ実技B(陸上競技トラック)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技B(陸上競技フィールド)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技B(器械運動)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技B(水泳)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(柔道)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(剣道)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(ダンス)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技C(体づくり運動)	選択必修	2		○		○	○			
スポーツ実技D(バドミントン)	選択必修	3		○		○	○			
スポーツ実技D(卓球)	選択必修	3		○		○	○			
スポーツ実技D(テニス)	選択必修	3		○		○	○			
野外活動実習(スキー)	選択必修	1		○		○	○		○	
野外活動実習(マリンスポーツ)	選択必修	2		○		○	○		○	
野外活動実習(キャンプ)	選択必修	3		○		○	○		○	
野外活動実習(アウトドアスポーツ)	選択必修	3		○		○	○		○	
発育老化論	選択	2						○		
スポーツ動作分析法	選択	3			○					
スポーツ環境論	選択	3			○					
武道論	選択	3			○					
スポーツ科学英語A	選択	3			○					
スポーツ科学英語B	選択	3			○					
スポーツ心理学演習	選択必修	3		○	○					
運動生理学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ社会科学演習	選択必修	3		○	○					
スポーツ医学演習	選択必修	3		○	○			○		
スポーツ人文科学演習	選択必修	3		○	○					
バイオメカニクス演習	選択必修	3		○	○					
衛生・公衆衛生学演習	選択必修	3						○		
ゼミナールA	選択	3		○						
ゼミナールB	選択	3		○						
卒業研究A	選択	4		○						
卒業研究B	選択	4		○						
スポーツ実技E(ゴルフ)	選択	4				○	○		○	
スポーツ実技E(スケート)	選択	4				○	○		○	
スポーツ実技E(ニュースポーツA)	選択	4				○	○		○	
スポーツ実技E(ニュースポーツB)	選択	4				○	○		○	
スポーツ実技E(ジャズダンス)	選択	4				○	○		○	
救急処置法	選択	4						○		
スポーツ科学特論	選択	3			○					
C I S P パフォーマンストレーニングA	選択	2-4			○					○
C I S P パフォーマンストレーニングB	選択	2-4			○					○
応急手当・テーピング実習	選択	4						○		○
教育実習Ⅰ	選択	3-4		○						
海外課題研究	選択	2-4			○					
海外事例研究	選択	1-4			○					

解剖・生理学A	必修	1			○					
解剖・生理学B	必修	1			○					
体育・スポーツ原論	必修	1		○	○					
体育・スポーツ史	必修	1		○	○					
バイオメカニクス	必修	2		○	○			○		
体育・スポーツ心理学	必修	2		○	○			○		
生涯スポーツ論	必修	2		○	○					
運動・スポーツ生理学 I	必修	2		○	○			○		
衛生・公衆衛生学A	必修	3						○		
衛生・公衆衛生学B	必修	3						○		
スポーツ医学A	必修	2		○				○		
スポーツ医学B	選択	2		○				○		
学校保健A	選択	3						○		
学校保健B	選択	3						○		
健康診断演習	必修	3						○		
アスレティックトレーナー概論	選択	1						○		○
救急処置論	選択	1						○		
運動器の機能解剖学A	選択	2						○		
運動器の機能解剖学B	選択	2						○		
スポーツコンディショニング論	選択	3						○		
レジャー・レクリエーション論	選択	1						○		
スポーツ健康行動論	選択	2						○		
野外活動論	選択	3						○	○	
リハビリテーション	選択	3						○		
障害者スポーツ論	選択	3			○					
労働生理学	選択	3						○		
労働衛生学A	選択	4						○		
労働衛生学B	選択	4						○		
労働衛生法規・行政A	選択	4						○		
労働衛生法規・行政B	選択	4						○		
レクリエーション指導法 I	選択	2						○	○	
レクリエーション指導法 II	選択	2						○	○	
健康運動指導法	選択	3						○	○	
障害者スポーツ実習	選択	1			○				○	
トレーナー事例研究	選択	1						○		
健康運動実習 A	選択	2						○	○	
健康運動実習 B	選択	2						○	○	
健康運動実習 C	選択	3						○	○	
スポーツ医学C	選択	3						○		
アスレティックリハビリテーション論	選択	4						○		
アスリート評価法 A	選択	3						○		○
アスリート評価法 B	選択	3						○		○
スポーツコンディショニング実習 I	選択	3						○		○
スポーツコンディショニング実習 II	選択	3						○		○
アスレティックリハビリテーション実習 I	選択	4						○		○
アスレティックリハビリテーション実習 II	選択	4						○		○
アスレティックトレーナー実習A	選択	4						○		○
アスレティックトレーナー実習B	選択	4						○		○
スポーツパフォーマンス評価法	選択	1			○					
体育科教育法 II	選択	3-4			○					
保健科教育法 II	選択	3-4			○					
体育実技指導法(武道)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(体づくり運動)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(球技)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(ダンス)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(陸上競技)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(器械運動)	選択	3-4			○	○	○			
体育実技指導法(水泳)	選択	3-4			○	○	○			
スポーツパフォーマンス実習 I	選択	1			○					
スポーツパフォーマンス実習 II	選択	1			○					
スポーツパフォーマンス実習 III	選択	2			○					
スポーツパフォーマンス実習 IV	選択	2			○					
コーチング科学 A	選択	3			○					
コーチング科学 B	選択	3			○					
トレーニング論 A	選択	2			○					
トレーニング論 B	選択	2			○					
スポーツ法学	選択	3			○					
スポーツマネジメント事例研究	選択	2			○					
コーチング演習(専門種目) A	自由	4			○					
コーチング演習(専門種目) B	自由	4			○					

スポーツ科学部 入学者受入れの方針

スポーツ科学部では、中京大学の建学の精神である「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に基づき、学術の場とスポーツの場の調和を目指し、スポーツマンシップの四大綱を体得し、科学的方法に基づくスポーツや心身の健康に関する専門的な知識や技能を涵養するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を兼ね備えた有為な人材を養成します。

スポーツ科学は、多様化・複雑化する社会のスポーツに対するニーズに応え、スポーツをアカデミックな観点から総合的かつ専門的に研究する学問であり、その学びのためには、広い視野と知識が求められます。特に、社会人基礎力、科学的思考、実技能力が必要となります。

<入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度>

- ・高等学校等での幅広い教科の科目の学びに加えて、特に、国語力（読解力と表現力）、外国語能力（リーディング、ライティング）、理数系科目（数学、物理、生物等）の基礎知識、保健体育科の実技と理論に関する知識を有している人
- ・スポーツ活動において、自己の研鑽を積み、実績を挙げている人
- ・新たな課題を発見し、それを解決するために自ら考え、行動することができる人
- ・積極的に学ぶことにより、幅広い教養を身につけ、また、スポーツ科学の高度な専門性を追究する意欲をもつ人
- ・研究活動や課外活動、学生生活を通じて、これからの世の中で必要となる知識と能力を身につけ、将来、社会の一員として大きく貢献する意志と意欲を持つ人

<入学者選抜の方法>

多様な学生を評価するために、学力の3要素やスポーツの競技能力を考慮した入学者選抜を行っています。

- ・学力型
 - ①個別学力試験（A方式・M方式・F方式）
 - ②センター試験併用（得意科目重視型センタープラス方式）
 - ③センター試験利用（センター試験利用方式）
 - ④公募制一般推薦（基礎学力型）：評定平均50点＋学力試験100点

・ 競技力型

①公募制一般推薦（実技型）：学校長の推薦書、国語読解力試験、実技試験（重視）

②AO入試：競技実績（重視）、国語読解力試験、面接

入学者選抜において、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うかについては、下表のとおりです。

		前期・後期日程	推薦入試				AO入試	グローバル特別	特別入試
		A・M・F センタープラス センター利用	公募制推薦 (基礎学力 型)	公募制推薦 (実技型)	指定校推薦 (特Ⅱ推 薦)	附属校 併設校 推薦	AO スポーツ科学 部		帰国生徒 留学生 社会人
知識 技能	高等学校で履修した教科科目について、基礎的な学力を有しているか。 高等学校在籍時に検定試験を受け、資格等を取得しているか。 部活動等で優秀な成績を修めたか 正確な日本語で「読む・書く・話す」ことができ、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝えることができるか。	◎ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	◎ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 で確認	○ 筆記試験 実績 で確認	◎ 筆記試験 面接で 確認	○ 筆記試験 (小論文) で確認
思考力 判断力 表現力	自らの課題を発見し、その解決に向けて探究する力があるか。 成果等を表現するために、自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる力があるか。	△ 筆記試験 もしくは センター試験 で確認	△ 筆記試験 で確認	△ 調査書 当日の 実技で 確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ 志望理由 書 調査書 当日の面 接 で確認	◎ エントリー シート 調査書 当日の面 接 で確認	○ 志望理由 書 当日の 面接で 確認	◎ 筆記試験 (小論文) 面接 で確認
主体性 多様性 協働性	主体性をもって、正課内外を問わず様々な活動に参加したか。 ルールをまもり、多様な人々とチームワーク（協働）をつくることができたか。 ベストを尽くすことができたか。 相手に敬意をもって物事に取り組むことができたか。 地域や国内外の社会とつながり、働きかけができるか。	△ 調査書 で確認	△ 調査書 で確認	◎ 当日の 実技で 確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 調査書 推薦基準 で確認	△ 実技成績 で確認	△ 当日の 面接で 確認	△ 当日の 面接で 確認

文学研究科【学位授与の方針】

文学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

＜教育研究上の目的（理念・目的）＞

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、長い歴史をもつ日本の文学や言語を研究しながら、移りゆく流行の奥にひそむ、不易な価値や本質を探究している。こうした探究を通して、あるべき日本の伝統的文化を明確に自覚し、継承するとともに、後代に伝えてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、上代から現代までの日本文学、日本語、漢文、書道など多様な方面への専門的研究をおこない、日本語や日本文学の研究者や教員、さらには豊かな日本語や文学的教養を有した人材の社会への輩出を図る。

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、日本の文学や言語の研究をいっそう深化させ、あわせて隣接分野も俯瞰しながら、その普遍的な意義を探究してゆく。こうした探究を通して、日本の伝統が育んできた価値観や美意識をあきらかにし、現代的視点から改めて位置づけてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、専攻する各分野の文献や原典を正確に解析する高度な能力を錬磨してゆき、広範な視野から日本の文学や言語の価値を判断しうる研究者等の社会への輩出を図る。

以下は、この目的を前提とした学位授与の方針である。

＜学習成果(教育目標)＞

〔博士前期課程（修士課程）〕

博士前期課程の上記目標のもとに、本課程に2年以上（奨励学生は1年以上）在籍して所定の研究指導を受けた上、修士論文を提出して、下記の審査基準および面接試験に合格した者に、修士の学位を授与する。

1. 先行研究の整理と問題設定は適切になされていること。
2. 章立てを含めた論述の流れが適切であること。
3. 研究方法の選択、実行が適切になされていること。
4. 注や図表処理等も含めて、論述が的確でかつ分量的にも適切であること。
5. 設定した問題の解明が的確、適切になされていること。

〔博士後期課程〕

博士後期課程の上記目標のもとに、本課程に3年以上在籍して所定の研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、下記の審査基準および面接試験に合格した者に、博士（文学）の学位を授与する。

1. 自立した研究を行う能力や高度の専門的業務に必要な能力を有すると認められる内容であること。
2. 論旨が従来の研究のまとめや整理ではなく、独創的であること。
3. 創意を支える論証が確かであること。

4. 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表して、その論評に耐え得ること。
5. 使用した資料は提出者が収集したものであること。使用した資料が従来のものである場合は、その分析が斬新であること。

文学研究科【教育課程の編成・実施方針】

〔博士前期課程(修士課程)〕

本課程は、日本文学・日本語文化専攻一専攻である。学生は指導教員を定め、その指導のもとで修士論文を作成する。加えて、指導教員の演習科目 8 単位を含む所定の単位を取得する(取得する単位は 32 単位以上)。開講科目は前期課程担当教員 10 名全員が開講する。

〔博士後期課程〕

本課程は、日本文学・日本語文化専攻一専攻である。学生は指導教授を定め、その指導のもとで博士論文を作成する。加えて、指導教授の演習科目 12 単位を含む所定の単位を取得する(取得する単位は 12 単位以上)。(課程博士として博士の学位申請論文を提出する場合、論文執筆のための構想、論旨等について指導を受け、指導教授の承認を受けることになっている)。開講科目は後期課程担当教員 5 名全員が開講する。

文学研究科【入学者受け入れの方針】

〔博士前期課程〕

本課程は、学部で修得した日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学のいずれか、またはその関連領域の、一般的ならびに専門的教養のうえに、批判的精神と犀利な問題意識をもって、日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学等の諸分野を研究しようとする学生を受け入れる。

〔博士後期課程〕

本課程は、博士前期課程で修得した人文学の諸領域における高い専門能力と基礎文献の活用能力のうえに、日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学の分野において自律した研究者に相応しく高度で独創的な研究を行おうとする学生を受け入れる。

国際英語学研究科【学位授与の方針】

国際英語学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔修士課程〕

1. 国際英語学専攻は、国際英語の視点に立ち、英米の英語や文化への偏重姿勢を超えた新しい国際的視野をもつ英語教育者を養成すること、および、そのような英語教育者の養成に自ら貢献しうる国際英語学研究者を育てることを目的とする。また、現代の国際化する企業組織や国際団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力と異文化に対する深い理解や柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。
2. 英米文化学専攻は、国際英語の観点も視野に入れた高いコミュニケーション能力を有するとともに英米文化に関する専門性を持った高度専門職業人・企業人、研究員を養成することを目的とする。文化研究コースでは、旧来の英文学専攻に見られる文学偏重を排し、英米の音楽・映画等の現代文化も題材にして多面的な英米文化研究を目指す。また、言語研究コースでは、実際の言語運用の側面にも配慮した研究・教育を行う。こうした専門教育に加えて、実践的英語運用能力の向上を配慮した科目を配することで高度な専門知識を備えた国際人の養成を目的とする。

<学習成果(教育目標)>

国際英語学研究科は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けただで修士論文(※)を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して修士(国際英語学)または修士(英米文化学)を授与する。

〔修士課程〕 国際英語学専攻

1. 国際英語学全般にわたる広く深い知識を有していること。
2. 情報処理能力とコミュニケーション能力を身につけ英語を用いて専門的議論ができること。
3. 習得した知識と技能を用いて、専門的職業人としての能力を身につけていること。
4. 職業人または研究者としての高い自覚と倫理意識を持ち社会に貢献できること。

〔修士課程〕 英米文化学専攻

1. 英語圏の言語文化に関する広く深い学識を持ち、現代の社会において多様な文化が抱える諸問題を学術的側面から理解するべく多面的に取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現する力があること。

2. 研究者もしくは職業人としての高い自覚と倫理意識を持ち、自身の言動や価値観を批判的に内省し、自身の責任と判断に基づいて行動できること。
3. 身につけた知識と技術とを駆使して、社会に貢献できる専門的実務者としての能力を獲得していること。
4. 各種情報処理能力及び高度なメディア・リテラシーを身につけ、専門的議論を英語で行い、またそれを英語で整理・要約し発信することができる。
5. 自身の問題意識に基づき、英米の文化・歴史・政治・社会の諸分野について広範な知識を持ち、かつその分野について批判的な視点から論理的に論じることができる。

※修士論文の審査基準は以下の通りとする。

1. 先行研究の整理と問題設定は適切にされているか。
2. 章立てを含めた論述の流れは適切であるか。
3. 研究方法の選択、実行は適切になされているか。
4. 注や図表処理等も含めて、論述が的確でかつ分量的にも適切であるか。
5. 設定した問題の解明は的確、適切になされているか。

国際英語学研究科【教育課程の編成・実施方針】

国際英語学研究科は、以下に示す2専攻教育課程を編成し、実施していくこととする。

〔修士課程〕国際英語学専攻

本専攻の教育課程は、国際英語の理念と実践面での応用の連携を目指している。教育課程は、国際英語学関連、国際英語教育学関連、異文化間コミュニケーション関連、その他の科目からなっているが、それぞれは別個のものではなく有機的な関連を持つ。

1. 「国際英語学特論」、「社会言語学特論」などの履修で国際英語学研究に特化する。
2. 「国際関係学特論」、「異文化理解特論」などの履修で異文化理解研究に特化する。
3. 「国際英語教育学特論」、「早期英語教育学特論」、「国際日本語教育学特論」などの履修で言語教育研究に特化する。
4. 「言語政策特論」、「国際ジャーナリズム論特論」、「国際観光学特論」などの履修で英語の実用分野での研究に特化する。
5. 「英語論文作成法特論」、「英語プレゼンテーション特論」は修士論文作成や研究発表の指導を行う科目である。
6. 「国際英語学特殊演習」では、学生は自身の研究分野に即して必要な科目を履修し、修士論文執筆のための研究指導を受ける。
7. 「英語教育政策論」、「英語教育評価論」、「比較英語教育学特論」、「英語科指導演習」は現職英語教師の専修免許状取得と英語力向上を目指したリフレッシュプログラムである。

専攻	授業科目	単位
国際英語学専攻	国際英語学基礎	2
	国際英語学特論Ⅰ	2
	国際英語学特論Ⅱ	2
	社会言語学特論Ⅰ	2
	社会言語学特論Ⅱ	2
	言語政策特論Ⅰ	2
	言語政策特論Ⅱ	2
	異文化理解特論Ⅰ	2
	異文化理解特論Ⅱ	2
	早期英語教育学特論Ⅰ	2
	早期英語教育学特論Ⅱ	2
	英語教育政策論	2
	比較英語教育学特論	2
	英語教育評価論	2

国際 英語 学 専 攻	国際関係学特論Ⅰ	2
	国際関係学特論Ⅱ	2
	国際観光学特論Ⅰ	2
	国際観光学特論Ⅱ	2
	国際ジャーナリズム論特論Ⅰ	2
	国際ジャーナリズム論特論Ⅱ	2
	国際英語教育学特論Ⅰ	2
	国際英語教育学特論Ⅱ	2
	国際日本語教育学特論Ⅰ	2
	国際日本語教育学特論Ⅱ	2
	英語プレゼンテーション特論Ⅰ	2
	英語プレゼンテーション特論Ⅱ	2
	英語論文作成法特論Ⅰ	2
	英語論文作成法特論Ⅱ	2
	英語科指導演習Ⅰ	2
	英語科指導演習Ⅱ	2
	英語科指導演習Ⅲ	2
	英語科指導演習Ⅳ	2
	国際英語学特殊演習Ⅰ	2
	国際英語学特殊演習Ⅱ	2
国際英語学特殊演習Ⅲ	2	
国際英語学特殊演習Ⅳ	2	

〔修士課程〕英米文化学専攻

本専攻では、多様な価値観と文化を尊重し、それらに対する理解を深めることを通じて、英米の言語文化に関する広範な学識と、それに対する分析的かつ批判的な国際的視点を持って自ら課題を設定し解決できるよう、教育カリキュラムを編成する。

1. 専攻科固有科目の卒業要件単位は演習 8 単位を含む 30 単位であり、履修区分に応じて以下の通り演習と講義の 2 種の区分で構成されている。
2. 専攻科の固有科目として開講される講義科目は、大別して英米圏の言語文化の基本的・総合的な学識や素養を獲得するための科目(「英米文化学特論」、「イギリス文化研究特論」、「北アメリカ文化研究特論」など)、研究実践のための手法や概念について学ぶための科目(「アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ」、「リサーチ・メソッドⅠ・Ⅱ」など)及び専門領域に特化した問題を扱い、専門の高度化を図る目的で設けられる科目(「イギリス文化研究特論Ⅰ・Ⅱ」、「北アメリカ文化研究特論Ⅰ・Ⅱ」、言語システム研究特論Ⅰ・Ⅱ)などがあり、学生はこれらの科目から自身の研究分野や関心に則して必要な科目を履修する。
3. 専攻科の固有科目として特殊演習(研究指導)科目があり、学生はこれらの科目のうち、自身の研究分野に即して必要な科目を履修し、修士論文執筆のための研究指導を受ける。

4. 論文作成においては、1年次における構想発表、2年次における中間発表を通じて、主に指導教員から講評・指導を受ける機会を設ける。

専攻	授業科目	単位
英 米 文 化 学 専 攻	英米文化学特論	2
	アカデミック・ライティングⅠ	2
	アカデミック・ライティングⅡ	2
	リサーチ・メソッドⅠ	2
	リサーチ・メソッドⅡ	2
	イングリッシュ・ワークショップⅠ	2
	イングリッシュ・ワークショップⅡ	2
	イギリス文化研究特論Ⅰ	2
	イギリス文化研究特論Ⅱ	2
	北アメリカ文化研究特論Ⅰ	2
	北アメリカ文化研究特論Ⅱ	2
	比較地域文化特論Ⅰ	2
	比較地域文化特論Ⅱ	2
	演劇文化特論Ⅰ	2
	演劇文化特論Ⅱ	2
	言語文化・批評特論Ⅰ	2
	言語文化・批評特論Ⅱ	2
	言語システム研究特論Ⅰ	2
	言語システム研究特論Ⅱ	2
	言語データ処理特論Ⅰ	2
	言語データ処理特論Ⅱ	2
	言語ワークショップⅠ	2
	言語ワークショップⅡ	2
英米文化学特殊演習Ⅰ(研究指導)	2	
英米文化学特殊演習Ⅱ(研究指導)	2	
英米文化学特殊演習Ⅲ(研究指導)	2	
英米文化学特殊演習Ⅳ(研究指導)	2	

国際英語学研究科【入学者受け入れの方針】

国際英語学研究科は、「国際英語学」と「英米文化学」の2専攻を設け、学生を募集する。「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、および専攻科が定める教育研究上の目的(理念・目的)にある人材を育成するために、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。

〔修士課程〕 国際英語学専攻

本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。

- ・ 専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。
- ・ 研究に必要とされる十分な英語力を有していること。
- ・ 自ら設定した研究課題について遂行する意欲を有していること。
- ・ 文化を異にする人達と良好な人間関係を構築できること。

〔修士課程〕 英米文化学専攻

本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。

- ・ 社会が必要とする、国際レベルでの異文化間相互理解と交流の課題に対する明確な問題意識を有していること。
- ・ 語学力を含めて、専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。
- ・ 自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。

心理学研究科【学位授与の方針】

心理学研究科は、定められた課程を修め、以下の学習成果を挙げた者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

1. 実験・応用心理学専攻は、基本的心理過程に関する学識を有し、その応用により快適で安全な人間環境系の設計に寄与する専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。実験心理学領域では、実験・測定・解析等基礎と応用を繋ぐ多様な方法に精通した人材を養成し、応用心理学領域では、基礎研究の成果を踏まえ、現実的諸問題の解決を可能にする心理技術を修得し、社会的要請に応じて専門的実務に従事する人材を養成する。
2. 臨床・発達心理学専攻は、心理学全般にわたる広い学識を有し、適応事象の基本を身につけた専門的実務者又は学術研究の養成を目的とする。臨床心理学領域では、心理的適応の困難な個人又は集団に対し適切な援助を行う人材を養成し、発達心理学領域では、重要な発達研究法である観察・面接・質問紙調査等を駆使した行動の発達過程の追跡及び分析を通して、現実社会で生起する諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。

〔博士後期課程〕

1. 実験・応用心理学専攻は、人間の基本的な心理過程を解明するとともに、その応用によって快適で安全な人間環境系の設計に寄与する学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。実験心理学領域では、人間の基本的心理過程を解明する先端的研究を推進する人材を養成し、応用心理学領域では、現実的諸問題の解決を可能にするための心理技術の高度化を行うとともに、社会的要請に応じて諸問題を解決する人材を養成する。
2. 臨床・発達心理学専攻は、人間全般にわたる広い学識を有し、適応過程を解明するとともに、適切な援助を与えることのできる学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、適応、人格、心理査定等に関する基礎的研究及び臨床事象に関する研究に従事するとともに、適切な心理臨床を行う人材を養成し、発達心理学領域では、人間の生涯にわたる発達を体系的に解明するとともに、発達の諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。

＜学習成果(教育目標)＞

〔博士前期課程(修士課程)〕

心理学研究科博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文（※）を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して修士（心理学）を授与する。

1. 心理学全般にわたる広く深い学識を有し、現代の人間および人間社会が直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現する力があること。
2. 心理学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学できる能力を身につけていること。
3. 修得した知識と技能を用いて、社会に貢献できる専門的実務者としての能力を身につけていること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※修士論文の審査基準は以下のとおりとする。

1. 先行研究の整理と問題設定が適切になされていること。
2. 問題設定にもとづいた研究方法およびその実行が適切であること。
3. 得られた結果から明確な結論が導き出され、かつ今後の課題が議論されていること。
4. 上記の問題設定・実行・結論が適切な章立てで論述されていること。
5. 図・表・引用文献・データ等が適切に明示されていること。
6. 全体として論述が簡潔明解であり、本文・資料の分量が適切であること。

修士論文の審査基準1～3は内容について、4～6は形式についてであり、これら2点から審査し、口述試問と併せて合否判定を行う。

〔博士後期課程〕

心理学研究科博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文（※）を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して博士（心理学）を授与する。

1. 心理学の専門家としての高度な研究能力とその礎となる豊かな学識を身につけていること。
2. 独創的な研究活動を旺盛な意欲を持って遂行し、研究の成果を広く発表することにより優れた研究者として認められること。
3. 現代の人間および人間社会が直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、解決への道筋をつけていく力があること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

1. 問題解決のために斬新な方法が採択され、その確実な実行により成果が得られていること。
2. 内容が国内外の審査のある学術誌に、あるいは著書として公表されたものを含むこと。
3. 論文のもつ意義が、専門および関連領域のなかに明確に位置づけられていること。
4. 研究成果が学会および社会に貢献できる可能性を有すること。

博士論文においては、当該研究分野の先行研究の整理にとどまらず、深く問題点を分析し自らの研究により従来の研究を発展させる可能性を示すことが求められる。

心理学研究科【教育課程の編成・実施方針】

心理学研究科は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

〔博士前期課程(修士課程)〕

専攻領域や進路の違いを超え、複数の学問分野・領域と連携協力してプロジェクト・チームの一員として課題解決に寄与する人材を育成する。そのため、課程を通じて、学問体系における心理学の位置づけを把握し、専攻領域に固有の概念体系や方法論を修得し、それらの学識と自らの問題関心に基づいて課題を解決できるよう、教育カリキュラムを編成する。

1. 授業は、下記の表にあるとおり、「研究科共通」、「専攻内共通」、「領域固有」の3種の区分で構成する。
2. 研究科共通科目として、「心理学論」や「心理学研究法」など領域横断的な問題や方法を扱う科目を配置する。研究科共通科目はいずれの専攻であっても、その履修を可能とし、2科目(4単位)を必修とする。
3. 専攻内共通科目として、「認知心理学特論」・「人間環境系特論」(実験・応用心理学専攻)、「児童精神医学特論」・「発達心理学特論」(臨床・発達心理学専攻)など近接領域相互の関係づけを緊密にすることに役立つ科目を配置し、授業科目の多くをこの区分に含める。
4. 領域固有科目として、「演習」や「研究」(修士課程研究指導)をはじめとして、各領域に特化した科目を配置する。
5. 論文作成においては、1年次における構想発表、2年次における中間発表を通じて、多種領域の教員から講評・指導を受ける機会を設ける。
6. 授業の目的および形式に基づいて、下記の表にあるとおり種別を設定する。
7. 現職者など社会人の学習に応じるため、昼間(第1～5時限)と夜間(第6・7時限: 18:20～21:30)の授業時間帯を設ける「昼夜開講制」を実施する。
8. 実験・応用心理学専攻(実験心理学領域)は、必修の講義科目4単位及び指導教員の研究(論文指導)8単位(ただし、各セメスター2単位)を含め、合計32単位以上を修了要件とする。
9. 実験・応用心理学専攻(応用心理学領域)は、必修の講義科目4単位、必修の实地演習科目2単位及び指導教員の研究(論文指導)8単位(ただし、各セメスター2単位)を含め、合計32単位以上を修了要件とする。
10. 臨床・発達心理学専攻(臨床心理学領域)は、必修の講義科目4単位、必修の実習科目8単位及び指導教員の研究(論文指導)8単位(ただし、各セメスター2単位)を含め、合計32単位以上を修了要件とする。

11. 臨床・発達心理学専攻（発達心理学領域）は、必修の講義科目 4 単位及び指導教員の研究（論文指導）8 単位（ただし、各セメスター2 単位）を含め、合計 32 単位以上を修了要件とする。

【授業区分】

区 分	内容の説明
研究科共通科目群	専攻(あるいは領域)を超えて、心理学専攻者の専門的素養とされる学識や経験を与える目的で設けられる授業科目群
専攻内共通科目群	専攻の領域間の交流を促進するために、同一専攻に属する大学院生が共有すべき専門的知識や方法を習得させる目的で設けられる授業科目群
領域固有科目群	領域に特化した問題を扱い、専門の高度化を図る目的で設けられる授業科目群

【授業種別】

種 別	内容の説明
総 論	心理学をディシプリンとして俯瞰的にとらえ、その特質を明らかにする。
特 論	個別領域における問題展開や研究成果を概観する。
演 習	特定のテーマを取り上げて資料研究およびその論評を行う。
実 習	個別領域における課題研究の具体的方法を習得させる。
研 究	学位論文課題研究の遂行を指導・助言する。

〔博士後期課程〕

学術研究・教育者あるいは高度専門実務者となる人材を養成するために必要なカリキュラムを編成する。

1. 授業は、「研究科共通」、「専攻内共通」、「領域固有」の3種の区分で構成する。
2. 研究科共通科目として、「心理学論・学史演習」と「学術成果公表法演習」を配置する。
3. 専攻内共通科目として、「実験心理学特論」「同演習」・「応用心理学特論」「同演習」（実験・応用心理学専攻）、「臨床心理学演習」・「発達心理学演習」（臨床・発達心理学専攻）を配置する。
4. 領域固有科目として「研究」を配置し、学会発表や学位取得に向けた論文作成の指導を行う。

5. 1・2年次においては毎年度末に成果論文を提出するとともに、学会発表や投稿論文の成果について報告することにより、中間的に講評・指導を受ける機会を設ける。
6. 指導教員の研究（論文指導）12単位（ただし、各年次4単位）を含め、合計20単位以上を修了要件とする。

心理学研究科【入学者受け入れの方針】

心理学研究科は、「実験・応用心理学」と「臨床・発達心理学」の2専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。

〔博士前期課程〕

本課程では一般選抜のほか、社会人選抜を設けて入学試験を実施する。

本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。

- ・現代の人間および人間社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有していること。
- ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。
- ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。

〔博士後期課程〕

本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。

- ・博士前期課程において心理学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。
- ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。

社会学研究科【学位授与の方針】

社会学研究科は、定められた課程を修め、以下の学習成果をあげた者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程においては、社会学および隣接諸科学の専門知識を深く修得し、現代社会に生起する諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を培った人材を養成することを目的とする。また、「専門社会調査士」資格取得のための教育をはじめ、フィールドワークにもとづく教育研究を重視し、専門的実践的能力及び調査研究に求められる倫理性を育成することによって、行政機関、専門機関、企業等において専門的な業務を担当できる人材を養成する。

〔博士後期課程〕

博士後期課程においては、社会学の諸領域および隣接諸科学の専門知識を体系的に修得し、各専門分野の研究を自立的に遂行できる能力を培った人材を養成することを目的とする。この目的を実現するために、専門的学識を充実させる研究指導とならび、調査研究を組織し指導するために求められる専門的実践的能力の育成を重視し、大学・高等教育研究機関等の研究・教育専門職をはじめ、高度の専門的業務に従事できる人材を養成する。

<学習成果(教育目標)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文(※)を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して修士(社会学)を授与する。

1. 社会学の諸領域及び隣接諸科学の学識を有し、現代社会に生起する諸現象・諸問題を分析し洞察し、その成果を表現する力があること。
2. そうした分析・洞察を可能にする、社会学及び隣接諸科学の方法に関する知識・技能を身につけていること。
3. 身につけた知識と技能を用いて、社会に貢献できる専門的実務者としての能力を有していること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※修士論文の審査基準は以下のとおりとする。

下記の 3 つの条件を、論文提出者の専門分野における深い学識と研究能力を示す水準で達成していること。

1. 先行研究を十分にレビューした上で、適切な問題設定がなされている。
2. 適切に選択された方法によって得られた、十分な証拠と明確な論証とにもとづいて、設定された問題に関する必要な考察がなされている。
3. 図表、文献の引用、註等を含めて、論文が学術論文としての適切な体裁を備えている。

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文（※）を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して博士（社会学）を授与する。

1. 社会学の諸領域及び隣接諸科学の専門家としての高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を身につけていること。
2. 独創的な研究活動を遂行し、研究の成果を広く発表することにより優れた研究者として認められること。
3. 現代社会が直面する諸問題に学術的側面から取り組み、解決への道筋をつけていく力があること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

下記の 3 つの条件を、論文提出者の専攻分野において研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示す水準で達成していること。

1. 先行研究を十分にレビューした上で、適切な問題設定がなされている。
2. 適切に選択された方法によって得られた、十分な証拠と明確な論証とにもとづいて、設定された問題に関する必要な考察がなされている。
3. 図表、文献の引用、註等を含めて、論文が学術論文としての適切な体裁を備えている。
なお、論文提出者は、学会誌掲載論文もしくはこれに準ずる業績を 1 編以上もつこと。

社会学研究科【教育課程の編成・実施方針】

社会学研究科は、以下に示す教育課程を編成し、実施している。

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程の教育においては、社会学および隣接諸科学の専門知識を深く広く修得し、現代社会に生起する諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を培う。また、「専門社会調査士」資格取得のための教育をはじめ、フィールドワークにもとづく教育研究を重視し、専門的実践の能力及び調査研究に求められる倫理性を育成する。この目的の達成を目指してカリキュラムを編成している。

1. 授業は、下記の表にあるとおり、「特殊講義」と「演習」に区分される。
2. 指導教員、および副指導教員（2名）を中心とした「演習」により、大学院生自身の研究テーマの深化と研究方法に関する知識・技能の授与、ならびに研究論文作成のための諸能力の育成をはかる。
3. 指導教員、副指導教員以外の教員を含めた多彩な「特殊講義」により、社会学および隣接諸科学の専門知識を広く修得する。
4. 「専門社会調査士」資格取得のための認定科目として、「調査企画演習」、「多変量解析演習」、「質的調査演習」（各2単位）を開講する。
5. 資格科目を含め、すべての「特殊講義」、「演習」は Semester 単位で開講し、できる限り多様な内容を網羅して履修することを可能にしている。
6. 論文作成においては、1年次における構想発表、2年次における中間発表を通じて、多種領域の教員から講評・指導を受ける機会を設ける。
7. 指導教員の各年次演習を含む演習（「専門社会調査士」資格のための「演習」を含む）12単位以上、特殊講義16単位以上を含む合計32単位以上を修了要件とする。

【授業種別】

種別	内容の説明
特講	個別領域における先端的課題を取り上げ、その成果を紹介する。
演習	受講者の研究テーマに近いピックにもとづき、論文作成を目的とした研究能力を養成する。

〔博士後期課程〕

博士後期課程の教育においては、社会学の諸領域および隣接諸科学の専門知識を体系的に修得し、各専門分野の研究を自立的に遂行できる能力を培った人材を養成する。この目的を達成するために、専門的学識を充実させる研究指導とともに、特に調査研究を組織し指導するために求められる専門的実践的能力の育成を重視してカリキュラムを編成している。

1. 授業は、すべて「演習」とする。
2. 指導教員、および副指導教員（2名）による指導体制をとり、大学院生を自立した研究者として育成する体制を整えている。
3. 「演習」はすべて Semester 単位で開講し、専門知識を広く体系的に修得できるように配慮している。
4. 指導教員を中心とした指導のもとに、研究の積極的な遂行とともに、学会活動、特に審査つき論文を執筆・投稿するための指導と条件整備を行っている。また「院生論集」を、大学院生自身の編集によって刊行し、発表機会を保障するとともに、相互研修の契機としている。
5. 毎年度、研究経過の中間報告会を実施し、学会発表や投稿論文の成果について報告することにより、広く講評・指導を受ける機会を設けている。
6. 指導教員の各年次演習を含む合計 16 単位以上を修了要件とする。

社会学研究科【入学者受け入れの方針】

社会学研究科は、「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある高度な専門家を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人材を広く求め、受け入れる。

〔博士前期課程〕

- ・ 現代社会に生起する諸現象，諸問題を認識し，それを分析・洞察する能力を，一定の研究実績として示していること。
- ・ 専門教育を受けるに適した社会学および隣接諸科学に関する基礎知識，ならびに外国語の能力を有していること。
- ・ 自ら設定した課題を遂行する意欲を有していること。

〔博士後期課程〕

- ・ 博士前期課程において社会学および隣接諸科学に関する高度な学識や，外国語能力を含む研究遂行のための基礎能力を有していること。
- ・ 学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するための基本的資質を示すものとして、自ら設定した課題についての質の高い研究成果をあげていること。
- ・ 自ら設定した課題について高い水準の研究活動を遂行する意欲を有していること。

法学研究科【学位授与の方針】

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

法学研究科は、以下に掲げる教育研究上の理念及び目的に基づき定められた課程を修め、下記の成果を上げた者に対して、修士号（法学）を授与する。

法の目的たる正義を実現し、あらゆる社会悪と闘うために必要となる高度な専門的知識及び卓越した実践能力の修得を教育研究上の理念とする。

本研究科は、この理念に基づく教育研究を通じて、法律学及び政治学に関する高度な専門的知識、思考能力、問題発見能力、問題解決能力を修得させ、研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を有し、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重すべく（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を決して惜しまないような（「ベストを尽くす」）人材育成を教育研究上の目的とする。

〔博士後期課程〕

法学研究科は、以下に掲げる教育研究上の理念及び目的に基づき定められた課程を修め、下記の成果を上げた者に対して、博士号（法学）を授与する。

法の目的たる正義を実現し、あらゆる社会悪と闘うために必要となる研究者にふさわしい高度な専門知識及び卓越した実践能力の修得を教育研究上の理念とする。

本研究科は、この理念に基づく教育研究を通じて、法律学及び政治学に関する卓越した専門的知識、思考能力、問題発見能力、問題解決能力を修得させ、研究者として自立して研究活動を行い、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重すべく（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を決して惜しまない（「ベストを尽くす」）人材育成を教育研究上の目的とする。

<学習成果(教育目標)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

1. 法律学及び政治学に関する高度な専門的知識を修得するとともに、普遍的な特有の思考方法、法的及び政治的な問題を見出し、その妥当な解決を図る能力、そして、研究能力を身につけることができる。
2. 理論に基づいた法律学的思考能力及び政治学的思考能力を身につけることができる。

〔博士後期課程〕

1. 法律学及び政治学について、研究者として自立して研究活動を行うことができる。
2. 法律学及び政治学に関する高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を身につけることができる。

法学研究科【教育課程の編成・実施方針】

法学研究科が定める「教育研究上の目的」に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施している。

【博士前期課程(修士課程)】

法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法を修得してさまざまな事象に対応することのできる人材を育成する。そのため、課程を通じて、学問体系における法律学ないし政治学の位置を把握し、専門領域に固有な概念体系や方法論を修得し、それらの学識と自らの問題関心に基づいて課題を解決できるように柔軟な教育カリキュラムを編成する。

【コース区分】

高度の専門知識を有する職業人を養成するため、研究コースと専門コースを配置した。研究コースは主に大学院博士後期課程への進学を希望し研究者を目指す者を対象とし、専門コースは高度な専門的知識を修得しより専門性のある職業に就くことを目指す者を対象としている。

1. 科目は、特殊講義と演習とで構成する。
2. 授業科目には、専門領域にかかわる特殊講義科目と特定研究科目に、より専門的知識を修得するために他大学院履修科目とを置く。
3. 研究コースの者を対象とする研究論文指導（4単位）と、専門コースの者を対象とする専門論文指導（4単位）を置く。
4. 論文作成に対しては、指導教員の研究指導及び論文指導の他に、研究科が行う修士論文中間報告会において多種領域の教員からの講評や指導をうける機会を設ける。
5. 特殊講義24単位以上、指導教員の演習の4単位、論文指導4単位、合計32単位以上を修了要件とする。

【博士後期課程】

学術研究・教育者あるいは高度専門家となる人材を養成するために必要なカリキュラムを編成する。

1. 授業科目は、研究論文の作成を目的として演習を配置する。
2. 研究科が各年度に行う中間研究報告会において、研究成果の報告を行い、研究科構成教員による講評・指導を受ける機会を設ける。
3. 各年次の指導教員の演習のうち、本人の希望する専攻科目の演習（4単位）を含む合計12単位以上を修了要件とする。

法学研究科【入学者受け入れの方針】

法学研究科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、そして、本研究科が定める「教育上の目的（理念、目的）」に賛同し、これまで培ってきた知識や技能を土台として、真理を探究する研究心の旺盛な且つ真摯な態度で法律学及び政治学を学び、昇華させようとする意欲的な人を広く求める。

〔博士前期課程〕

本課程は、学部の教育課程において習得した一般的教養、法律学並びに政治学の専門的知識、その他の関連する諸分野の知識、及び、外国文献の基礎的な読解力のうえに、これらによって培った鋭敏な問題意識及び問題発見能力をもって、法学及び政治学その他の関連する諸分野を研究することを志す学生を受け入れる。

〔博士後期課程〕

本課程は、博士前期課程（修士課程）において修得した一般的教養、法律学並びに政治学の専門的知識、その他の関連する諸分野の知識、及び、外国文献の読解力のうえに、これらによって培った鋭敏な問題意識及び問題発見能力をさらに研ぎ、今後、法律学及び政治学の学問水準を高める研究業績を博士論文において示しうる学生を受け入れる。

経済学研究科【学位授与の方針】

経済学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

経済学研究科経済学専攻および総合政策学専攻の博士前期課程の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

1. 経済学専攻博士前期課程は、専門教育を通じて以下に掲げる人材の養成を目的とする。
 - ①経済学の新しいパラダイムの構築に資することのできる研究者
 - ②国際的に貢献できるエコノミスト等
 - ③高度な専門学識を通じて学問研究と社会の結びつきに資する専門職業人
 - ④出身国ならびにわが国の発展と相互友好のために活躍できる外国人研究者
2. 総合政策学専攻博士前期課程は、政策研究に関する学部レベルの基礎的なポリシー・リテラシーが修得されていることを踏まえて、さらに高度な専門知識を究め、実践的能力と研究能力を培う。とりわけ、公共政策や地域政策、経営戦略やマーケティングなどに関する理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力に裏打ちされた高度の専門的職業を担うことができる卓越した人材を養成することを目的としている。

〔博士後期課程〕

経済学研究科経済学専攻および総合政策学専攻の博士後期課程の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

1. 経済学専攻博士後期課程は、博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、それらの目的を自立的に遂行できる能力を培うための論文作成指導を徹底し、より高度な経済専門研究者および職業人を養成することを目的とする。
2. 総合政策学専攻博士後期課程の教育研究上の目的は、博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、研究者の育成とともに、政策立案や経営管理に関する実践現場において既に専門的な職業に従事している人材の再教育の場を提供する。最新の研究成果に基づく新たな知見から価値を創造する能力を身につけ、企業や行政機関、教育研究機関など、社会の様々な場で中核となる人材を送り出すことを目標としている。

＜学習成果(教育目標)＞

〔博士前期課程(修士課程)〕

経済学研究科博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文(※)を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して経済学専攻にあつては修士(経済学)を、総合政策学専攻にあつては修士(総合政策学)を授与する。

1. 経済学または総合政策学全般にわたる広く深い学識を有し、現代の経済社会が直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現する力があること。
2. 経済学または総合政策学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学できる能力を身につけていること。
3. 修得した知識と技能を用いて、社会に貢献できる専門的実務者としての能力を身につけていること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※ 修士論文の審査基準は以下のとおりとする。

経済学専攻

修士論文の内容に関して、次の条件をすべて満たしていること。

1. 研究の背景や目的を理解している。
2. 先行研究や関連する研究等、研究課題に関する知識の整理がなされている。
3. 研究方法の選択・実行が適切になされている。
4. 論文の体裁(要旨、目次、章立て、図表、データ、式、脚注等)が整っており、正確で適切にまとめられている。
5. 得られた結果と今後の課題について述べている。
6. 引用文献が適切である。
7. 論文内容について論理的にわかりやすくプレゼンテーションができ、質問に正確に答えられる。

総合政策学専攻

1. 当該学問分野の発展に貢献する新たな知見があること。
 2. 総合政策学としての発展の可能性がみられること。
- とし、その評価等については、
3. 修士論文「最終試験」は、修士論文の目的・背景・成果について発表し、評価を受ける。発表20分、質疑等20分とする。

修士論文「最終試験」の評価40点(要24点以上)、修士論文の評価60点として評価し、60点以上を合格とする。

〔博士後期課程〕

経済学研究科博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文（※）を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して経済学専攻にあつては博士（経済学）を、総合政策学専攻にあつては博士（総合政策学）を授与する。

1. 経済学または総合政策学の専門家としての高度な研究能力とその礎となる豊かな学識を身につけていること。
2. 独創的な研究活動を旺盛な意欲を持って遂行し、研究の成果を広く発表することにより優れた研究者として認められること。
3. 現代の経済社会が直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、解決への道筋をつけていく力があること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

経済学専攻

博士論文の内容は、学術論文、国際的ないし全国的規模の学会、あるいは著書などに公表しているか、公表される予定であるものとし、修士学位授与の審査・判定基準を満たし、かつ次の条件をすべて満たしていること。

1. 自立した研究や高度な専門業務に必要な能力を有すると認められる内容である。
2. 論文内容に新たな知見がある。
3. 将来への発展の可能性がみられる。

総合政策学専攻

1. 当該学問分野の発展に大きく貢献する新たな知見があること。
2. 総合政策学としての発展の可能性が見られること。

さらに、博士論文の水準等は、

3. 査読制度のある国際的学術誌または、国内外の学会誌に掲載される程度の水準とし、博士論文の審査委員によって評価する。
4. 博士論文の審査委員は最終試験を実施する。最終試験では、博士論文の内容およびそれに関連した分野の学力を口頭もしくは記述式試験によって評価・判定する。

経済学研究科【教育課程の編成・実施方針】

経済学研究科は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

〔博士前期課程(修士課程)〕経済学専攻

1. カリキュラム編成の特徴

- ①「理論」、「歴史」、および「政策」を中心とするオーソドックスなカリキュラムを編成する。
- ②経済の現実問題を的確に把握し、理解するためには「理論」の修得は重要であり、現代の経済理論の基礎と応用や経済理論・経済思想の発展に関する講義を配置する。
- ③経済学において歴史的な考え方・捉え方はきわめて重要であり、「経済史」に関する講義を配置する。
- ④種々の経済問題の解決をはかるための政策についても、財政、金融、国際経済学等各種の政策論に関する講義を配置する。
- ⑤税理士等専門的職業人を指すものにとって必要とされる税法に関する講義を配置する。

2. 研究指導体制

- ①院生は、志望する専門分野に従って選ぶ指導教員のほか、指導教員の指導のもとで隣接分野から副指導教員を選ぶものとする。
- ②複数の指導教員は、個々の院生の学力と志望に従って、相互に連携をとりながらきめの細かい丁寧な研究指導を行う。
- ③研究者志望の院生に対しては、必要となる基礎的学力を身につけ、本人が志望する専門分野において活躍できる研究能力を養う講義と研究指導を行う。
- ④税理士志望の院生に対しては、財政や税法に関する研究指導はもとより、将来、税理士として活躍できるための基礎学力と専門知識を養うための講義と研究指導を行う。
- ⑤民間企業または公務員を目指す院生に対しては、本人が志望する専門分野に従って、将来それぞれの分野で活躍できるための基礎学力と専門知識を養うための講義と研究指導を行う。

3. カリキュラム編成と修了要件

- ①カリキュラムは「研究」(講義)科目と「特殊研究」(演習)科目から構成される。
- ②以下の要件を全て満たすことを修了要件とする。
 - (1) 特殊講義 8 単位以上
 - (2) 経済学基礎演習 I・II を除く演習 12 単位以上 (各セメスター 2 単位以上)
 - (3) 特殊講義及び演習 (経済学基礎演習 I・II を含む。) 合計 32 単位以上
- ③総合政策学専攻修士課程で開講している「講義科目」についても、「他専攻履修科目」として、修士課程の 2 年間で 4 科目 8 単位まで履修することができる。

④論文指導は「特殊研究」のなかで行う。

〔博士前期課程(修士課程)〕総合政策学専攻

1. 「基礎」、「発展」、「論文指導」の科目群からカリキュラムを編成

①論文指導

大学院入学試験の際に申請した指導教員 1 名が担当する必修科目の「総合政策特殊研究」を 2 年間にわたり履修する。なお、春学期開始時にすべての教員と大学院生が参加する研究構想報告会を実施するが、2 年次に在籍する者はそこでの報告を義務付けられている。さらに、2 年次の秋学期には指導教員とは別に、関連する分野のアドバイザー教員 1 名以上を定め、指導教員とともに論文指導を行うアドバイザー制をとっている。

②基礎科目

総合政策学の方法論に関する科目を配置しているが、定量分析の基礎である「総合政策方法論ⅠA」および定性分析の基礎である「総合政策方法論ⅡA」の 2 科目が必須科目となっている。その上で、「総合政策方法論ⅠB」または「総合政策方法論ⅡB」の 2 科目の内の 1 科目が選択必修となっている。

③発展科目

公共政策とビジネス戦略の領域にわたる 14 科目を選択科目として配置している。ただし、「総合政策事例研究」は、幅広い観点から研究を進めることができるように指導教員を除く教員が担当する科目を履修しなければならないこととしている。なお、科目の担当者が異なっても、同じ名称の科目を 2 回以上履修することはできない。

④他専攻科目

経済学専攻修士課程で開講している「講義科目」についても、「他専攻履修科目」として、修士課程の 2 年間で 4 科目 8 単位まで履修することができる。

⑤昼夜開講制・土曜開講制

社会人入学生の履修に配慮して、平日の 6 時限（18：20～19：50）と 7 時限（20：00～21：30）にも授業を行う昼夜開講制をとるとともに、土曜日の 1 時限（9：00～10：30）から 5 時限まで授業を行う土曜開講制を導入している。

2. 修了要件

必修科目である「総合政策特殊研究」8 単位、「総合政策方法論ⅠA」2 単位、「総合政策方法論ⅡA」2 単位、および「総合政策方法論ⅠB」2 単位または「総合政策方法論ⅡB」2 単位の内のいずれか 1 科目 2 単位の小計 14 単位を含む 30 単位以上を修得しなければならない。

〔博士後期課程〕 経済学専攻

1. 研究指導体制

- ①院生は、志望する専門分野に従って選ぶ指導教員のほか、指導教員の指導の下で隣接分野から副指導教員を選ぶことができる。
- ②複数の指導教員は、個々の院生の学力と志望に応じて、相互に連携をとりながらきめの細かい丁寧な研究指導を行う。

2. カリキュラム編成

学術研究・教育者あるいは高度専門実務者となる人材を養成するために必要なカリキュラムを編成する。

- ①授業は、「経済学特別研究」を配置する。
- ②各 Semester 2 単位、合計 12 単位以上を修了要件とする。
- ③「経済学特別研究」において、学会発表や学位取得に向けた博士論文作成の指導を行う。

〔博士後期課程〕 総合政策学専攻

1. 博士論文の指導を受ける「総合政策特別研究」とともに、残りすべての4科目（「総合政策文献研究」、「総合政策企画研究」、「総合政策調査研究」、「総合政策実践研究」）も必須科目となっている。
2. 必修科目である「総合政策特別研究」12単位、「総合政策文献研究」2単位、「総合政策企画研究」2単位、「総合政策調査研究」2単位、「総合政策実践研究」2単位の合計20単位以上を修得しなければならない。

経済学研究科【入学者受け入れの方針】

経済学研究科は、「経済学専攻」と「総合政策専攻」の2専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。

〔博士前期課程〕

1. 本課程経済学専攻では一般選抜のほか、税理士選抜、社会人選抜、留学生選抜を設けて入学試験を実施する。
2. 本課程総合政策学専攻では一般選抜のほか、社会人選抜、留学生選抜を設けて入学試験を実施する。
3. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。
 - ・ 現代の経済社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有していること。
 - ・ 専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。
 - ・ 自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。

〔博士後期課程〕

本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。

- ・ 博士前期課程において経済学または総合政策学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。
- ・ 学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。

経営学研究科【学位授与の方針】

経営学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、グローバル化、情報化、学際化の流れの中で高度の専門職職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを教育研究上の目的として設定している。

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、知の集積拠点としてその役割を高めていくことに教育目標を絞り、専門的研究者の養成を教育研究上の目的として設定している。

<学習成果(教育目標)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文(※)を作成提出し、その審査に合格した者に対して修士(経営学)を授与する。

1. 明確な問題意識を持ち、主体的に研究活動を行うことができる。
2. 学術論文や著書を正確に読み解くことができる。
3. 歴史的な視点で現代経済・経営を分析・調査することができる。
4. 経営事象の事例研究を通じて、現代企業の有する問題を発見し、解決策を提示できる。
5. 幅広い視野で異文化を理解し、国際的に企業を俯瞰できる。
6. 自らの考えを自らの言葉でディスカッション・プレゼンテーションができる。
7. 経営学の高度な専門的知識を理解し、論理的な思考を行うことができる。

※ 修士論文の審査基準は以下のとおりとする。

修士論文の内容に関して、次の条件をすべて満たしていること。

1. **問題意識が明確である。**
・明確な問題意識の下での研究テーマの設定

- ・問題意識に沿った適切な問題提起
- 2. **先行研究のサーベイは適切にされている。**
 - ・先行研究の整理
 - ・関連研究における位置づけと学術的意義の明示
- 3. **論文の形式は適切である。**
 - ・表紙、要旨、目次、章立て
 - ・引用、注、参考文献
- 4. **論文の論述は適切に行われている。**
 - ・問題提起から結論の導出までの論旨の一貫性
 - ・論文の構成
- 5. **研究の方法論は適切である。**
 - ・研究の進め方
 - ・研究の手法
- 6. **得られた結果の考察が適切である。**
 - ・学術的意義および社会的意義について吟味されている
 - ・新規性、進歩性、有用性、独創性の何れかが示されている

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文（※）を作成提出し、その審査に合格した者に対して博士（経営学）を授与する。

1. 明確な問題意識を持ち、主体的に研究活動を行うことができる。
2. 学術論文や著書を正確に読み解くことができる。
3. 歴史的な視点で現代経済・経営を分析・調査することができる。
4. 経営事象の事例研究を通じて、現代企業の有する問題を発見し、解決策を提示できる。
5. 幅広い視野で異文化を理解し、国際的に企業を俯瞰できる。
6. 自らの考えを自らの言葉でディスカッション・プレゼンテーションができる。
7. 経営学の高度な専門的知識を理解し、論理的な思考を行うことができる。
8. 経営学関連の学会での研究発表や学術雑誌への論文投稿などを通じて、理論的貢献をすることができる。
9. 研究に基づき、社会に対して実践的な提言をすることができる。

※博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

博士論文の内容に関して、次の条件をすべて満たしていること。

1. **問題意識が明確である。**
 - ・明確な問題意識の下での研究テーマの設定

- ・問題意識に沿った適切な問題提起
- 2. 先行研究のサーベイは適切にされている。
 - ・先行研究の整理
 - ・関連研究における位置づけと学術的意義の明示
- 3. 論文の形式は適切である。
 - ・表紙、要旨、目次、章立て
 - ・引用、注、参考文献
- 4. 論文の論述は適切に行われている。
 - ・問題提起から結論の導出までの論旨の一貫性
 - ・論文の構成
- 5. 研究の方法論は適切である。
 - ・研究の進め方
 - ・研究の手法
- 6. 得られた結果の考察が適切である。
 - ・学術的意義および社会的意義について吟味されている
 - ・新規性、進歩性、有用性、独創性の何れかが示されている
- 7. 自立した研究能力と専門知識を有すると認められる内容である。
- 8. 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表して、その論評に耐え得る内容である。

経営学研究科【教育課程の編成・実施方針】

経営学研究科では、以下に示す教育課程を編成し、実施している。

〔博士前期課程(修士課程)〕

経営学および隣接諸科学の専門知識を深く広く修得し、企業および様々な組織における諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を持った人材を育成する。そのための、理論、実践、国際化を3つの柱としたカリキュラムを編成している。

〔博士後期課程〕

経営学の専門的知識、思考方法、問題解決方法を修得し、学術研究・教育者あるいは高度専門実務者となる人材を育成する。そのため、入学時より指導教員の研究指導のもと、計画的に研究が進められるよう3か月ごとに研究の進捗度合いを評価する。さらに、下記のような日程で有能な大学院学生が3か年で博士号を取得できるように研究指導を進める。これらに加え、毎年秋に研究科教員と院生の前での研究発表をする機会を設け、よりレベルの高い研究を進めることができるよう支援している。

- 第1年次 10月 博士論文の中間報告
- 第2年次 10月 博士論文の中間報告
- 第3年次 10月 博士論文の原稿提出、予備審査
- 第3年次 11月～2月 複数回の論文審査（口述）
- 第3年次 3月 博士論文の審査終了

<研究環境について>

- ・ 大学院生専用の共同研究室およびコンピュータ室を設けている。
- ・ 大学院生共同研究室およびコンピュータ室に専用のコンピュータを用意し（学内LAN接続）、コンピュータを利用する研究体制が整備されている。
- ・ 大学院生用の研究紀要として、「中京経営紀要」を出版している。
- ・ 各大学院生に年間2,500枚分のコピーカードを支給している。
- ・ 図書資料費として、修士課程院生に年額35,000円、博士課程院生に年額50,000円を上限として支給している。
- ・ 大学院生が学会に参加する場合、学会参加補助費として、年額40,000円を上限として支給している。
- ・ 「日本語論文作成法」を自由科目として設け、留学生の日本語論文の作成を支援している。

経営学研究科【入学者受け入れの方針】

経営学研究科は、「研究科の人材の養成に関する目的」にある高度な専門家を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人材を広く求め、受け入れる。

〔博士前期課程〕

- ・ 経営に関する諸現象，諸問題を認識し，それを分析・洞察する能力を示していること。
- ・ 専門教育を受けるに適した経営学および隣接諸科学に関する基礎知識を有していること。
- ・ 自ら適切な研究課題を設定できる能力とそれを遂行する意欲を有していること。
- ・ 外国人留学生には、日本語能力試験 1 級、あるいはそれに準ずる日本語能力を求める。

〔博士後期課程〕

本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。

- ・ 博士前期課程において経営学および隣接諸科学に関する高度な学識や，外国語能力を含む研究遂行のための基礎能力を有していること。
- ・ 学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するための基本的資質を示すものとして、自ら設定した課題についての質の高い研究成果をあげていること。
- ・ 自ら設定した課題について高い水準の研究活動を遂行する意欲を有していること。
- ・ 外国人留学生には、日本語能力試験 1 級、あるいはそれに準ずる日本語能力を求める。

工学研究科【学位授与の方針】

工学研究科（機械システム工学専攻・電気電子工学専攻・情報工学専攻）修士課程は、定められた課程を修め、以下の学習成果をあげた者に対して、修士（工学）の学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

工学研究科

工学研究科修士課程は、工学の専門的な技術と知識を身に付け、それを製品及びシステムの設計・開発に応用できる高度専門技術者及び研究者を養成する。また、学会発表、共同研究等の対外活動を通して、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力に秀でた人材を養成する。さらに、技術者・研究者として高い倫理観を持ち、職業人としての立場を強く意識できる人材を養成する。

機械システム工学専攻

機械システム工学専攻修士課程は、人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術及びシステム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成する。具体的には、機械装置やロボット等の研究開発を行う「機械技術系分野」、制御システムや知的マシン等の研究開発を行う「情報技術系分野」、生産システム等の研究開発を行う「システム技術系分野」の3つの分野の技術者を養成する。また、研究計画を立て自由な議論を行いながら研究を行い、事実に対する観察・調査・問題発見能力、指導力、プレゼンテーション能力及び報告書作成能力を持つ人材を養成する。さらに、起業家精神を有し、経営・管理運営に能力を発揮する人材及び新技術・新産業分野の開拓に能力を発揮する人材を養成する。

電気電子工学専攻

電気電子工学専攻修士課程は、数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係力に優れた、応用力のある高度専門技術者を養成する。専門知識は、細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。また、デバイスとシステムのように異なる専門領域に強みを持つ人材の養成を重視する。具体的には、デバイス、電子回路、組み込みシステム等の研究開発を行う「エレクトロニクス分野」、ロボット、制御システム等の研究開発を行う「制御・メカトロニクス分野」、無線通信システム、電波応用機器等の研究開発を行う「通信・電波分野」、情報システム、画像応用機器等の研究開発を行う

「情報・画像分野」、電力システム及び電気機器等の研究開発を行う「電気分野」の5つの分野の技術者を養成する。

情報工学専攻

情報工学専攻修士課程は、数理的な思考力とハードウェア、ソフトウェア及びメディア・データ処理の専門知識を持ち、システム設計構築、運用管理のできる高度専門技術者を養成する。具体的には、インフラストラクチャ系システムの設計構築や運用等に関わる「情報システム分野」、画像応用や知識情報処理分野での高度なアプリケーションソフトウェアの設計や実装を行う「ソフトウェア開発分野」、さらには、これらのシステムを基盤としてコンテンツ開発や配信及びそれらのシステムを扱う「情報メディア分野」の3つの分野の技術者を養成する。

<学習成果(教育目標)>

工学研究科

1. 工学全般にわたる広く深い学識を有し、現代の産業社会が直面する工学上の諸問題を学術的かつ多面的に分析し、自らその解決策を立案する力を身につけていること。
2. 学会発表や共同研究などの経験を通して、対外的なコミュニケーションやプレゼンテーションを適切かつ積極的に行える能力を身につけていること。
3. 技術者・研究者として高い倫理観を持ち、職業人としての立場を強く意識した言動が取れること。

機械システム工学専攻

1. 数理的な思考力を身につけていること。
2. 機械システムを総合的に理解し、機械工学の専門知識を身につけていること。
3. グローバルな視点から物事を考える能力を身につけていること。
4. 新技術に関して興味を持ち、先端技術を幅広く理解するために、基盤的専門知識を身につけていること。

電気電子工学専攻

1. 数理的かつ綿密な思考力を有し、電気電子工学の専門知識を基盤とし、幅広く応用できる能力を身につけていること。
2. 共通基盤的専門知識を身につけて、かつ、異なる専門領域に強みを持っていること。
3. 自己表現や対人関係力に優れた能力を身につけていること。

情報工学専攻

1. 数理的な思考力を身につけていること。
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの専門知識を身につけていること。
3. メディアの処理、データの処理の専門知識を身につけていること。
4. システムの設計構築、運用管理のできる能力を身につけていること。
5. システムを基盤としてコンテンツ開発や配信等の幅広い分野にわたり対応できる柔軟性を身につけていること。

工学研究科【教育課程の編成・実施方針】

工学研究科（機械システム工学専攻・電気電子工学専攻・情報工学専攻）修士課程は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

工学研究科

学位授与の方針に示す人材を養成するために、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を教授する講義系の特論科目、専門知識を深め定着させる演習系のセミナー科目及び研究を主体とした研究指導科目を置く。

機械システム工学専攻

1. 機械システム工学の専門知識身につけるため、各分野の講義から所定の科目を修得する。
2. 機械システム工学に関する課題を発見し、新しい技術の調査を行い、解決策を考え、実施する能力を身につける。
3. 修士論文の作成および発表を通じて、論理的思考能力および文章、口頭発表による表現能力、自己表現する能力、対人関係力等を養成する。

電気電子工学専攻

1. 特論科目とセミナー科目は、専攻基礎科目と専門科目に分類される。
2. 専攻基礎科目は、理数情報基礎科目と技術表現科目を配置する。
3. 専門科目は、電気・電子・情報・通信の幅広い分野から構成する。
4. 専門科目は、複数の分野にまたがる共通基盤科目を配置し、比較的少数の科目で幅広く電気電子工学応用に精通できるよう構成する。
5. 専門科目は、要素技術からシステム技術までをカバーする。
6. 研究指導科目は、修士にふさわしい研究を行うための実験・演習科目であり、各教員の研究室における研究指導及び論文指導を含む。
7. 研究指導科目では、問題発見・解決能力、高度な専門的能力とイノベーション創出能力、予測困難な問題に対する柔軟な対応能力等を身につける。
8. 研究指導科目では、企業との共同研究、学会活動等を通じて、外部と切磋琢磨し協働する能力、自己表現する能力、対人関係力等を養成する。
9. 専攻基礎科目は選択必修科目、専門科目はすべて選択科目、研究指導科目はすべて必修科目とする。

情報工学専攻

1. 学生の進路を想定し、3つの履修モデルを置く。
2. 特論科目とセミナー科目は、専攻基礎科目と専門科目に分類される。
3. 専攻基礎科目では、情報及びメディア分野における基礎知識、基礎技術を習得する。
4. 専門科目では、専攻基礎科目での学習内容を深め、より専門的な知識、技術を身につける。
5. 研究指導科目では、研究遂行能力を涵養するとともに、論文作成、研究発表技術を習得する。

工学研究科【入学者受け入れの方針】

工学研究科修士課程は、「機械システム工学専攻」「電気電子工学専攻」「情報工学専攻」の3専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。

- ・現代の人間および人間社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有する者。
- ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有する者。
- ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有する者。

体育学研究科【学位授与の方針】

体育学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

体育学研究科体育学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を習得させ、博士後期課程に進学して体育学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成する。

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を習得させ、体育学研究を自立的に遂行できる能力を培い、高等教育機関や研究所等において教育研究職に従事できる人材を養成する。

<学習成果(教育目標)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

体育学研究科博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して修士(体育学)を授与する。この学位を授与される者は以下のような能力や資質を有する。

1. 体育学全般にわたる広く深い学識を有し、体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現できる。
2. 体育学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学して独創的な研究を行なうことができる。
3. 専門的実務者としての能力を身につけ、その知識と技能を用いて社会に貢献できる。
4. 高い倫理観を身につけ、研究者または職業人としての自覚を持つ。

なお修士論文の審査・判定基準は以下のとおりである。

1. 先行研究の整理と問題設定が適切であること。
2. 章立てを含めた論述の流れが適切であること。
3. 研究方法の選択・実行が適切であること。
4. 注や図表処理等も含めて、論述が的確でかつ分量的にも適切であること。

5. 設定した問題の解明が的確・適切であること。

修士論文計画書の提出、修士論文経過報告会での発表を経て修士論文を作成し、口述試験と併せて合否判定を行なう。

〔博士後期課程〕

体育学研究科博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して博士（体育学）を授与する。この学位を授与される者は以下のような能力や資質を有する。

1. 体育学の専門家としての高度な研究能力とその礎となる豊かな学識をもつ。
2. 独創的な研究活動を旺盛な意欲を持って遂行し、研究の成果を広く発表することにより優れた研究者として認められる。
3. 体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、解決への道筋をつけていくことができる。
4. 高い倫理観を身につけ、研究者または職業人としての自覚を持つ。

なお、博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

1. 自立した研究を行う能力や高度の専門的業務に必要な能力を有すると認められる内容であること。
2. 論旨が従来の研究のまとめや整理ではなく、独創的であること。
3. 創意を支える論証が確かであること。
4. 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表して、その論評に耐え得ること。
5. 使用した資料は提出者が収集したものであること。使用した資料が従来のものである場合は、その分析が斬新であること。

博士論文計画書の提出と、計画発表会および博士論文中間報告会での発表を経て博士論文を作成し、口述試験と併せて合否判定を行なう。

体育学研究科【教育課程の編成・実施方針】

総合科学としての体育学の特徴をふまえ、その教育システムとして体育学研究科は 5 つの学系を設けている。学生はいずれかの学系に所属する。各学系の特色は次のとおりである。

【スポーツ文化・社会科学系】

スポーツを幅広い問題意識のなかで捉え、科学的方法論に即してこれに分析・検討を加える学系である。思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを広く研究の対象とする。

【スポーツ認知・行動科学系】

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする学系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

【スポーツ生理学系】

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する学系である。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

【健康科学系】

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康との関連を、傷病の予防および健康の維持・増進の観点から研究する学系である。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

【応用スポーツ科学系】

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多くの科学、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す学系である。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

教育研究上の目的および学位授与の方針に基づき、本研究科は 5 学系を基盤とする以下に示すような教育課程を編成し実施していくこととする。

各学系別に講義および演習を配置する。それに加えて学系に共通の科目として、「スポーツ科学研究法Ⅰ」「スポーツ科学研究法Ⅱ」「スポーツ科学研究法Ⅲ」をおき、それぞれ統計学、コンピュータ・リテラシー、科学英作文を主体として、講義 2 単位、演習 2 単位の計 4 単位科目とする。博士前期課程の目標は研究者の養成ばかりではなく高度の専門性を備えた職業人の養成にも置いているので、できるかぎり多彩な科目を用意することを心掛けている。複数教員が参加し集団指導にあたる各学系の「セミナー」、および個人指導を中心にした「研究指導」各 4 単位の計 8 単位を必修とし、学生が所属する学系以外の授業 10 単位以上を含む 30 単位以上の履修を必要とする。

また、博士後期課程の目標は主として自立した研究者を養成することにあるので、教育の中心は複数教員が参加し集団指導にあたる各学系の「セミナー」、および個人指導を中心にした「研究指導」に置かれている。セミナーと研究指導各 6 単位の計 12 単位を必修とし、この他に各学系の「特殊研究」4 単位を含み 8 単位を加えた 20 単位以上の履修を必要条件とする。

研究科全体のカリキュラムの一つの特徴は、総合大学である利点を活用し、本学にある他の研究科との単位互換制度を取り入れていることである。この制度を利用することにより、例えばスポーツ文化・社会科学系と社会学研究科・経営学研究科、スポーツ認知・行動科学系あるいは健康科学系と心理学研究科、スポーツ生理学系あるいは応用スポーツ科学系と情報科学研究科など、様々な組み合わせ履修を可能としている。

体育学研究科【入学者受け入れの方針】

体育学研究科は、「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような方針で広く学生を募集し受け入れる。

〔博士前期課程〕

1. 本課程では一般選抜のほか、社会人選抜と外国人留学生選抜を設けて入学試験を実施する。
2. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。
 - ・体育学・健康科学の領域における基礎的な知識を有し、さらなる専門知識を習得する意欲を有していること。
 - ・体育学・健康科学研究の専門職を目指す者については、特に高度な学術研究を遂行するための研究能力を習得する意欲を有していること。
 - ・スポーツ指導者を目指す者については、特に高度の技術と指導力を習得する意欲を有していること。

〔博士後期課程〕

本課程は2か年の博士前期課程（修士課程）の上に3か年の博士後期課程を乗せるといふ積み上げ方式をとり、国外を含む他大学大学院の修士課程修了者を積極的に受け入れる方針を取っている。

1. 本課程では一般選抜のほか、外国人留学生選抜を設けて入学試験を実施する。
2. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。
 - ・博士前期課程において体育学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。
 - ・学術研究者・教育者あるいは高度な技術と専門知識を有するスポーツ指導者として活躍するために、独創性と論理性を備えた研究を遂行し、学術的あるいは教育的に意義のある研究論文を執筆する基礎的能力と意欲を有していること。

ビジネス・イノベーション研究科【学位授与の方針】

ビジネス・イノベーション研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔修士課程〕

1. ビジネス・イノベーション研究科は、経営理論の研究と実践的な社会人教育の実現に邁進し、実務経験を積んだ社会人に躍動的で真剣味溢れる「学び直しの場」を提供することによって、経営革新や市場開拓を大胆に推し進める高度専門職業人に育成することを通じ、社会の発展に貢献するよう努める。
2. 経営系高度専門職業人育成のために、本研究科は学生が経営理論を体系的に学び直し、その理論を該当するビジネスの環境に合わせ適用しうる実践スキルを身につけ、さらに、経営環境の変化を的確に認識するアンテナとしての広範な人脈を形成する機会の提供に努めることによって、幅広い知識と戦略的発想を持って革新的事業計画や市場開拓案を提案し実行しうる人材の養成・輩出をめざす。

併せて、本研究科は社会人学生との交流を通じ実業界のニーズをタイムリーに把握し経営系研究者にフィードバックする、本学と実業界の創造的な交流の場でもあり続けたいと考える。

<学習成果(教育目標)>

ビジネス・イノベーション研究科は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けたうえで修士論文もしくは課題研究を作成・提出し、その審査に合格した者に対し修士（経営管理学）を授与する。

1. 経営学全般にわたる広く深い知識を習得できていること。
2. 理論を実務に適用しうる実践スキルを身につけていること。
3. 現代の企業が直面する諸問題に取り組み社会的な要請に応えるために、自ら論理的に考え、表現する力があること。
4. 高度専門職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

ビジネス・イノベーション研究科【教育課程の編成・実施方針】

次世代のビジネスリーダーとして活躍し得る高度専門職業人の育成という目的のもと、カリキュラムについては、学問体系としての経営学の位置づけを理解した上で、ビジネス環境に応じた課題解決をなし得る実践的方法論を習得させることを目指して編成されている。

1. 履修科目群は、経営学の多岐にわたる領域をカバーし、それぞれのコアになる学術的知識、実務的知識、ビジネススキル（コミュニケーションやリーダーシップなどについての実践的技法教育）の融合を図ることを目的とした幅広い科目によって編成されている。
2. 最終学年時に、「修了研究」を履修する（必修）。「修士論文」または「課題研究」のうちのいずれかを作成する。
3. 社会人大学院生の時間的制約を踏まえ、平日夜間（第6・7限、18:30～21:40）と土曜日（9:30～18:20）によって運営する。
4. 講師陣については、専任教員に加えて、実業界から現役経営者・実務家を招聘し、経営理論、実務的知識、ビジネススキルなどの有機的な結合を図る。

学位（法務博士）授与の方針

中京大学大学院法務研究科（以下では、「本法科大学院」という。）は、具体的な教育目標として、第1に、社会的正義を担う法曹の養成、第2に、経済社会の要請に応える法曹の養成、そして、第3に、研究能力をも有する法曹の養成という3点を掲げている。

したがって、学位（法務博士）は、上記教育目標を達成した者に授与される。

具体的には、3年課程履修の者については、3年間以上の課程履修において、本法科大学院が開設する必修科目60単位以上および選択必修科目23単位以上を含む総単位数99単位以上の科目を修得（以下では、「修了要件」という。）することによって、それぞれの科目において担われている上記教育目標が達成されることから、上記修了要件を充足することにより、学位（法務博士）が授与される。

また、2年課程履修の者については、2年間以上の課程履修において、本法科大学院が開設する必修科目24単位以上および選択必修科目23単位以上を含む総単位数63単位以上の科目を修得（以下では、「修了要件」という。）することによって、それぞれの科目において担われている上記教育目標が達成されることから、上記修了要件を充足することにより、学位（法務博士）が授与される。

法務研究科 【教育課程の編成・実施方針】

中京大学法科大学院は、所定の教育上の理念を掲げ、そして、その下に具体的な3項目の教育目標を定めており、それを実現するために、以下の方針に基づき、カリキュラムを編成する。

まず、第一に、専門知識の獲得という教育目標を果たすために、法律基本科目群を編成している。続いて、第二に、法曹としての豊かな専門的能力の育成という教育目標を果たすために、法律実務基礎科目群及び展開・先端科目群を編成している。最後に、第三に、正義感及び人権感覚の育成という教育目標を果たすために、基礎法学・隣接科目群を編成するとともに、法律実務基礎科目群の中核として、法曹倫理科目を配置している。

そして、これらの科目群を偏することなく履修するために、法律基本科目群では、必修科目に止まらず、選択科目も配置している。また、基礎法学・隣接科目群については、4単位選択必修とするとともに、総合大学としての特色を生かし、法学研究科、心理学研究科及びビジネス・イノベーション研究科の科目履修も可能なものとしている。展開・先端科目群についても、10単位の選択必修としている。さらに、理論と実務の架橋をその制度理念とする法科大学院制度の使命を果たすべく、法律実務基礎科目群については、7単位の必修科目に加えて、8単位の選択必修科目を配置するとともに、リーガル・クリニック、エクスターンシップ等の臨床系科目を充実させている。

(以上)